

草加市子ども教育の連携に関する 教員・保育士アンケート調査報告書

平成27年3月

草加市

目 次

第1部 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の方法	1
3 配付・回収状況	1
4 地域別集計について	2
5 利用にあたって	2
第2部 調査結果報告	3
I 幼稚園・保育園の調査結果	5
1 基本情報	5
(1) 幼稚園・保育園の回答割合	5
(2) 職名	5
(3) 教員・保育士歴	5
(4) 園児の就学先小学校（平成26年3月卒園、上位3校）	6
2 幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実施状況について	7
(1) 他の幼稚園・保育園・小学校・中学校との交流・連携の実施状況	7
(2) 交流・連携の相手方	9
(3) 交流・連携の参加者	10
(4) 交流・連携の内容	12
(5) 重要な交流・連携の取組	14
(6) 交流・連携の窓口の主な担当者	18
(7) 交流・連携の窓口の担当者の固定化	19
(8) 交流・連携を行って良かった点	20
(9) 交流・連携の課題となる点	22
(10) 交流・連携で改善したい点	24
(11) 交流・連携の実施が困難な理由	26
(12) 他園・校との交流・連携について改善されたこと	27
3 就学に向けた取組について	29
(1) 交流・連携以外に小学校教育への接続を意識した幼児教育の取組状況	29
(2) 小学校教育への接続を意識して行っている幼児教育	30
(3) 小学校教育への接続を意識した幼児教育のうち特に重要なもの	32
(4) 小学校教育への接続を意識した幼児教育の実施時期	33
(5) 就学に向けて行っている具体的な取組	35

(6) 小学校に対して期待すること	39
4 家庭教育への支援について	41
(1) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性について	41
(2) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性を感じる理由	41
(3) 家庭教育への支援で行いたい具体的な取組	42
(4) 家庭との連携・家庭教育への支援のために有効な機会・方法	43
(5) 家庭との連携・家庭教育への支援での課題	44
5 自由記述	45
II 小学校の調査結果	46
1 基本情報	46
(1) 職名	46
(2) 教員歴	46
(3) 学級数	47
(4) 入学児童の出身園数	48
(5) 入学児童の出身園（平成26年4月入学、上位3園）	49
2 幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実施状況について	50
(1) 幼稚園・保育園・他の小学校・中学校との交流・連携の実施状況	50
(2) 交流・連携の相手方	51
(3) 交流・連携の参加者	52
(4) 交流・連携の内容	54
(5) 重要な交流・連携の取組	56
(6) 交流・連携の窓口の主な担当者	60
(7) 交流・連携の窓口の担当者の固定化	61
(8) 交流・連携を行って良かった点	62
(9) 交流・連携の課題となる点	64
(10) 交流・連携で改善したい点	66
(11) 交流・連携の実施が困難な理由	68
(12) 他園・校との交流・連携について改善されたこと	68
3 「小1プロブレム」について	70
(1) 「小1プロブレム」の発生状況	70
(2) 「小1プロブレム」がみられた学級数	72
(3) 「小1プロブレム」の要因	73
(4) 「小1プロブレム」への対応	74
(5) 「小1プロブレム」の発生の予防や解消のための対応策	75
(6) 入学に際しての配慮や準備	76
(7) 幼稚園や保育園に対して期待すること	77
4 中学校進学に向けた取組について	79
(1) 中学校進学に向けて行っている具体的な取組	79

(2) 中学校に対して期待すること	80
5 家庭教育への支援について	82
(1) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性について	82
(2) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性を感じる理由	82
(3) 家庭教育への支援で行いたい具体的な取組	83
(4) 家庭との連携・家庭教育への支援のために有効な機会・方法	83
(5) 家庭との連携・家庭教育への支援での課題	84
6 自由記述	85
III 中学校の調査結果	86
1 基本情報	86
(1) 職名	86
(2) 教員歴	86
(3) 学級数	87
2 幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実施状況について	88
(1) 幼稚園・保育園・小学校・他の中学校との交流・連携の実施状況	88
(2) 交流・連携の相手方	89
(3) 交流・連携の参加者	90
(4) 交流・連携の内容	92
(5) 重要な交流・連携の取組	94
(6) 交流・連携の窓口の主な担当者	98
(7) 交流・連携の窓口の担当者の固定化	99
(8) 交流・連携を行って良かった点	100
(9) 交流・連携の課題となる点	102
(10) 交流・連携で改善したい点	104
(11) 交流・連携の実施が困難な理由	106
(12) 他園・校との交流・連携について改善されたこと	106
3 「中1ギャップ」について	108
(1) 「中1ギャップ」の発生状況	108
(2) 「中1ギャップ」の要因	110
(3) 「中1ギャップ」への対応	111
(4) 「中1ギャップ」の発生の予防や解消のための対応策	112
(5) 入学に際しての配慮や準備	113
4 中学校進学に向けた取組について	115
(1) 進学してくる小学生に対して行っている具体的な取組	115
(2) 小学校に対して期待すること	116
5 家庭教育への支援について	118
(1) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性について	118
(2) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性を感じる理由	118

(3) 家庭教育への支援で行いたい具体的な取組.....	119
(4) 家庭との連携・家庭教育への支援のために有効な機会・方法.....	119
(5) 家庭との連携・家庭教育への支援での課題.....	120
6 自由記述	121
IV 幼稚園・保育園・小学校・中学校の調査結果の比較	122
1 交流・連携の実施状況.....	122
2 交流・連携の相手方	122
3 交流・連携の内容	123
4 交流・連携を行って良かった点	124
5 交流・連携の課題となる点	125
6 交流・連携で改善したい点	126
7 他園・校との交流・連携について改善されたこと	127
8 幼稚園・保育園と小学校が相互に期待すること	128
9 中学校進学に向けて行っている具体的な取組	129
10 小学校と中学校が相互に期待すること	130
11 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性について.....	131
12 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性を感じる理由	131
13 家庭教育への支援で行いたい具体的な取組	132
14 家庭との連携・家庭教育への支援のために有効な機会・方法.....	133
15 家庭との連携・家庭教育への支援での課題	134
資料編.....	135
幼稚園・保育園 調査票	137
小学校 調査票.....	141
中学校 調査票.....	145

第 1 部 調査の概要

1 調査の目的

市内の幼稚園・保育園・小学校・中学校における、子ども教育の連携についての実態を把握し、その実態を踏まえ、子ども教育の連携推進に関わる施策について検討を行う際の基礎資料とするため、アンケート調査を実施しました。

2 調査の方法

【対象者】教員及び保育士

- ① 市内の幼稚園・保育園：園長、副園長又は主査、年長・5歳児の担任
- ② 市立小学校：校長、教頭、主幹教諭又は教務主任、生徒指導主任、1年生及び6年生の学年主任、特別支援学級の担任
- ③ 市立中学校：校長、教頭、主幹教諭又は教務主任、生徒指導主任、1年生及び3年生の学年主任、特別支援学級の担任

【調査方法】市内の幼稚園・保育園、市立小学校、市立中学校にて直接配付・回収

【調査期間】平成26年7月22日～7月31日

3 配付・回収状況

対象者	配布数	回収数（件）	回収率（％）
幼稚園	81	81	100.0％
保育園	100	100	100.0％
小学校	147	147	100.0％
中学校	83	83	100.0％
合計	411	411	100.0％

4 地域別集計について

本調査は地域別のクロス集計を行っています。地域の区分は次のようになっています。

地域名	幼稚園	保育園	小学校	中学校
北東ブロック	いなり、青徳、草加ひので	しのは、やはた、あおやぎ、ひかり幼稚園、草加にじいろ、さくら保育、こだま	川柳、八幡、稲荷、八幡北、青柳	川柳、青柳、松江
北西ブロック	新田、清門	あさひ、しんぜん、しんえい、けやきの森清門町園、しんでん	新田、新栄、清門、長栄	新栄、新田
松原ブロック	草加みどり、ひかり、草加ひまわり、草加藤、みのべ	さかえ、きたや、こやま、めえめえこやぎこども園、まつばら	栄、花栗南、小山、松原	栄、花栗
中央ブロック	谷塚、ルミ、かおり、フラワー	たかさご、きたうら、あずま、にしまち、せざき、かおりPutra、さくらの実、さくらの実分園、スマイルキッズルーム、ニコニコルーム、もりまさ草加園、ニコニコ	草加、高砂、瀬崎、西町	草加、瀬崎
南部ブロック	あずま、谷塚おざわ、草加氷川	やつか、やなぎしま、ひかわ、やつかかみ、草加なかよし、そうか草花、につさとの森、保育所ちびっこランド草加やつか園	谷塚、新里、氷川、両新田	谷塚、両新田

5 利用にあたって

- ① 集計した数値（％）は小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示しています。そのため、選択肢の数値（％）をすべて合計しても、100.0％にならない場合があります。
- ② 回答者数を分母として割合（％）を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると100.0％を超えることがあります。
- ③ 図表の中で、アンケート調査票の選択肢の文章が長い場合、要約している場合があります。
- ④ 回答が少数である場合の比率については、特定の回答の結果が強く反映される場合があることにご留意ください。

第 2 部 調查結果報告

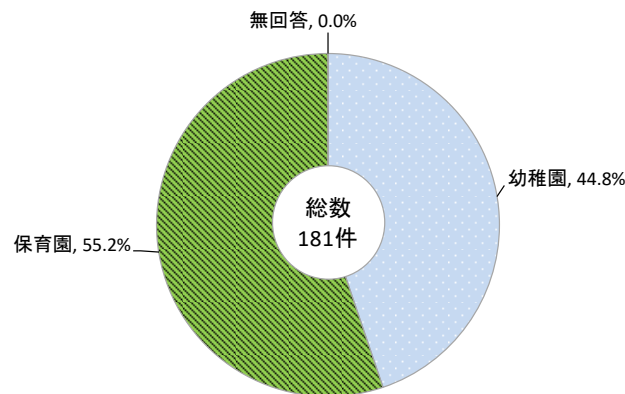
I 幼稚園・保育園の調査結果

1 基本情報

(1) 幼稚園・保育園の回答割合

幼稚園・保育園の回答者の割合は以下のとおりです。

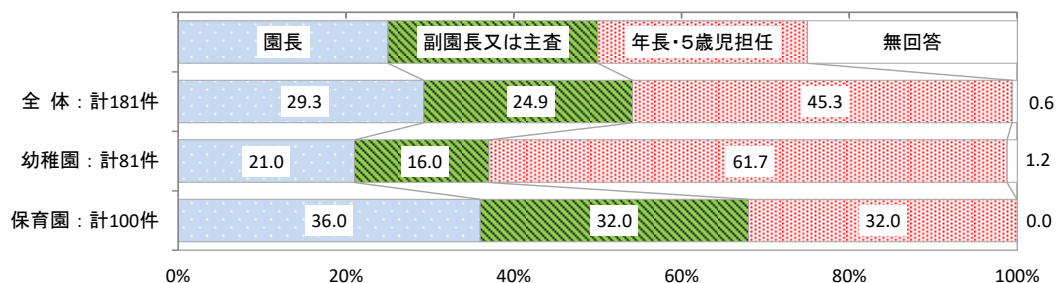
図 I-1 幼稚園・保育園の回答割合



(2) 職名

回答者の職名の割合は以下のとおりです。

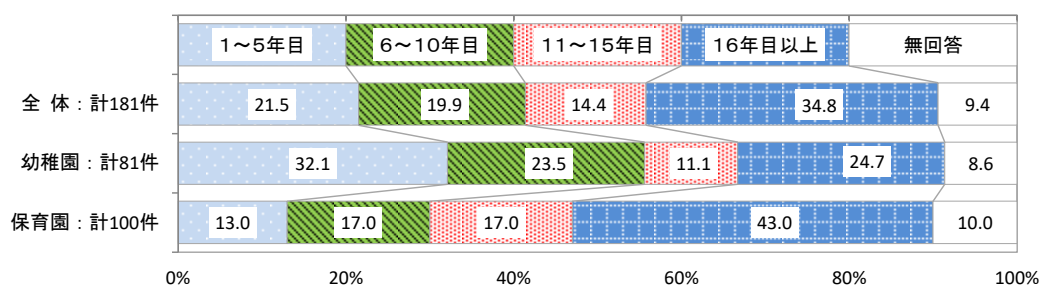
図 I-2 職名



(3) 教員・保育士歴

全体では、「16年目以上」の割合が34.8%と最も高く、次いで「1～5年目」の割合が21.5%、「6～10年目」の割合が19.9%となっています。幼稚園では、「1～5年目」の割合が32.1%と最も高く、次いで「16年目以上」の割合が24.7%、「6～10年目」の割合が23.5%となっています。保育園では、「16年目以上」の割合が43.0%と最も高く、次いで「6～10年目」と「11～15年目」の割合がそれぞれ17.0%、「1～5年目」の割合が13.0%となっています。

図 I-3 教員・保育士歴



I 幼稚園・保育園の調査結果

(4) 園児の就学先小学校（平成26年3月卒園、上位3校）

表I-1 園児の就学先小学校（平成26年3月卒園、上位3校）

単位：％

幼稚園・保育園名		第1位		第2位		第3位	
幼稚園	谷塚幼稚園	瀬崎小学校	70.0	谷塚小学校	20.0	高砂小学校	5.0
	ルミ幼稚園	草加小学校	70.0	高砂小学校	16.0	西町小学校	5.0
	あずま幼稚園	新里小学校	64.0	両新田小学校	23.0	市外	5.0
	いなり幼稚園	稲荷小学校	50.0	高砂小学校	28.0	青柳小学校	10.0
	かおり幼稚園	西町小学校	46.0	草加小学校	20.0	氷川小学校	14.0
	草加みどり幼稚園	栄小学校	40.0	八幡小学校	30.0	草加小学校	10.0
	青徳幼稚園	川柳小学校	70.0	八幡北小学校、 青柳小学校	各10.0	-	-
	ひかり幼稚園	松原小学校	23.0	栄小学校	21.0	八幡小学校、 花栗南小学校	各13.0
	草加ひまわり幼稚園	栄小学校	17.0	八幡小学校	15.5	花栗南小学校	15.0
	草加藤幼稚園	松原小学校	23.0	栄小学校	12.0	清門小学校、草加小学校、 瀬崎小学校	各8.0
	新田幼稚園	新田小学校	29.0	長栄小学校	26.0	八幡北小学校	14.0
	谷塚おざわ幼稚園	谷塚小学校	35.0	高砂小学校	20.0	氷川小学校	15.0
	草加氷川幼稚園	西町小学校	26.0	高砂小学校	22.0	氷川小学校	21.0
	みのべ幼稚園	清門小学校	70.0	小山小学校	15.0	松原小学校	10.0
	草加ひので幼稚園	八幡小学校	48.0	川柳小学校	14.0	八幡北小学校	9.0
	清門幼稚園	清門小学校	58.0	新栄小学校	21.0	長栄小学校	4.0
	フラワー幼稚園	西町小学校	42.0	小山小学校	35.0	花栗南小学校	7.0
	たかさご保育園	高砂小学校	59.1	草加小学校	13.6	瀬崎小学校	9.1
	きたうら保育園	草加小学校	41.0	西町小学校	17.0	花栗南小学校	13.0
保育園	あずま保育園	高砂小学校	85.7	瀬崎小学校、市外	各7.0	-	-
	やつか保育園	谷塚小学校	55.0	新里小学校、瀬崎小学校、 両新田小学校	各10.0	市外	5.0
	さかえ保育園	栄小学校	64.0	花栗南小学校	14.0	草加小学校	5.0
	きたや保育園	松原小学校	28.2	花栗南小学校	14.1	-	-
	しのは保育園	八幡小学校	-	八幡北小学校	-	稲荷小学校	-
	あさひ保育園	新田小学校	44.0	長栄小学校	20.0	清門小学校	16.0
	やなぎしま保育園	新里小学校	98.0	-	-	-	-
	にしまち保育園	西町小学校	66.0	花栗南小学校	16.0	氷川小学校、谷塚小学校、 新里小学校	各4.0
	せざき保育園	瀬崎小学校	70.0	高砂小学校	13.0	谷塚小学校	8.0
	しんぜん保育園	清門小学校	37.0	新田小学校、長栄小学校	各25.0	-	-
	しんえい保育園	新栄小学校	76.0	清門小学校	16.0	長栄小学校	8.0
	やはた保育園	八幡小学校、 八幡北小学校	各40.0	川柳小学校	20.0	-	-
	こやま保育園	小山小学校	61.9	松原小学校	14.3	清門小学校	4.7
	ひかわ保育園	氷川小学校	52.0	谷塚小学校、高砂小学校	各14.0	-	-
	あおやぎ保育園	川柳小学校	55.0	青柳小学校	33.0	八幡北小学校	6.0
	やつかかみ保育園	両新田小学校	52.0	新里小学校	26.0	谷塚小学校	22.0
	ひかり幼稚園舎	稲荷小学校	75.0	八幡小学校	15.0	草加小学校、瀬崎小学校	各10.0
	かおりPutra保育園	西町小学校	44.0	草加小学校、新里小学校、 高砂小学校	各7.0	-	-
	草加なかよし保育園	谷塚小学校	50.0	新里小学校小学校	40.0	両新田小学校	10.0
	さくらの実保育園	稲荷小学校、草加小学校	各30.0	西町小学校	10.0	-	-
	さくらの実保育園分園	-	-	-	-	-	-
	そうか草花保育園	谷塚小学校	53.0	瀬崎小学校	37.0	高砂小学校	5.0
	けやきの森保育園清門町園	清門小学校、長栄小学校	各25.0	新栄小学校	20.0	-	-
	めえめえこやぎこども園	川柳小学校	29.0	長栄小学校、新栄小学校	各14.0	-	-
	につさとの森保育園	新里小学校	72.0	両新田小学校	28.0	-	-
	草加にじいろ保育園	なし	-	-	-	-	-
	しんでん保育園	-	-	-	-	-	-
	まつばら保育園	青柳小学校、市外	各50.0	-	-	-	-
	スマイルキッズルーム	草加小学校	-	-	-	-	-
	ニコニコルーム	高砂小学校、 八幡小学校、その他	各33.0	-	-	-	-
	さくら保育	稲荷小学校	48.0	市外2校	各16.0	-	-
	もりまさ保育園 草加園	高砂小学校	30.0	草加小学校	20.0	市外	10.0
	ニコニコ保育園	高砂小学校	100.0	-	-	-	-
	こだま保育園	なし	-	-	-	-	-
	保育所ちびっこランド草加やつか園	なし	-	-	-	-	-

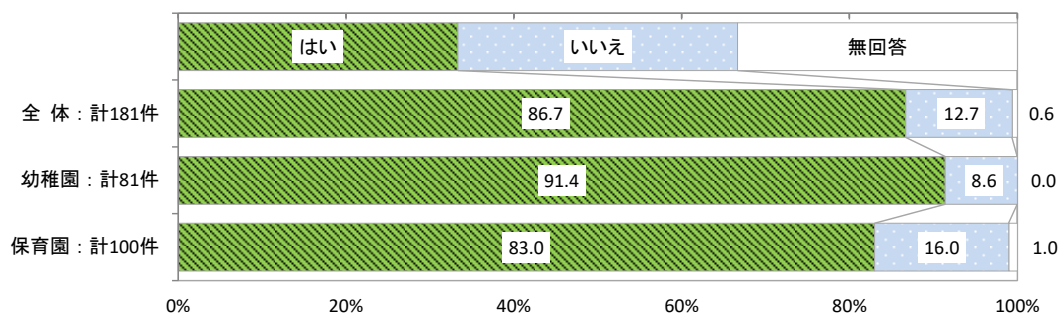
2 幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実施状況について

(1) 他の幼稚園・保育園・小学校・中学校との交流・連携の実施状況

問1 あなたの園では、昨年度（平成25年度）に、他の幼稚園・保育園・小学校・中学校のいずれか又はいくつかと、交流・連携を行いましたか。（○は1つだけ）

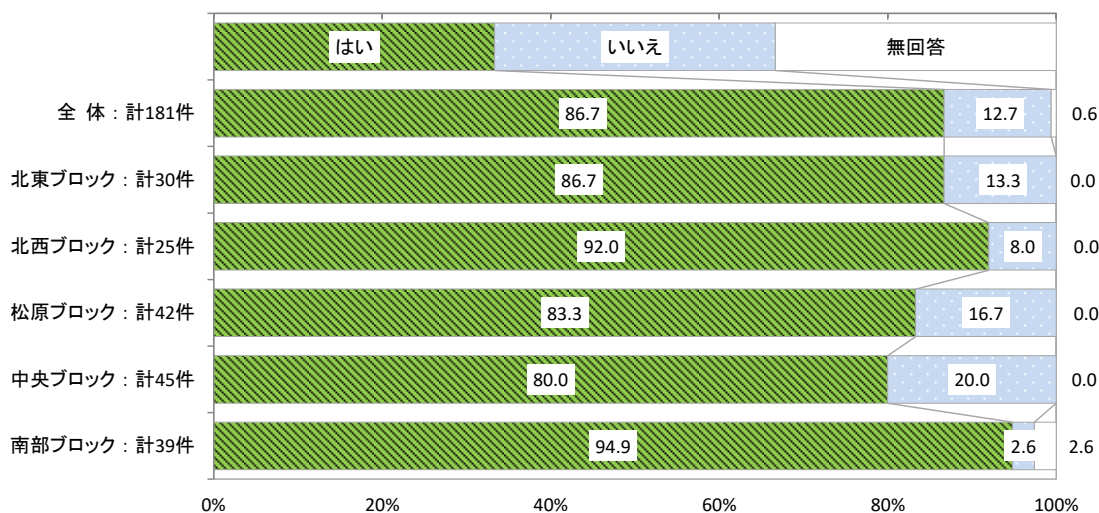
全体では、「はい」の割合が86.7%、「いいえ」の割合が12.7%となっています。幼稚園・保育園の別にみると、交流・連携を行っている割合は、幼稚園が91.4%、保育園が83.0%となっています。

図I-4 他の幼稚園・保育園・小学校・中学校との交流・連携の実施状況



地域別の交流・連携の実施状況は以下のとおりです。

図I-5 他の幼稚園・保育園・小学校・中学校との交流・連携の実施状況（地域別）



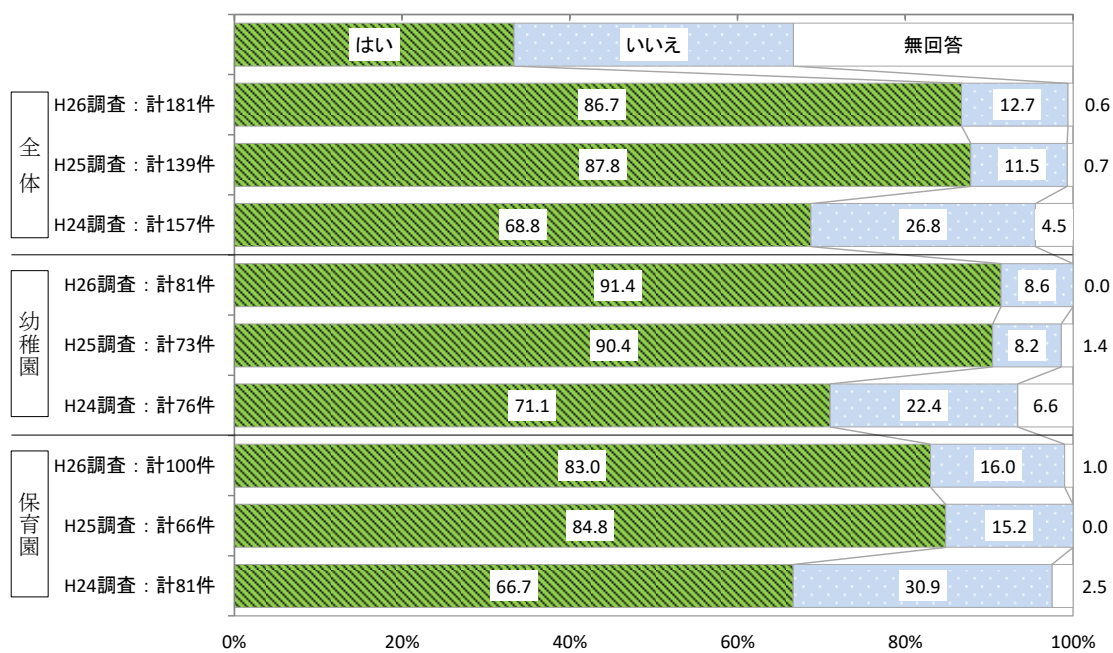
I 幼稚園・保育園の調査結果

【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、全体では、「はい」の割合が、平成24年度から平成25年度にかけて高くなり、平成25年度から平成26年度にかけてほぼ横ばいとなっています。

幼稚園・保育園の別にみても、同様の傾向となっています。

図 I-6 他の幼稚園・保育園・小学校・中学校との交流・連携の実施状況
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



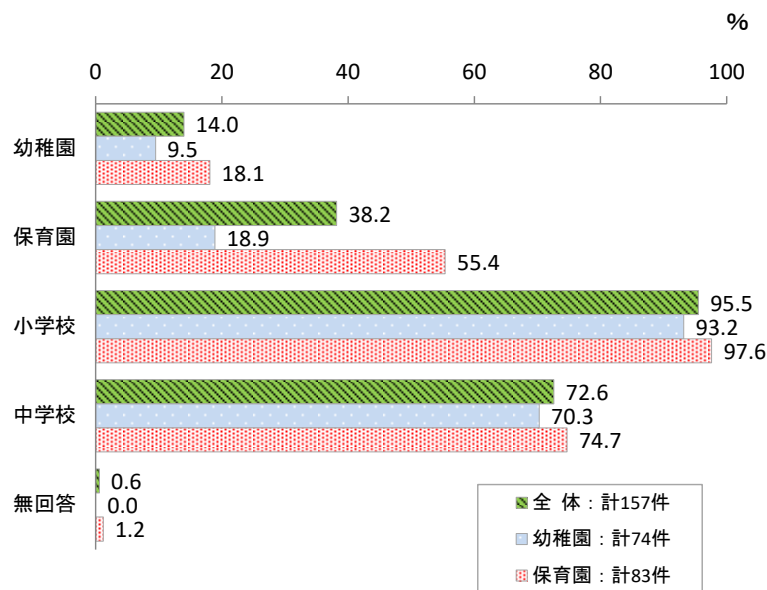
(2) 交流・連携の相手方

問2 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の相手方はどこでしたか。(あてはまるもの全てに○と相手方の数を記入)

全体では、「小学校」の割合が95.5%と最も高く、次いで「中学校」の割合が72.6%、「保育園」の割合が38.2%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園、保育園ともに「小学校」という回答の割合が、それぞれ93.2%、97.6%と最も高くなっています。また、保育園については、保育園どうしの交流・連携が行われているとする回答が55.4%となっています。

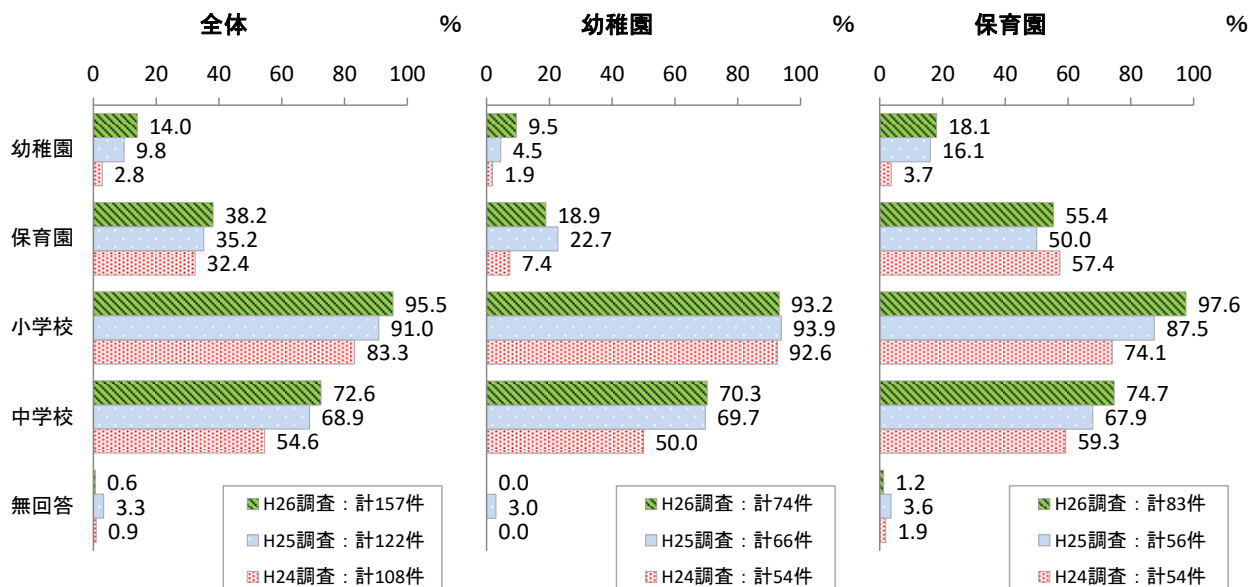
図I-7 交流・連携の相手方



【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、全体では、すべての項目の割合が増加傾向となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、平成25年度から平成26年度にかけて、「小学校」「中学校」の割合が、ほぼ横ばいとなっています。保育園では、「幼稚園」「小学校」「中学校」の割合が、増加傾向となっています。

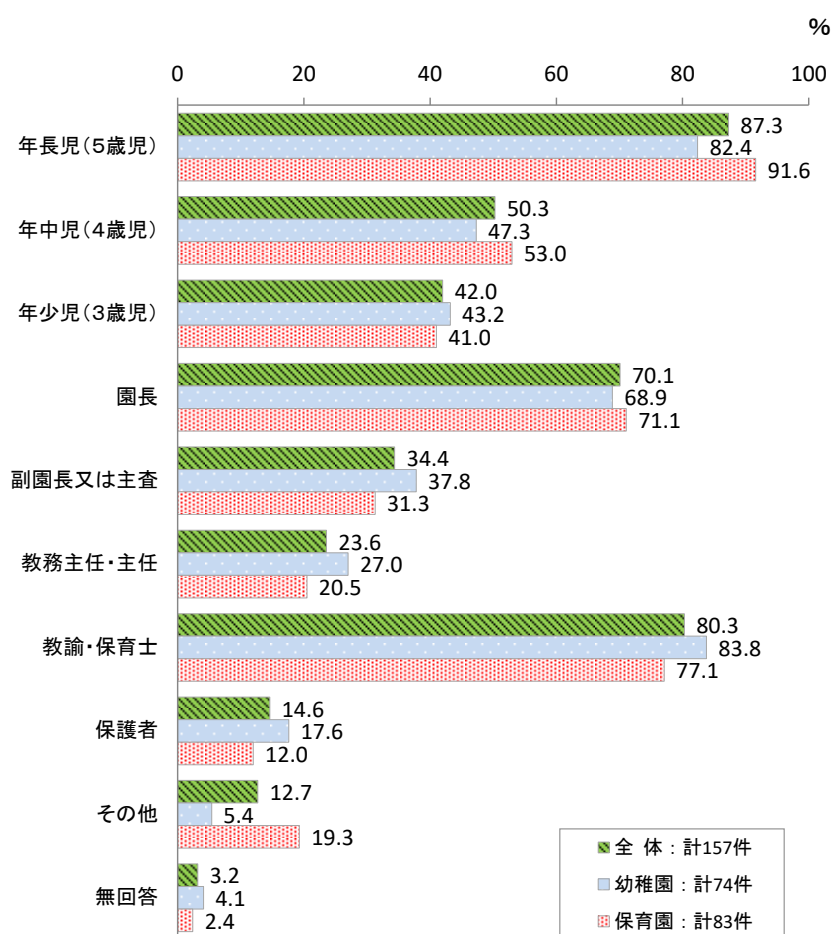
図I-8 交流・連携の相手方
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

(3) 交流・連携の参加者

問3 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携に参加したのは以下のうち誰でしたか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、幼児については「年長児（5歳児）」の割合が87.3%と最も高く、次いで「年中児（4歳児）」の割合が50.3%、「年少児（3歳児）」の割合が42.0%となっています。教職員等については、「教諭・保育士」の割合が80.3%と最も高く、次いで「園長」の割合が70.1%、「副園長又は主査」の割合が34.4%となっています。

図 I-9 交流・連携の参加者

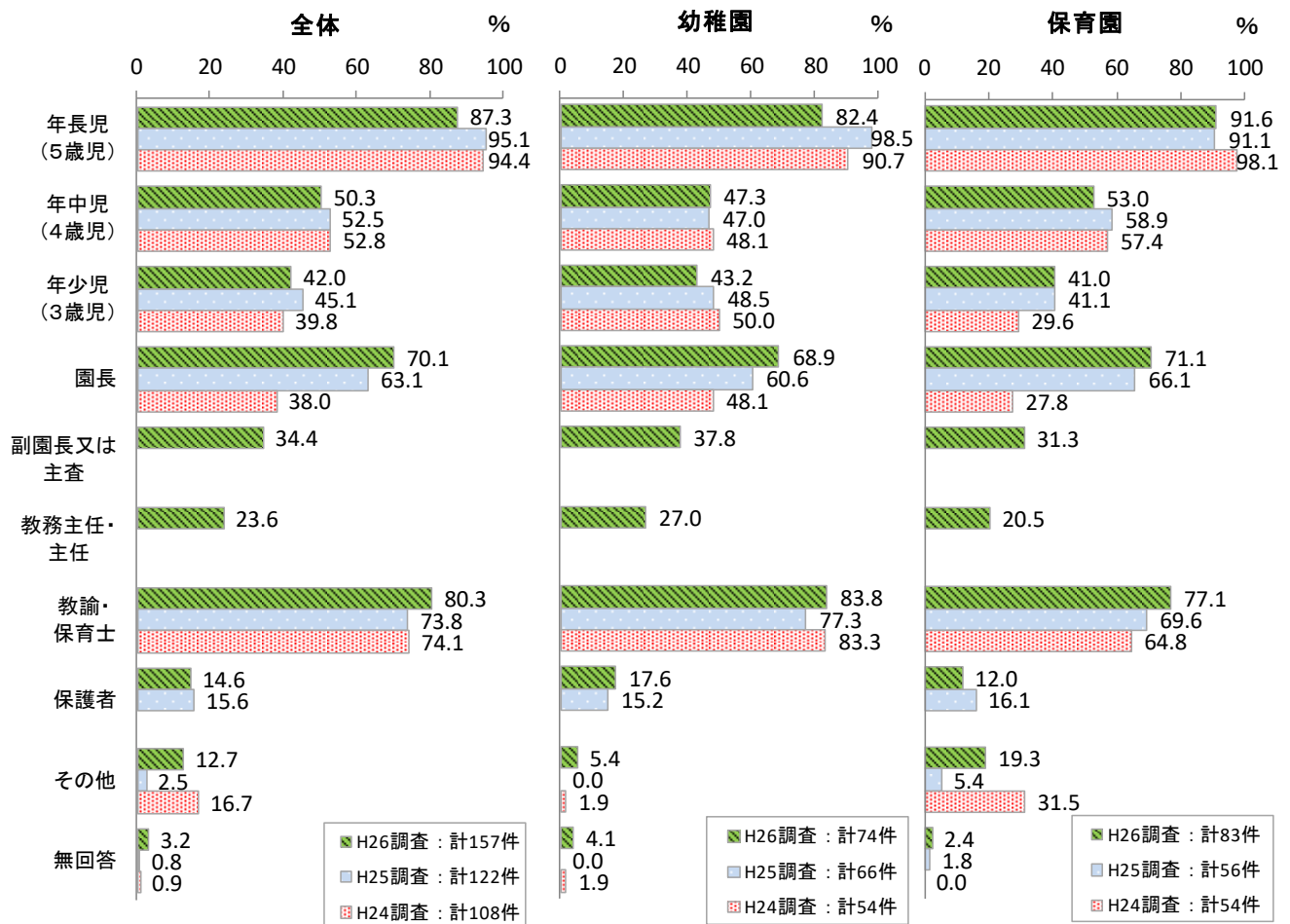


【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、幼児について全体では「年中児（4歳児）」、「年少児（3歳児）」という回答の割合がほぼ横ばいとなっています。教職員等については「園長」という回答の割合が増加傾向となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、「園長」という回答の割合が増加傾向となっています。保育園では、「園長」「教諭・保育士」という回答の割合が増加傾向となっています。

図 1-10 交流・連携の参加者
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



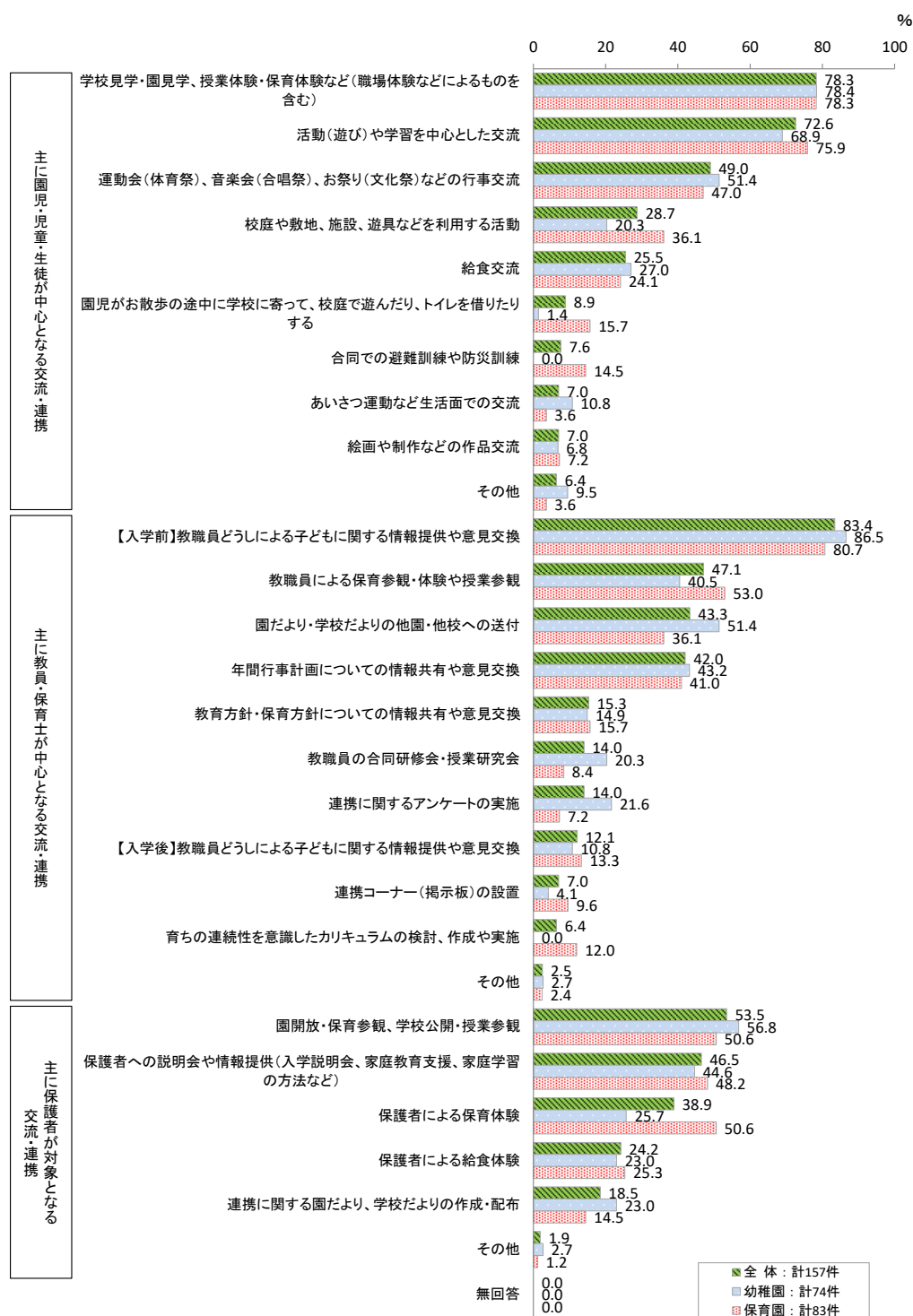
※ 平成24年度調査、平成25年度調査は「副園長又は主査」、「教務主任・主任」の項目なし。平成24年度調査は「保護者」の項目なし。

(4) 交流・連携の内容

問4 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の内容はどのようなものでしたか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、「【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」の割合が、83.4%と最も高く、次いで「学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）」の割合が、78.3%、「活動（遊び）や学習を中心とした交流」の割合が、72.6%となっています。
幼稚園・保育園の別にみても、同様の傾向となっています。

図 I-11 交流・連携の内容

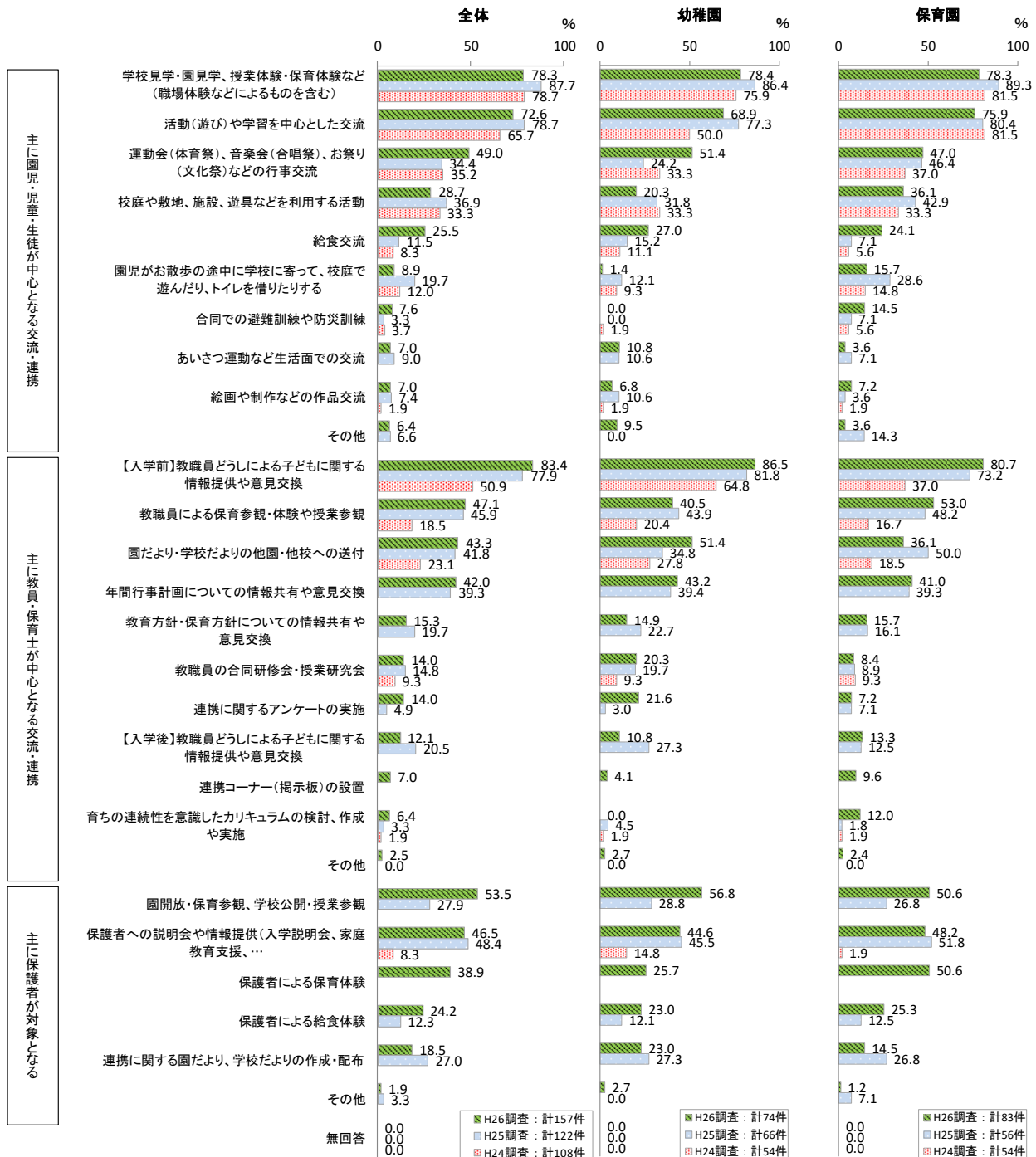


【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、「【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」の割合が、増加傾向となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、「園だより・学校だよりの他園・他校への送付」が、保育園では、「教職員による保育参観・体験や授業参観」の割合が増加傾向となっています。

図 I-12 交流・連携の内容
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成25年度調査と比較可能な項目を比較している。平成25年度調査は「連携コーナー(掲示板)の設置」、「保護者による保育体験」の項目なし。平成24年度調査は比較可能な項目を抜粋している。

(5) 重要な交流・連携の取組

問5 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】問4の選択肢に挙げられている交流・連携の内容のうち、特に重要な取組はどれだと思いますか。重要度が高いと考える順に、問4の選択肢番号及び重要と考える理由をご記入ください。(5つまで)

重要な交流・連携の取組については、主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携では、「学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）」、「活動（遊び）や学習を中心とした交流」、「給食交流」の件数が多く、主に教員・保育士が中心となる交流・連携では、「【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」、「教職員による保育参観・体験や授業参観」、「教育方針・保育方針についての情報共有や意見交換」の件数多く、主に保護者が対象となる交流・連携では、「保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）」、「園開放・保育参観、学校公開・授業参観」、「保護者による保育体験」の件数が多くなっています。

表 I-2 重要な交流・連携の取組

単位: 件

交流・連携の内容			重要度 1	重要度 2	重要度 3	重要度 4	重要度 5	合計
主に園児・児童・生徒が 中心となる交流・連携	1	活動（遊び）や学習を中心とした交流	41	22	9	1	4	77
	2	あいさつ運動など生活面での交流	2	1	1	1	3	8
	3	運動会（体育祭）、音楽会（合唱祭）、お祭り（文化祭）などの行事交流	3	6	8	6	3	26
	4	絵画や制作などの作品交流	0	1	0	2	0	3
	5	給食交流	0	13	11	3	6	33
	6	合同での避難訓練や防災訓練	2	0	2	0	0	4
	7	学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）	42	35	11	9	2	99
	8	校庭や敷地、施設、遊具などを利用する活動	1	3	7	5	4	20
	9	園児がお散歩の途中に学校に寄って、校庭で遊んだり、トイレを借りたりする	2	3	1	0	3	9
	10	その他	0	0	0	0	0	0
主に教員・保育士が 中心となる交流・連携	11	教育方針・保育方針についての情報共有や意見交換	7	1	8	1	0	17
	12	年間行事計画についての情報共有や意見交換	0	3	2	0	3	8
	13	園だより・学校だよりの他園・他校への送付	0	1	1	3	1	6
	14	連携コーナー（掲示板）の設置	0	0	0	0	0	0
	15	【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換	32	22	22	5	1	82
	16	【入学後】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換	0	2	6	0	1	9
	17	教職員による保育参観・体験や授業参観	4	3	3	12	7	29
	18	教職員の合同研修会・授業研究会	0	2	0	0	0	2
	19	連携に関するアンケートの実施	0	0	0	0	0	0
	20	育ちの連続性を意識したカリキュラムの検討、作成や実施	2	1	1	2	0	6
	21	その他	1	0	0	2	0	3
主に保護者が 対象となる 交流・連携	22	保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）	2	3	2	12	8	27
	23	園開放・保育参観、学校公開・授業参観	0	4	3	4	6	17
	24	保護者による保育体験	0	1	1	2	4	8
	25	保護者による給食体験	0	0	0	0	0	0
	26	連携に関する園だより、学校だよりの作成・配布	0	0	0	0	1	1
	27	その他	0	1	2	0	0	3

【重要と考える理由】

主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携、主に教員・保育士が中心となる交流・連携、主に保護者が対象となる交流・連携のそれぞれについて、合計件数が多かった上位3位の理由は以下のようになっています。

(主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携)

① 学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）（99 件）

記述があったのは 96 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 96 件より多くなっています）。

項目	件数
就学に対する期待・意識が高まるから	44
就学に対する不安の解消になるから	29
学校の様子がわかるから	26
学校への見通しがもてるようになるから	6
職場体験で園への興味・理解が深まるから	6
就学へのスムーズな移行が図れるから	5
その他	10

② 「活動（遊び）や学習を中心とした交流」（77 件）

記述があったのは 70 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 70 件より多くなっています）。

項目	件数
学校への期待が高まるから	22
就学に対する不安の解消になるから	17
学校の様子がわかるから	9
遊びの中で交流を深められるから	8
学校に知り合いができるから	7
小学校に対するあこがれがめばえるから	6
遊びを通して楽しさを味わうため	4
遊びでの交流が大切だから	4
交流・参加しやすいから	4
お互いの活動を理解するため	3
学校の学習に結びつくから	2
その他	5

③ 給食交流（33 件）

記述があったのは 33 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 33 件より多くなっています）。

項目	件数
給食への不安の解消につながるから	13
学校給食の様子がわかるから	9
学校への期待が高まるから	6
その他	6

I 幼稚園・保育園の調査結果

(主に教員・保育士が中心となる交流・連携)

① 【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換 (82 件)

記述があったのは 77 件でした (1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 77 件より多くなっています)。

項目	件数
一人ひとりの園児の実態を伝えることができるから	36
就学へのスムーズな移行が図れるから	18
配慮していることを引き継ぐことで安定した学校生活が送れるから	14
学級編成に役立つから	10
園・校が互いに理解できるから	8
今後の指導の参考になるから	5
保護者の安心につながるから	2
その他	1

② 教職員による保育参観・体験や授業参観 (29 件)

記述があったのは 25 件でした (1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 25 件より多くなっています)。

項目	件数
園・校の互いの理解のため	11
園での生活を知ってもらうため	8
子どもの成長を理解してもらうため	6
就学へのスムーズな移行が図れるから	2
その他	2

③ 教育方針・保育方針についての情報共有や意見交換 (17 件)

記述があったのは 16 件でした (1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 16 件より多くなっています)。

項目	件数
お互いの活動の理解のため	7
学校教育を理解して保育に生かすから	5
情報交換が大切だから	2
子どもによって教育環境に差があつてはいけなから	2
その他	1

(主に保護者が対象となる交流・連携)

① 保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）（27 件）

記述があったのは 26 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 26 件より多くなっています）。

項目	件数
就学に対する不安の解消になるから	17
保護者に子ども・学校を理解してもらうため	7
保護者に就学に向けての意識を高めてもらうため	3
保護者に学んでほしいことがあるから	2
保護者と連携・協力するため	2
保護者を支援するため	2
その他	1

② 園開放・保育参観、学校公開・授業参観（17 件）

記述があったのは 17 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 17 件より多くなっています）。

項目	件数
子どもの様子を知ってもらうため	9
保護者と連携・協力するため	3
その他	6

③ 保護者による保育体験（8 件）

記述があったのは 7 件でした。

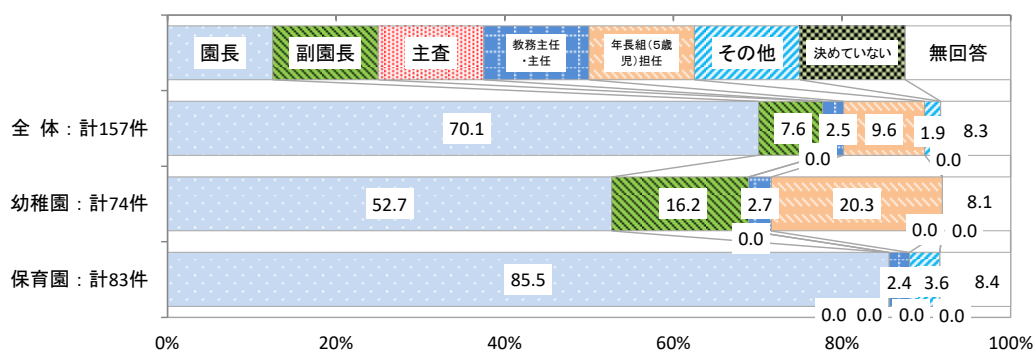
項目	件数
保育の仕事を知ってもらうため	3
保護者に園での教育を理解してもらうため	3
その他	1

(6) 交流・連携の窓口の主な担当者

問6 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の窓口は、主にどなたが担当していますか。(○は1つだけ)

「園長」という回答の割合が、全体(70.1%)、幼稚園(52.7%)、保育園(85.5%)ともに最も高くなっています。幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では「年長組(5歳児)担任」の割合が20.3%と高くなっています。

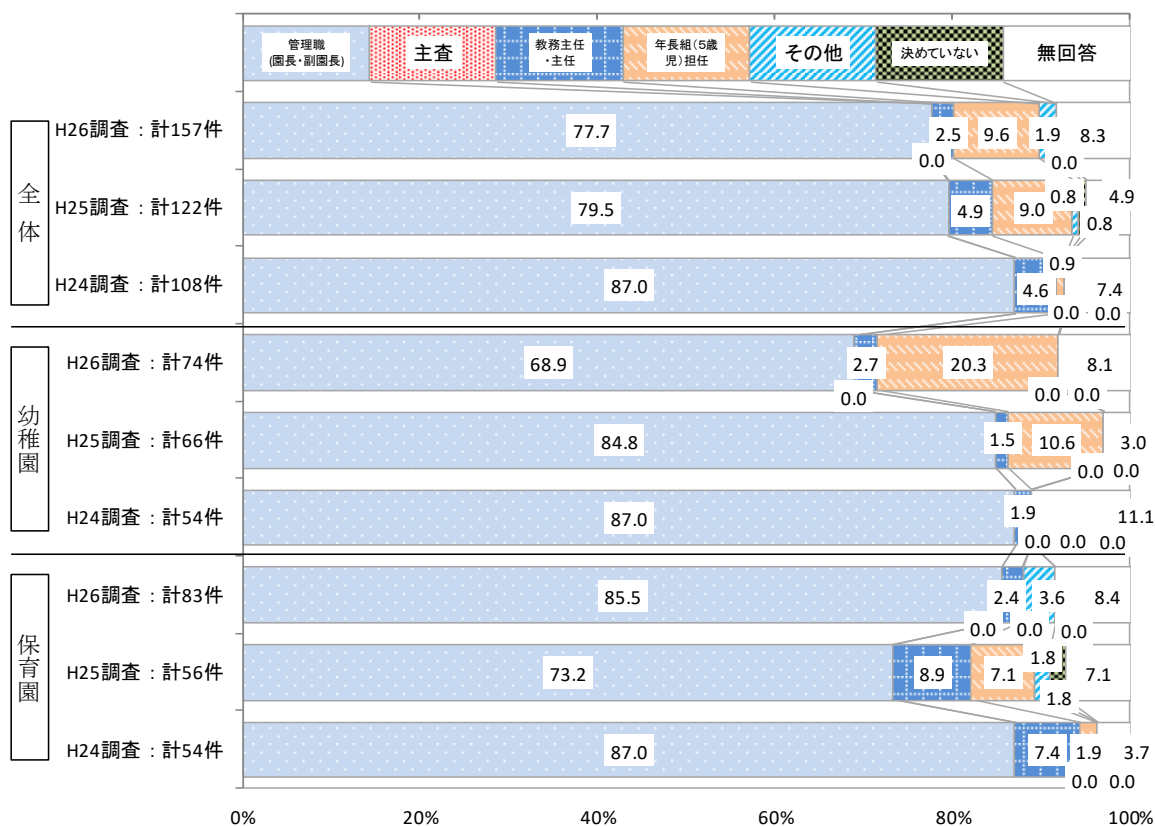
図 I-13 交流・連携の窓口の主な担当者



【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、「管理職(園長・副園長)」という回答の割合が減少傾向にあります。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では「管理職(園長・副園長)」という回答の割合が減少傾向にあり、保育園では、「管理職(園長・副園長)」という回答の割合が、平成24年度から平成25年度にかけて低くなった後、平成25年度から平成26年度にかけて高くなっています。

図 I-14 交流・連携の窓口の主な担当者
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

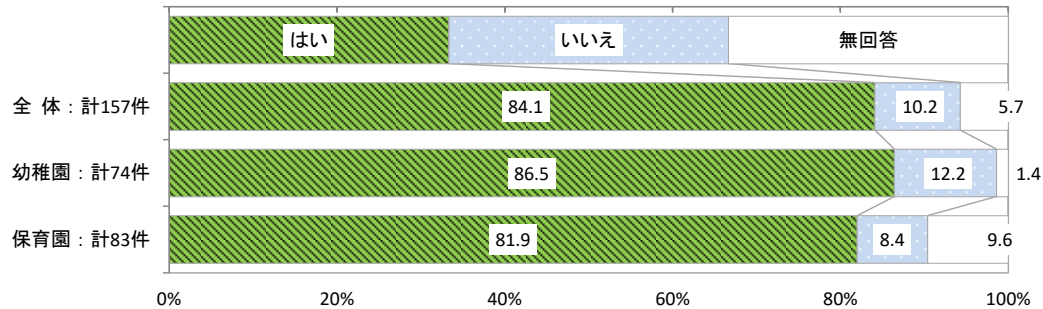
※ 「管理職(園長・副園長)」は、平成26年度調査の「園長」、「副園長」を合わせた値と、平成24年度調査、平成25年度調査の「管理職(園長・副園長)」を比較している。平成24年度調査、平成25年度調査は「主査」の項目なし。

(7) 交流・連携の窓口の担当者の固定化

問7 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の窓口の担当者は、固定して（園内で決まって）いますか。（○は1つだけ）

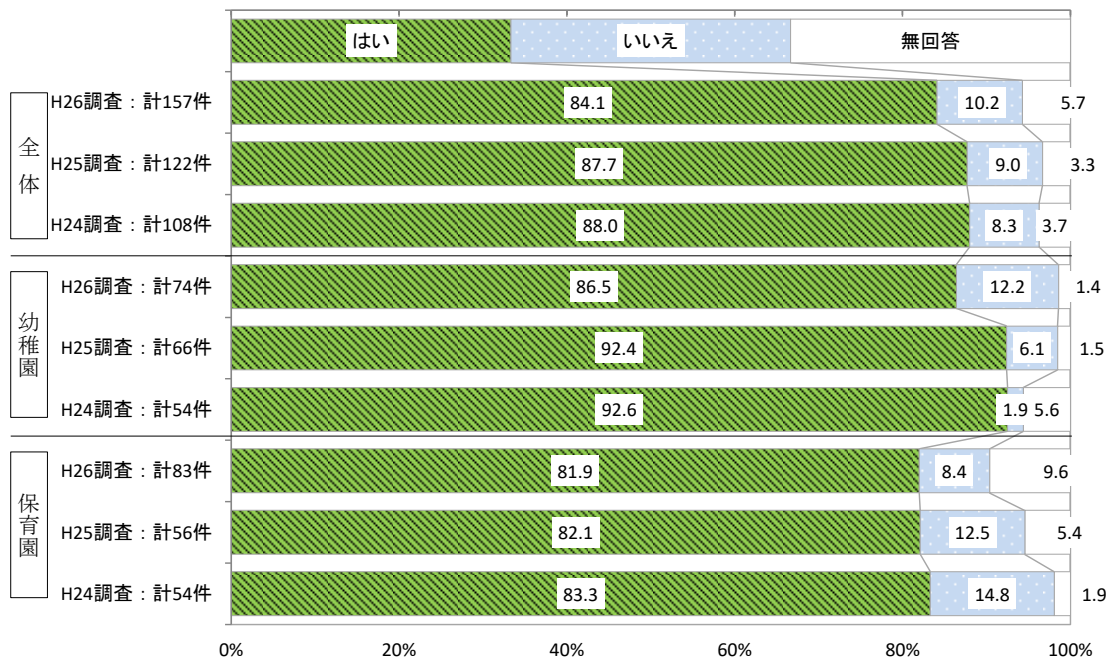
全体では、「はい」の割合が84.1%、「いいえ」の割合が10.2%となっています。幼稚園・保育園の別に見ると、交流・連携の窓口の担当者が固定されている割合は、幼稚園が86.5%、保育園が81.9%となっています。

図 I-15 交流・連携の窓口の担当者の固定化



【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、交流・連携の窓口の担当者が固定されている割合は、全体、幼稚園、保育園ともに、ほぼ横ばいとなっています。

図 I-16 交流・連携の窓口の担当者の固定化
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

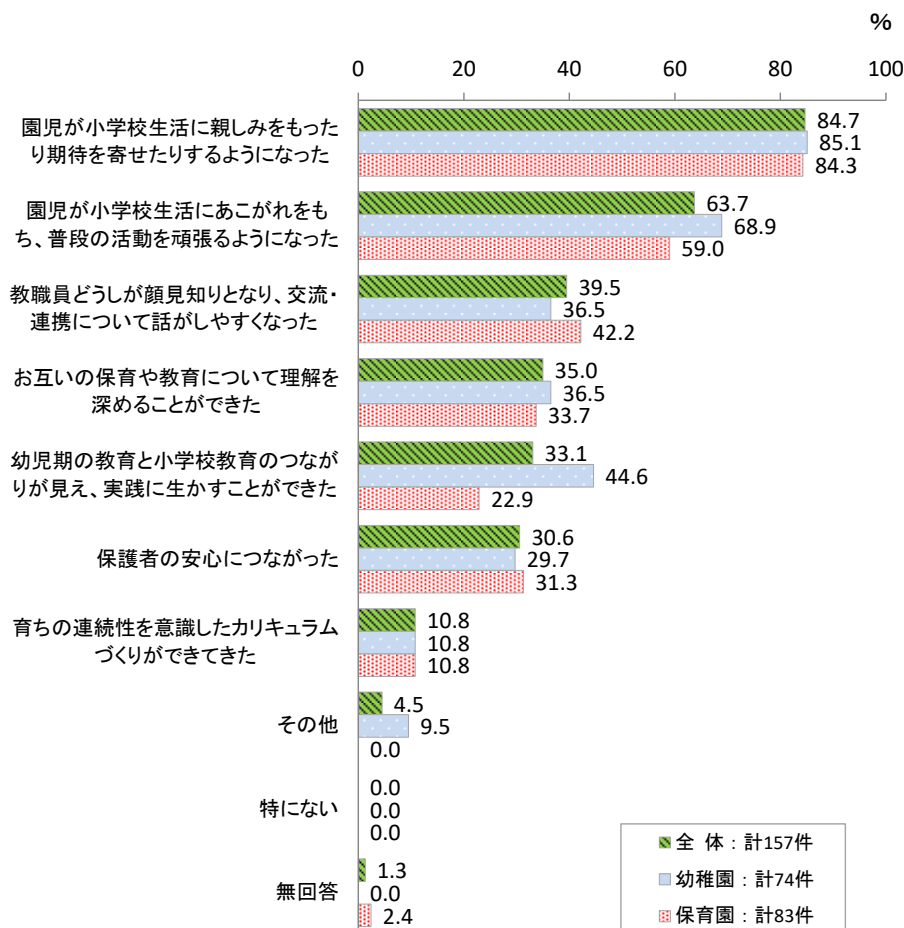
(8) 交流・連携を行って良かった点

問8 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携を行って良かった点は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、「園児が小学校生活に親しみをもったり期待を寄せたりするようになった」の割合が84.7%と最も高く、次いで「園児が小学校生活にあこがれをもち、普段の活動を頑張るようになった」の割合が63.7%、「教職員どうしが顔見知りとなり、交流・連携について話がしやすくなった」の割合が39.5%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では「園児が小学校生活にあこがれをもち、普段の活動を頑張るようになった」、「幼児期の教育と小学校教育のつながりが見え、実践に生かすことができた」の割合が高くなっており、保育園では、「教職員どうしが顔見知りとなり、交流・連携について話がしやすくなった」の割合が高くなっています。

図 I-17 交流・連携を行って良かった点

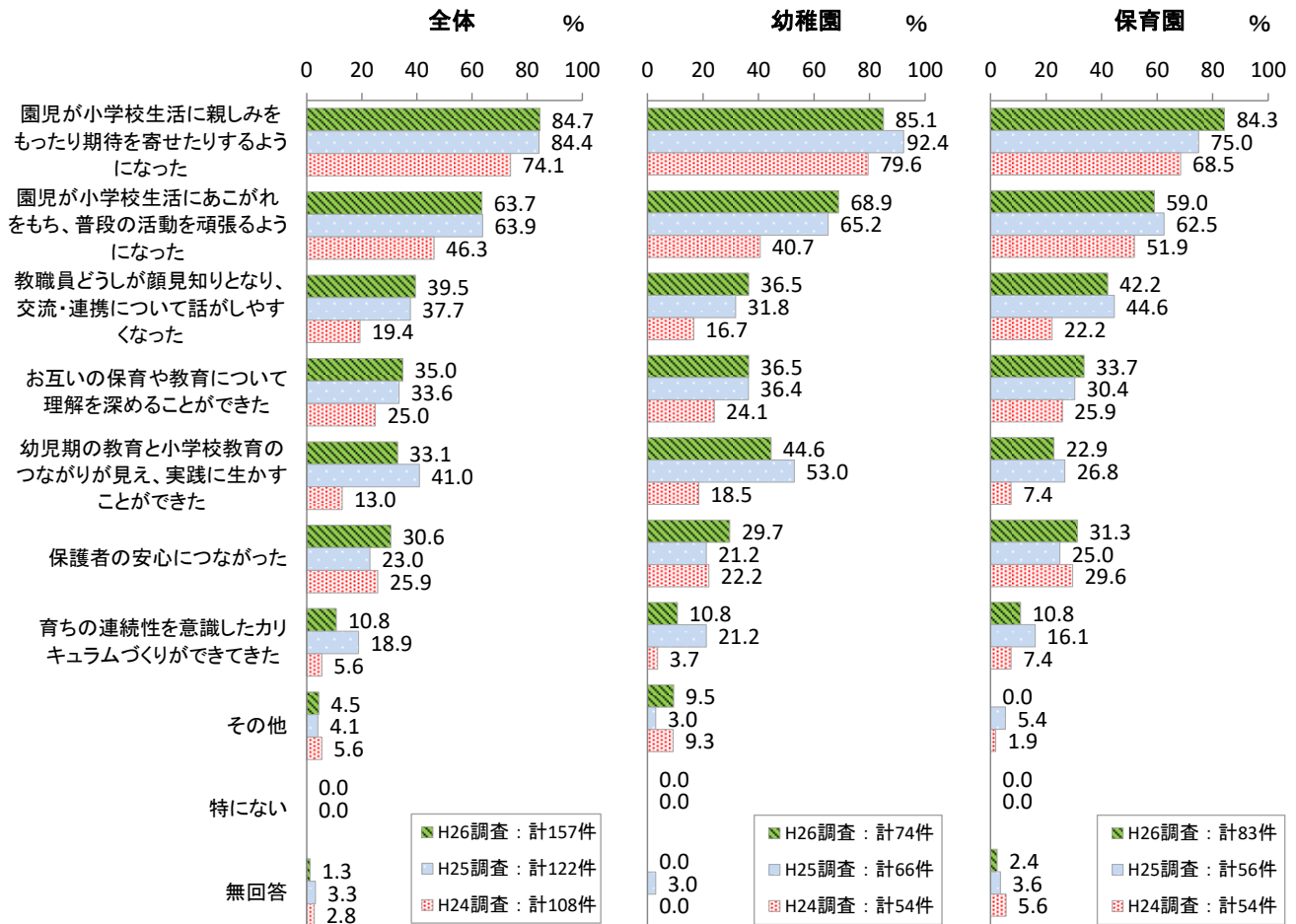


【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、全体では、「園児が小学校生活に親しみをもったり期待を寄せたりするようになった」、「園児が小学校生活にあこがれをもち、普段の活動を頑張るようになった」、「教職員どうしが顔見知りとなり、交流・連携について話がしやすくなった」、「お互いの保育や教育について理解を深めることができた」の割合が増加傾向となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、「園児が小学校生活にあこがれをもち、普段の活動を頑張るようになった」、「教職員どうしが顔見知りとなり、交流・連携について話がしやすくなった」、「お互いの保育や教育について理解を深めることができた」の割合が増加傾向となっています。保育園では、「園児が小学校生活に親しみをもったり期待を寄せたりするようになった」、「お互いの保育や教育について理解を深めることができた」の割合が増加傾向となっています。

図 I-18 交流・連携を行って良かった点
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は「特になし」の項目なし。

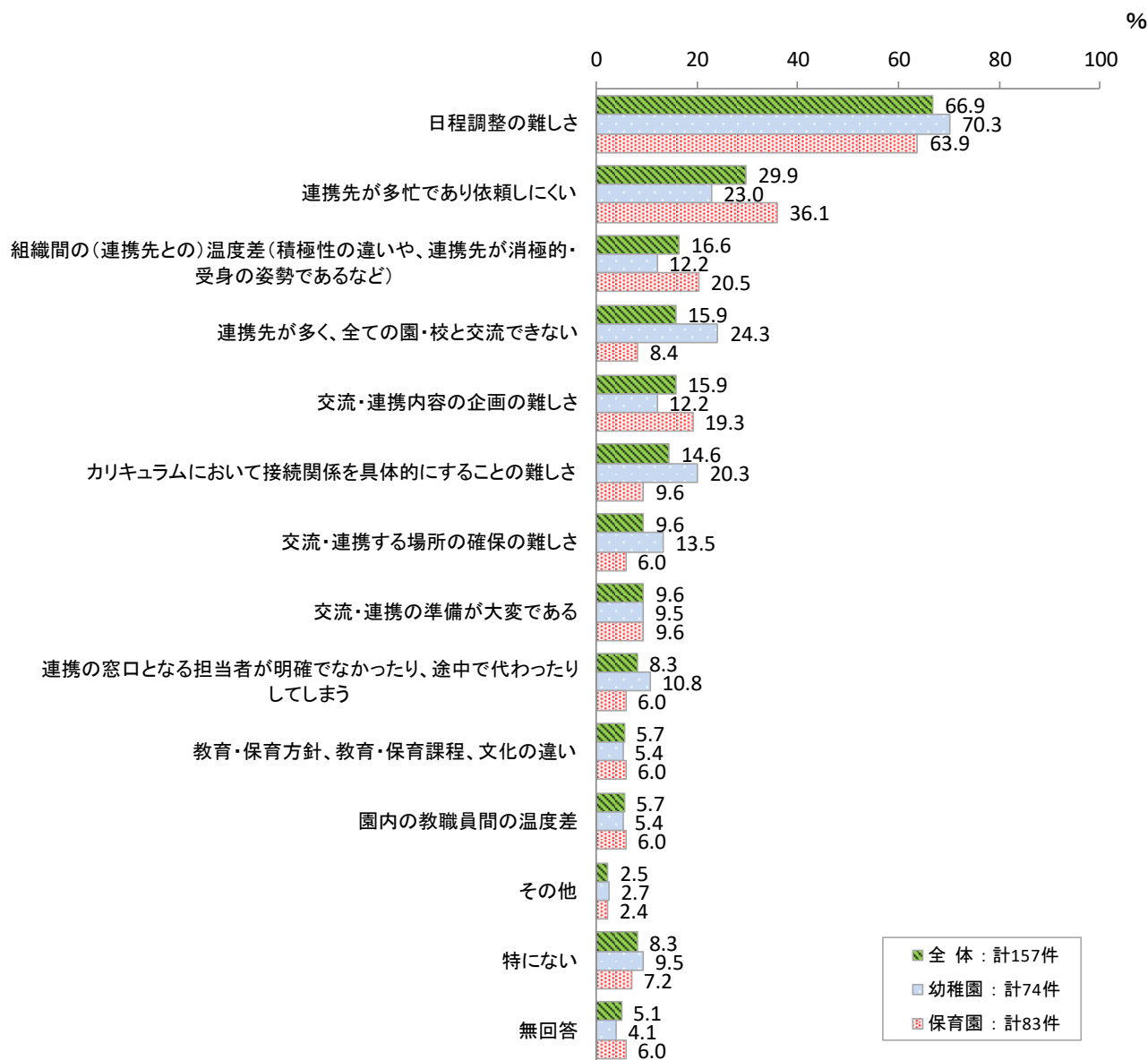
(9) 交流・連携の課題となる点

問9 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の実施にあたって課題となる点は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、「日程調整の難しさ」の割合が66.9%と最も高く、次いで「連携先が多忙であり依頼しにくい」の割合が29.9%、「組織間の(連携先との)温度差(積極性の違いや、連携先が消極的・受身の姿勢であるなど)」の割合が16.6%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、「連携先が多く、全ての園・校と交流できない」、「カリキュラムにおいて接続関係を具体的にすることの難しさ」の割合が高く、保育園では、「連携先が多忙であり依頼しにくい」、「組織間の(連携先との)温度差(積極性の違いや、連携先が消極的・受身の姿勢であるなど)」、「交流・連携内容の企画の難しさ」の割合が高くなっています。

図 I-19 交流・連携の課題となる点

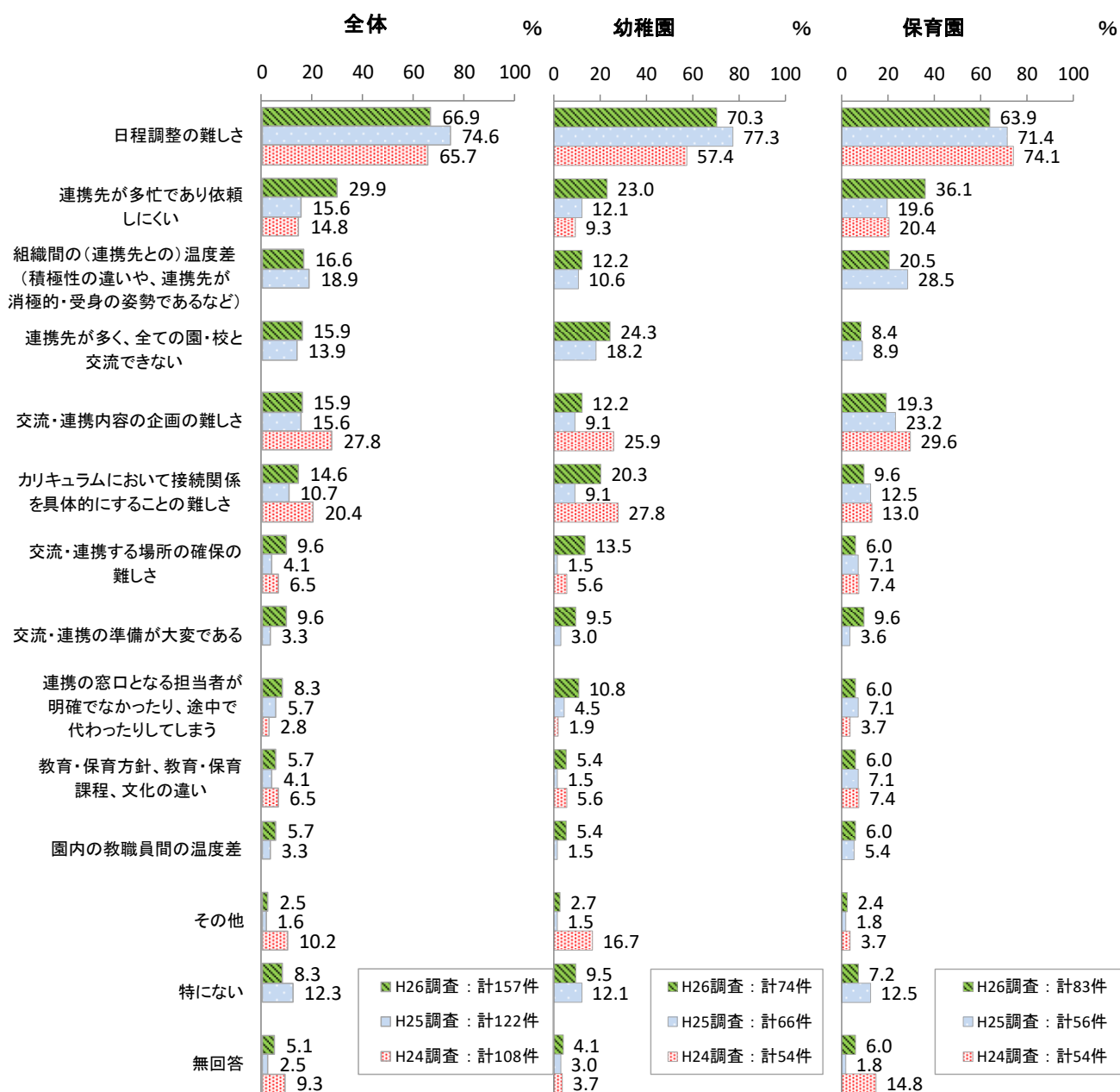


【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、全体では、「日程調整の難しさ」の割合が、依然として高い水準であるものの、平成25年度から平成26年度にかけて低くなっています。また、「連携先が多忙であり依頼しにくい」、「交流・連携内容の企画の難しさ」の割合が増加傾向となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、「日程調整の難しさ」の割合が、平成24年度から平成25年度にかけて高くなり、平成25年度から平成26年度にかけて低くなっています。保育園では、「日程調整の難しさ」の割合が、減少傾向となっています。

図 I-20 交流・連携の課題となる点
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は「連携先が多く、全ての園・校と交流できない」、「交流・連携の準備が大変である」、「特になし」の項目なし。

「組織間の(連携先との)温度差(積極性の違いや、連携先が消極的・受身の姿勢であるなど)」は、平成25年度調査の「組織間の温度差」と「連携先が消極的・受身の姿勢である」を合わせた値と比較している。平成24年度調査の「組織・教職員間の温度差」とは、内容が一部異なるため、比較していない。

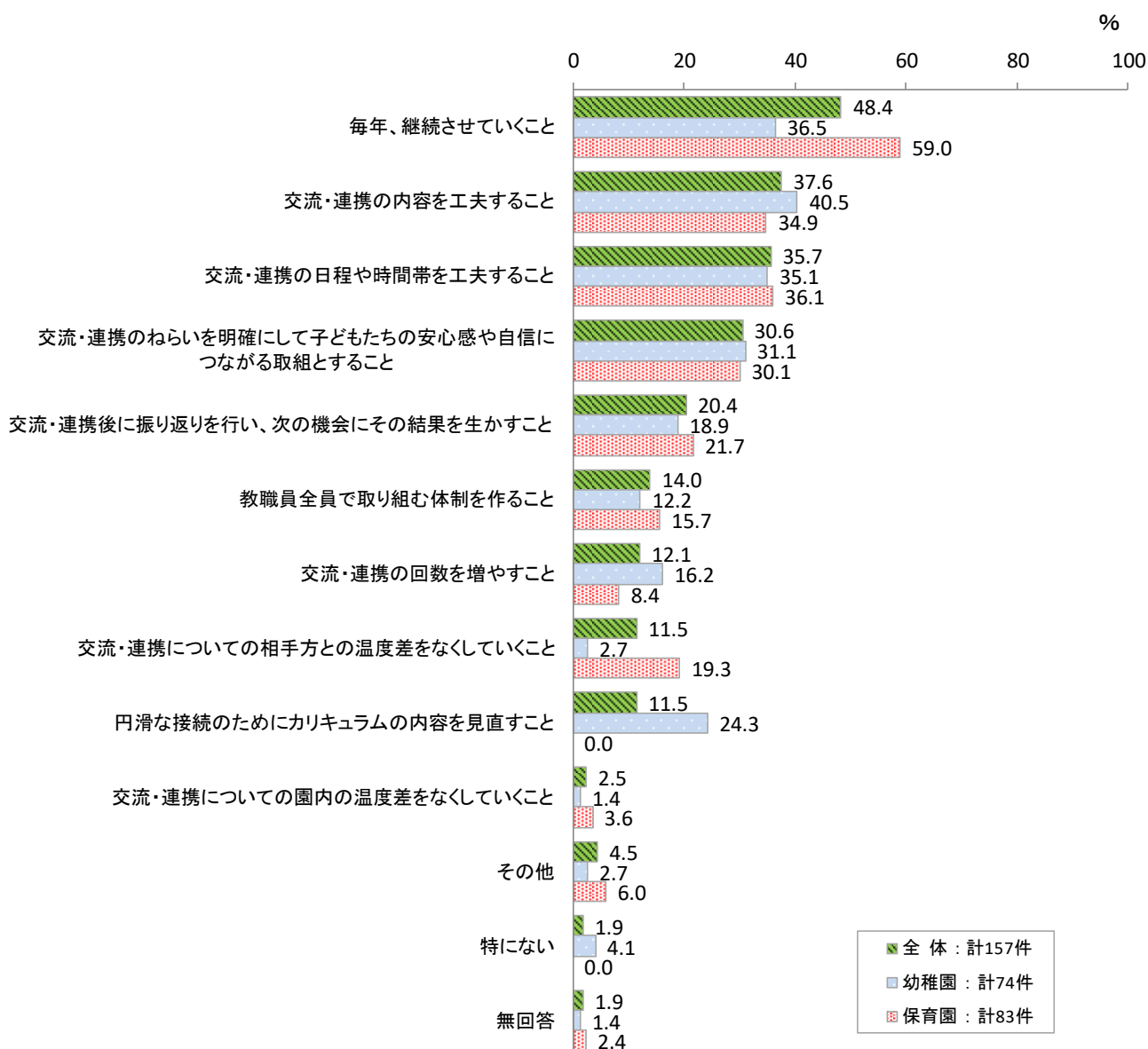
(10) 交流・連携で改善したい点

問10 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の実施にあたって改善したい点は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、「毎年、継続させていくこと」の割合が48.4%と最も高く、次いで「交流・連携の内容を工夫すること」の割合が37.6%、「交流・連携の日程や時間帯を工夫すること」の割合が35.7%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、「交流・連携の内容を工夫すること」の割合が高く、保育園では、「毎年、継続させていくこと」の割合が高くなっています。

図 I-21 交流・連携で改善したい点

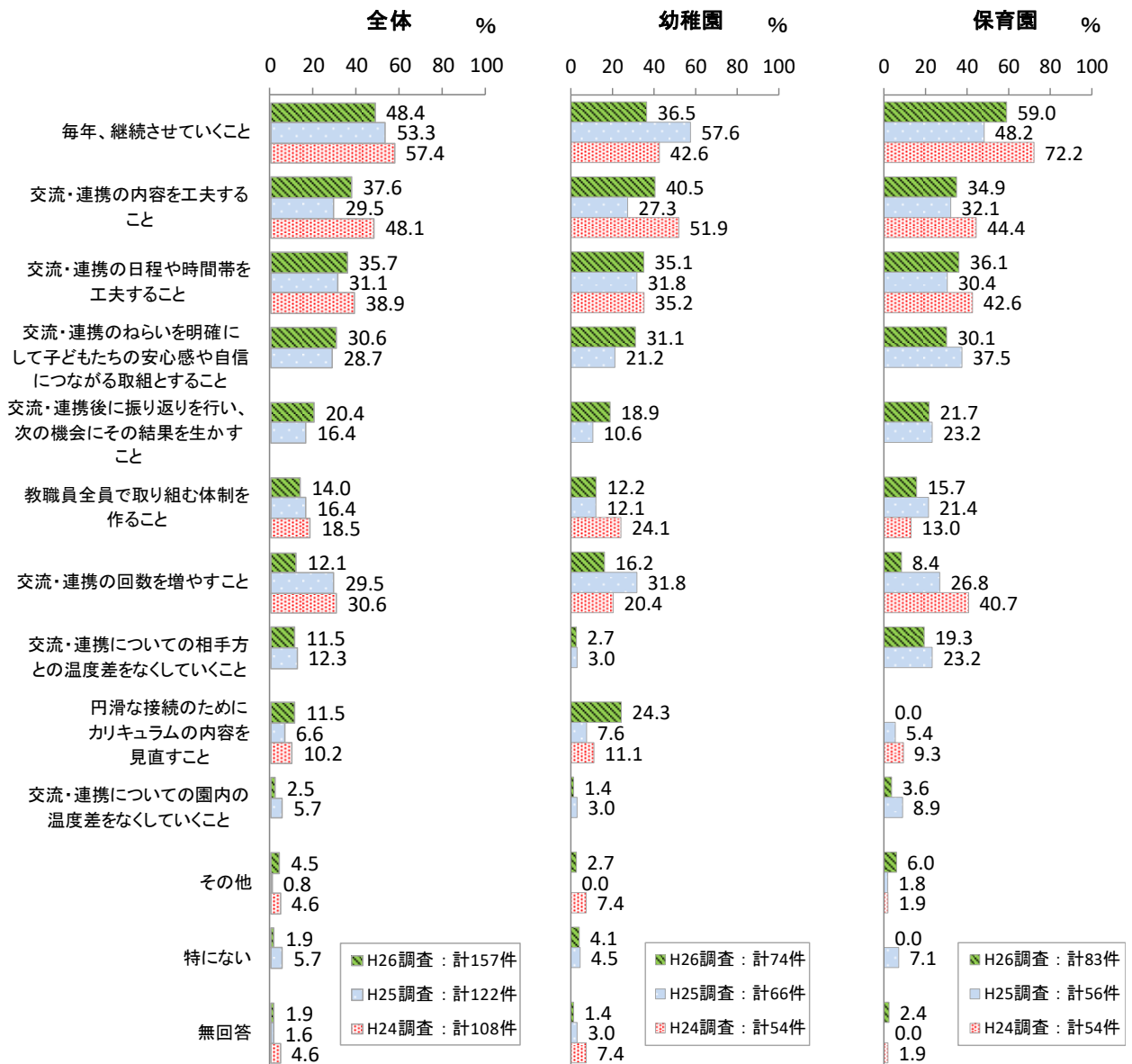


【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、全体では、「毎年、継続させていくこと」、「交流・連携の回数を増やすこと」の割合が減少傾向となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、「教職員全員で取り組む体制を作ること」の割合が減少傾向となっており、「円滑な接続のためにカリキュラムの内容を見直すこと」の割合が、増加傾向となっています。保育園では、「交流・連携の回数を増やすこと」の割合が減少傾向となっています。

図 I-22 交流・連携で改善したい点
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は「交流・連携のねらいを明確にして子どもたちの安心感や自信につながる取組とすること」、「交流・連携後に振り返りを行い、次の機会にその結果を生かすこと」、「交流・連携についての相手方との温度差をなくしていくこと」、「交流・連携についての園内の温度差をなくしていくこと」、「特にない」の項目なし。

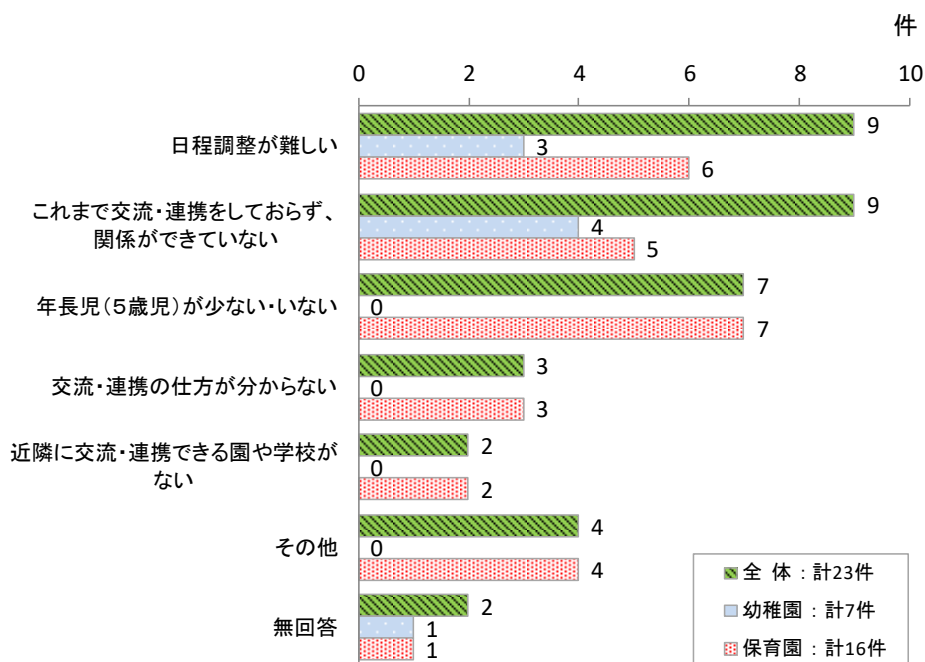
(11) 交流・連携の実施が困難な理由

問11 【問1で2の「いいえ」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の実施が困難な理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、「日程調整が難しい」、「これまで交流・連携をしておらず、関係ができていない」の件数が最も多く、次いで「年長児（5歳児）が少ない・いない」の件数が多くなっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、「これまで交流・連携をしておらず、関係ができていない」の件数が多く、保育園では、「年長児（5歳児）が少ない・いない」の件数が多くなっています。

図I-23 交流・連携の実施が困難な理由



【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、「日程調整が難しい」、「これまで交流・連携をしておらず、関係ができていない」という回答の件数が、全体、幼稚園、保育園ともに減少傾向となっています。

表I-3 交流・連携の実施が困難な理由
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

		単位: 件						
		近隣に交流・連携できない	日程調整が難しい	交流・連携の仕方が分からない	これまで交流・連携ができなかった	年長児(5歳児)が少ない・いない	その他	無回答
全	H26調査：計23件	2	9	3	9	7	4	2
	H25調査：計13件	0	8	1	7	-	4	0
	H24調査：計42件	2	23	5	23	-	12	0
幼稚園	H26調査：計7件	0	3	0	4	0	0	1
	H25調査：計3件	0	2	0	3	-	0	0
	H24調査：計17件	0	9	3	9	-	6	0
保育園	H26調査：計16件	2	6	3	5	7	4	1
	H25調査：計10件	0	6	1	4	-	4	0
	H24調査：計25件	2	14	2	14	-	6	0

※ 平成24年度調査、平成25年度調査は「年長児（5歳児）が少ない・いない」の項目なし。

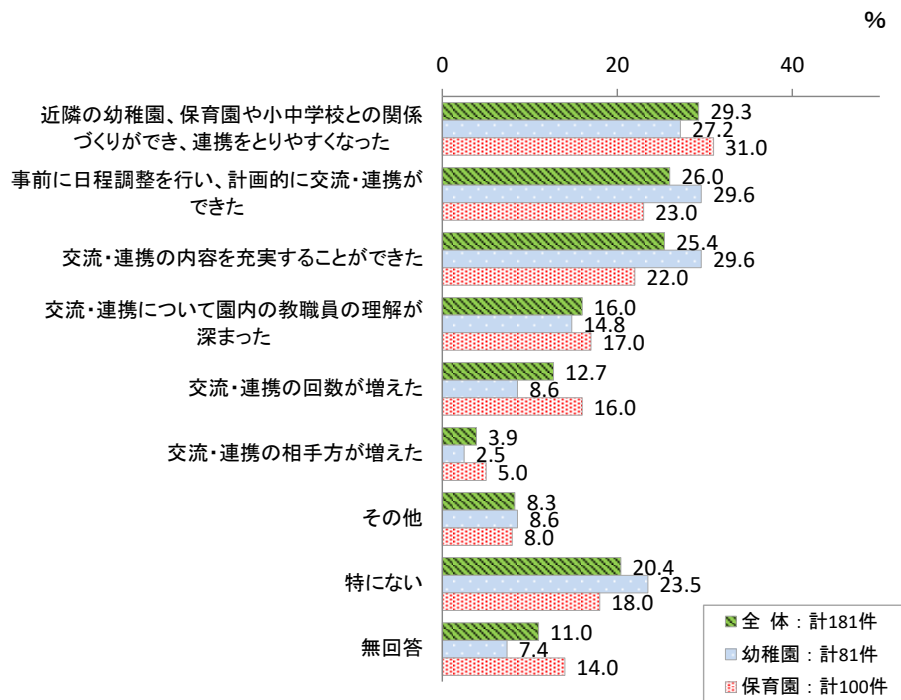
(12) 他園・校との交流・連携について改善されたこと

問12 あなたの園において、昨年度（平成25年度）当初と比べ、他園・校との交流・連携について改善されたことはありますか。（あてはまるもの全てに○）

全体では、「近隣の幼稚園、保育園や小中学校との関係づくりができ、連携をとりやすくなった」の割合が29.3%と最も高く、次いで「事前に日程調整を行い、計画的に交流・連携ができた」の割合が26.0%、「交流・連携の内容を充実することができた」の割合が25.4%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、「事前に日程調整を行い、計画的に交流・連携ができた」、「交流・連携の内容を充実することができた」という回答の割合が高く、保育園は、「近隣の幼稚園、保育園や小中学校との関係づくりができ、連携をとりやすくなった」の割合が高くなっています。

図I-24 他園・校との交流・連携について改善されたこと



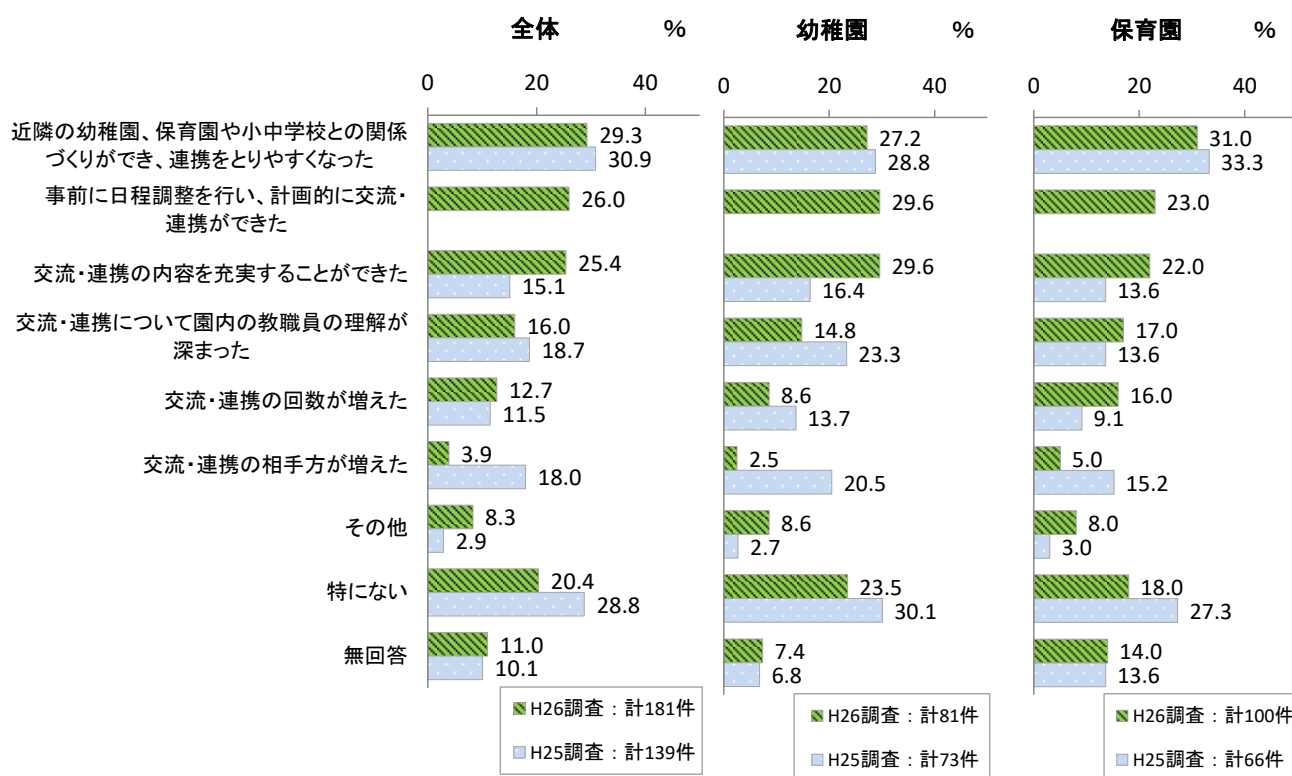
I 幼稚園・保育園の調査結果

【平成26年度・平成25年度の調査結果の比較】

平成25年度調査と比較すると、全体では、「交流・連携の内容を充実することができた」という回答の割合が高くなっています。

幼稚園・保育園の別にみても、同様の傾向となっています。

図 I-25 他園・校との交流・連携について改善されたこと
(平成26年度・平成25年度の調査結果の比較)



※ 平成25年度調査は「事前に日程調整を行い、計画的に交流・連携ができた」の項目なし。

3 就学に向けた取組について

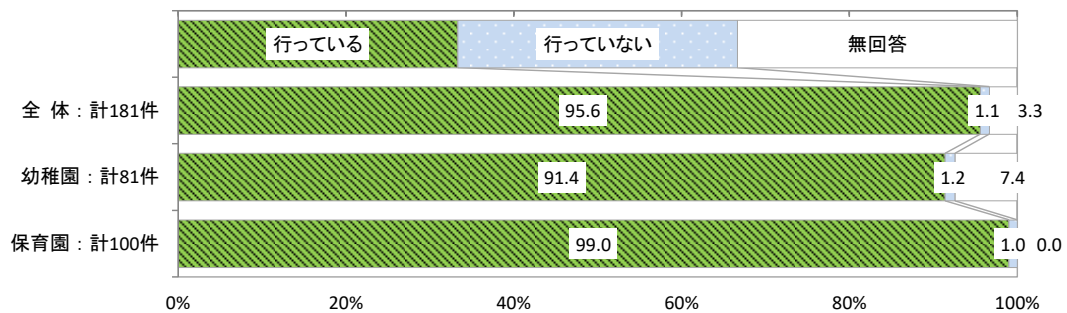
(1) 交流・連携以外に小学校教育への接続を意識した幼児教育の取組状況

問 13 あなたの園では、他の幼稚園・保育園・小学校・中学校との交流・連携以外に、小学校教育への接続を意識した幼児期の教育を行っていますか。(〇は1つだけ)

全体では、「行っている」の割合が 95.6%、「行っていない」の割合が 1.1%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、小学校教育への接続を意識した幼児教育の取組を行っている割合は、幼稚園が 91.4%、保育園が 99.0%となっています。

図 I-26 交流・連携以外に小学校教育への接続を意識した幼児教育の取組状況

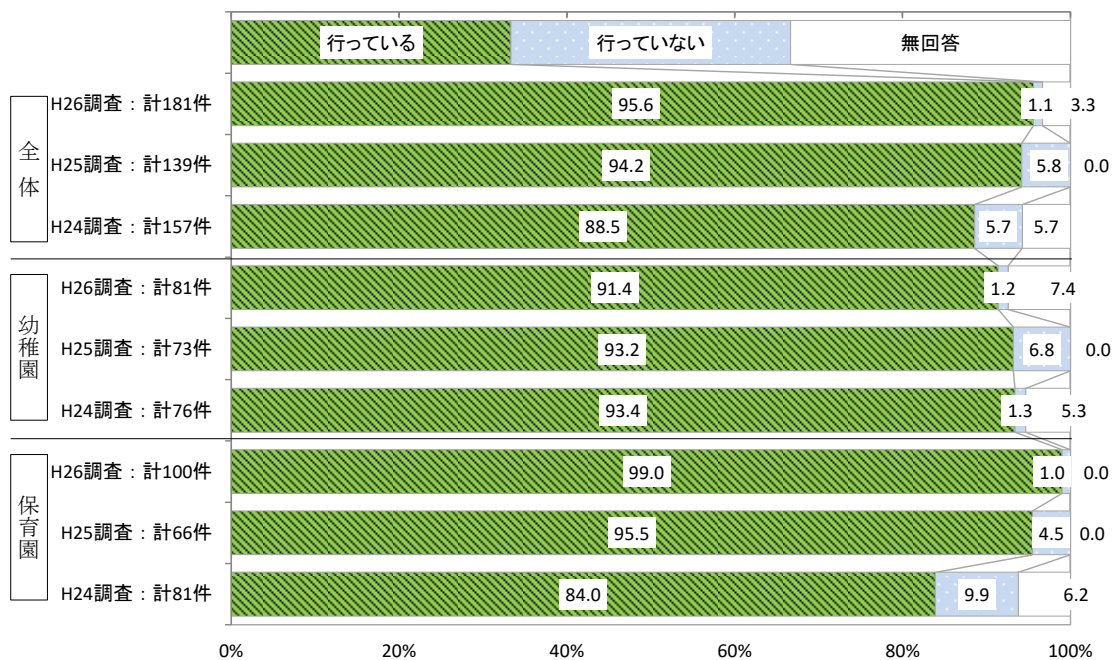


【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、全体では、小学校教育への接続を意識した幼児教育の取組を行っている割合は、増加傾向となっています。

幼稚園・保育園の別でみると、幼稚園では、ほぼ横ばい、保育園では、増加傾向となっています。

図 I-27 交流・連携以外に小学校教育への接続を意識した幼児教育の取組状況
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

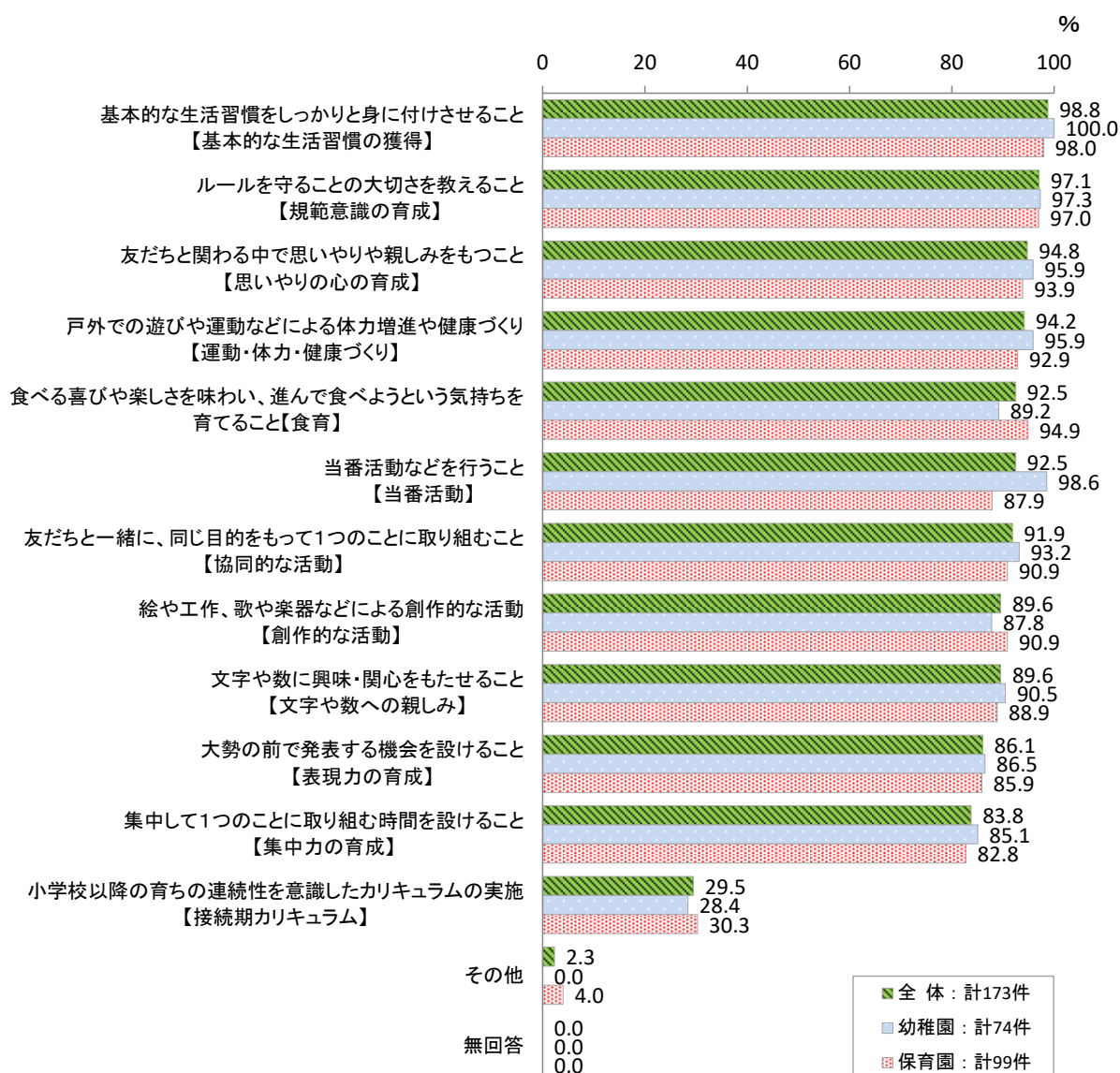


(2) 小学校教育への接続を意識して行っている幼児教育

問14 【問13で1の「行っている」に○をつけた場合にお答えください】小学校教育への接続を意識した幼児期の教育として、どのようなことを行っていますか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、「基本的な生活習慣をしっかりと身に付けさせること【基本的な生活習慣の獲得】」の割合が98.8%と最も高く、次いで「ルールを守ることの大切さを教えること【規範意識の育成】」の割合が97.1%、「友だちと関わる中で思いやりや親しみをもつこと【思いやりの心の育成】」の割合が94.8%となっています。幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、「当番活動などを行うこと【当番活動】」という回答の割合が高く、保育園では、「食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようという気持ちを育てること【食育】」の割合が高くなっています。

図I-28 小学校教育への接続を意識して行っている幼児教育

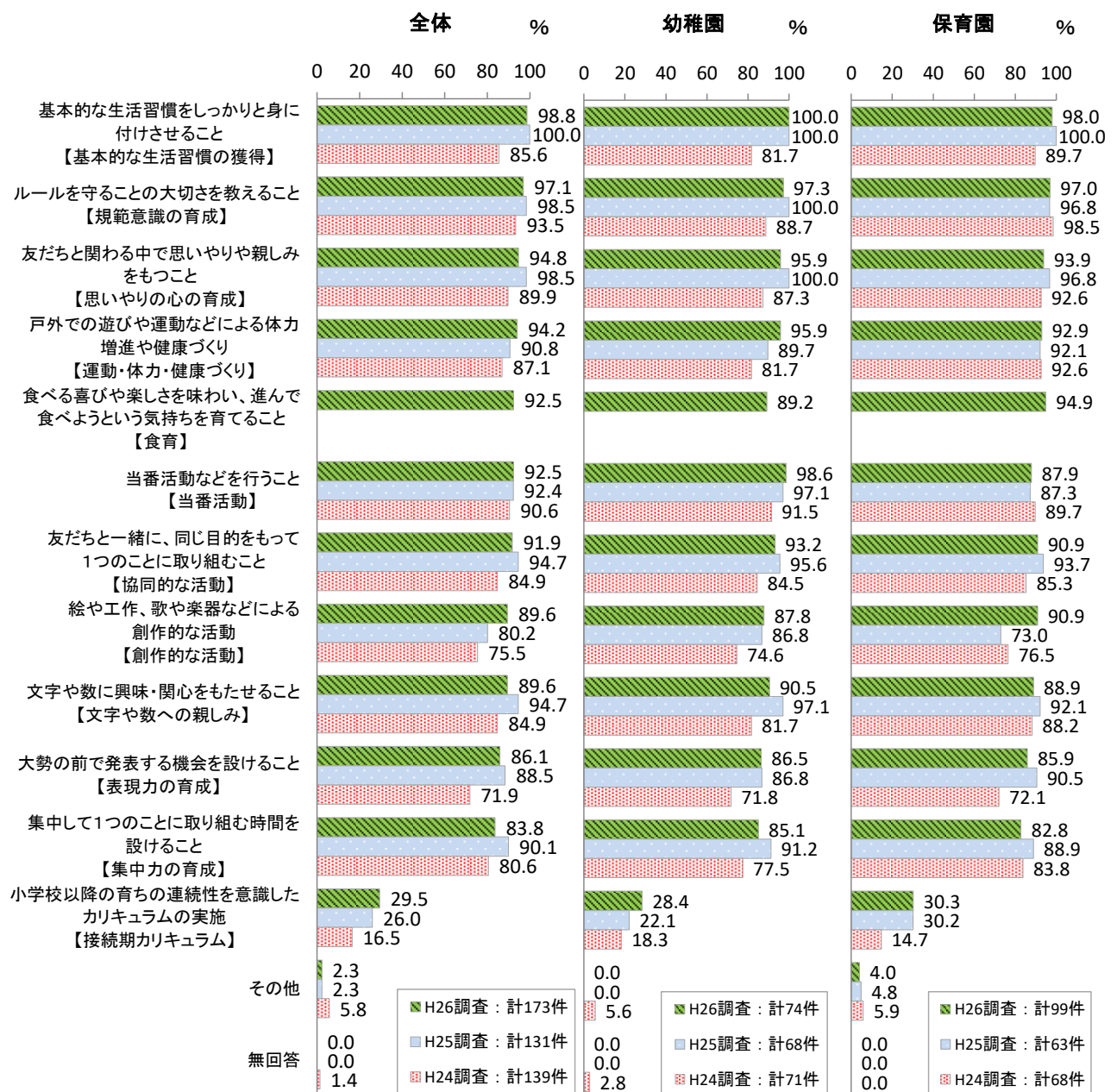


【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、全体では「戸外での遊びや運動などによる体力増進や健康づくり【運動・体力・健康づくり】」、「絵や工作、歌や楽器などによる創作的な活動【創作的な活動】」「小学校以降の育ちの連続性を意識したカリキュラムの実施【接続期カリキュラム】」の割合が、増加傾向となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、「基本的な生活習慣をしっかりと身に付けさせること【基本的な生活習慣の獲得】」、「戸外での遊びや運動などによる体力増進や健康づくり【運動・体力・健康づくり】」、「当番活動などを行うこと【当番活動】」、「絵や工作、歌や楽器などによる創作的な活動【創作的な活動】」、「小学校以降の育ちの連続性を意識したカリキュラムの実施【接続期カリキュラム】」の割合が増加傾向となっています。保育園では、「絵や工作、歌や楽器などによる創作的な活動【創作的な活動】」、「小学校以降の育ちの連続性を意識したカリキュラムの実施【接続期カリキュラム】」の割合が増加傾向となっています。

図 I-29 小学校教育への接続を意識して行っている幼児教育
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査、平成25年度調査は「食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようという気持ちを育てること【食育】」の項目なし。

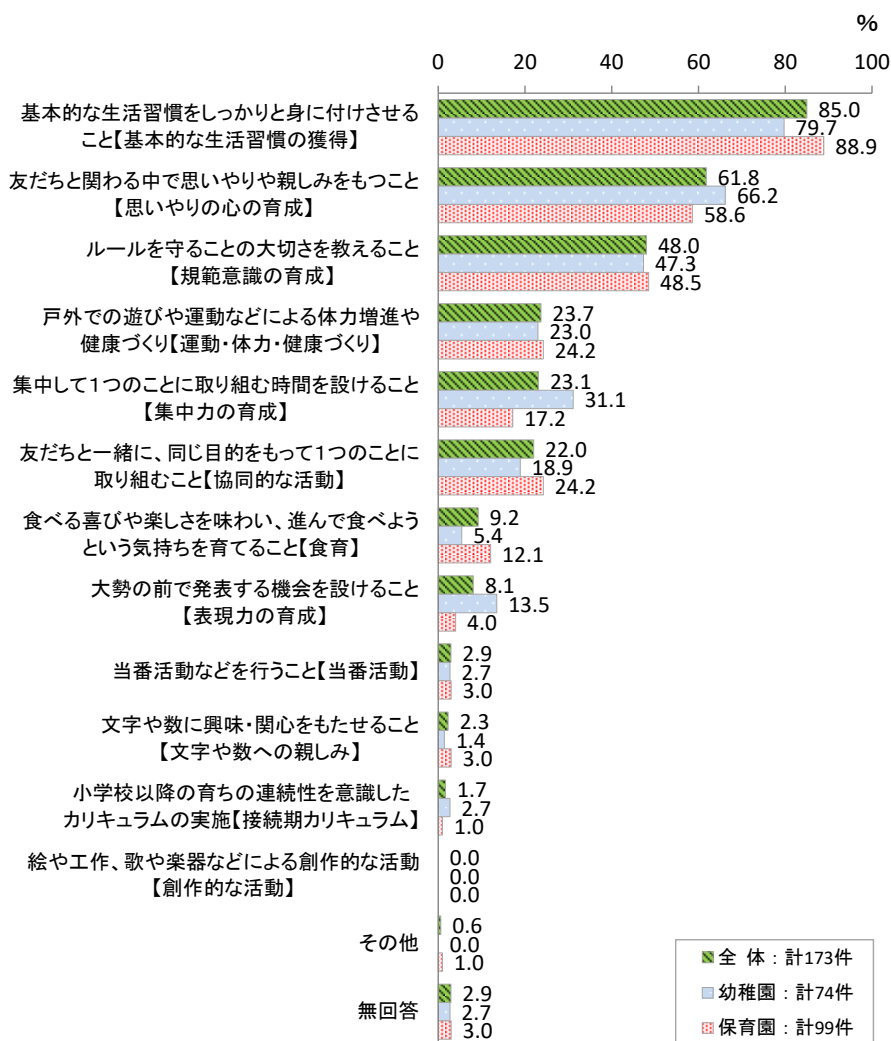
(3) 小学校教育への接続を意識した幼児教育のうち特に重要なもの

問15 【問13で1の「行っている」に○をつけた場合にお答えください】問14の「小学校教育への接続を意識した幼児期の教育」についての回答の中で、特に重要だと考えるものはどれですか。問14の選択肢番号で3つまでお答えください。

全体では、「基本的な生活習慣をしっかりと身に付けさせること【基本的な生活習慣の獲得】」の割合が85.0%と最も高く、次いで「友だちと関わる中で思いやりや親しみをもつこと【思いやりの心の育成】」の割合が61.8%、「ルールを守ることの大切さを教えること【規範意識の育成】」の割合が48.0%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、「友だちと関わる中で思いやりや親しみをもつこと【思いやりの心の育成】」、「集中して1つのことに取り組む時間を設けること【集中力の育成】」、「大勢の前で発表する機会を設けること【表現力の育成】」の割合が高く、保育園では、「基本的な生活習慣をしっかりと身に付けさせること【基本的な生活習慣の獲得】」、「友だちと一緒に、同じ目的をもって1つのことに取り組むこと【協同的な活動】」「食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようという気持ちを育てること【食育】」の割合が高くなっています。

図 I-30 小学校教育への接続を意識した幼児教育のうち特に重要なもの



※ 問15については、3つより多い回答が多数のため、複数回答として集計した。

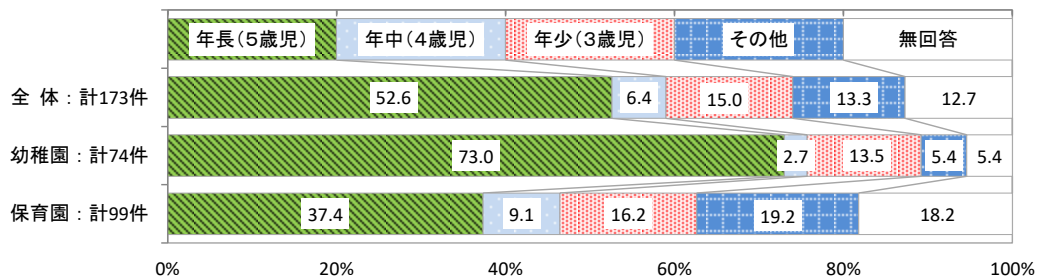
(4) 小学校教育への接続を意識した幼児教育の実施時期

問16 【問13で1の「行っている」に○をつけた場合にお答えください】 小学校教育への接続を意識した幼児期の教育を、いつ頃から行っていますか。(○は1つだけ、何月頃から行っているかを記入)

全体では、「年長(5歳児)」の割合が52.6%と最も高く、次いで「年少(3歳児)」の割合が15.0%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、「年長(5歳児)」という回答の割合は、保育園より幼稚園のほうが高くなっています。

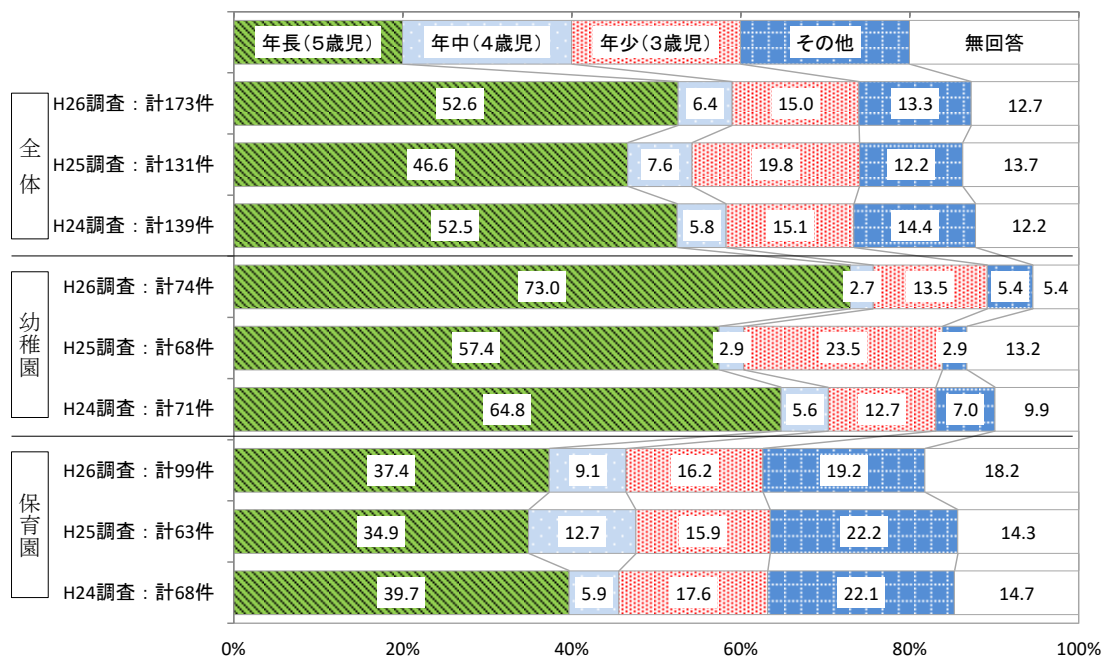
図I-31 小学校教育への接続を意識した幼児教育の実施時期



【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、全体では、「年長(5歳児)」の割合が、平成24年度から平成25年度にかけて低くなり、平成25年度から平成26年度にかけて高くなっています。

幼稚園・保育園の別にみても、同様の傾向となっています。

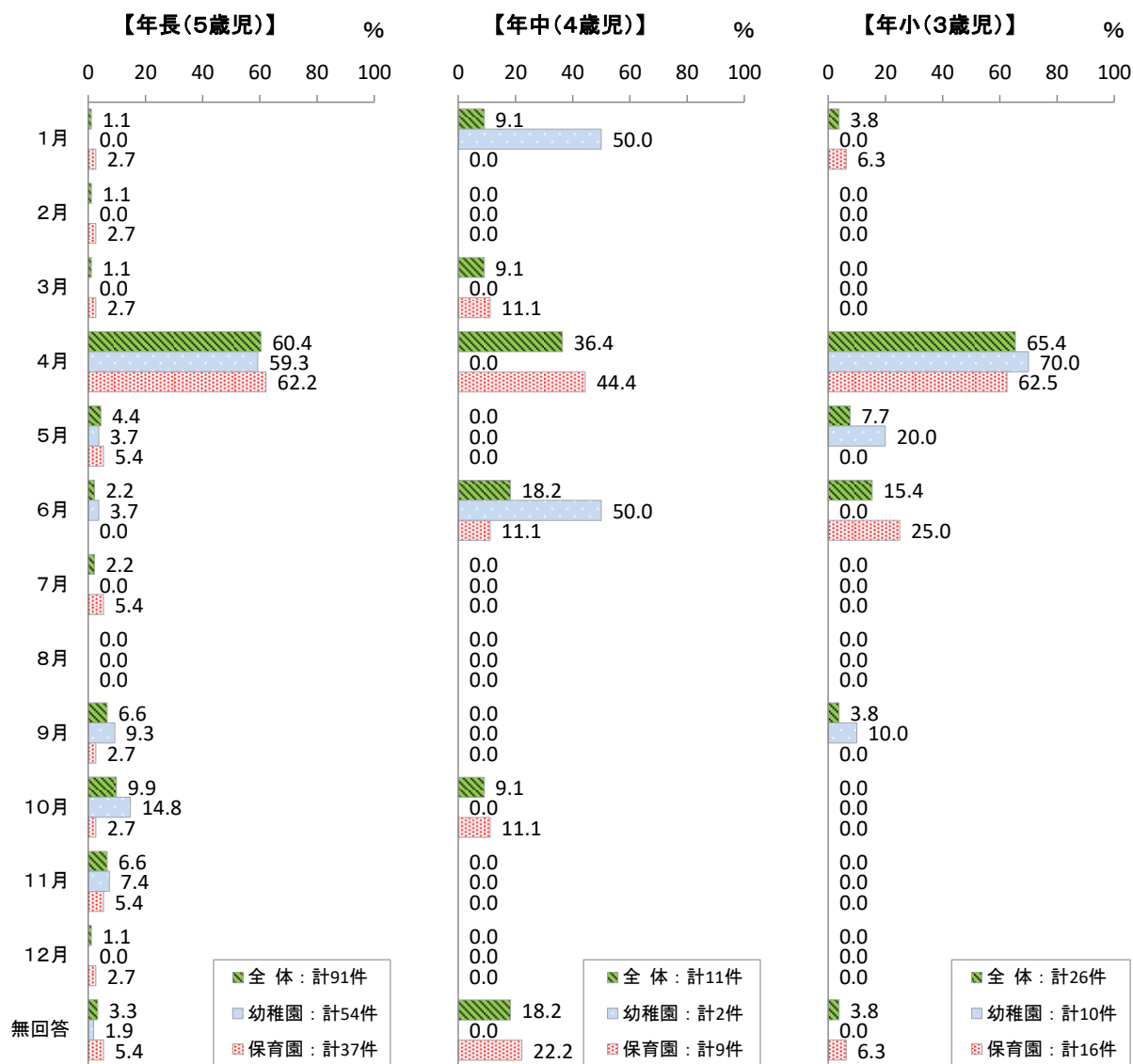
図I-32 小学校教育への接続を意識した幼児教育の実施時期
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

I 幼稚園・保育園の調査結果

【学年ごとの実施時期】

学年ごとの実施時期をみると、「年長児（5歳児）」、「年少（3歳児）」では「4月」という回答の割合が、全体、幼稚園、保育園ともに最も高くなっています。

図 I-33 小学校教育への接続を意識した幼児教育の実施時期
(学年ごとの実施時期)



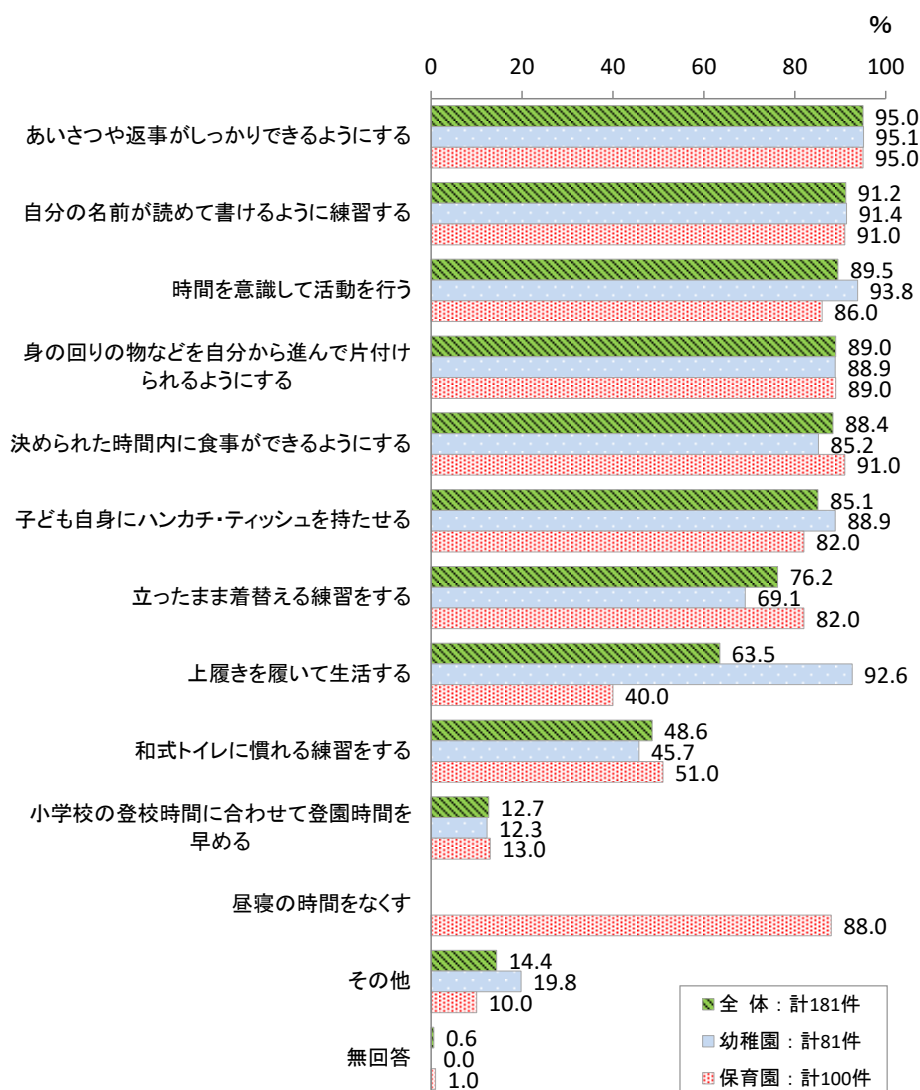
(5) 就学に向けて行っている具体的な取組

問17 あなたの園では、就学に向けた具体的な取組として、どのようなことを行っていますか。(あてはまるもの全てに○、開始時期(年長・5歳児、年中・4歳児、年少・3歳児)の何月頃から行っているかを記入)

全体では、「あいさつや返事がしっかりできるようにする」の割合が95.0%と最も高く、次いで「自分の名前が読めて書けるように練習する」の割合が91.2%、「時間を意識して活動を行う」の割合が89.5%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、「上履きを履いて生活する」の割合が高く、保育園では、「立ったまま着替える練習をする」の割合が高くなっています。

図I-34 就学に向けて行っている具体的な取組



※ 幼稚園は昼寝の時間を設定していない園が多いので、幼稚園の「昼寝の時間をなくす」は、集計から除外している。

I 幼稚園・保育園の調査結果

【開始時期】

それぞれの取組の開始時期は以下のとおりです。なお、「年少（3歳児）」、「年中（4歳児）」、「年長（5歳児）」以外の回答データは省略しているため、各項目の件数の合計が、図I-34及び図I-35における件数より少なくなる場合があります。

表I-4 就学に向けて行っている具体的な取組（開始時期）
【年少（3歳児）】

単位:件

年少（3歳児）	小学校の登校時間を早める			昼寝の時間をなくす			子ども自身にハンカチ・ティッシュを持たせる			上履きを履いて生活する			立ったまま着替える練習をする			和式トイレに慣れる練習をする			自分の名前が読めるように練習する			決められた時間内に食事ができるようにする			あいさつや返事がしかりできるようにする			時間を意識して活動を行う			自分の回りの物などをけられるように片付け		
	全	幼	保	全	幼	保	全	幼	保	全	幼	保	全	幼	保	全	幼	保	全	幼	保	全	幼	保	全	幼	保	全	幼	保	全	幼	保
4月	3	-	3	4	-	4	69	61	8	76	67	9	27	14	13	19	14	5	2	2	-	48	22	26	50	31	19	18	5	13	36	17	19
5月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	1	1	-	3	3	-	1	1	-	1	1	-	1	1	-
6月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	3	1	2	-	-	-	1	-	1
7月	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4	-	1	1	-	-	-	-	7	7	-	-	-	-	11	11	-	2	2	-
10月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4	-	1	1	-	1	-	1	1	-	1	1	-	-	-	-	-
2月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	3	-	3	-	-	-	1	1	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	3	3	-	4	3	1	7	1	6	2	-	2	3	3	-	3	1	2	6	2	4	3	2	1	4	2	2
合計	3	-	3	5	-	5	72	64	8	80	70	10	46	21	25	29	21	8	7	7	-	67	35	32	64	35	29	34	20	14	45	23	22

表I-5 就学に向けて行っている具体的な取組（開始時期）
【年中（4歳児）】

単位:件

年中（4歳児）	小学校の登校時間に 合わせて登園時間を 早める			昼寝の時間をなくす			子ども自身にハンカ チ・ティッシュを持 たせる			上履きを履いて生活 する			立ったまま着替える 練習をする			和式トイレに慣れる 練習をする			自分の名前が読めて 書けるように練習す る			決められた時間内に 食事ができるように する			あいさつや返事が しっかりとできるよ うにする			時間を意識して活動 を行う			身の回りの物など を自分から進んで片 付けられるようにす る		
	全 体	幼 稚 園	保 育 園	全 体	幼 稚 園	保 育 園	全 体	幼 稚 園	保 育 園	全 体	幼 稚 園	保 育 園	全 体	幼 稚 園	保 育 園	全 体	幼 稚 園	保 育 園	全 体	幼 稚 園	保 育 園	全 体	幼 稚 園	保 育 園	全 体	幼 稚 園	保 育 園	全 体	幼 稚 園	保 育 園			
4月	-	-	-	-	-	-	2	1	1	1	1	-	30	5	25	16	5	11	9	3	6	13	7	6	20	1	19	22	9	13	15	3	12
5月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	1	4	2	1	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	2	1	1	-	-	-
6月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	4	2	2	-	-	-	2	-	2	2	1	1
7月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	6	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
8月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	6	1	1	-	1	1	-	4	3	1	1	1	-	3	2	1	-	-	-	-
10月	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	4	-	4	2	1	1	3	3	-	-	-	-	-	-	2	1	1	-
11月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-
1月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	2	14	12	2	4	-	4	-	-	3	3	-	4	-	4	-
2月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	3	-	3	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	-	1	1	-	1	3	-	3	-	-	1	-	1	-	-	-	-
無回答	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	2	1	-	1	1	1	-	6	-	6	-	-	-	2	-	2	1	-	1
合計	1	-	1	-	-	-	3	1	2	1	1	-	46	13	33	38	14	24	32	19	13	42	15	27	21	2	19	36	15	21	25	5	20

表 I-6 就学に向けて行っている具体的な取組（開始時期）
【年長（5歳児）】

単位:件

年長（5歳児）	小学校の登校時間を早める			昼寝の時間をなくす			子ども自身にハンカチ・ティッシュを持たせる			上履きを履いて生活する			立ったまま着替える練習をする			和式トイレに慣れる練習をする			自分の名前が読めるように練習する			決められた時間内に食事ができるようにする			あいさつや返事がしっかりとできるようにする			時間を意識して活動を行う			自分の回りの物などから進んで片付けをする		
	全 体	幼 稚 園	保 育 園	全 体	幼 稚 園	保 育 園	全 体	幼 稚 園	保 育 園	全 体	幼 稚 園	保 育 園	全 体	幼 稚 園	保 育 園	全 体	幼 稚 園	保 育 園	全 体	幼 稚 園	保 育 園	全 体	幼 稚 園	保 育 園	全 体	幼 稚 園	保 育 園	全 体	幼 稚 園	保 育 園	全 体	幼 稚 園	保 育 園
4月	8	3	5	2	-	2	5	1	4	1	-	1	26	13	13	12	2	10	49	33	16	22	6	16	64	35	29	62	26	36	68	35	33
5月	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	1	-	-	-	4	4	-	3	1	2	1	1	-	6	3	3	2	2	-
6月	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	3	1	2	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	5	3	2	2	1	1
7月	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	2	-	2	2	-	2	-	-	-	1	-	1	2	-	2
8月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9月	5	5	-	2	-	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4	-	9	7	2	2	-	2	6	3	3	2	-	2
10月	-	-	-	2	-	2	6	1	5	-	-	-	6	6	-	-	-	-	2	-	2	1	-	1	1	-	1	-	-	-	1	-	1
11月	-	-	-	4	-	4	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
12月	-	-	-	4	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
1月	1	1	-	26	-	26	29	-	29	7	-	7	-	-	-	2	-	2	22	1	21	1	-	1	1	-	1	1	-	1	-	-	-
2月	-	-	-	20	-	20	10	-	10	5	-	5	-	-	-	-	-	-	17	-	17	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3月	-	-	-	19	-	19	18	-	18	14	-	14	1	-	1	2	-	2	4	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	1	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
無回答	-	-	-	1	-	1	1	-	1	1	-	1	1	-	1	4	-	4	9	1	8	4	1	3	4	-	4	3	-	3	2	-	2
合計	16	10	6	82	-	82	76	4	72	28	-	28	41	21	20	20	2	18	121	44	77	45	16	29	74	36	38	84	35	49	81	38	43

※ 幼稚園は昼寝の時間を設定していない園が多いので、幼稚園の「昼寝の時間をなくす」は、集計から除外している。

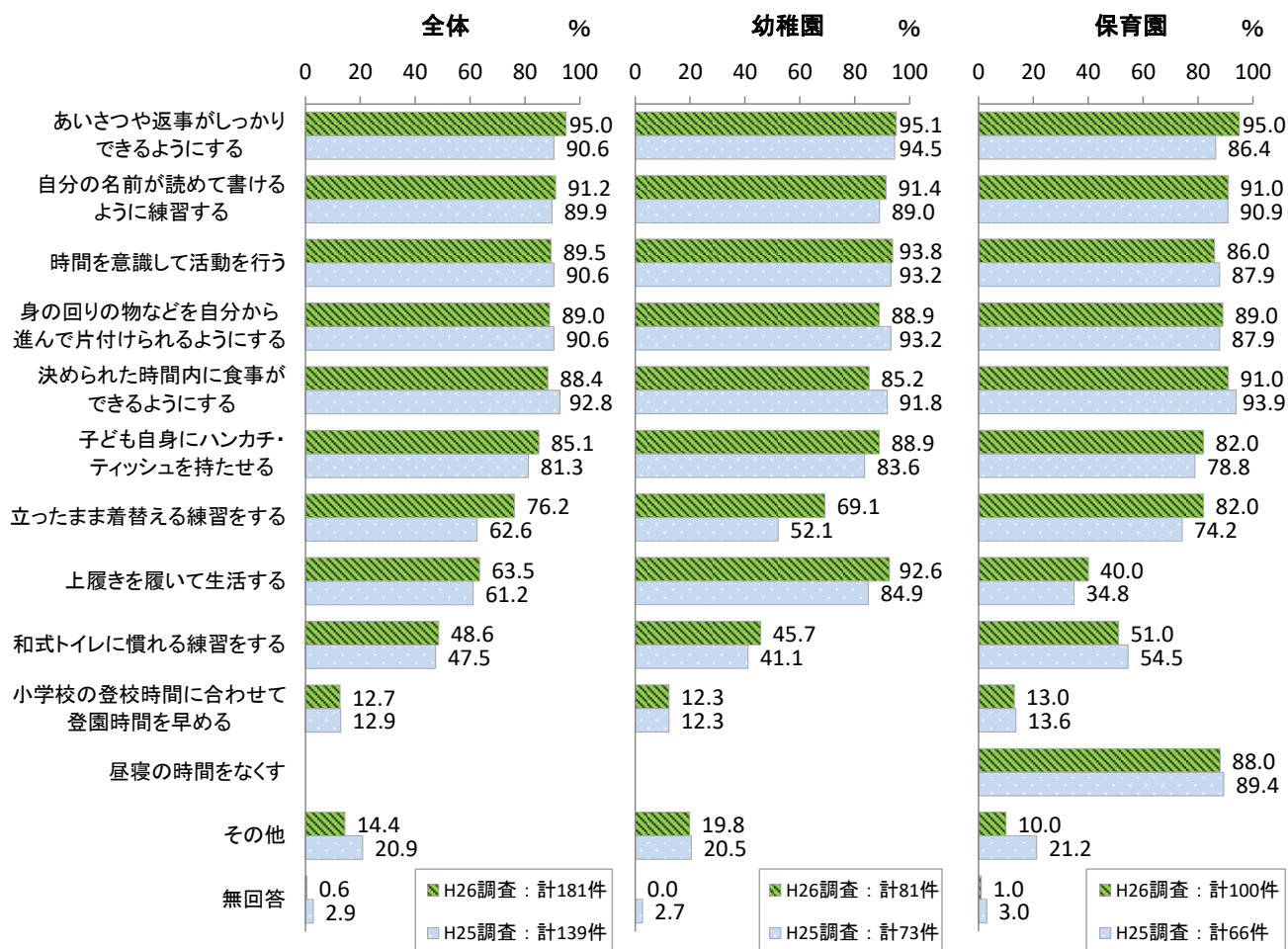
I 幼稚園・保育園の調査結果

【平成26年度・平成25年度の調査結果の比較】

平成25年度調査と比較すると、全体では、「立ったまま着替える練習をする」という回答の割合が高くなっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園、保育園ともに、「立ったまま着替える練習をする」、「上履きを履いて生活する」の割合が増加しています。

図 I-35 就学に向けて行っている具体的な取組
(平成26年度・平成25年度の調査結果の比較)



※ 幼稚園は昼寝の時間を設定していない園が多いので、幼稚園の「昼寝の時間をなくす」は、集計から除外している。

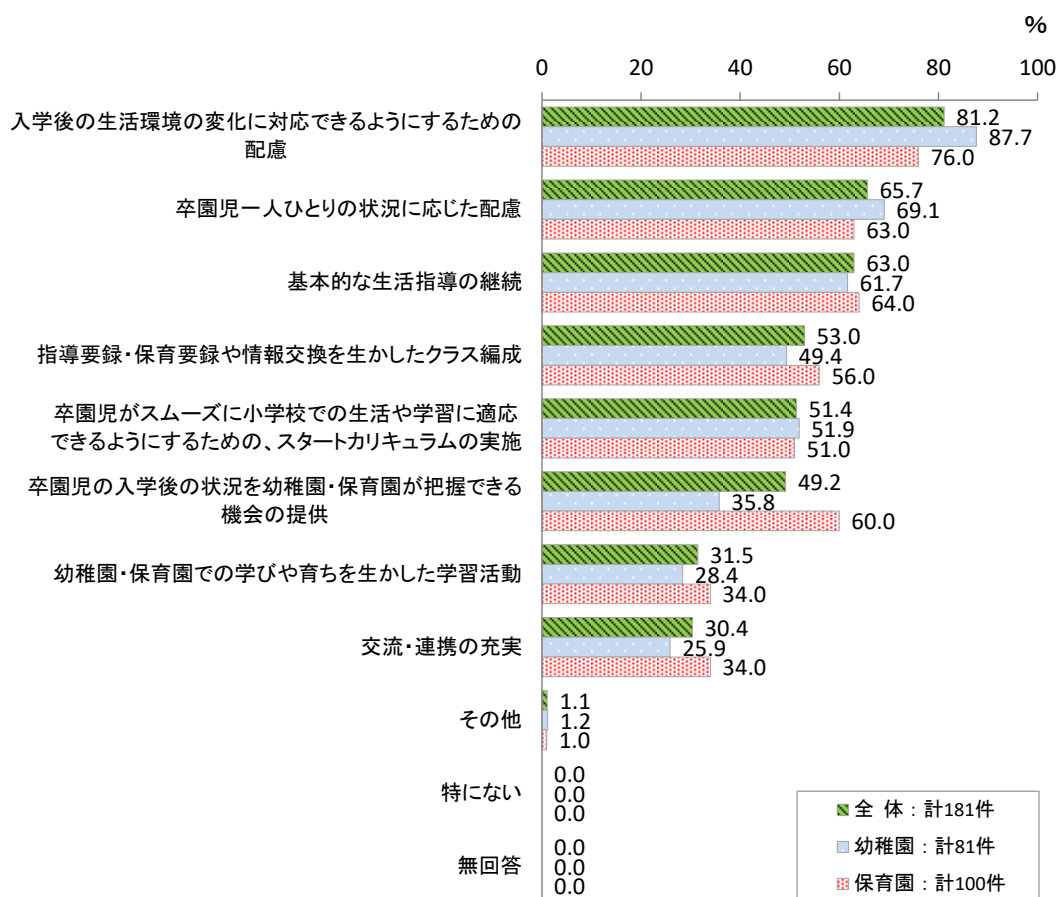
(6) 小学校に対して期待すること

問18 卒園児が就学する小学校に対して、どのようなことを期待しますか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、「入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮」の割合が81.2%と最も多く、次いで「卒園児一人ひとりの状況に応じた配慮」の割合が65.7%、「基本的な生活指導の継続」の割合が63.0%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、「入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮」、「卒園児一人ひとりの状況に応じた配慮」の割合が高く、保育園では、「指導要録・保育要録や情報交換を生かしたクラス編成」、「卒園児の入学後の状況を幼稚園・保育園が把握できる機会の提供」の割合が高くなっています。

図I-36 小学校に対して期待すること



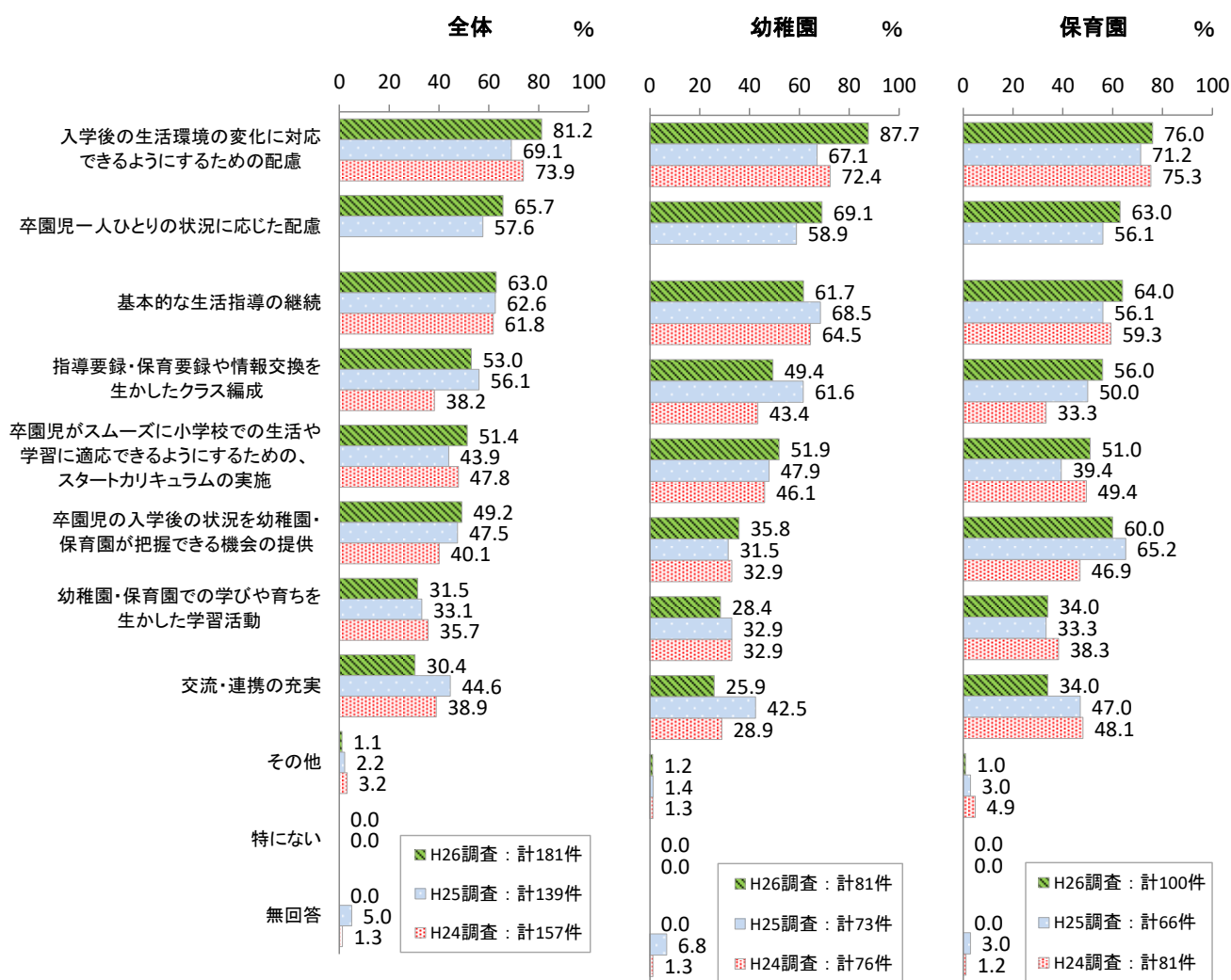
I 幼稚園・保育園の調査結果

【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、全体では、「卒園児の入学後の状況を幼稚園・保育園が把握できる機会の提供」の割合が増加傾向となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、「卒園児がスムーズに小学校での生活や学習に適応できるようにするための、スタートカリキュラムの実施」の割合が増加傾向となっています。保育園では、「指導要録・保育要録や情報交換を生かしたクラス編成」の割合が増加傾向となっています。

図 I-37 小学校に対して期待すること
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は「卒園児一人ひとりの状況に応じた配慮」、「特にない」の項目なし。

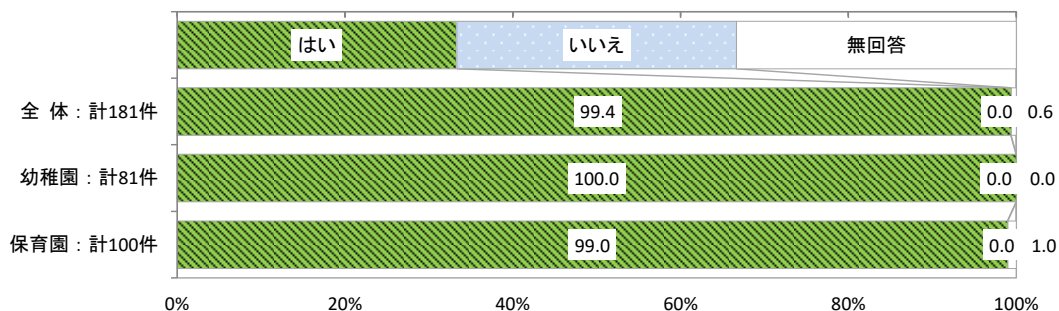
4 家庭教育への支援について

(1) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性について

問19 子どもたちの育ちを支えるために、家庭との連携や、家庭教育を支援する必要性を感じますか。(○は1つだけ)

全体では、「はい」の割合が99.4%となっています。幼稚園・保育園の別にみても、幼稚園、保育園ともに同様の傾向となっています。

図I-38 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性について



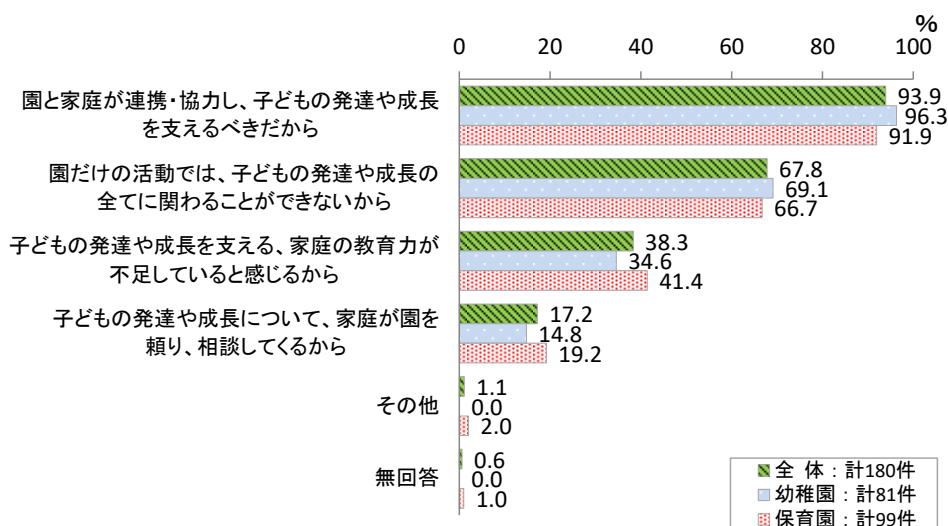
(2) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性を感じる理由

問20 【問19で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】家庭との連携や家庭教育を支援する必要性を感じる理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、「園と家庭が連携・協力し、子どもの発達や成長を支えるべきだから」の割合が93.9%と最も多く、次いで「園だけの活動では、子どもの発達や成長の全てに関わることができないから」の割合が67.8%、「子どもの発達や成長を支える、家庭の教育力が不足していると感じるから」の割合が38.3%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、「園と家庭が連携・協力し、子どもの発達や成長を支えるべきだから」の割合が高く、保育園では、「子どもの発達や成長を支える、家庭の教育力が不足していると感じるから」という回答の割合が高くなっています。

図I-39 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性を感じる理由



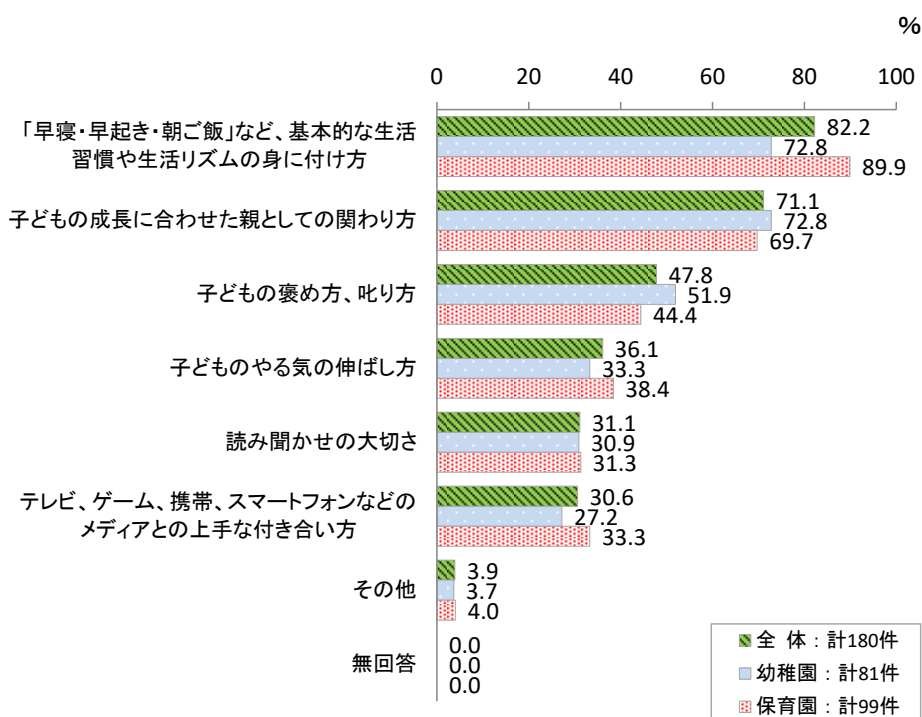
(3) 家庭教育への支援で行いたい具体的な取組

問21 【問19で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】家庭教育への支援を行う場合、具体的に、特に、どのような内容について、保護者に対し支援を行いたいですか。(○は3つまで)

全体では、『早寝・早起き・朝ご飯』など、基本的な生活習慣や生活リズムの身に付け方」の割合が82.2%と最も高く、次いで「子どもの成長に合わせた親としての関わり方」の割合が71.1%、「子どもの褒め方、叱り方」の割合が47.8%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、「子どもの褒め方、叱り方」の割合が高く、保育園では、『早寝・早起き・朝ご飯』など、基本的な生活習慣や生活リズムの身に付け方」の割合が高くなっています。

図 I-40 家庭教育への支援で行いたい具体的な取組



※ 問21については、3つより多い回答が多数のため、複数回答として集計した。

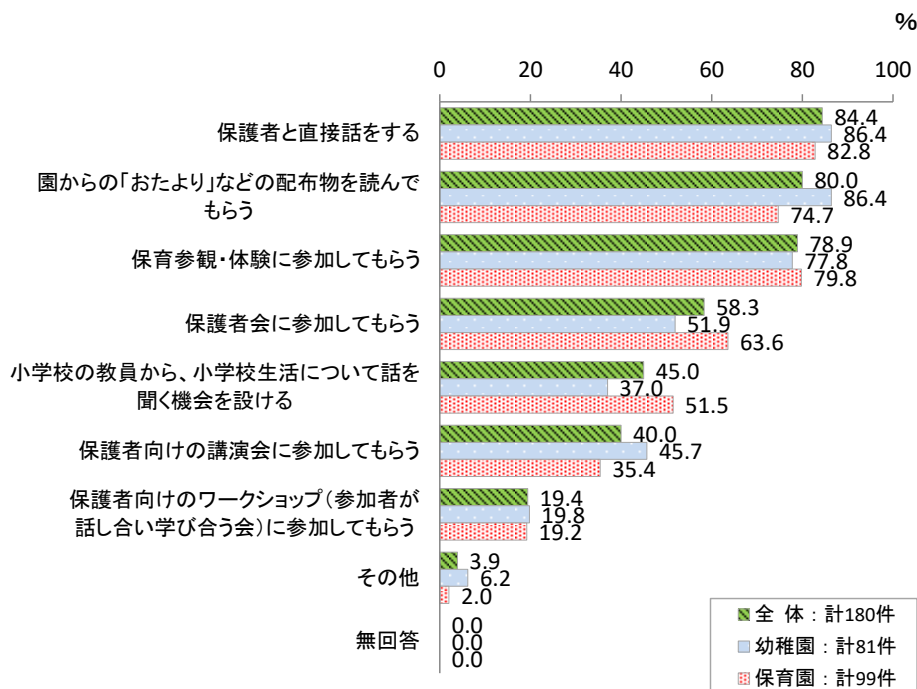
(4) 家庭との連携・家庭教育への支援のために有効な機会・方法

問22 【問19で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】家庭との連携や家庭教育を支援するために有効だと考える機会や方法などは、何ですか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、「保護者と直接話をする」の割合が84.4%と最も高く、次いで「園からの「おたより」などの配布物を読んでもらう」の割合が80.0%、「保育参観・体験に参加してもらう」の割合が78.9%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、「園からの「おたより」などの配布物を読んでもらう」、「保護者向けの講演会に参加してもらう」の割合が高く、保育園では、「保護者会に参加してもらう」、「小学校の教員から、小学校生活について話を聞く機会を設ける」の割合が高くなっています。

図I-41 家庭との連携・家庭教育への支援のために有効な機会・方法



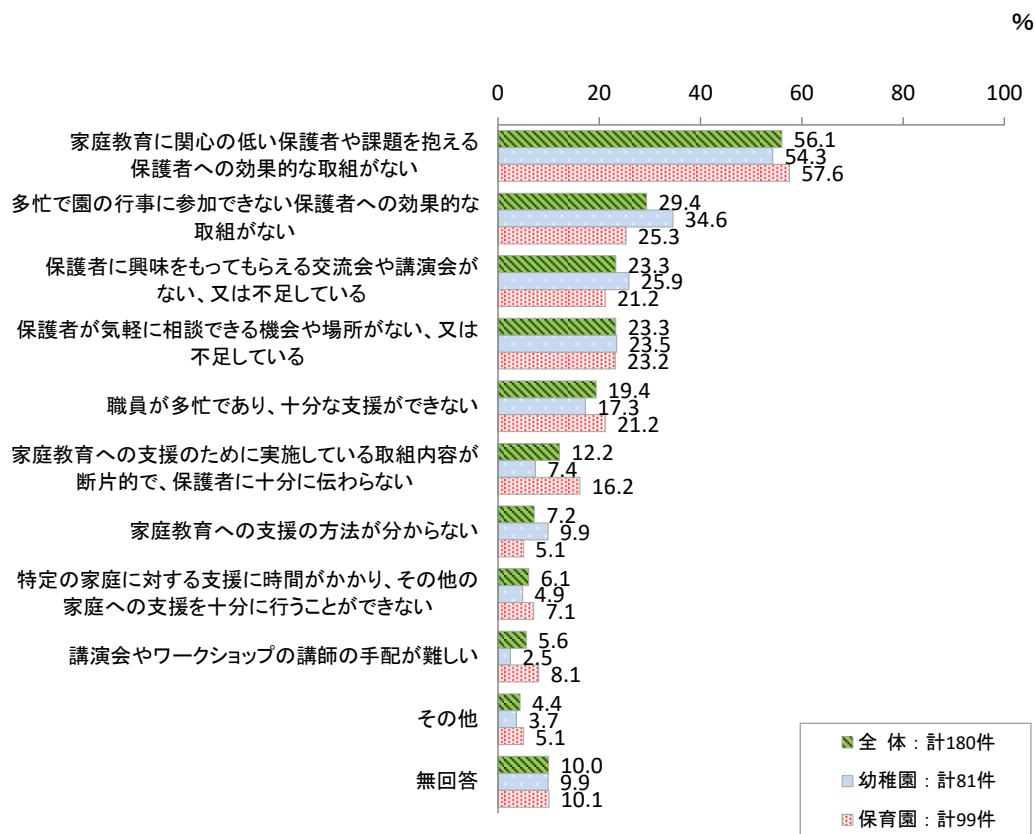
(5) 家庭との連携・家庭教育への支援での課題

問23 【問19で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】家庭との連携や家庭教育への支援を行う上での課題は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、「家庭教育に関心の低い保護者や課題を抱える保護者への効果的な取組がない」の割合が56.1%と最も高く、次いで「多忙で園の行事に参加できない保護者への効果的な取組がない」の割合が29.4%、「保護者に興味をもってもらえる交流会や講演会がない、又は不足している」の割合が23.3%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、「多忙で園の行事に参加できない保護者への効果的な取組がない」の割合が高く、保育園では、「家庭教育への支援のために実施している取組内容が断片的で、保護者に十分に伝わらない」の割合が高くなっています。

図 I-4 2 家庭との連携・家庭教育への支援での課題



5 自由記述

最後に、あなたの園や地域での交流・連携の取組状況、子ども教育の連携推進事業、草加市の教育についてご意見などがあれば、自由にご記入ください。

対象となる回収数181件中46件に記述がありました（1件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は46件より多くなっています。）。

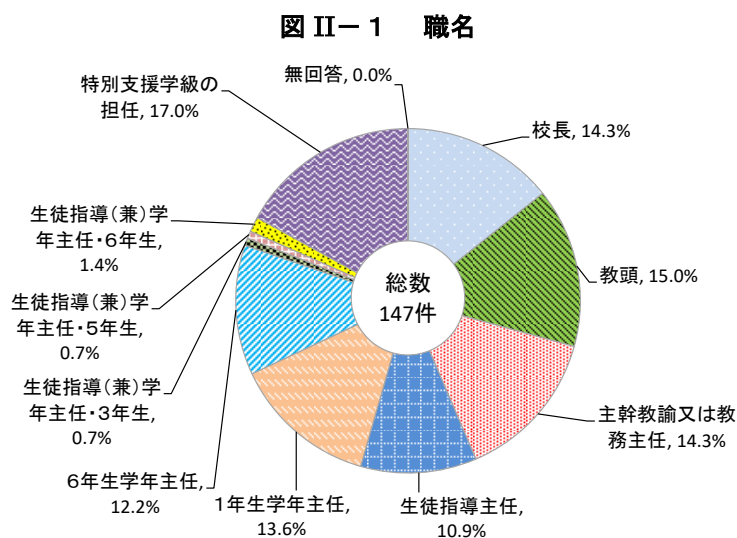
項目	件数
園・校間の連携に関すること	43
交流・連携を継続、充実していくことが大切	18
教員・保育士どうしの交流・連携	4
小学校の見学・体験	2
交流・連携により子供の健やかな成長を促したい	2
教員・保育士の研修の充実	1
連携・交流の日程を合わせることが大事	2
中学生の社会体験の充実	1
交流・連携できる園・校が広がるとよい	2
交流・連携できる内容が少なかった	1
交流・連携に向けて小学校と打ち合わせる時間を確保したい	2
小中学校との交流・連携に取り組むことを自園からは言いにくい	1
教員・保育士の相互入れ替え交流があるとよい	1
交流・連携で小学校との温度差がある	2
交流・連携の日程を小学校に委ねている	1
子どもたちが抱える問題に沿った交流・連携が必要	1
小学校側から積極的な交流・連携の呼びかけがほしい	1
運動会や発表会などで交流・連携の機会があるとよい	1
地域との交流・連携が大切	1
家庭との交流・連携の推進	5
学童保育へ入室する前に見学・体験ができるとよい	1
講演会を開いてほしい	1
その他	4

Ⅱ 小学校の調査結果

1 基本情報

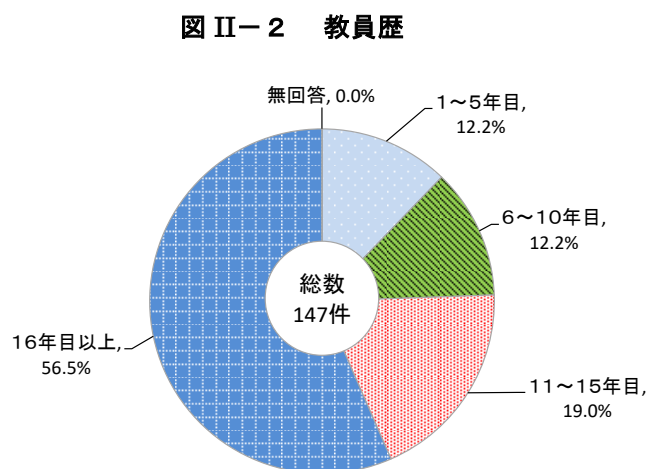
(1) 職名

回答者の職名の割合は以下のとおりです。



(2) 教員歴

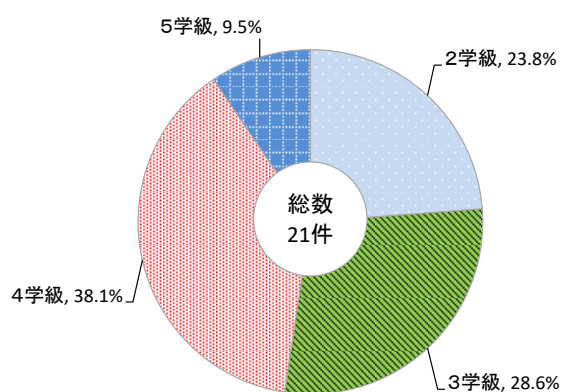
「16年目以上」の割合が56.5%と最も高く、次いで「11～15年目」の割合が19.0%、「1～5年目」と「6～10年目」の割合がそれぞれ12.2%となっています。



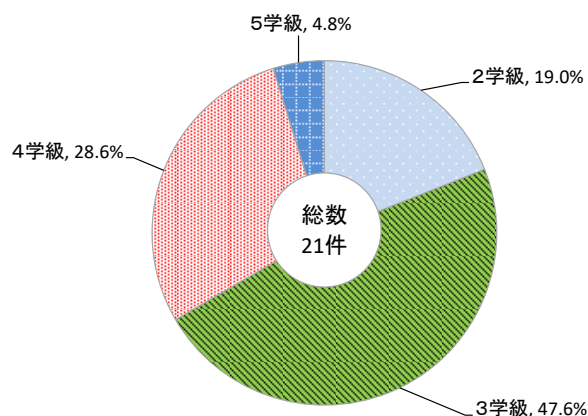
(3) 学級数

1年生の学級数は「4学級」の割合が38.1%と最も高く、次いで「3学級」の割合が28.6%、「2学級」の割合が23.8%となっています。6年生の学級数は「3学級」の割合が47.6%と最も高く、次いで「4学級」の割合が28.6%、「2学級」の割合が19.0%となっています。特別支援学級数は「2学級」の割合が61.9%と最も高く、次いで「1学級」の割合が28.6%、「0学級」と「3学級」の割合がそれぞれ4.8%となっています。

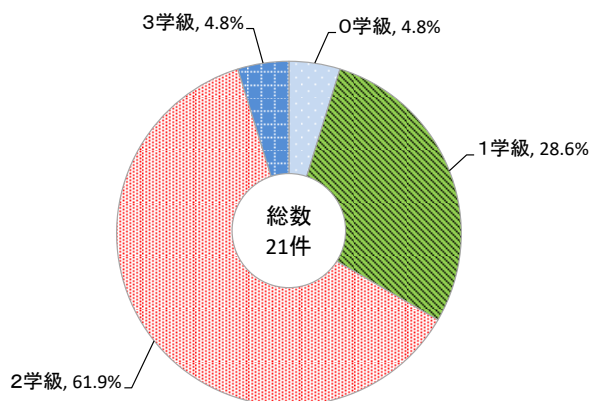
図Ⅱ－3 1年生の学級数



図Ⅱ－4 6年生の学級数



図Ⅱ－5 特別支援学級数

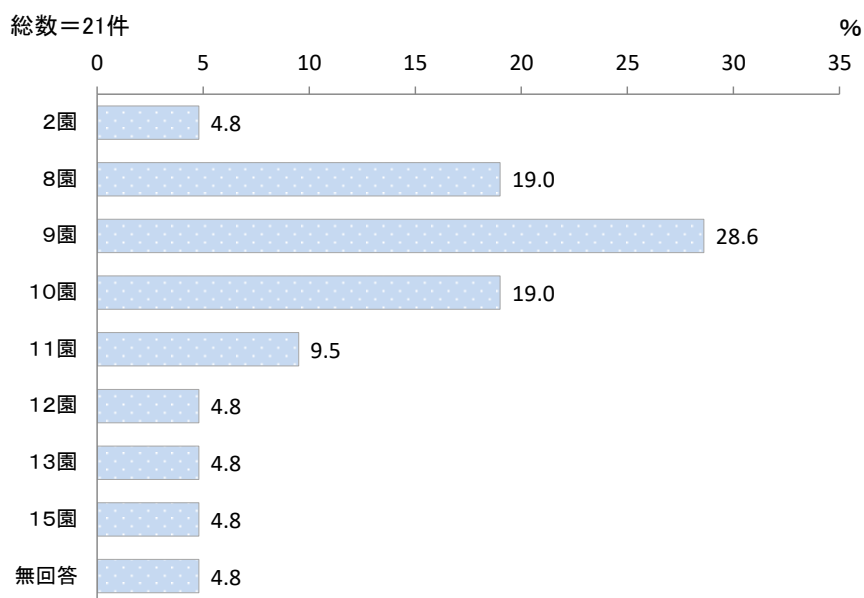


（４）入学児童の出身園数

① 幼稚園

「９園」の割合が28.6%と最も高く、次いで「８園」と「１０園」の割合がそれぞれ19.0%となっています。

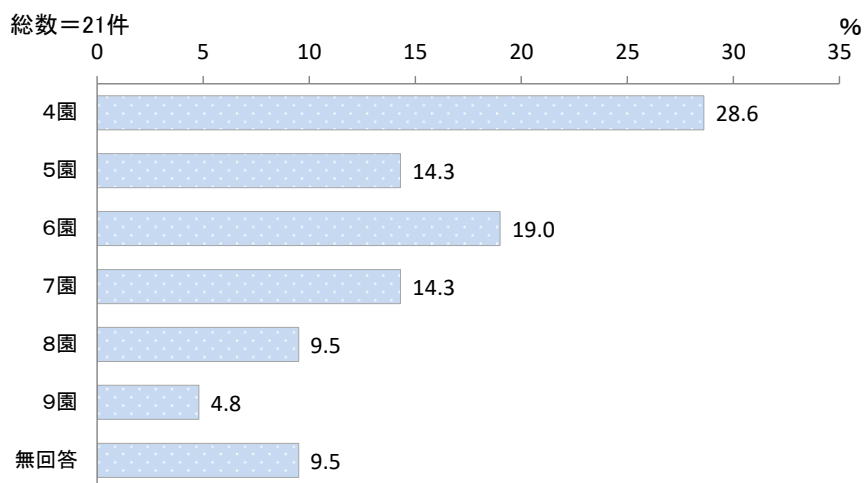
図Ⅱ－６ 入学児童の出身園数
(幼稚園)



② 保育園

「４園」の割合が28.6%と最も高く、次いで「６園」の割合が19.0%となっています。

図Ⅱ－７ 入学児童の出身園数
(保育園)



(5) 入学児童の出身園（平成26年4月入学、上位3園）

表Ⅱ-1 入学児童の出身園（平成26年4月入学、上位3園）

単位：％

小学校名	第1位		第2位		第3位	
草加小学校	ルミ幼稚園	21.8	草加氷川幼稚園	12.9	きたうら保育園	11.3
高砂小学校	草加氷川幼稚園	22.0	あずま保育園	17.0	谷塚おざわ幼稚園	12.0
新田小学校	新田幼稚園	49.0	あさひ保育園	14.0	しんぜん保育園	7.0
谷塚小学校	谷塚おざわ幼稚園	32.0	谷塚幼稚園	17.2	やつか保育園	9.8
栄小学校	草加ひまわり幼稚園	25.7	さかえ保育園	19.5	草加みどり幼稚園	16.8
川柳小学校	青徳幼稚園	47.0	あおやぎ保育園	14.0	草加ひので幼稚園	8.0
瀬崎小学校	谷塚幼稚園	40.0	せざき保育園、 市外	各12.0	-	-
西町小学校	草加氷川幼稚園	28.0	フラワー幼稚園	18.0	かおり幼稚園	13.0
新里小学校	あずま幼稚園	82.0	やなぎしま保育園	10.0	草加なかよし保育園	5.0
花栗南小学校	草加ひまわり幼稚園	35.0	ひかり幼稚園、 さかえ保育園	各8.0	-	-
八幡小学校	草加ひので幼稚園	26.0	しのは保育園	13.0	青徳幼稚園	11.0
新栄小学校	清門幼稚園	38.0	市外	28.0	しんえい保育園	21.0
清門小学校	清門幼稚園	50.0	みのべ幼稚園	30.0	新田幼稚園	10.0
稲荷小学校	いなり幼稚園	26.4	市外	18.4	市外	17.2
氷川小学校	草加氷川幼稚園	35.0	谷塚おざわ幼稚園	21.0	ひかわ保育園	16.0
八幡北小学校	青徳幼稚園	29.7	新田幼稚園	24.3	市外	12.1
長栄小学校	新田幼稚園	43.6	清門幼稚園、 みのべ幼稚園	各7.7	-	-
青柳小学校	青徳幼稚園	22.6	市外	19.4	あおやぎ保育園	17.7
小山小学校	フラワー幼稚園	28.4	こやま保育園	17.9	みのべ幼稚園	16.4
両新田小学校	あずま幼稚園	20.3	やつかかみ保育園	18.8	市外	13.0
松原小学校	草加ひまわり幼稚園	22.7	みのべ幼稚園	18.2	ひかり幼稚園	15.2

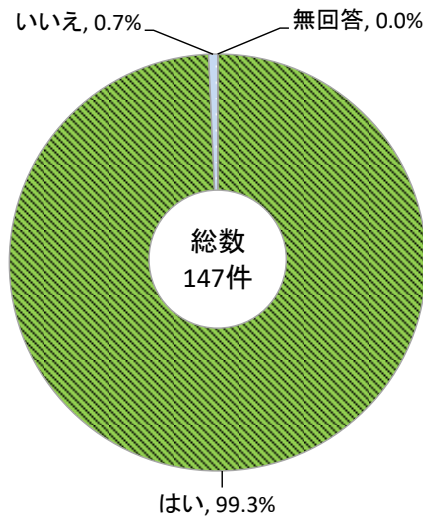
2 幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実施状況について

(1) 幼稚園・保育園・他の小学校・中学校との交流・連携の実施状況

問1 あなたの学校では、昨年度（平成25年度）に、幼稚園・保育園・他の小学校・中学校のいずれか又はいくつかと、交流・連携を行いましたか。（○は1つだけ）

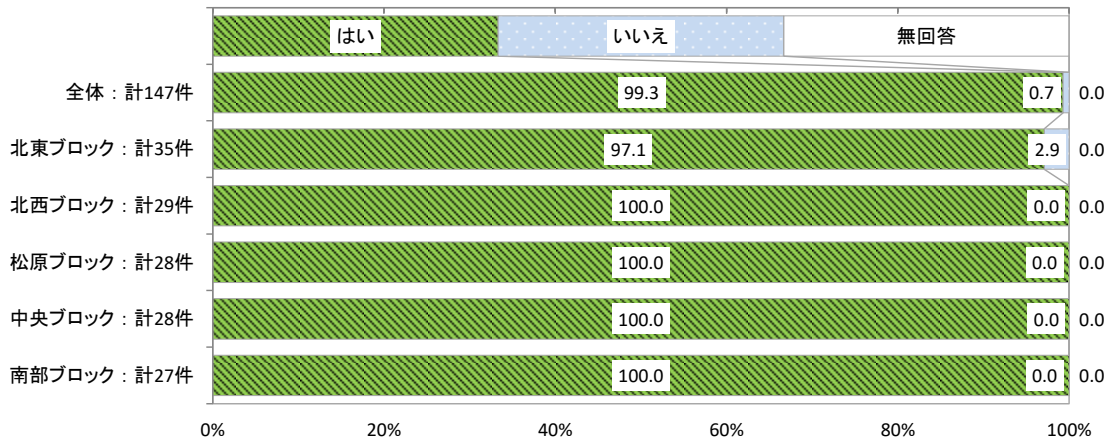
「はい」の割合が99.3%、「いいえ」の割合が0.7%となっています。

図 II-8 幼稚園・保育園・他の小学校・中学校との交流・連携の実施状況



地域別の交流・連携の実施状況は以下のとおりです。

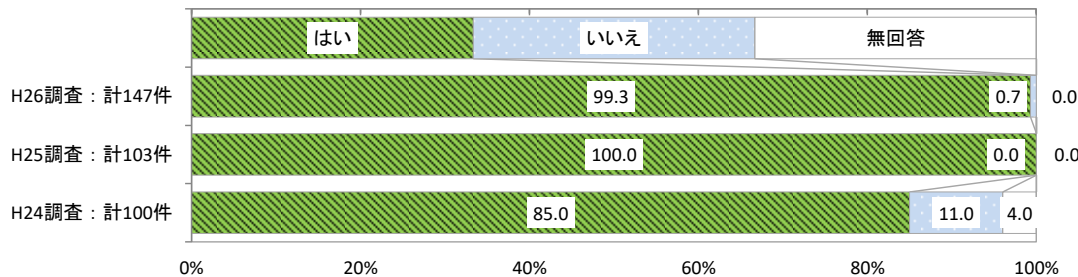
図 II-9 幼稚園・保育園・他の小学校・中学校との交流・連携の実施状況（地域別）



【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、交流・連携を行っているとする回答の割合は、平成24年度から平成25年度にかけて高くなり、平成25年度から平成26年度にかけては、ほぼ横ばいとなっています。

図Ⅱ-10 幼稚園・保育園・他の小学校・中学校との交流・連携の実施状況
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

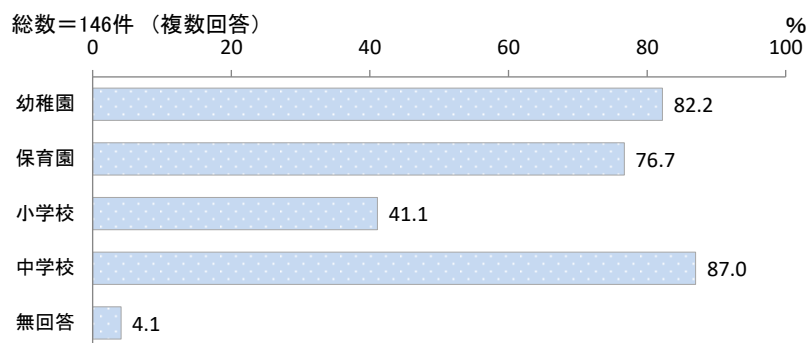


(2) 交流・連携の相手方

問2 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の相手方はどこでしたか。(あてはまるもの全てに○と相手方の数を記入)

「中学校」の割合が87.0%と最も高く、次いで「幼稚園」の割合が82.2%、「保育園」の割合が76.7%となっています。

図Ⅱ-11 交流・連携の相手方

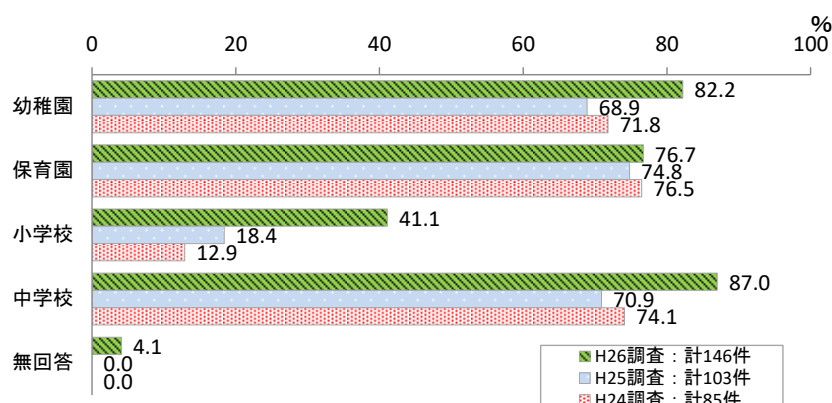


【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、すべての項目が増加傾向となっています。

「幼稚園」、「小学校」、「中学校」は、平成25年度から平成26年度にかけて、回答の割合が特に高くなっています。

図Ⅱ-12 交流・連携の相手方
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

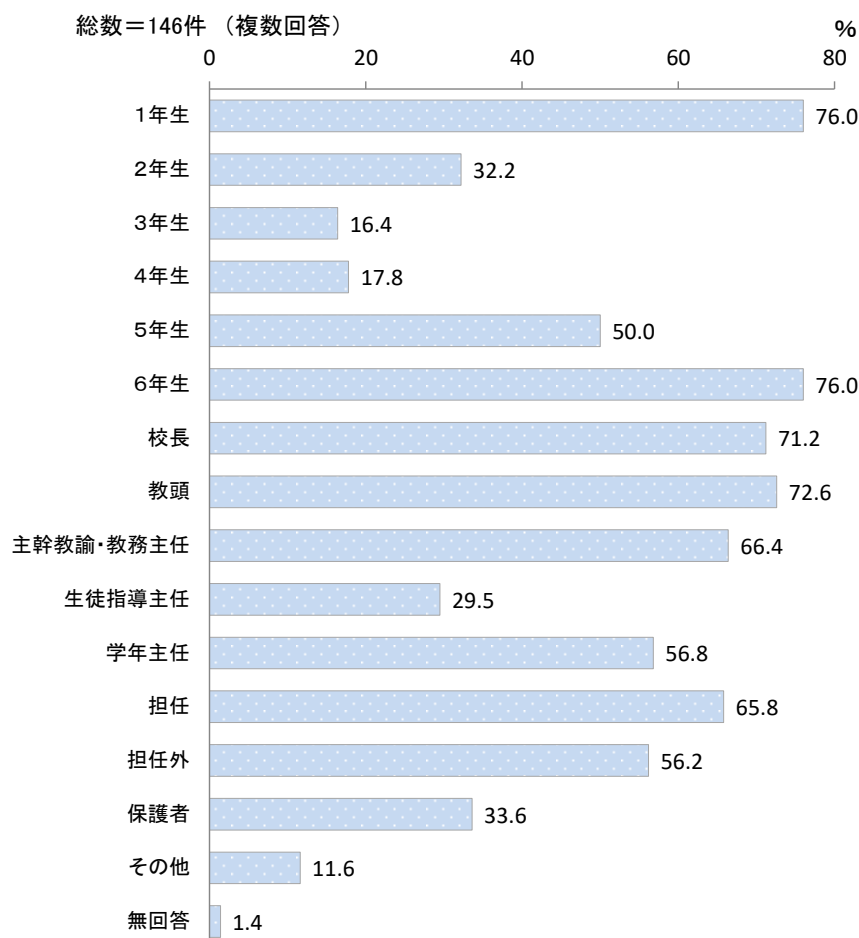


(3) 交流・連携の参加者

問3 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携に参加したのは以下のうち誰でしたか。(あてはまるもの全てに○)

児童では、「1年生」と「6年生」の割合がそれぞれ76.0%と最も高く、次いで「5年生」の割合が50.0%となっています。教職員等では、「教頭」の割合が72.6%と最も高く、次いで「校長」の割合が71.2%となっています。

図Ⅱ-13 交流・連携の参加者



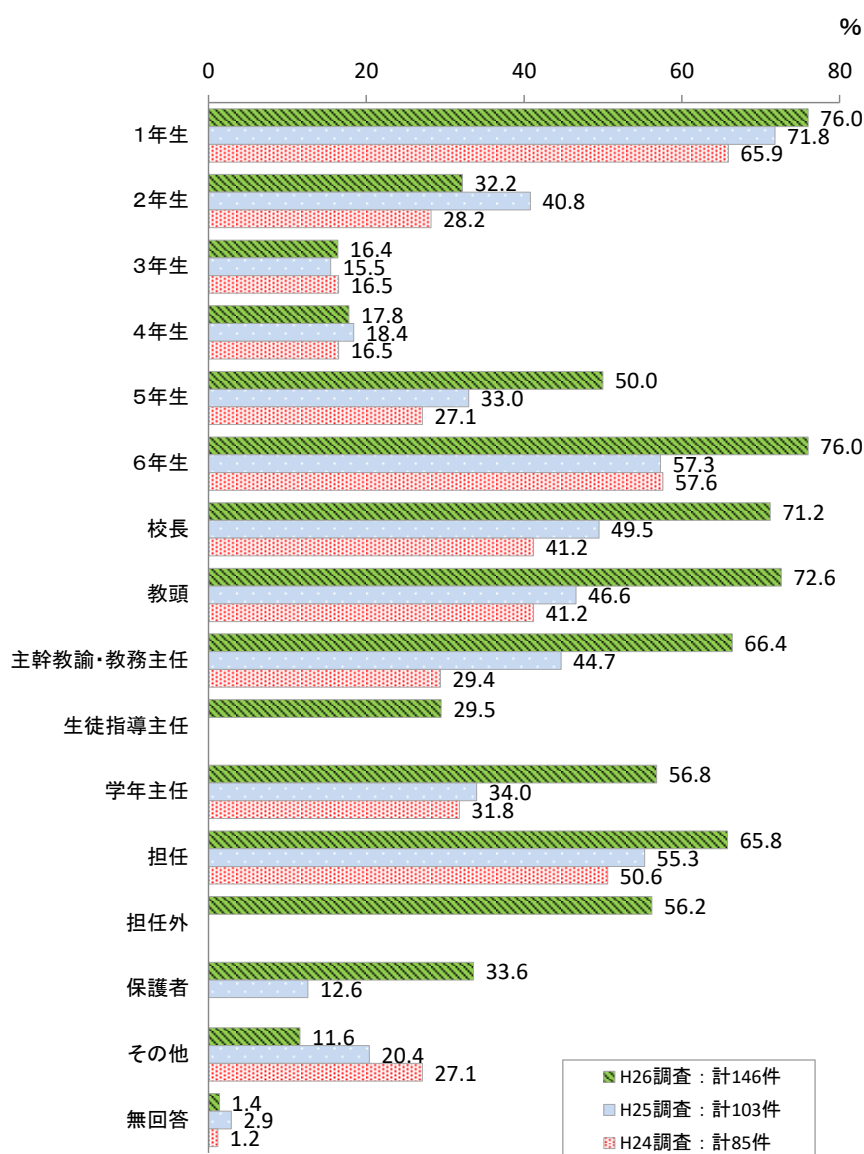
【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、児童では「1年生」、「5年生」、「6年生」の割合が増加傾向となっています。教職員では、「校長」「教頭」「主幹教諭・教務主任」、「学年主任」、「担任」の割合が増加傾向となっています。

平成25年度調査と比較すると、児童では、「5年生」、「6年生」の割合が特に高くなっています。教職員では、「校長」、「教頭」、「主幹教諭・教務主任」、「学年主任」、「担任」の割合が特に高くなっています。

また、「保護者」についても、平成25年度調査と比較して、21.0ポイント高くなっています。

図Ⅱ－14 交流・連携の参加者
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



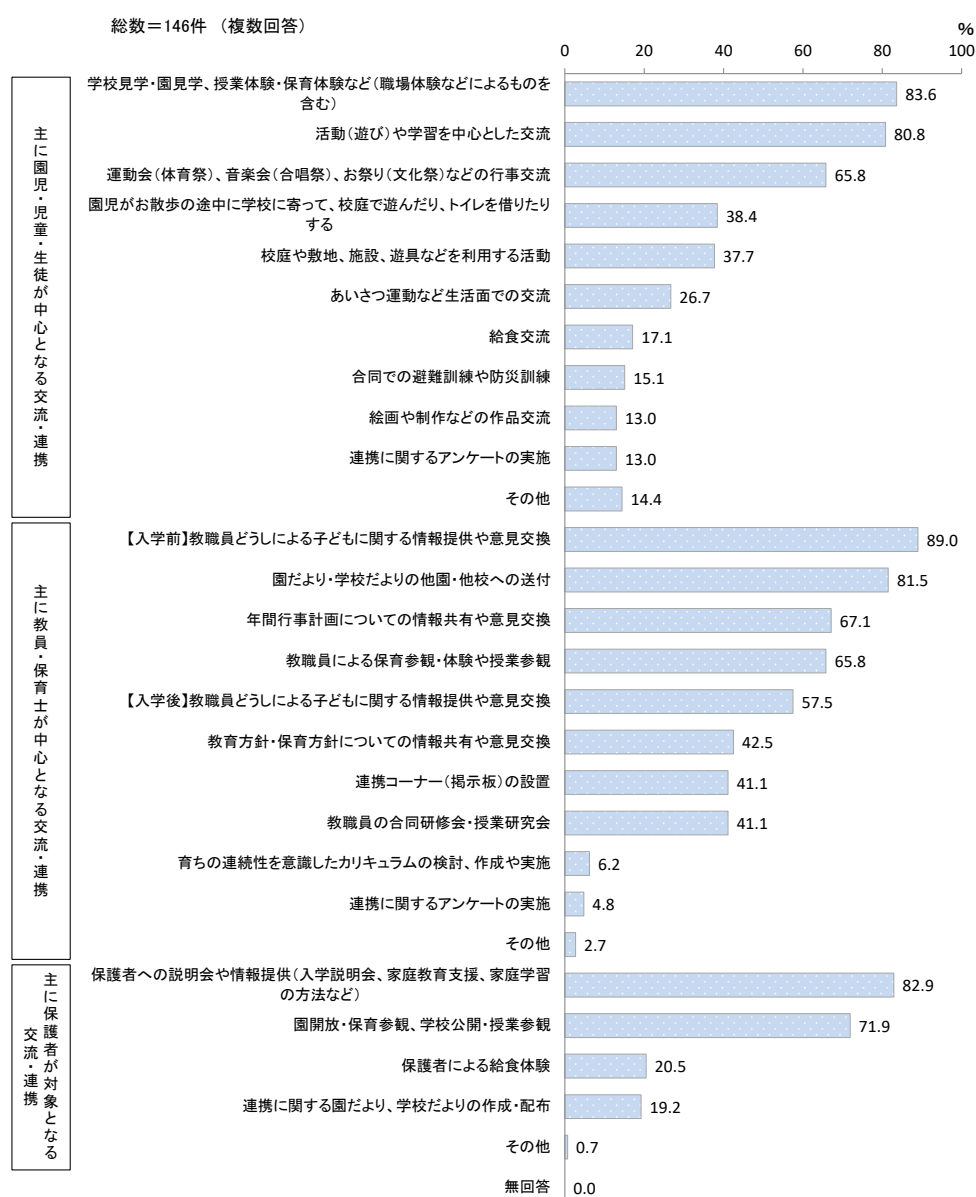
※ 平成24年度調査、平成25年度調査は「生徒指導主任」、「担任外」の項目なし。平成24年度調査は「保護者」の項目なし。「主幹教諭・教務主任」は、平成24年度調査、平成25年度調査の「教務主任」と比較している。

(4) 交流・連携の内容

問4 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の内容はどのようなものでしたか。(あてはまるもの全てに○)

「【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」の割合が89.0%と最も高く、次いで「学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）」の割合が83.6%、「保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）」の割合が82.9%となっています。

図Ⅱ-15 交流・連携の内容

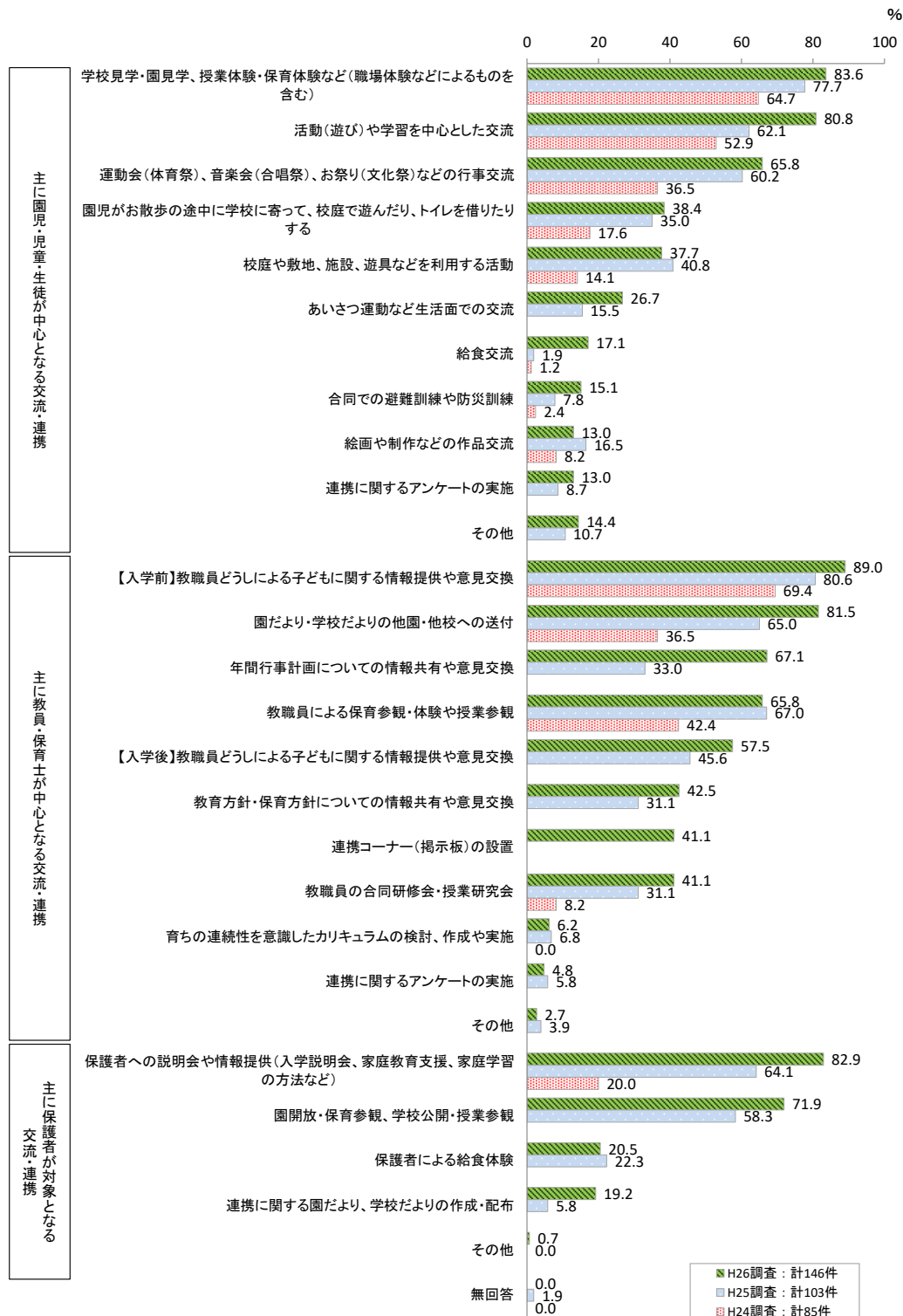


【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、平成24年度から平成26年度にかけて、増加傾向を示している項目が多くなっています。

平成25年度調査と比較すると、「活動（遊び）や学習を中心とした交流」、「給食交流」、「園だより・学校だよりの他園・他校への送付」、「年間行事計画についての情報共有や意見交換」、「保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）」の割合が、特に高くなっています。

図Ⅱ－１６ 交流・連携の内容
（平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較）



※ 平成25年度調査と比較可能な項目を比較している。平成25年度調査は「連携コーナー（掲示板）の設置」は項目なし。平成24年度調査は比較可能な項目を抜粋している。

(5) 重要な交流・連携の取組

問5 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】問4の選択肢に挙げられている交流・連携の内容のうち、特に重要な取組はどれだと思いますか。重要度が高いと考える順に、問4の選択肢番号及び重要と考える理由をご記入ください。(5つまで)

重要な交流・連携の取組については、主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携では、「活動（遊び）や学習を中心とした交流」、「学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）」、「運動会（体育祭）、音楽会（合唱祭）、お祭り（文化祭）などの行事交流」の件数多く、主に教員・保育士が中心となる交流・連携では、「【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」、「【入学後】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」、「教職員による保育参観・体験や授業参観」、の件数多く、主に保護者が対象となる交流・連携では、「保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）」、「園開放・保育参観、学校公開・授業参観」の件数多くなっています。

表Ⅱ-2 重要な交流・連携の取組

単位:件

交流・連携の内容			重要度1	重要度2	重要度3	重要度4	重要度5	合計
主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携	1	活動（遊び）や学習を中心とした交流	40	17	12	12	2	83
	2	あいさつ運動など生活面での交流	2	6	4	1	3	16
	3	運動会（体育祭）、音楽会（合唱祭）、お祭り（文化祭）などの行事交流	8	7	3	8	2	28
	4	絵画や制作などの作品交流	0	1	1	1	2	5
	5	給食交流	1	2	8	2	2	15
	6	合同での避難訓練や防災訓練	0	0	2	1	3	6
	7	学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）	17	19	13	9	5	63
	8	連携に関するアンケートの実施	1	0	0	0	2	3
	9	校庭や敷地、施設、遊具などを利用する活動	0	0	2	2	0	4
	10	園児がお散歩の途中に学校に寄って、校庭で遊んだり、トイレを借りたりする	1	1	2	1	1	6
	11	その他	0	2	0	0	1	3
主に教員・保育士が中心となる交流・連携	12	教育方針・保育方針についての情報共有や意見交換	9	4	2	5	2	22
	13	年間行事計画についての情報共有や意見交換	1	3	5	0	5	14
	14	園だより・学校だよりの他園・他校への送付	0	0	3	2	1	6
	15	連携コーナー（掲示板）の設置	0	0	0	0	1	1
	16	【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換	43	21	13	14	4	95
	17	【入学後】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換	3	19	4	2	7	35
	18	教職員による保育参観・体験や授業参観	6	5	15	6	2	34
	19	教職員の合同研修会・授業研究会	2	12	3	7	4	28
	20	連携に関するアンケートの実施	0	0	1	0	0	1
	21	育ちの連続性を意識したカリキュラムの検討、作成や実施	0	0	0	0	1	1
	22	その他	0	0	0	0	0	0
主に保護者が対象となる交流・連携	23	保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）	4	7	17	7	12	47
	24	園開放・保育参観、学校公開・授業参観	1	3	2	4	8	18
	25	保護者による給食体験	0	0	0	0	0	0
	26	連携に関する園だより、学校だよりの作成・配布	0	0	0	0	0	0
	27	その他	0	0	0	0	0	0

【重要と考える理由】

主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携、主に教員・保育士が中心となる交流・連携、主に保護者が対象となる交流・連携のそれぞれについて、合計件数が多かった上位3位の理由は以下のようになっています。

(主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携)

① 「活動（遊び）や学習を中心とした交流」（83 件）

記述があったのは 80 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 80 件より多くなっています）。

項目	件数
子どもどうしが直接交流できるから	20
入学・進学への不安を解消し、期待・希望をもたせるため	16
幼稚園・保育園と小学校、小学校と中学校が互いの様子を知ることができるから	16
交流することで学びが深められるから	10
接続がスムーズになるから	6
上級生としての自覚や意識が高まるから	4
交流を通して体験的な学習ができるから	4
特別支援学級の子どもも交流の機会をもてるから	3
自然な交流・連携ができるから	3
園児にも児童にもメリットがあるから	2
「小1プロブレム」・「中1ギャップ」の解消のため	2
その他	7

② 「学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）」（63 件）

記述があったのは 60 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 60 件より多くなっています）。

項目	件数
施設や生活、実際の活動の様子がわかるから	24
入学・進学への不安を解消し、期待・希望をもたせるため	17
「小1プロブレム」・「中1ギャップ」の解消のため	4
接続がスムーズになるから	4
児童・生徒が自らの成長を見つめられるから	4
就学してくる園児の実態がわかるから	3
学校への興味・関心が促進されるから	2
活動や取組の内容を知ってほしいから	2
互いに実態を理解できるから	2
その他	2

Ⅱ 小学校の調査結果

③ 「運動会（体育祭）、音楽会（合唱祭）、お祭り（文化祭）などの行事交流」（28 件）

記述があったのは 27 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 27 件より多くなっています）。

項目	件数
交流・連携に取り組みやすい	6
行事を通して学校の様子がわかるから	4
入学・進学への不安を解消し、期待・希望をもたせるため	3
子どもが楽しみにしているから	3
子どもの活躍の場を知ることができるから	2
子どもどうして広くコミュニケーションがもてるから	2
自然な交流・連携ができるから	2
その他	7

（主に教員・保育士が中心となる交流・連携）

① 「【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」（95 件）

記述があったのは 92 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 92 件より多くなっています）。

項目	件数
学級編成に生かすため	25
適切な指導ができるから	18
教職員間で情報共有ができるから	17
児童の情報を詳しく提供できるから	9
入学後の新1年生の生活をスムーズに進めるため	7
子どもの理解を深められるから	7
事前に情報を得ることで対策を講じることができるから	7
入学前の児童の実態を知ることができるから	7
児童への支援に役立たせることができるから	3
小学校での教育内容を中学校に引き継ぐことで教育効果が高まるから	2
不安なく学校生活をスタートさせるため	2
指導計画等の準備ができるから	2
その他	3

② 「【入学後】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」（35 件）

記述があったのは 34 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 34 件より多くなっています）。

項目	件数
適切な指導ができるから	13
教職員の間で情報共有ができるから	9
学級編成に生かすため	4
入学後の情報を得ることで児童への対応を講じることができるから	4
入学後の児童の実態を知ることができるから	4
児童の情報を詳しく提供できるから	3
子どもの理解を深められるから	3
その他	2

③ 「教職員による保育参観・体験や授業参観」(34 件)

記述があったのは 33 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 33 件より多くなっています）。

項目	件数
異校種の様子を知ることができる	10
互いの教育・保育について理解するため	8
幼保小中の連携・接続をスムーズにすることができるから	6
子どもの実態を把握できるから	6
発達段階に応じた指導を学べるから	3
その他	1

（主に保護者が対象となる交流・連携）

① 「保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）」(47 件)

記述があったのは 46 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 46 件より多くなっています）。

項目	件数
保護者の理解のために説明が必要だから	18
就学に対する不安の解消になるから	14
保護者と連携・協力するため	11
保護者に知っておいてほしいことを伝えられるから	8
その他	1

② 「園開放・保育参観、学校公開・授業参観」(18 件)

記述があったのは 16 件でした。

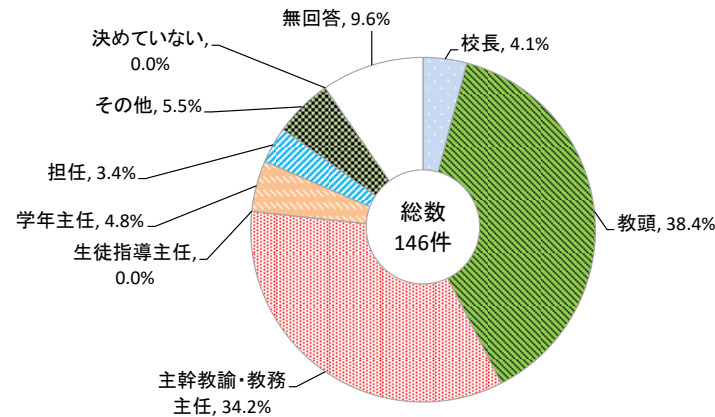
項目	件数
教育・保育の内容や子どもの様子がわかるから	7
保護者との協力・信頼関係が生まれるから	3
学校の様子を知ることが保護者の安心につながるから	2
保護者への意識付けができるから	2
その他	2

(6) 交流・連携の窓口の主な担当者

問6 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の窓口は、主にどなたが担当していますか。(○は1つだけ)

「教頭」の割合が38.4%と最も高く、次いで「主幹教諭・教務主任」の割合が34.2%、「学年主任」の割合が4.8%となっています。

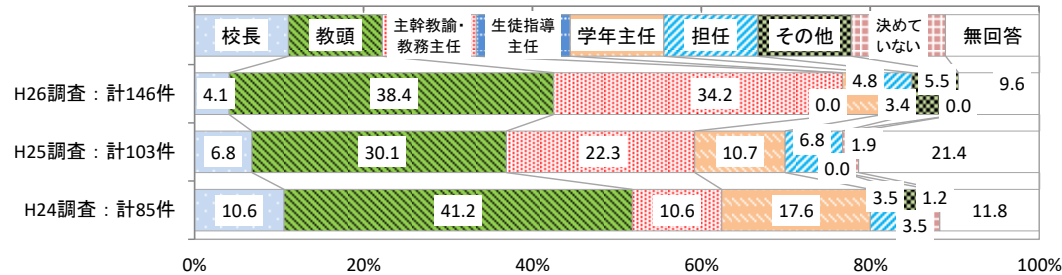
図 II-17 交流・連携の窓口の主な担当者



【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、「校長」の割合は、減少傾向となっており、「主幹教諭・教務主任」の割合は、増加傾向となっています。また、「教頭」の割合は、平成24年度から平成25年度にかけて低くなり、平成25年度から平成26年度にかけて高くなっています。

図 II-18 交流・連携の窓口の主な担当者
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



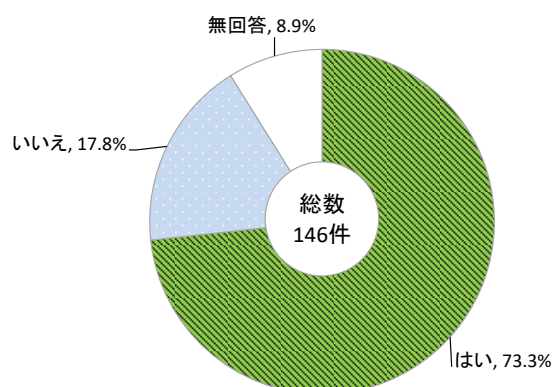
※ 平成24年度調査、平成25年度調査は「生徒指導主任」の項目なし。「主幹教諭・教務主任」は、平成24年度調査、平成25年度調査の「教務主任・主任」と比較している。

（７）交流・連携の窓口の担当者の固定化

問７ 【問１で１の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の窓口の担当者は、固定して（校内で決まって）いますか。（○は１つだけ）

「はい」の割合が 73.3%、「いいえ」の割合が 17.8%となっています。

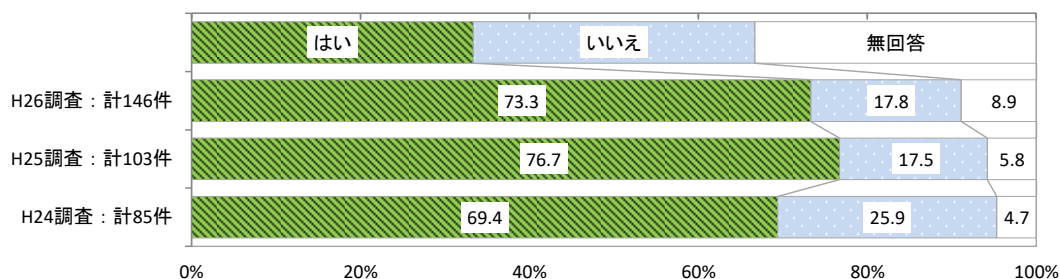
図Ⅱ－１９ 交流・連携の窓口の担当者の固定化



【平成２６年度・平成２５年度・平成２４年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、「はい」の割合は、平成２４年度から平成２５年度にかけてやや高くなり、平成２５年度から平成２６年度にかけて、ほぼ横ばいとなっています。

図Ⅱ－２０ 交流・連携の窓口の担当者の固定化
(平成２６年度・平成２５年度・平成２４年度の調査結果の比較)

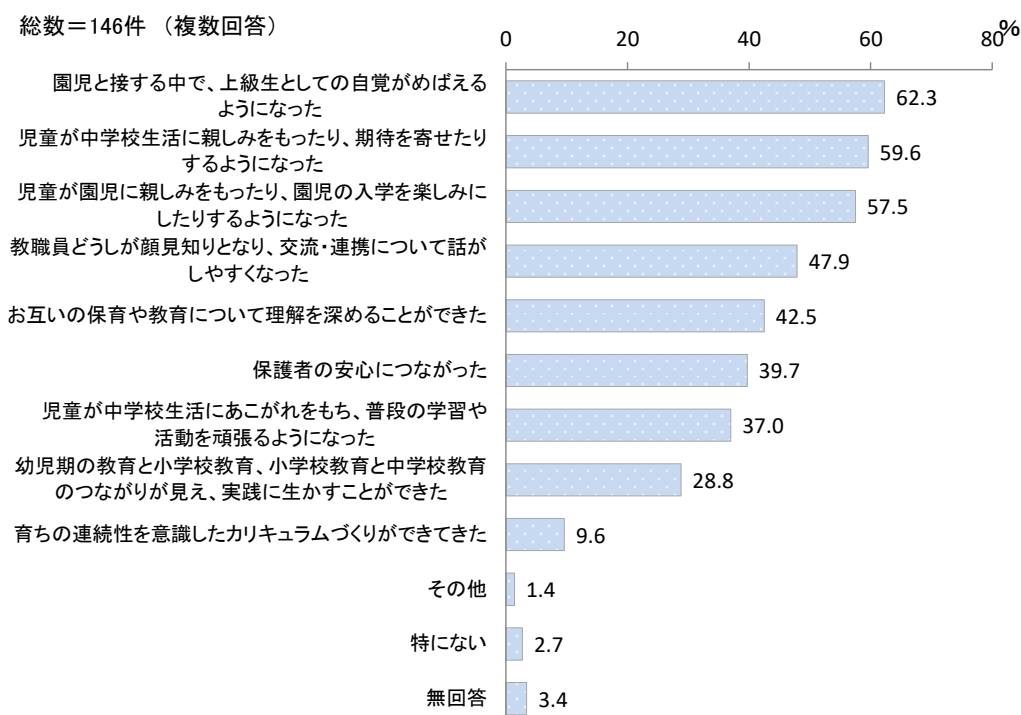


（８）交流・連携を行って良かった点

問８ 【問１で１の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携を行って良かった点は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

「園児と接する中で、上級生としての自覚がめばえるようになった」の割合が 62.3%と最も高く、次いで「児童が中学校生活に親しみをもったり、期待を寄せたりするようになった」の割合が 59.6%、「児童が園児に親しみをもったり、園児の入学を楽しみにしたりするようになった」の割合が 57.5%となっています。

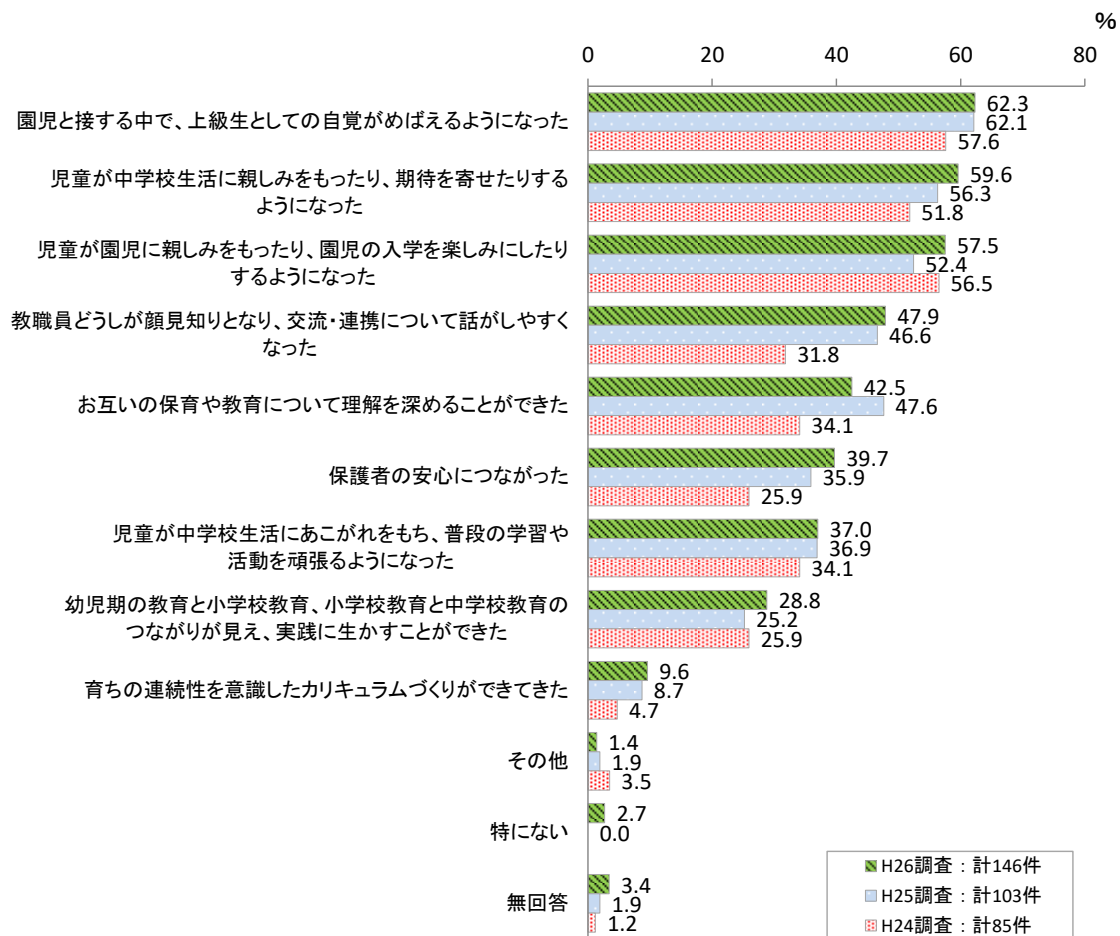
図Ⅱ－２１ 交流・連携を行って良かった点



【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、「園児と接する中で、上級生としての自覚がめばえるようになった」、「児童が中学校生活に親しみをもったり、期待を寄せたりするようになった」、「教職員どうしが顔見知りとなり、交流・連携について話がしやすくなった」、「保護者の安心につながった」、「児童が中学校生活にあこがれをもち、普段の学習や活動を頑張るようになった」の割合が増加傾向となっています。

図Ⅱ－２２ 交流・連携を行って良かった点
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



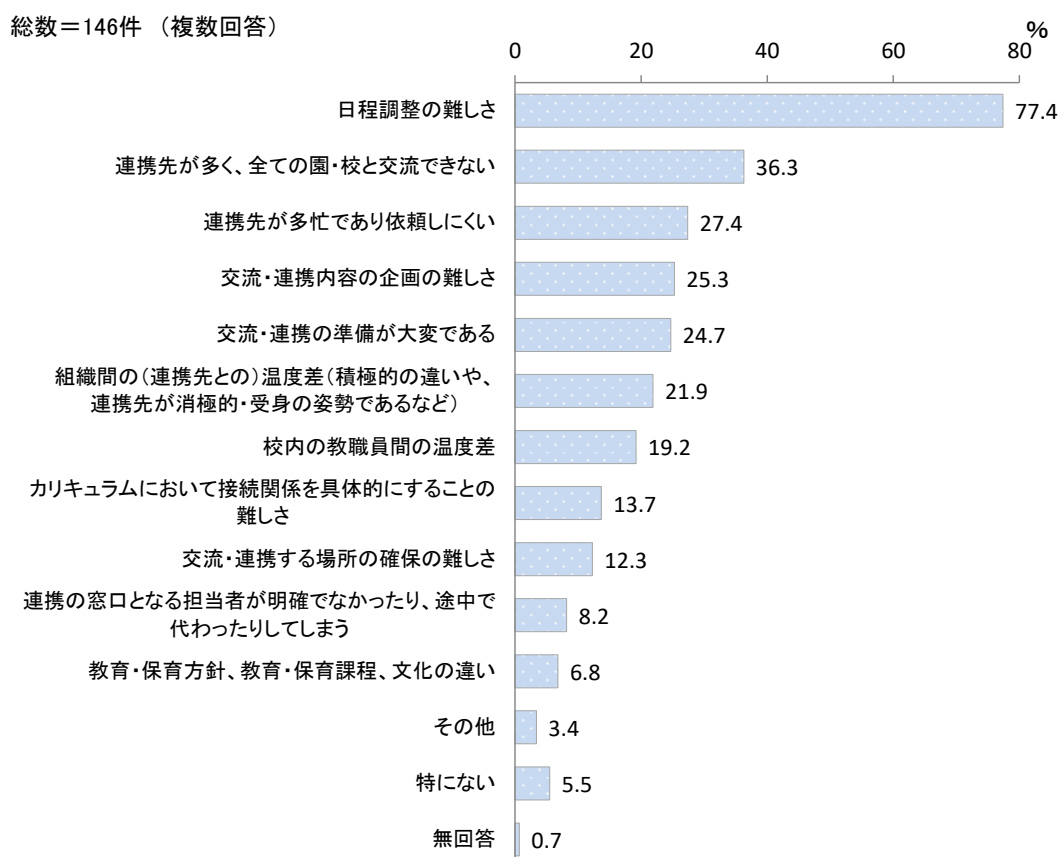
※ 平成24年度調査は「特にない」の項目なし。

（９）交流・連携の課題となる点

問９ 【問１で１の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の実施にあたって課題となる点は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

「日程調整の難しさ」の割合が 77.4%と最も高く、次いで「連携先が多く、全ての園・校と交流できない」の割合が 36.3%、「連携先が多忙であり依頼しにくい」の割合が 27.4%となっています。

図Ⅱ－２３ 交流・連携の課題となる点



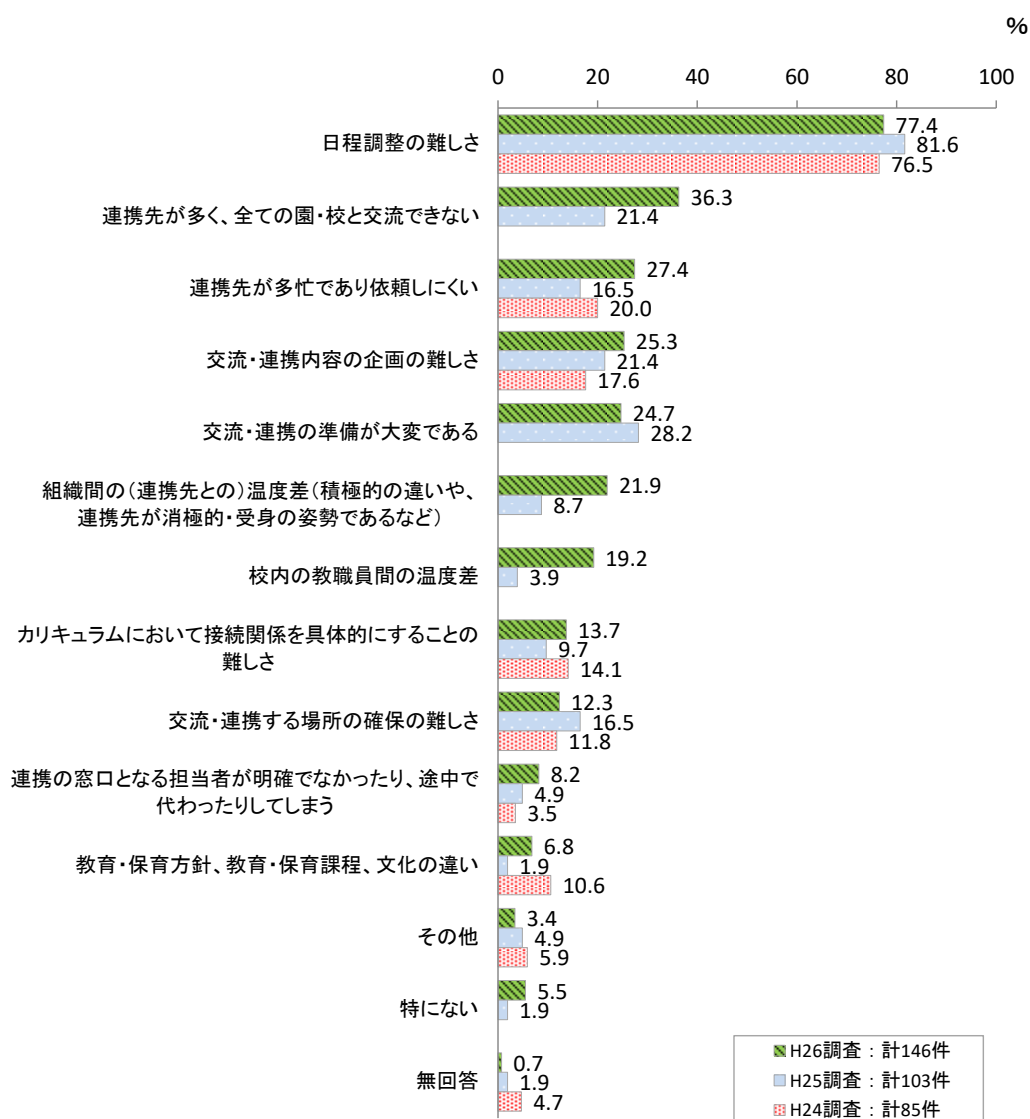
【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、「日程調整の難しさ」の割合が、依然として高い水準であるものの、平成25年度から平成26年度にかけて低くなっています。

また、「交流・連携内容の企画の難しさ」の割合が増加傾向となっています。

平成25年度調査と平成26年度調査を比較すると、「連携先が多く、全ての園・校と交流できない」、「組織間の（連携先との）温度差（積極的の違いや、連携先が消極的・受身の姿勢であるなど）」、「校内の教職員間の温度差」の割合が、高くなっています。

図 II-24 交流・連携の課題となる点
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は「連携先が多く、全ての園・校と交流できない」、「交流・連携の準備が大変である」、「特にない」の項目なし。

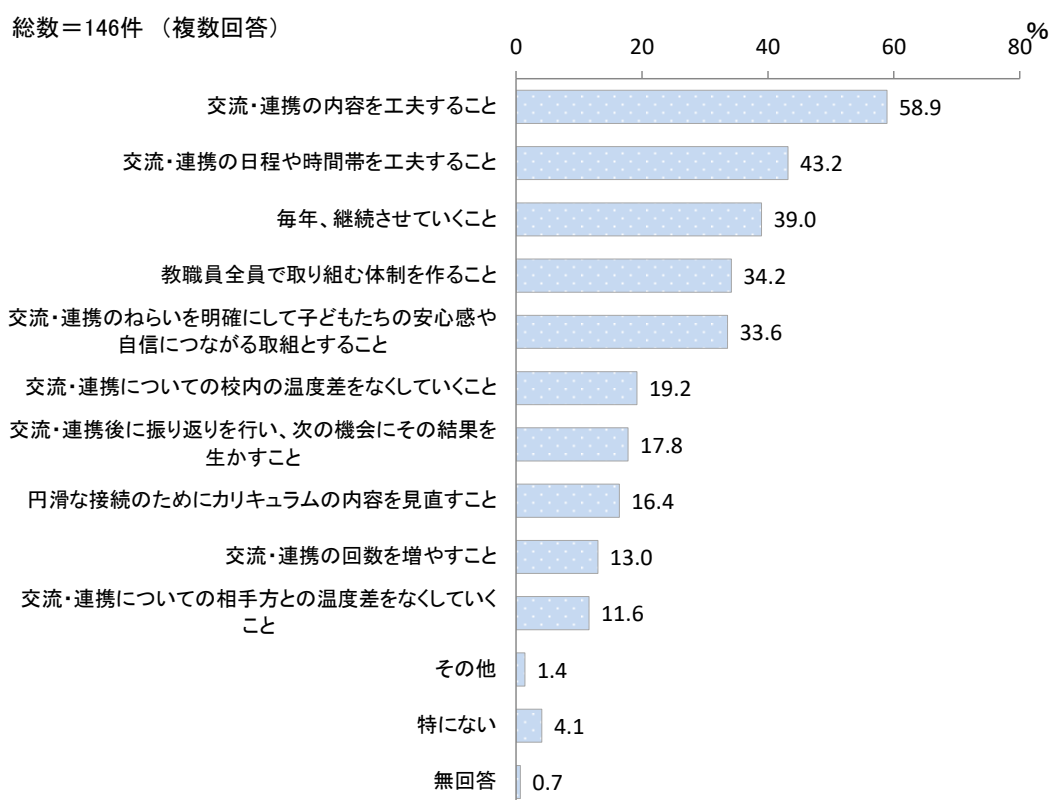
「組織間の（連携先との）温度差（積極的の違いや、連携先が消極的・受身の姿勢であるなど）」は、平成25年度調査の「組織間の温度差」と「連携先が消極的・受身の姿勢である」を合わせた値と比較している。平成24年度調査の「組織・教職員間の温度差」とは、内容が一部異なるため、比較していない。

（１０）交流・連携で改善したい点

問１０ 【問１で１の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の実施にあたって改善したい点は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

「交流・連携の内容を工夫すること」の割合が 58.9%と最も高く、「交流・連携の日程や時間帯を工夫すること」の割合が 43.2%、「毎年、継続させていくこと」の割合が 39.0%となっています。

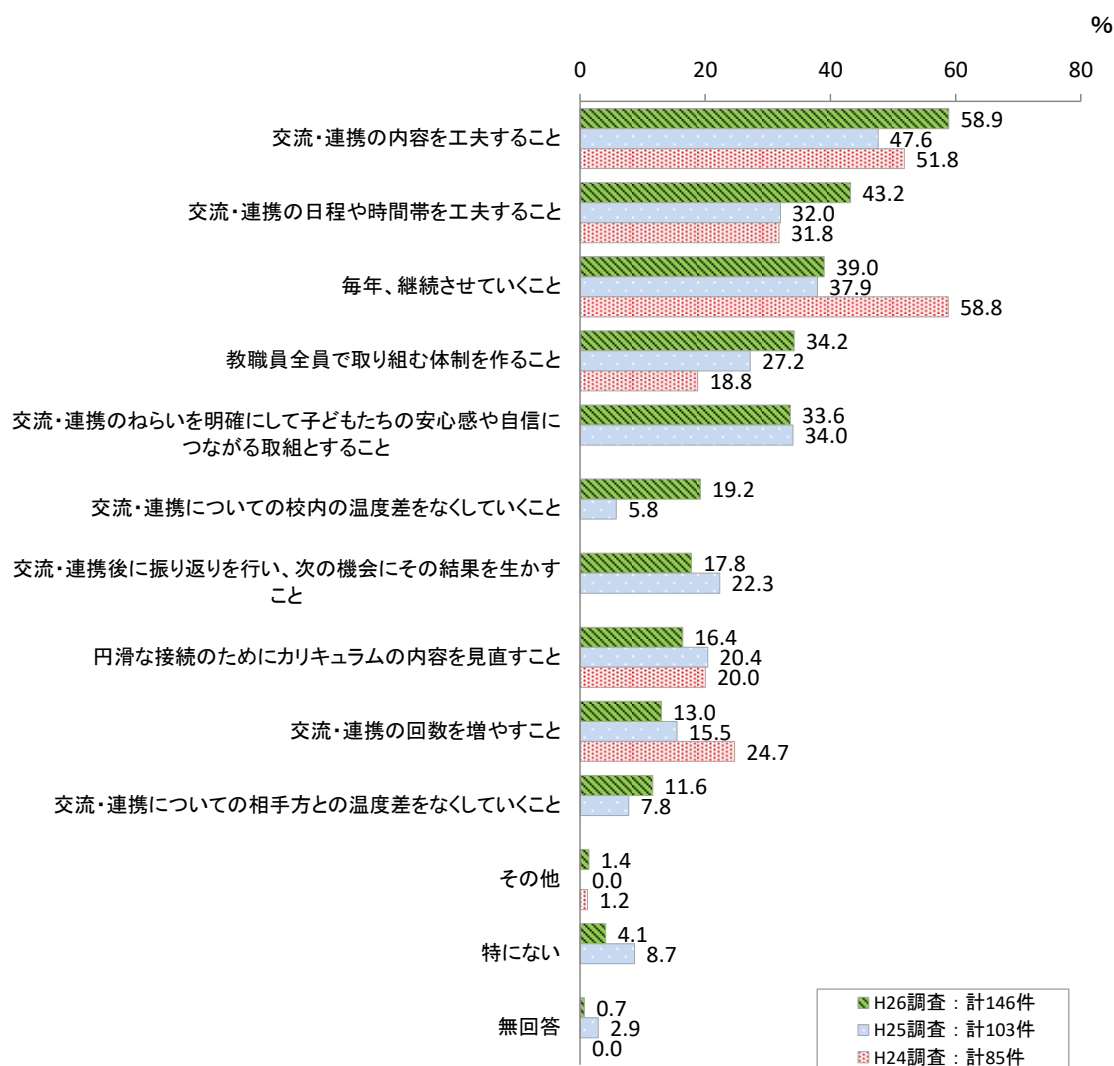
図Ⅱ－２５ 交流・連携で改善したい点



【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、「交流・連携の内容を工夫すること」、「交流・連携の日程や時間帯を工夫すること」、「教職員全員で取り組む体制を作ること」の割合が増加傾向となっています。また、「交流・連携の回数を増やすこと」の割合は減少傾向となっています。

図Ⅱ－26 交流・連携で改善したい点
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は「交流・連携のねらいを明確にして子どもたちの安心感や自信につながる取組とすること」、「交流・連携についての校内の温度差をなくしていくこと」、「交流・連携後に振り返りを行い、次の機会にその結果を生かすこと」、「交流・連携についての相手方との温度差をなくしていくこと」、「特にない」の項目なし。

（１１）交流・連携の実施が困難な理由

問１１ 【問１で２の「いいえ」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の実施が困難な理由は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

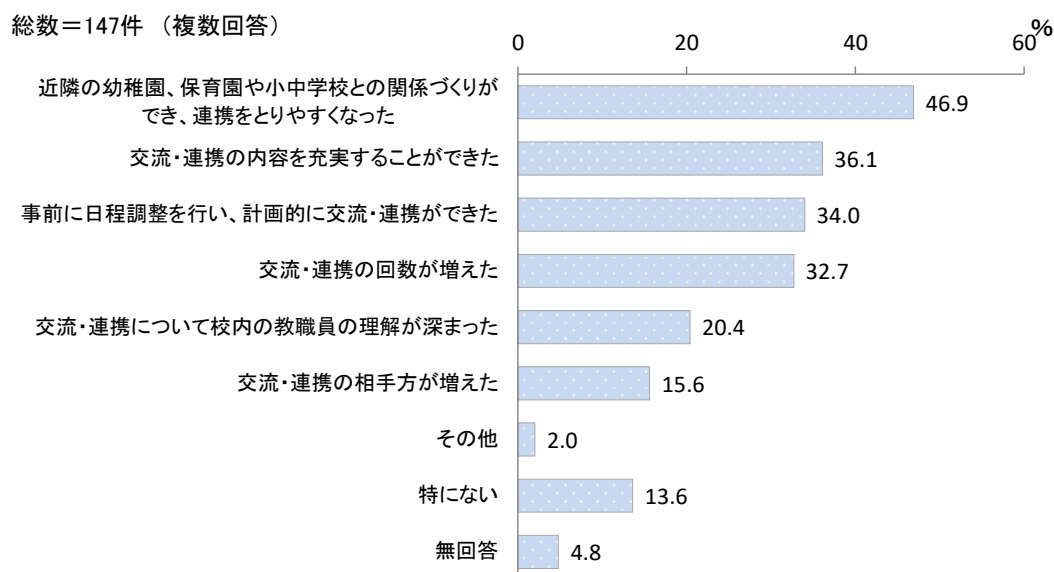
「これまで交流・連携をしておらず、関係ができていない」という回答が１件となっています。

（１２）他園・校との交流・連携について改善されたこと

問１２ あなたの学校において、昨年度（平成２５年度）当初と比べ、他園・校との交流・連携について改善されたことはありますか。（あてはまるもの全てに○）

「近隣の幼稚園、保育園や小中学校との関係づくりができ、連携をとりやすくなった」の割合が４６．９％と最も高く、次いで「交流・連携の内容を充実することができた」の割合が３６．１％、「事前に日程調整を行い、計画的に交流・連携ができた」の割合が３４．０％となっています。

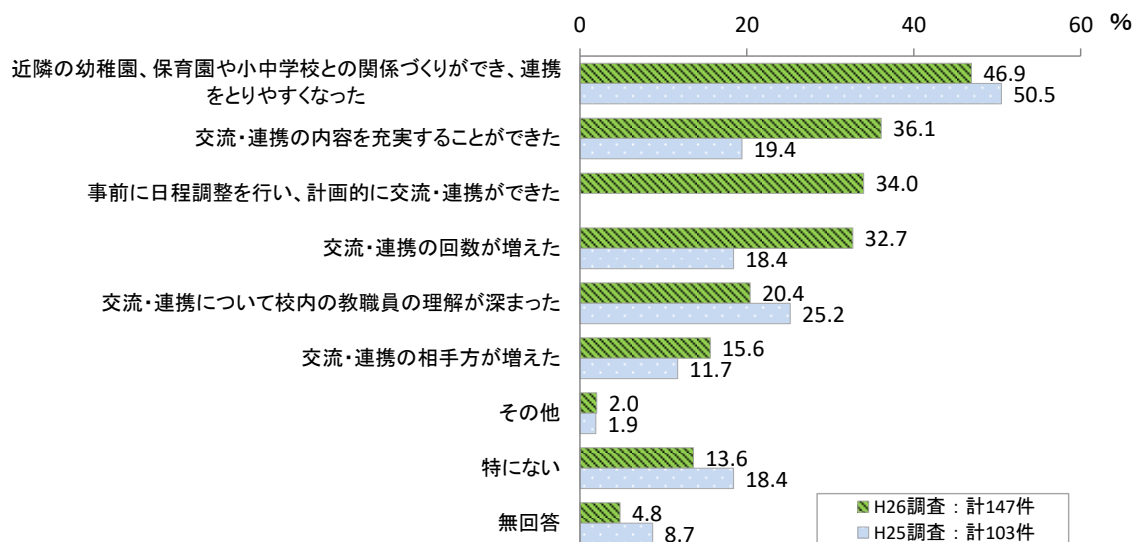
図Ⅱ－２７ 他園・校との交流・連携について改善されたこと



【平成26年度・平成25年度の調査結果の比較】

平成25年度調査と比較すると、「交流・連携の内容を充実することができた」、「交流・連携の回数が増えた」という回答の割合が、高くなっています。

図Ⅱ－28 他園・校との交流・連携について改善されたこと
(平成26年度・平成25年度の調査結果の比較)



※ 平成25年度調査は「事前に日程調整を行い、計画的に交流・連携ができた」の項目なし。

3 「小1プロブレム」について

問13～問19は、校長、教頭、主幹教諭又は教務主任、生徒指導主任、1年生の学年主任のみが回答しました。

「小1プロブレム」について、あなたの学校の状況を教えてください。

「小1プロブレム」とは

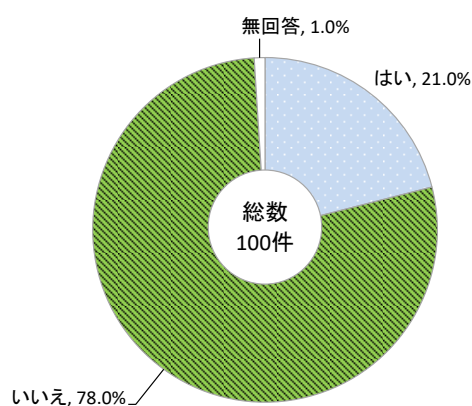
入学したばかりの1年生の教室において、集団行動がとれない、授業中に座ってられない、先生の話听不懂など、学校生活にうまく適応できない状態が続き、学級として機能しないことをいいます。

(1) 「小1プロブレム」の発生状況

問13 あなたの学校では、今年度（平成26年度）、「小1プロブレム」といわれる状況がみられますか。
（○は1つだけ）

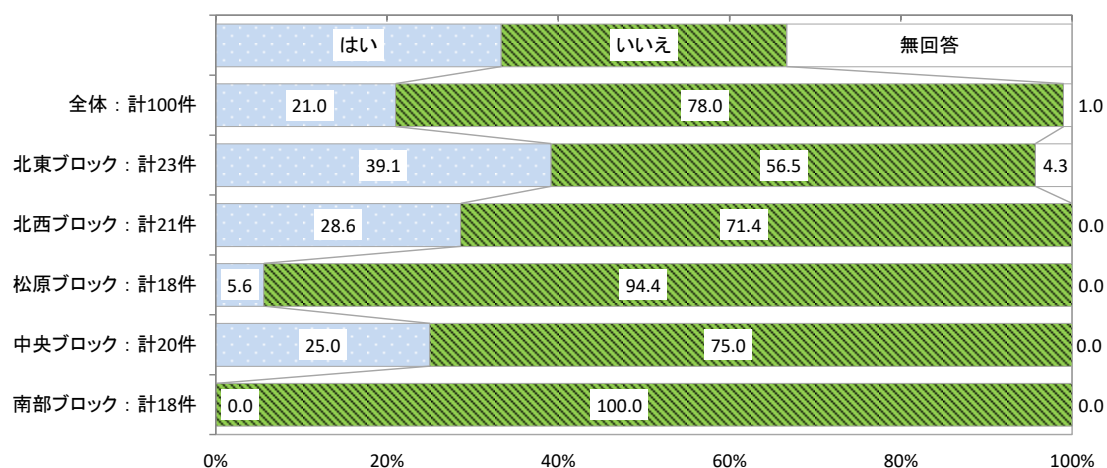
「はい」の割合が21.0%、「いいえ」の割合が78.0%となっています。

図Ⅱ-29 「小1プロブレム」の発生状況



地域別の「小1プロブレム」の発生状況は以下のとおりです。

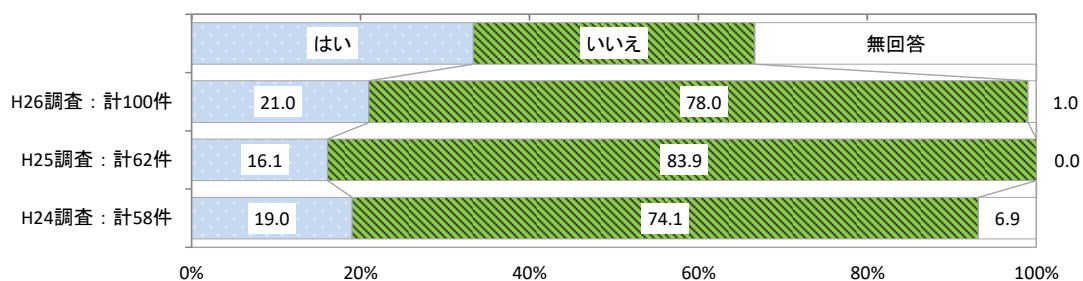
図Ⅱ－３０ 「小1プロブレム」の発生状況
(地域別)



【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、「小1プロブレム」といわれる状況がみられるとする回答の割合は、おおむね横ばいとなっています。

図Ⅱ－３１ 「小1プロブレム」の発生状況
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



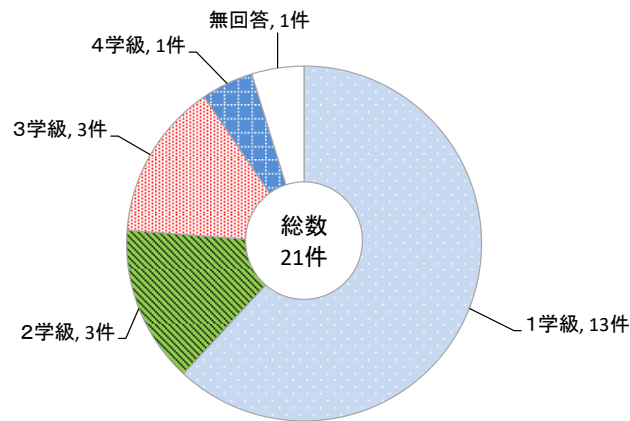
Ⅱ 小学校の調査結果

(2) 「小1プロブレム」がみられた学級数

問14 【問13で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】「小1プロブレム」がみられた学級数はいくつですか。

「1学級」の件数が13件と最も多く、次いで「2学級」、「3学級」の件数がそれぞれ3件となっています。

図Ⅱ-32 「小1プロブレム」がみられた学級数



【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果ともに、「1学級」の件数が、最も多くなっています。

表Ⅱ-3 「小1プロブレム」がみられた学級数
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

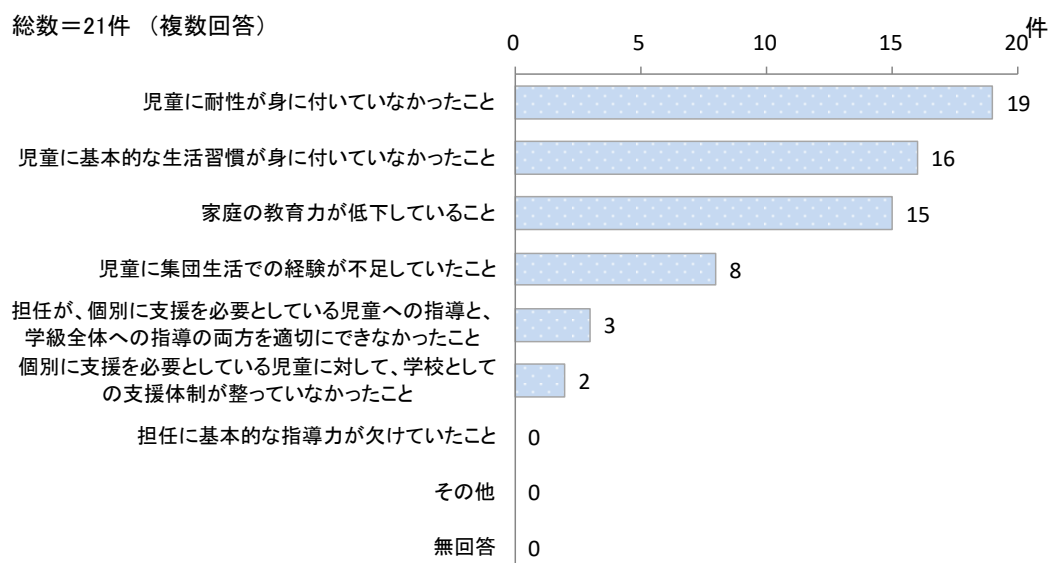
	単位: 件					
	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	無回答
H26調査: 計21件	13	3	3	1	0	1
H25調査: 計10件	3	1	1	3	2	0
H24調査: 計11件	8	3	0	0	0	0

(3) 「小1プロブレム」の要因

問15 【問13で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】「小1プロブレム」がみられた要因はどのようなことであると考えますか。(あてはまるもの全てに○)

「児童に耐性が身に付いていなかったこと」の件数が19件と最も多く、次いで「児童に基本的な生活習慣が身に付いていなかったこと」の件数が16件、「家庭の教育力が低下していること」の件数が15件となっています。

図Ⅱ-33 「小1プロブレム」の要因



【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果ともに、「児童に基本的な生活習慣が身に付いていなかったこと」、「児童に耐性が身に付いていなかったこと」、「家庭の教育力が低下していること」の件数が多くなっています。

表Ⅱ-4 「小1プロブレム」の要因
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

単位: 件

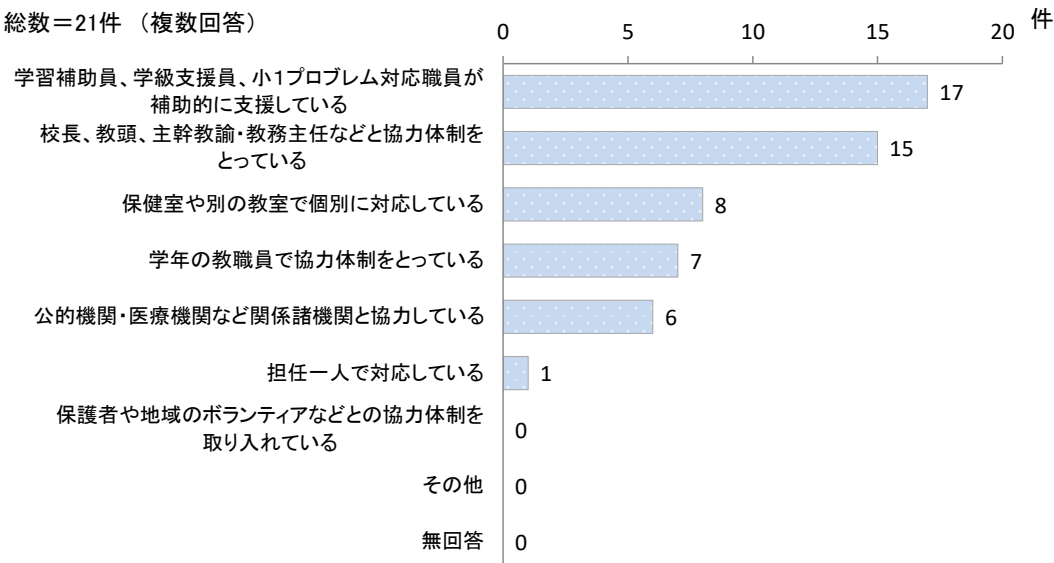
	児童に基本的な生活習慣が身に付いていなかったこと	児童に集団生活での経験が不足していたこと	児童に耐性が身に付いていなかったこと	家庭の教育力が低下していること	担任が、個別に支援を必要としている児童への指導と、学級全体への指導の両方を適切にできなかったこと	担任に基本的な指導力が欠けていたこと	支援体制が整っていないこと、個別に支援を必要としている児童に対して、学校としての支援体制が整っていないこと	その他	無回答
H26調査: 計21件	16	8	19	15	3	0	2	0	0
H25調査: 計10件	10	5	7	6	0	0	1	0	0
H24調査: 計11件	8	4	11	10	3	0	2	1	0

(4) 「小1プロブレム」への対応

問16 【問13で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】「小1プロブレム」とみられる状況に、どのように対応していますか。(あてはまるもの全てに○)

「学習補助員、学級支援員、小1プロブレム対応職員が補助的に支援している」の件数が17件と最も多く、次いで「校長、教頭、主幹教諭・教務主任などと協力体制をとっている」の件数が15件、「保健室や別の教室で個別に対応している」の件数が15件となっています。

図II-34 「小1プロブレム」への対応



【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果ともに、「校長、教頭、主幹教諭・教務主任などと協力体制をとっている」、「学習補助員、学級支援員、小1プロブレム対応職員が補助的に支援している」の件数が、多くなっています。

表II-5 「小1プロブレム」への対応
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

単位: 件

	担任一人 で対応して いる	学年の教 職員で協 力体制を とっている	校長、教 頭、主幹 教諭・教 務主任な どと協力 体制をと っている	保護者や 地域のボ ランティア などとの 協力体制 を取り入 れている	学習補助 員、学級 支援員、 小1プロ ブレム対 応職員が 補助的に 支援して いる	保健室 や別の 教室で 個別に 対応し ている	公的機 関・医 療機 関など 関係諸 機関と 協力し ている	その他	無 回 答
H26調査: 計21件	1	7	15	0	17	8	6	0	0
H25調査: 計10件	0	9	6	0	10	4	3	0	0
H24調査: 計11件	0	4	6	2	11	2	1	0	0

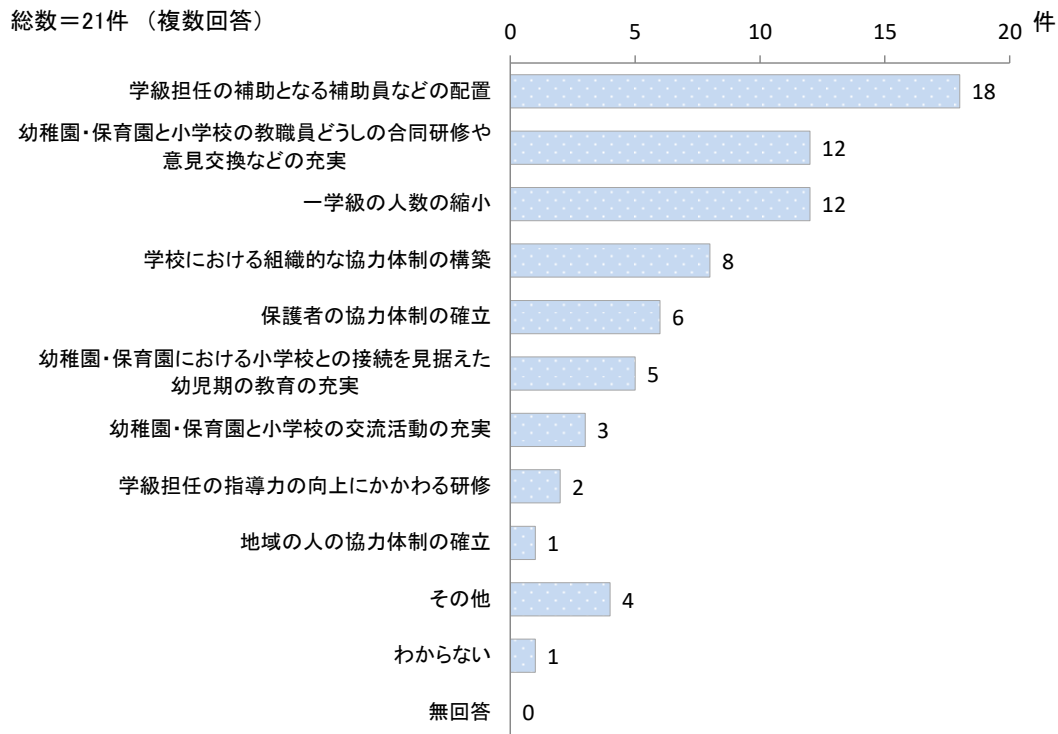
※ 「校長、教頭、主幹教諭・教務主任などと協力体制をとっている」は、平成24年度調査、平成25年度調査の「管理職や教務主任等と協力体制をとっている」と比較している。「学年の教職員で協力体制をとっている」は、平成24年度調査の「学年の先生方で協力体制をとっている」と比較している。

(5) 「小1プロブレム」の発生の予防や解消のための対応策

問17 【問13で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】「小1プロブレム」の発生の予防や解消にはどのような対応策が効果的だと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

「学級担任の補助となる補助員などの配置」の件数が18件と最も多く、次いで「幼稚園・保育園と小学校の教職員どうしの合同研修や意見交換などの充実」、「一学級の人数の縮小」の件数がそれぞれ12件、「学校における組織的な協力体制の構築」の件数が8件となっています。

図 II-35 「小1プロブレム」の発生の予防や解消のための対応策



【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果ともに、「学級担任の補助となる補助員などの配置」、「幼稚園・保育園と小学校の教職員どうしの合同研修や意見交換などの充実」、「一学級の人数の縮小」の件数が、多くなっています。

表 II-6 「小1プロブレム」の発生の予防や解消のための対応策
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

単位: 件

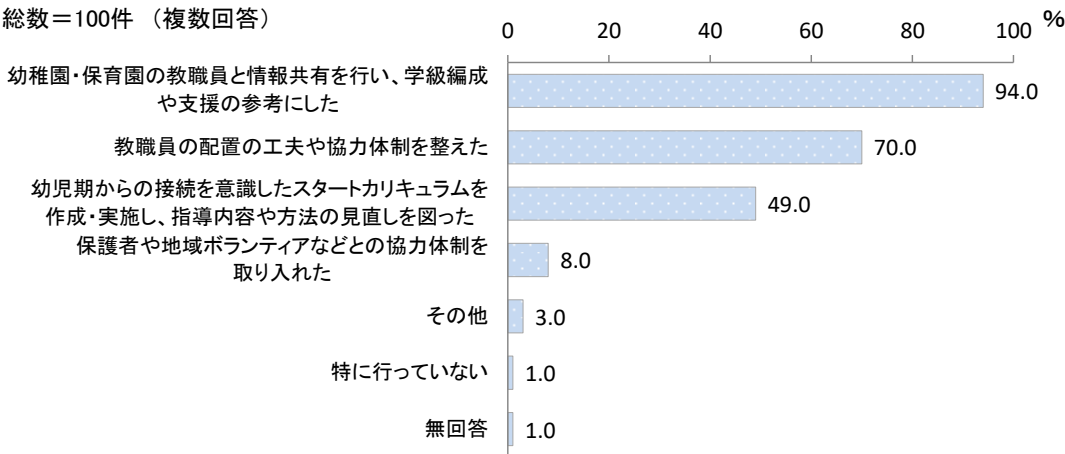
	学級担任の補助となる補助員などの配置	幼稚園・保育園と小学校の教職員どうしの合同研修や意見交換などの充実	一学級の人数の縮小	学校における組織的な協力体制の構築	保護者の協力体制の確立	幼稚園・保育園における小学校との接続を見据えた幼児期の教育の充実	幼稚園・保育園と小学校の交流活動の充実	学級担任の指導力の向上にかかわる研修	地域の人の協力体制の確立	その他	わからない	無回答
H26調査: 計21件	18	12	12	8	6	5	3	2	1	4	1	0
H25調査: 計10件	10	5	6	7	7	9	3	2	2	1	0	0
H24調査: 計11件	11	7	5	5	5	5	3	2	1	1	0	0

(6) 入学に際しての配慮や準備

問 18 あなたの学校では、入学に際し、以下のような配慮や準備を何か行っていますか。(あてはまるもの全てに○)

「幼稚園・保育園の教職員と情報共有を行い、学級編成や支援の参考にした」の割合が 94.0%と最も高く、次いで「教職員の配置の工夫や協力体制を整えた」の割合が 70.0%、「幼児期からの接続を意識したスタートカリキュラムを作成・実施し、指導内容や方法の見直しを図った」の割合が 49.0%となっています。

図Ⅱ-36 入学に際しての配慮や準備

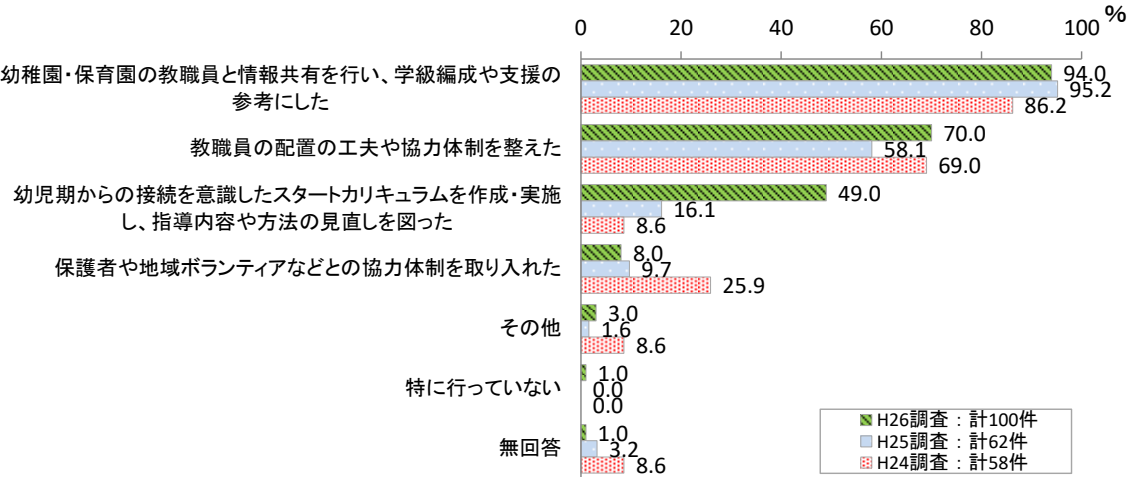


【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、「幼稚園・保育園の教職員と情報共有を行い、学級編成や支援の参考にした」、「幼児期からの接続を意識したスタートカリキュラムを作成・実施し、指導内容や方法の見直しを図った」の割合が増加傾向となっています。

「幼児期からの接続を意識したスタートカリキュラムを作成・実施し、指導内容や方法の見直しを図った」の割合は、平成25年度から平成26年度にかけて、特に高くなっています。

図Ⅱ-37 入学に際しての配慮や準備
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

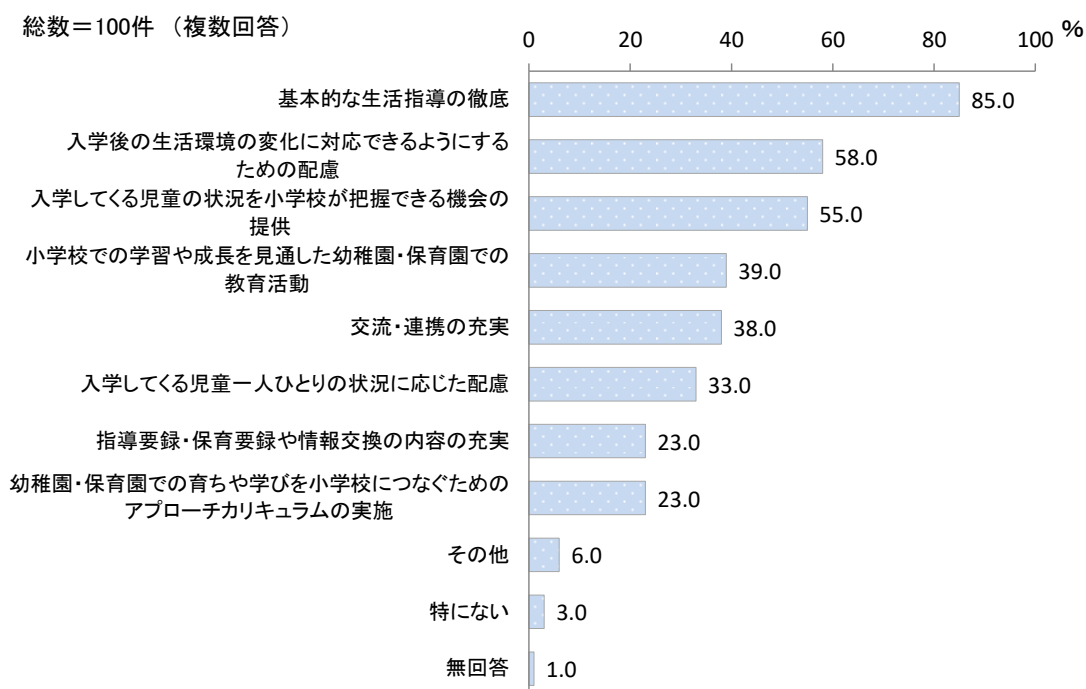


(7) 幼稚園や保育園に対して期待すること

問 19 あなたの学校に入学する児童の出身園である幼稚園や保育園に対して、どのようなことを期待しますか。(あてはまるもの全てに○)

「基本的な生活指導の徹底」の割合が 85.0%と最も高く、次いで「入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮」の割合が 58.0%、「入学してくる児童の状況を小学校が把握できる機会の提供」の割合が 55.0%となっています。

図 II-38 幼稚園や保育園に対して期待すること

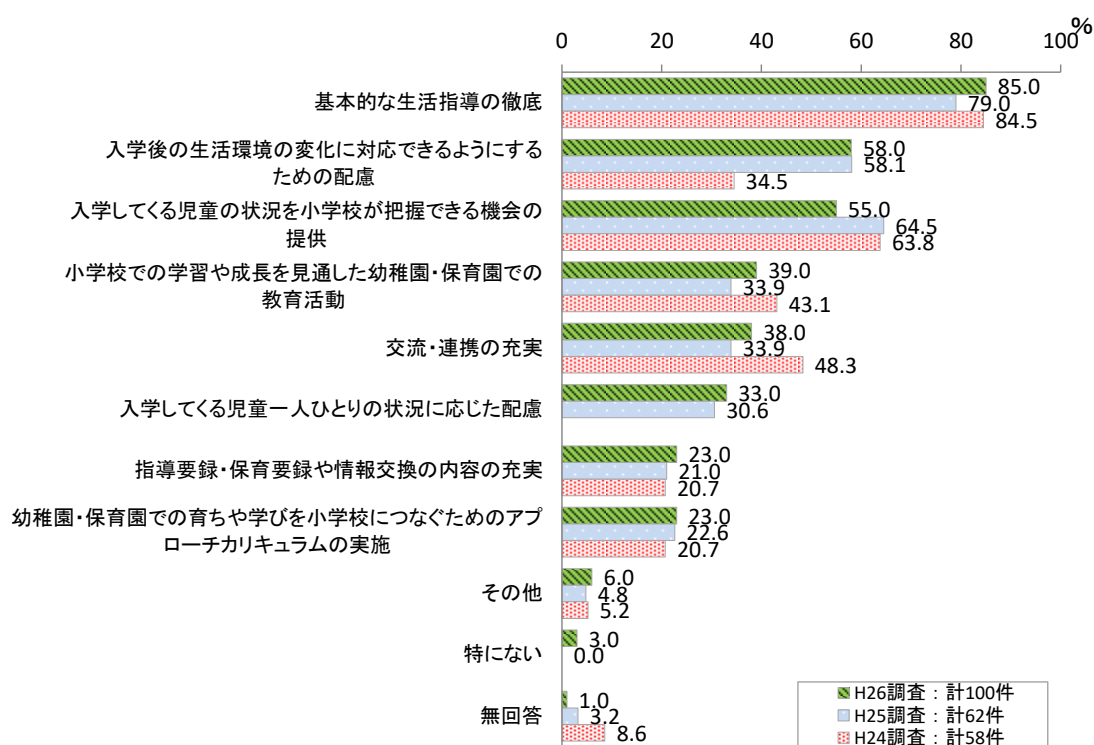


Ⅱ 小学校の調査結果

【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、「入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮」の割合が、増加傾向となっています。また、「基本的な生活指導の徹底」の割合は、ほぼ横ばいとなっています。

図Ⅱ－３９ 幼稚園や保育園に対して期待すること
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は「入学してくる児童一人ひとりの状況に応じた配慮」、「特にない」の項目なし。

4 中学校進学に向けた取組について

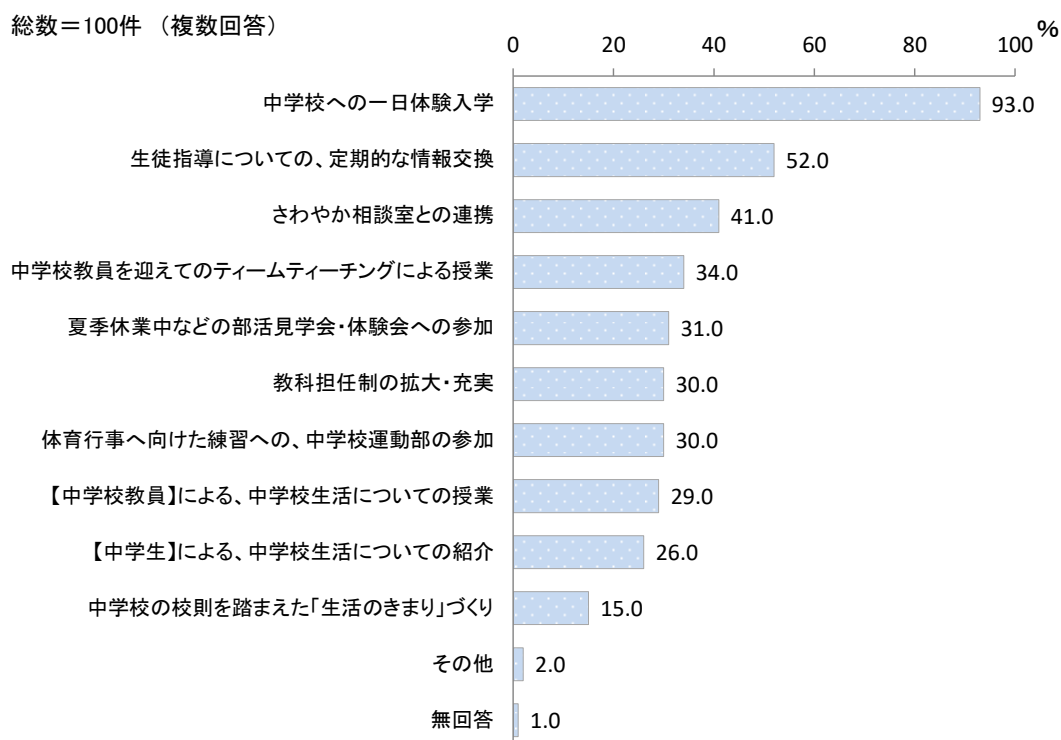
(1) 中学校進学に向けて行っている具体的な取組

問20 【校長、教頭、主幹教諭又は教務主任、生徒指導主任、6年生の学年主任のみ、お答えください】

あなたの学校では、中学校進学に向けて、生徒指導や教科指導などにおける具体的な取組として、どのようなことを行っていますか。（あてはまるもの全てに○）

「中学校への一日体験入学」の割合が93.0%と最も高く、次いで「生徒指導についての、定期的な情報交換」の割合が52.0%、「さわやか相談室との連携」の割合が41.0%となっています。

図Ⅱ-40 中学校進学に向けて行っている具体的な取組



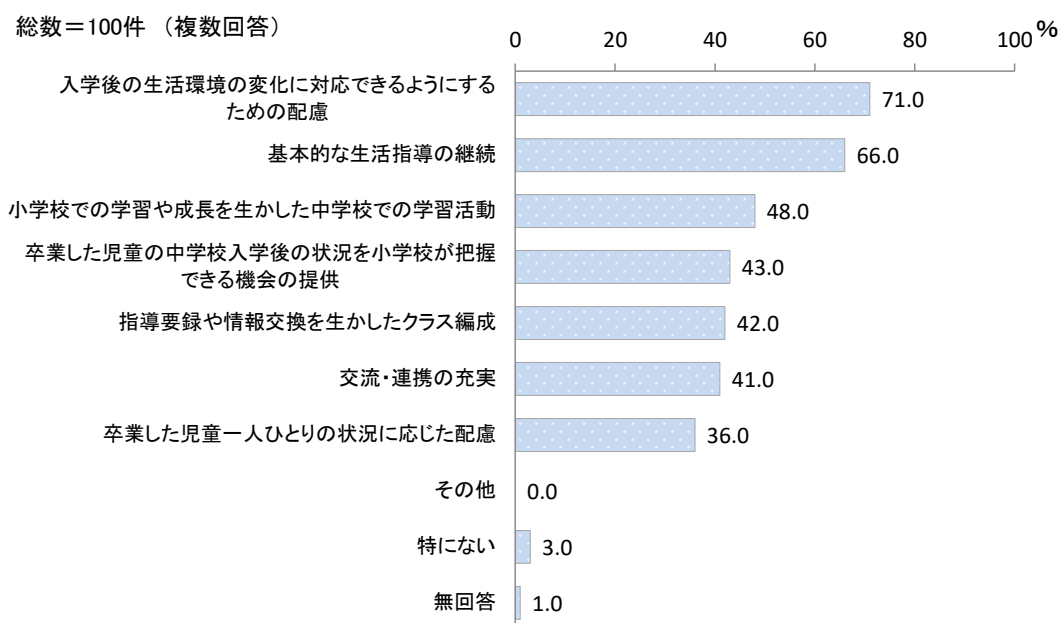
(2) 中学校に対して期待すること

問 2 1 【校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、6年生の学年主任のみ、お答えください】

あなたの学校を卒業する児童が進学する中学校に対して、どのようなことを期待しますか。(あてはまるもの全てに○)

「入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮」の割合が 71.0%と最も高く、次いで「基本的な生活指導の継続」の割合が 66.0%、「小学校での学習や成長を生かした中学校での学習活動」の割合が 48.0%となっています。

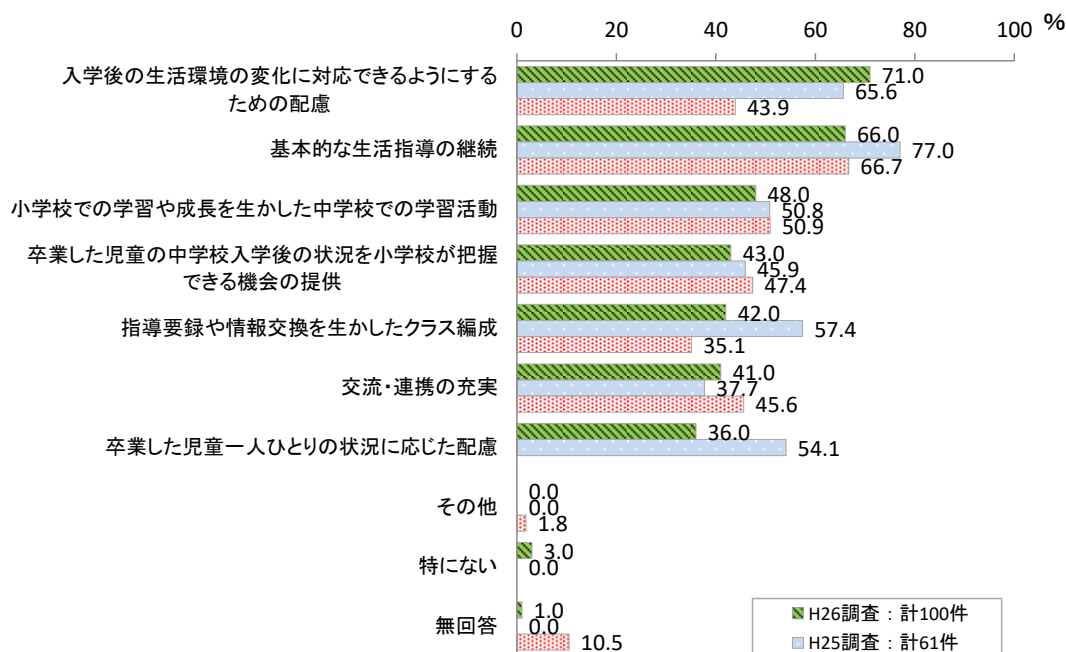
図Ⅱ-41 中学校に対して期待すること



【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、「入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮」の割合が、増加傾向となっています。また、「基本的な生活指導の継続」、「卒業した児童一人ひとりの状況に応じた配慮」の割合が、減少傾向となっています。

図Ⅱ－４２ 中学校に対して期待すること
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は「卒業した児童一人ひとりの状況に応じた配慮」、「特になし」の項目なし。

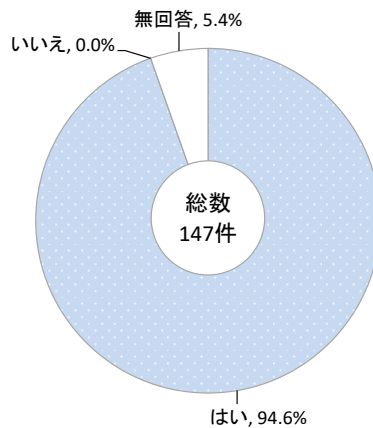
5 家庭教育への支援について

(1) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性について

問22 子どもたちの育ちを支えるために、家庭との連携や、家庭教育を支援する必要性を感じますか。(○は1つだけ)

「はい」の割合が94.6%となっています。

図Ⅱ-43 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性について

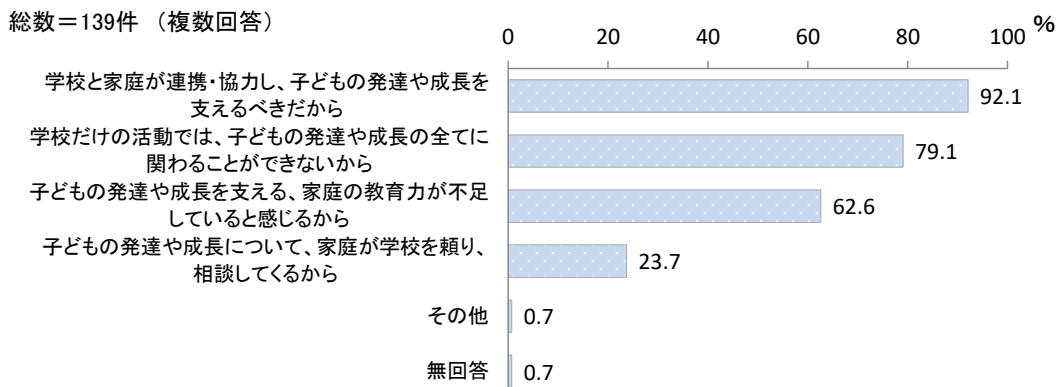


(2) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性を感じる理由

問23 【問22で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】家庭との連携や家庭教育を支援する必要性を感じる理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

「学校と家庭が連携・協力し、子どもの発達や成長を支えるべきだから」の割合が92.1%と最も高く、次いで「学校だけの活動では、子どもの発達や成長の全てに関わるできないから」の割合が79.1%、「子どもの発達や成長を支える、家庭の教育力が不足していると感じるから」の割合が62.6%となっています。

図Ⅱ-44 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性を感じる理由

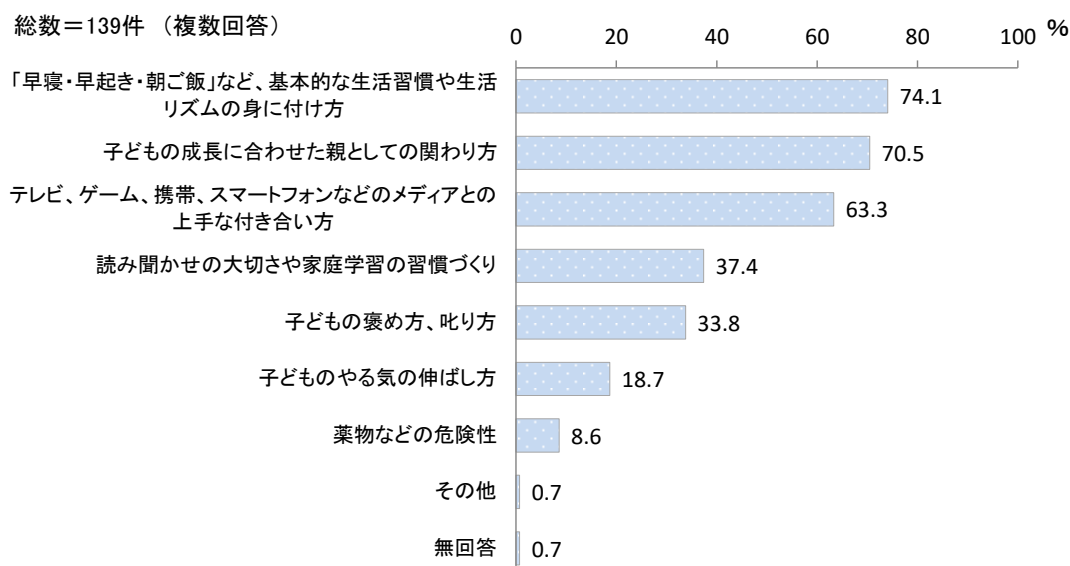


(3) 家庭教育への支援で行いたい具体的な取組

問24 【問22で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】家庭教育への支援を行う場合、具体的に、特に、どのような内容について、保護者に対し支援を行いたいですか。(○は3つまで)

「『早寝・早起き・朝ご飯』など、基本的な生活習慣や生活リズムの身に付け方」の割合が74.1%と最も高く、「子どもの成長に合わせた親としての関わり方」の割合が70.5%、「テレビ、ゲーム、携帯、スマートフォンなどのメディアとの上手な付き合い方」の割合が63.3%となっています。

図 II-45 家庭教育への支援で行いたい具体的な取組



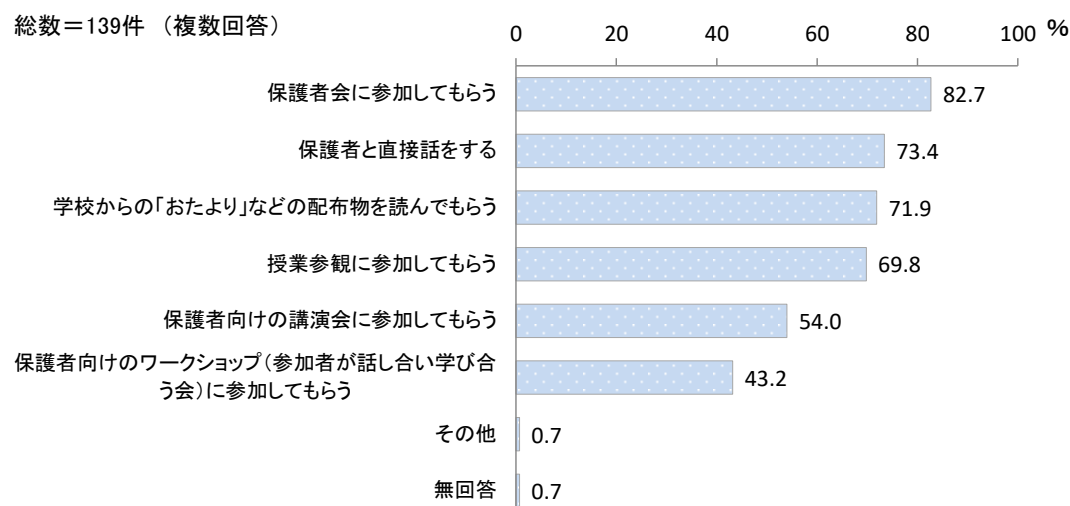
※ 問24については、4つ以上の回答が多数のため、複数回答として集計した。

(4) 家庭との連携・家庭教育への支援のために有効な機会・方法

問25 【問22で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】家庭との連携や家庭教育を支援するために有効だと考える機会や方法などは、何ですか。(あてはまるもの全てに○)

「保護者会に参加してもらう」の割合が82.7%と最も高く、次いで「保護者と直接話をする」の割合が73.4%、「学校からの『おたより』などの配布物を読んでもらう」の割合が71.9%となっています。

図 II-46 家庭との連携・家庭教育への支援のために有効な機会・方法

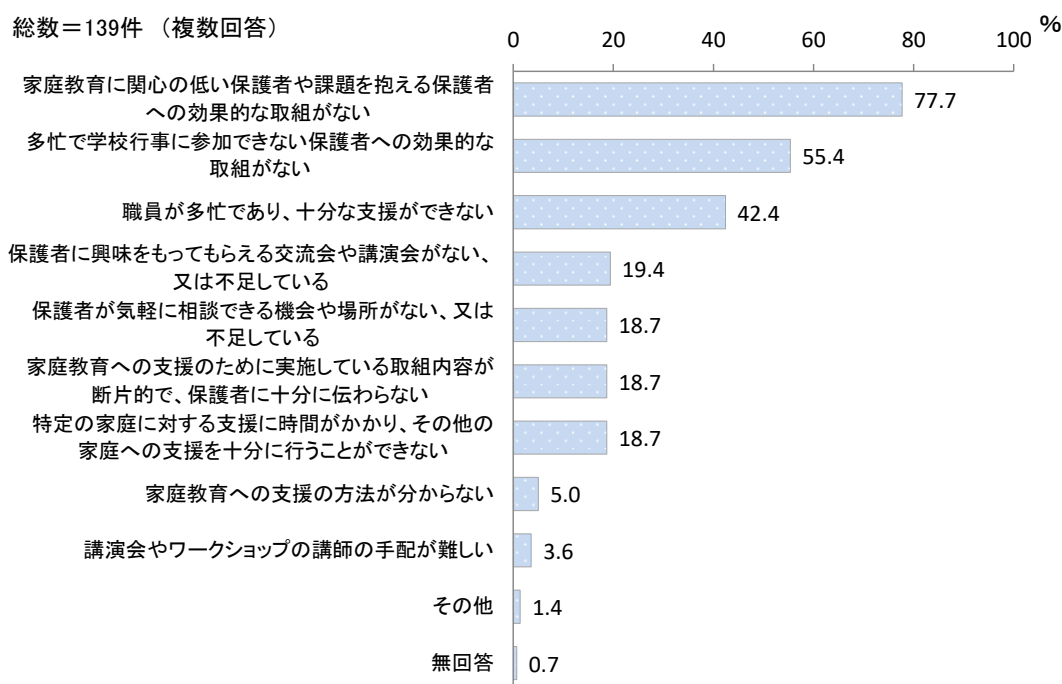


（５）家庭との連携・家庭教育への支援での課題

問２６ 【問２２で１の「はい」に○をつけた場合にお答えください】 家庭との連携や家庭教育への支援を行う上での課題は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

「家庭教育に関心の低い保護者や課題を抱える保護者への効果的な取組がない」の割合が 77.7%と最も高く、次いで「多忙で学校行事に参加できない保護者への効果的な取組がない」の割合が 55.4%、「職員が多忙であり、十分な支援ができない」の割合が 42.4%となっています。

図Ⅱ－４７ 家庭との連携・家庭教育への支援での課題



6 自由記述

最後に、あなたの学校や地域での交流・連携の取組状況、子ども教育の連携推進事業、草加市の教育についてご意見などがあれば、自由にご記入ください。

対象となる回収数147件中22件に記述がありました（1件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は22件より多くなっています。）。

項目	件数
園・校間の連携に関すること	21
交流・連携を積極的・継続的に取り組んでいきたい	8
教育に支障が出ないように、無理なく継続できる連携がよい	4
行政が交流・連携を積極的に取り組んでほしい	3
交流・連携について多くの関係者が当事者意識をもつことが大切	2
中学校への受け渡しがスムーズになるよう連携していきたい	1
進学する児童・生徒をもつ教員・保育士は進学等について学ぶ場が必要	1
交流・連携がなぜ必要なのか共通理解をすることが大切	1
進学に向けて指導すべきことがあれば教えてほしい	1
家庭との交流・連携の推進	2
行政には学校・地域に応じた人的・物的支援を引き続きお願いしたい	2
1年生のみ1学級当たりの生徒数を少なくできれば、きめ細かい指導ができる	1
その他	2

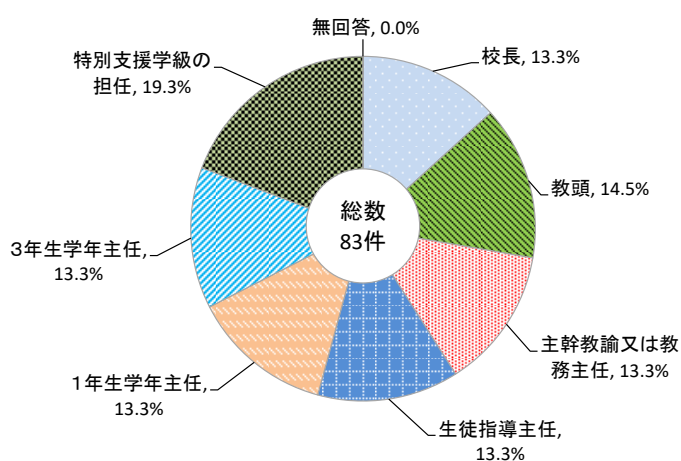
Ⅲ 中学校の調査結果

1 基本情報

(1) 職名

回答者の職名の割合は以下のとおりです。

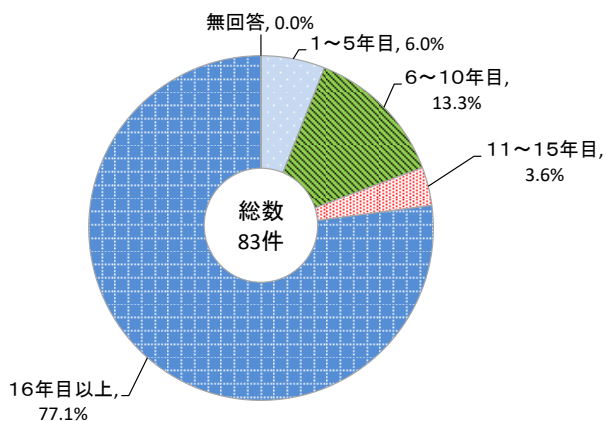
図Ⅲ－1 職名



(2) 教員歴

「16年目以上」の割合が77.1%と最も高く、次いで「6～10年目」の割合が13.3%、「1～5年目」の割合が6.0%となっています。

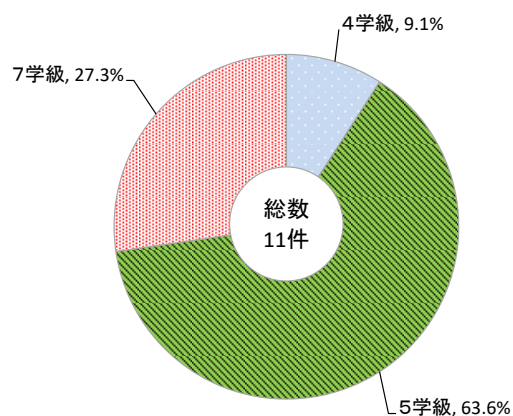
図Ⅲ－2 教員歴



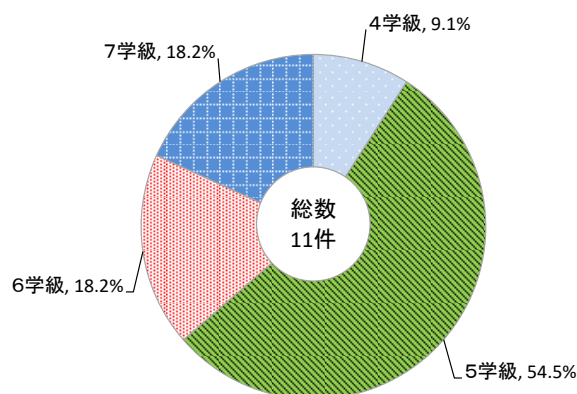
(3) 学級数

1年生の学級数は「5学級」の割合が63.6%と最も高く、次いで「7学級」の割合が27.3%、「4学級」の割合が9.1%となっています。3年生の学級数は「5学級」の割合が54.5%と最も高く、次いで「6学級」と「7学級」の割合がそれぞれ18.2%、「4学級」の割合が9.1%となっています。特別支援学級数は「1学級」と「2学級」の割合がそれぞれ45.5%と最も高く、次いで「3学級」の割合が9.1%となっています。

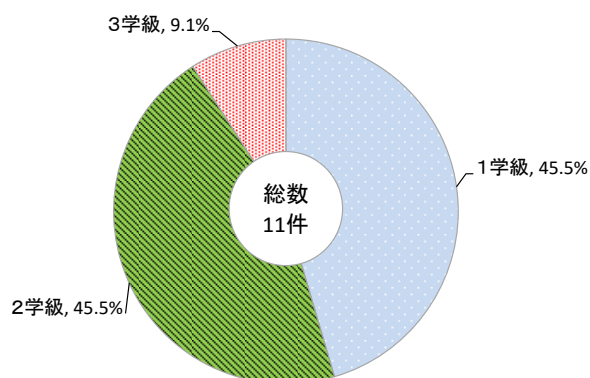
図Ⅲ－3 1年生の学級数



図Ⅲ－4 3年生の学級数



図Ⅲ－5 特別支援学級数



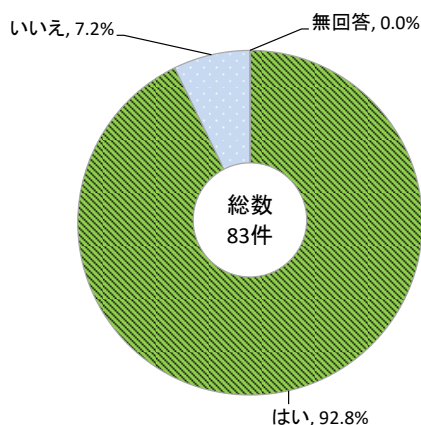
2 幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実施状況について

(1) 幼稚園・保育園・小学校・他の中学校との交流・連携の実施状況

問1 あなたの学校では、昨年度（平成25年度）に、幼稚園・保育園・小学校・他の中学校のいずれか又はいくつかと交流・連携を行いましたか。（〇は1つだけ）

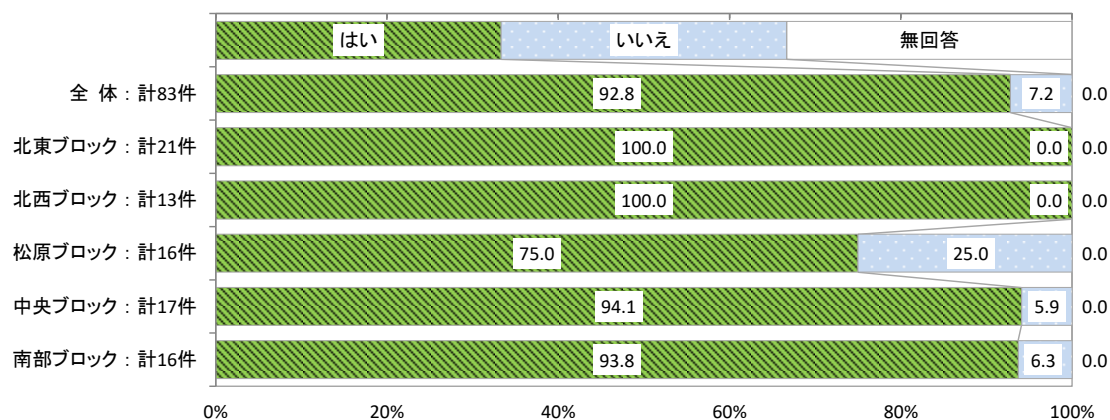
「はい」の割合が92.8%、「いいえ」の割合が7.2%となっています。

図 III-6 幼稚園・保育園・小学校・他の中学校との交流・連携の実施状況



地域別の交流・連携の実施状況は以下のとおりです。

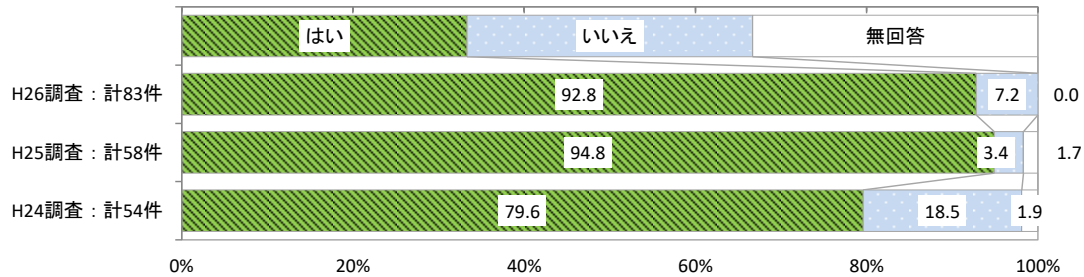
図 III-7 幼稚園・保育園・小学校・他の中学校との交流・連携の実施状況（地域別）



【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、「はい」の割合は、平成24年度から平成25年度にかけて高くなり、平成25年度から平成26年度にかけては、ほぼ横ばいとなっています。

図Ⅲ－8 幼稚園・保育園・小学校・他の中学校の交流・連携の実施状況
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

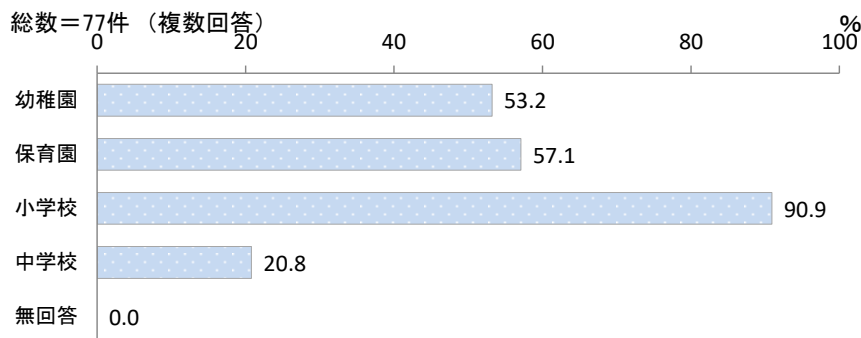


(2) 交流・連携の相手方

問2 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の相手方はどこでしたか。
(あてはまるもの全てに○と相手方の数を記入)

「小学校」の割合が90.9%と最も高く、次いで「保育園」の割合が57.1%、「幼稚園」の割合が53.2%となっています。

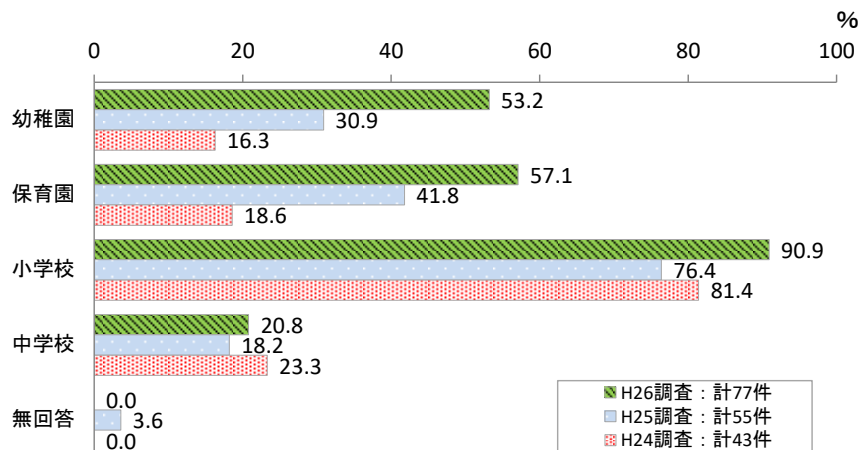
図Ⅲ－9 交流・連携の相手方



【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、「幼稚園」、「保育園」、「小学校」の割合が、増加傾向となっています。また、「保育園」の割合は平成24年度から平成25年度にかけて、「幼稚園」、「小学校」の割合は平成25年度から平成26年度にかけて、特に高くなっています。

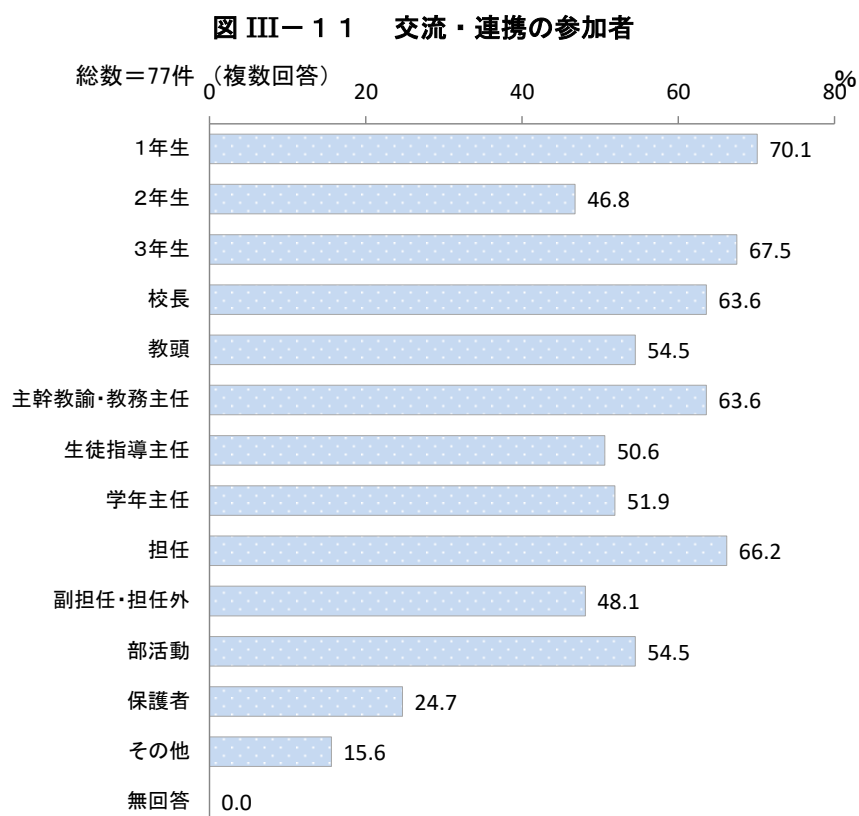
図Ⅲ－10 交流・連携の相手方
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



（３）交流・連携の参加者

問３ 【問１で１の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携に参加したのは以下のうち誰でしたか。（あてはまるもの全てに○）

生徒では、「１年生」の割合が 70.1%と最も高く、次いで「３年生」の割合が 67.5%となっています。教職員等では、「担任」の割合が 66.2%と最も高く、次いで「校長」、「主幹教諭・教務主任」の割合がそれぞれ 63.6%となっています。



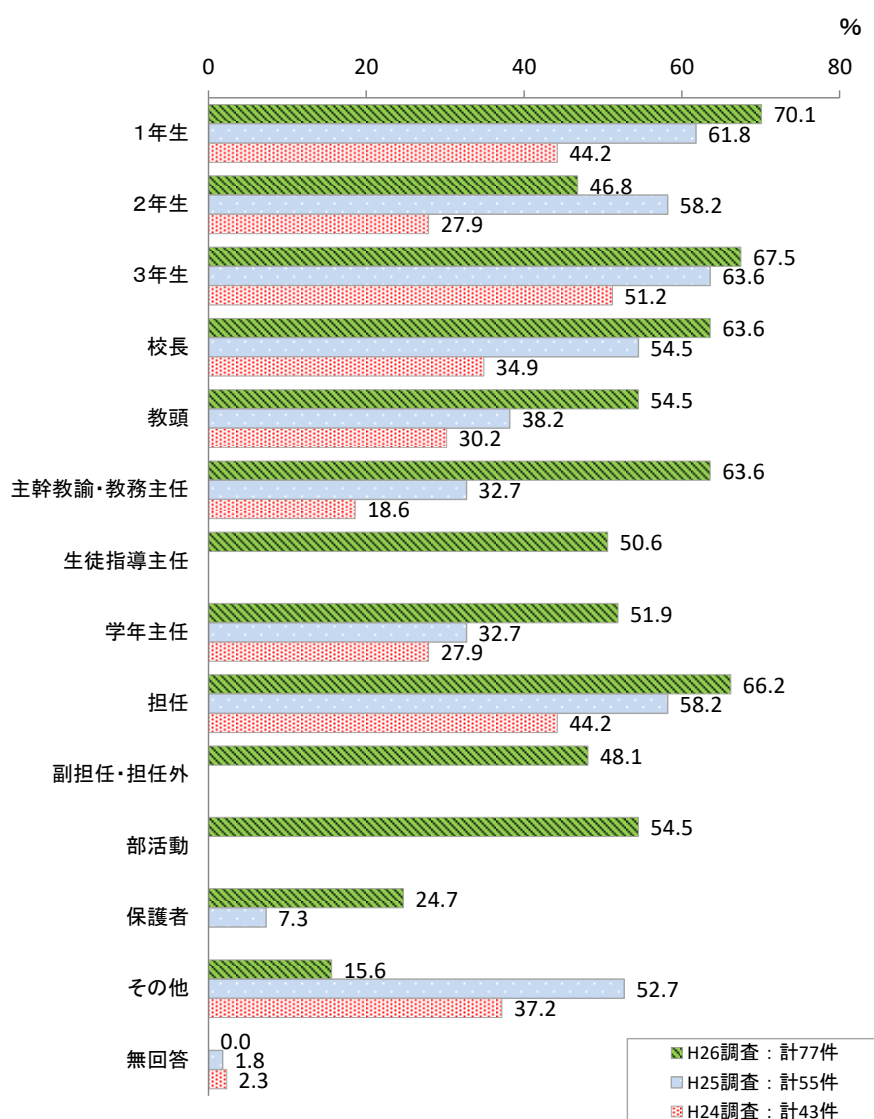
【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、生徒では、「1年生」、「3年生」という回答の割合が増加傾向となっています。教職員等では、「校長」、「教頭」、「主幹教諭・教務主任」、「学年主任」、「担任」という回答の割合が増加傾向となっています。

「教頭」、「主幹教諭・教務主任」、「学年主任」という回答の割合については、平成25年度から平成26年度にかけて、特に高くなっています。

また、「保護者」という回答の割合についても、平成25年度から平成26年度にかけて、特に高くなっています。

図Ⅲ－１２ 交流・連携の参加者
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



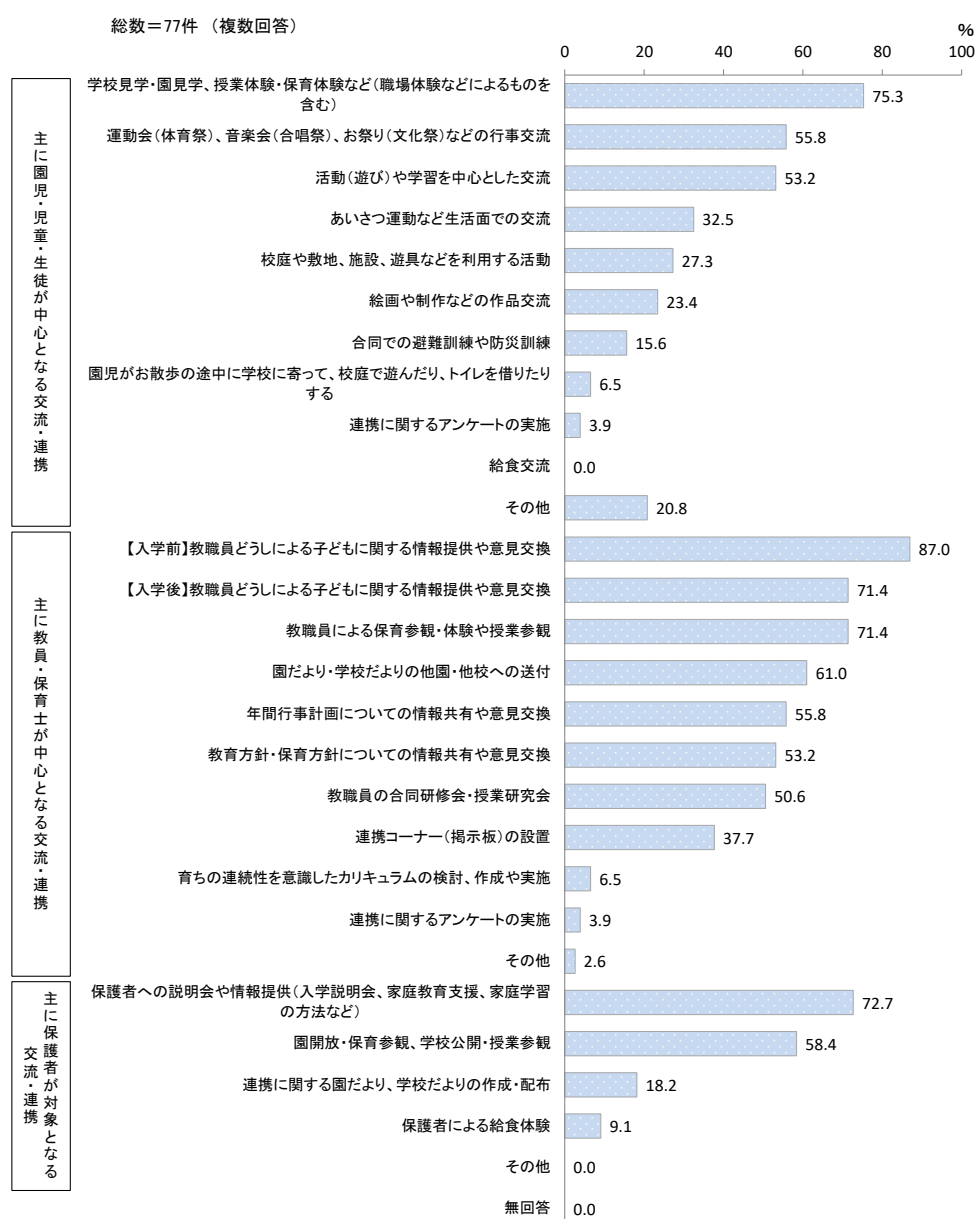
※ 平成24年度調査、平成25年度調査は「生徒指導主任」、「副担任・担任外」、「部活動」の項目なし。平成24年度調査は「保護者」の項目なし。「主幹教諭・教務主任」は、H24年調査、平成25年度調査の「教務主任」と比較している。

(4) 交流・連携の内容

問4 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の内容はどのようなものでしたか。(あてはまるもの全てに○)

「【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」の割合が87.0%と最も高く、次いで「学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）」の割合が75.3%、「保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）」の割合が72.7%となっています。

図Ⅲ－13 交流・連携の内容

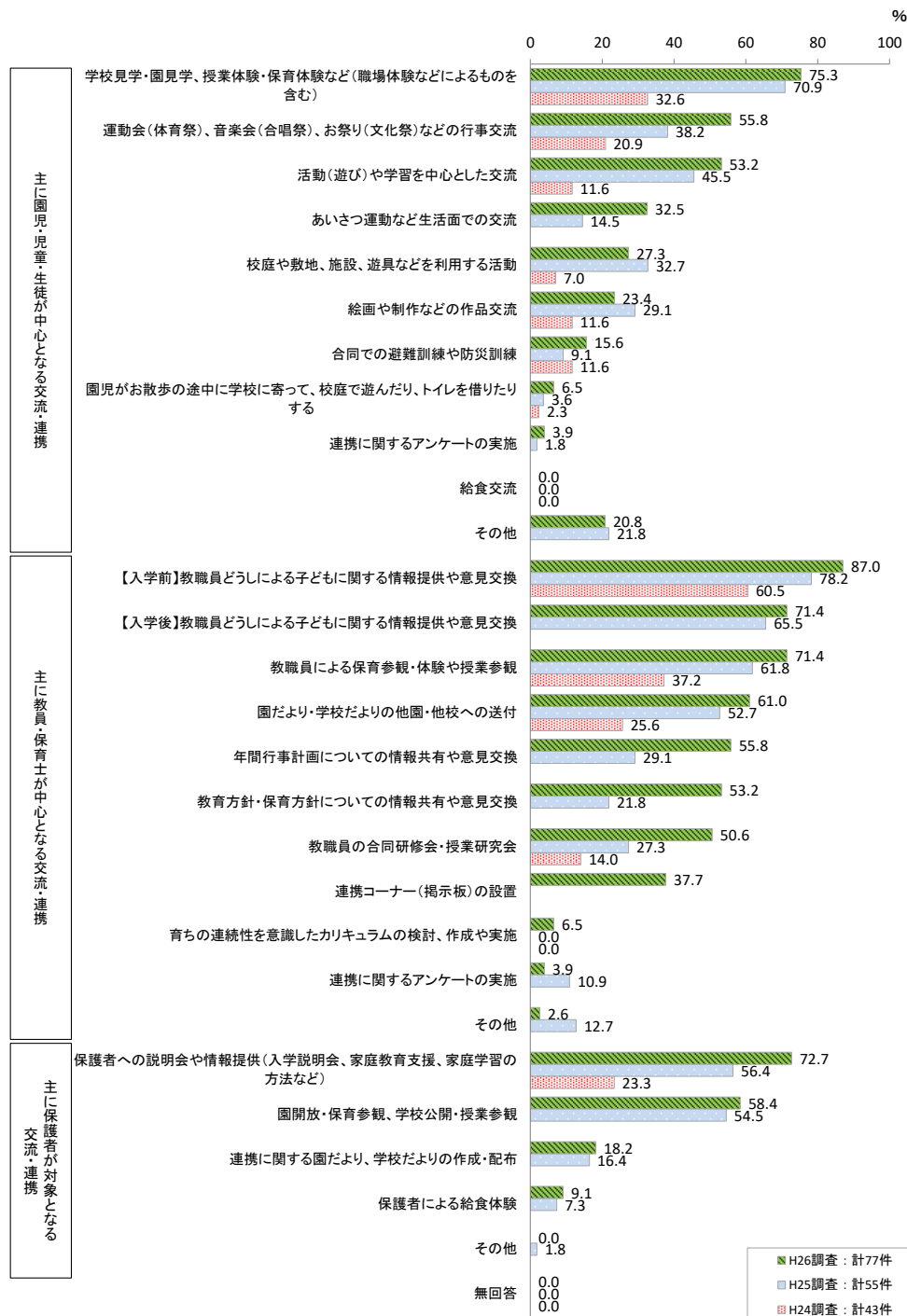


【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

平成24年度から平成26年度にかけて、増加傾向を示している項目が多くなっています。

平成25年度調査と比較すると、「運動会（体育祭）、音楽会（合唱祭）、お祭り（文化祭）などの行事交流」、「年間行事計画についての情報共有や意見交換」、「教育方針・保育方針についての情報共有や意見交換」、「教職員の合同研修会・授業研究会」、「保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）」の割合が、特に高くなっています。

図Ⅲ－14 交流・連携の内容
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成25年度調査と比較可能な項目を比較している。平成25年度調査は「連携コーナー（掲示板）の設置」は項目なし。平成24年度調査は比較可能な項目を抜粋している。

(5) 重要な交流・連携の取組

問5 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】問4の選択肢に挙げられている交流・連携の内容のうち、特に重要な取組はどれだと思われますか。重要度が高いと考える順に、問4の選択肢番号及び重要と考える理由をご記入ください。(5つまで)

重要な交流・連携の取組については、主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携では、「運動会（体育祭）、音楽会（合唱祭）、お祭り（文化祭）などの行事交流」、「学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）」、「活動（遊び）や学習を中心とした交流」の件数が多く、主に教員・保育士が中心となる交流・連携では、「【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」、「【入学後】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」、「教職員の合同研修会・授業研究会」の件数多く、主に保護者を対象となる交流・連携では、「保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）」、「園開放・保育参観、学校公開・授業参観」の件数が多くなっています。

表 III-1 重要な交流・連携の取組

単位:件

交流・連携の内容			重要度1	重要度2	重要度3	重要度4	重要度5	合計
主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携	1	活動（遊び）や学習を中心とした交流	4	6	5	5	0	20
	2	あいさつ運動など生活面での交流	3	3	3	2	3	14
	3	運動会（体育祭）、音楽会（合唱祭）、お祭り（文化祭）などの行事交流	8	8	3	4	1	24
	4	絵画や制作などの作品交流	0	1	1	0	0	2
	5	給食交流	0	0	0	0	1	1
	6	合同での避難訓練や防災訓練	1	1	1	1	3	7
	7	学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）	9	3	6	3	2	23
	8	連携に関するアンケートの実施	0	2	0	0	0	2
	9	校庭や敷地、施設、遊具などを利用する活動	0	1	0	0	3	4
	10	園児がお散歩の途中に学校に寄って、校庭で遊んだり、トイレを借りたりする	0	0	0	0	0	0
	11	その他	2	1	2	2	0	7
主に教員・保育士が中心となる交流・連携	12	教育方針・保育方針についての情報共有や意見交換	5	4	1	3	0	13
	13	年間行事計画についての情報共有や意見交換	0	4	2	5	1	12
	14	園だより・学校だよりの他園・他校への送付	0	0	0	1	2	3
	15	連携コーナー（掲示板）の設置	1	0	0	0	0	1
	16	【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換	24	6	6	1	1	38
	17	【入学後】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換	1	10	4	7	2	24
	18	教職員による保育参観・体験や授業参観	4	6	5	3	1	19
	19	教職員の合同研修会・授業研究会	9	4	5	2	3	23
	20	連携に関するアンケートの実施	0	1	0	0	0	1
	21	育ちの連続性を意識したカリキュラムの検討、作成や実施	0	0	0	0	1	1
	22	その他	1	0	0	0	1	2
主に保護者が対象となる交流・連携	23	保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）	3	1	4	4	3	15
	24	園開放・保育参観、学校公開・授業参観	0	4	6	1	4	15
	25	保護者による給食体験	0	0	0	0	0	0
	26	連携に関する園だより、学校だよりの作成・配布	0	0	0	0	0	0
	27	その他	0	0	0	0	0	0

【重要と考える理由】

主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携、主に教員・保育士が中心となる交流・連携、主に保護者が対象となる交流・連携のそれぞれについて、合計件数が多かった上位3位の理由は以下のようになっています。

(主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携)

①「運動会（体育祭）、音楽会（合唱祭）、お祭り（文化祭）などの行事交流」（24件）

記述があったのは21件でした（1件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は21件より多くなっています）。

項目	件数
児童生徒のつながりができるから	7
行事の活動を通して中学校の行事への取組を肌で感じ取れるから	4
互いの学校をよく知ることができるから	3
その他	8

②「学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）」（23件）

記述があったのは20件でした（1件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は20件より多くなっています）。

項目	件数
入学前の不安を軽減するため	4
生徒の様子が把握できるから	3
子どもの理解のため	2
キャリア教育の一環としているから	2
職場体験を通して生徒に職業の重要性を伝えることができる	2
その他	9

③「活動（遊び）や学習を中心とした交流」（20件）

記述があったのは17件でした（1件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は17件より多くなっています）。

項目	件数
入学前の不安を軽減するため	3
「中1ギャップ」解消のため	2
児童生徒のつながりができるから	2
他校の生徒の様子を把握することができる	2
その他	9

Ⅲ 中学校の調査結果

(主に教員・保育士が中心となる交流・連携)

① 「【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」(38件)

記述があったのは34件でした(1件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は34件より多くなっています)。

項目	件数
情報共有・共通理解ができるから	9
学級編成に生かすため	8
適切な指導ができるから	8
入学前の生徒の実態を知ることができるから	4
生徒の理解を深められるから	3
「中1ギャップ」の解消のため	3
一人ひとりの生徒の支援に役立たせることができるから	2
その他	7

② 「【入学後】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」(24件)

記述があったのは18件でした(1件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は18件より多くなっています)。

項目	件数
情報共有・共通理解ができるから	12
適切な指導ができるから	4
入学後の変容を知ることができるから	3
入学後の生徒の成長の様子を認識してもらうため	2
入学後も連携が必要なため	2
その他	4

③ 「教職員の合同研修会・授業研究会」(23件)

記述があったのは19件でした(1件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は19件より多くなっています)。

項目	件数
互いの意思疎通、情報交換を図ることができるから	8
9年間を一貫した教育活動とするため	5
教員どうしが共通の認識のもとで教育にあたることが重要だから	3
「中1ギャップ」の解消のため	2
現状の理解、課題の明確化、解決に向けた方策のため	2
その他	2

(主に保護者が対象となる交流・連携)

①「保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）」（15 件）

記述があったのは 14 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 14 件より多くなっています）。

項目	件数
保護者の学校理解を図るため	6
保護者と連携を図るため	5
中学校の様子を知ってもらうため	2
保護者の不安を解消するため	2
その他	1

②「園開放・保育参観、学校公開・授業参観」（15 件）

記述があったのは 12 件でした。

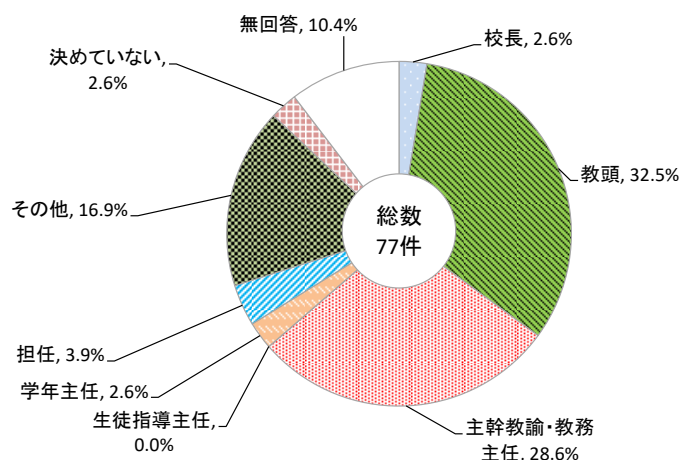
項目	件数
保護者の学校理解を図るため	5
学校の様子を知ってもらうため	5
その他	2

（６）交流・連携の窓口の主な担当者

問６ 【問１で１の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の窓口は、主にどなたが担当していますか。（○は１つだけ）

「教頭」の割合が 32.5%と最も高く、次いで「主幹教諭・教務主任」の割合が 28.6%、「校長」と「学年主任」の割合がそれぞれ 2.6%となっています。

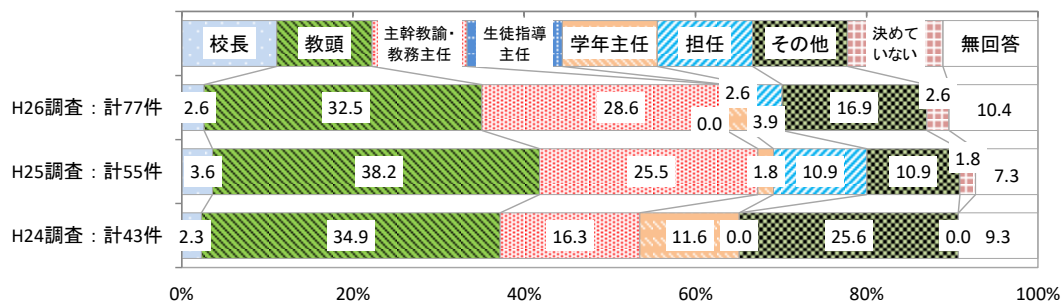
図Ⅲ－１５ 交流・連携の窓口の主な担当者



【平成２６年度・平成２５年度・平成２４年度の調査結果の比較】

「主幹教諭・教務主任」の割合が、増加傾向となっています。

図Ⅲ－１６ 交流・連携の窓口の主な担当者
(平成２６年度・平成２５年度・平成２４年度の調査結果の比較)



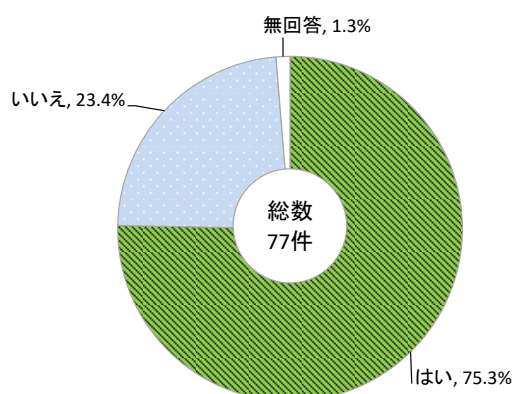
※ 平成２４年度調査、平成２５年度調査は「生徒指導主任」の項目なし。「主幹教諭・教務主任」は、平成２４年度調査、平成２５年度調査の「教務主任・主任」と比較している。

（７）交流・連携の窓口の担当者の固定化

問７ 【問１で１の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の窓口の担当者は、固定して（校内で決まって）いますか。（○は１つだけ）

「はい」の割合が 75.3%、「いいえ」の割合が 23.4%となっています。

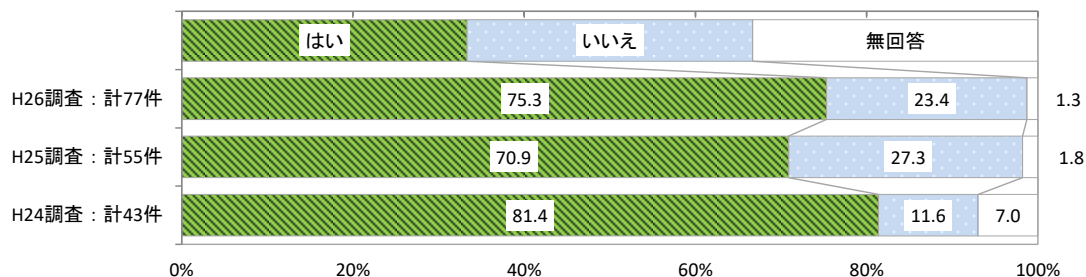
図Ⅲ－１７ 交流・連携の窓口の担当者の固定化



【平成２６年度・平成２５年度・平成２４年度の調査結果の比較】

「はい」の割合が、平成２４年度から平成２５年度にかけて低くなり、平成２５年度から平成２６年度にかけてほぼ横ばいとなっています。

図Ⅲ－１８ 交流・連携の窓口の担当者の固定化
(平成２６年度・平成２５年度・平成２４年度の調査結果の比較)

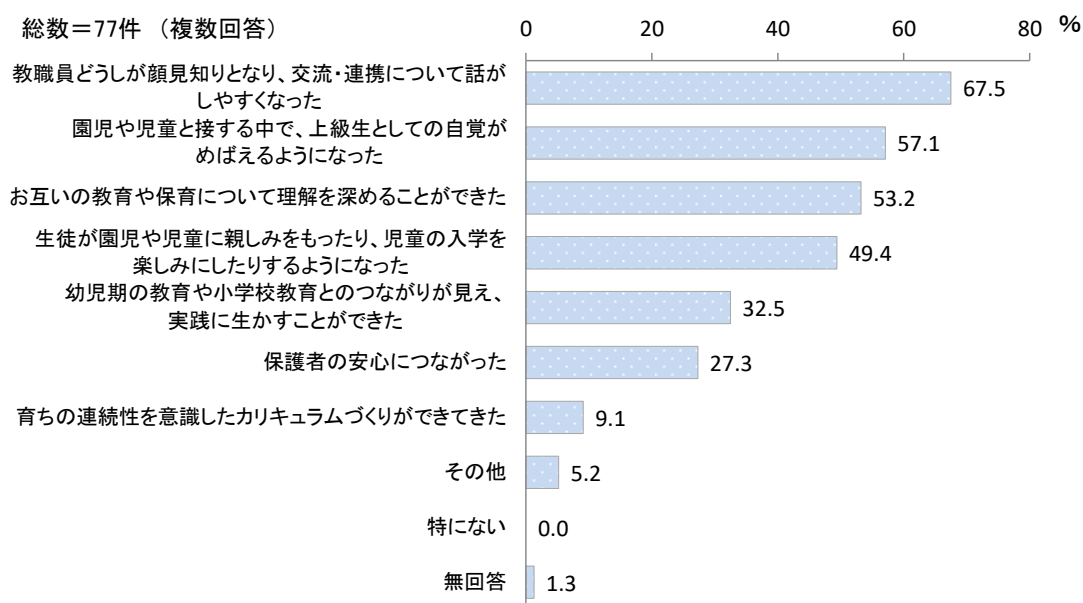


（８）交流・連携を行って良かった点

問８ 【問１で１の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携を行って良かった点は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

「教職員どうしが顔見知りとなり、交流・連携について話がしやすくなった」の割合が 67.5%と最も高く、次いで「園児や児童と接する中で、上級生としての自覚がめばえるようになった」の割合が 57.1%、「お互いの教育や保育について理解を深めることができた」の割合が 53.2%となっています。

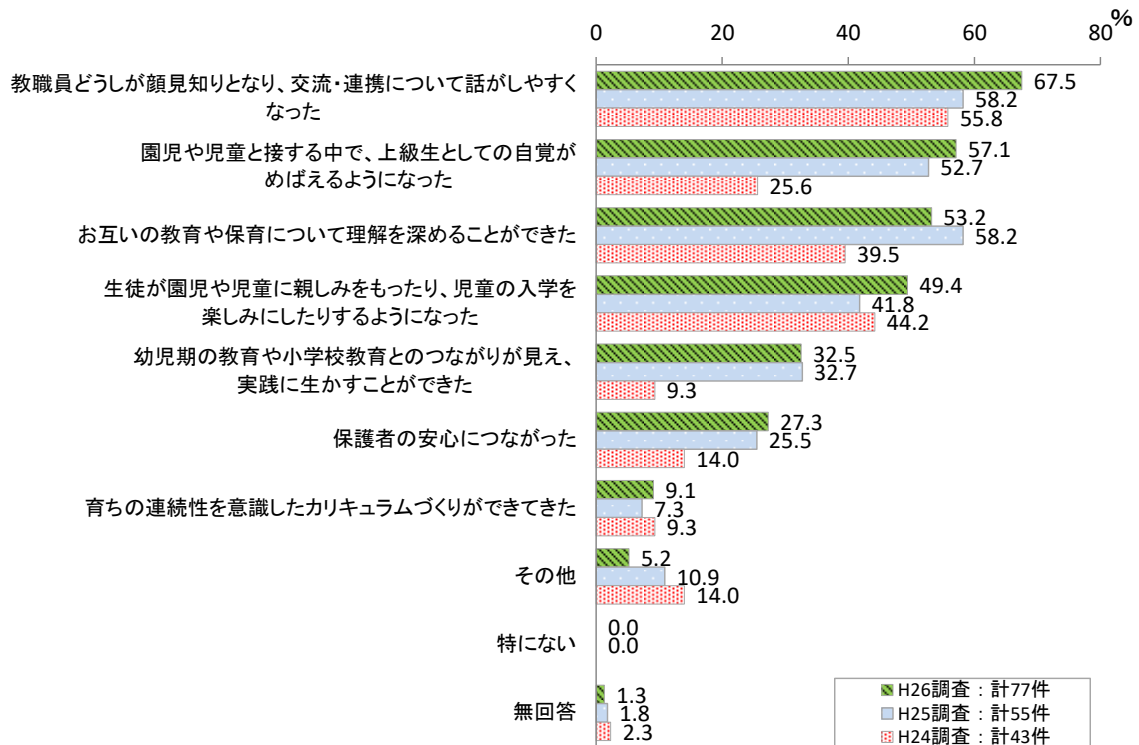
図Ⅲ－１９ 交流・連携を行って良かった点



【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、「教職員どうしが顔見知りとなり、交流・連携について話がしやすくなった」、「園児や児童と接する中で、上級生としての自覚がめばえるようになった」、「生徒が園児や児童に親しみをもったり、児童の入学を楽しみにしたりするようになった」、「幼児期の教育や小学校教育とのつながりが見え、実践に生かすことができた」、「保育者の安心につながった」の割合が、増加傾向となっています。

図Ⅲ－２０ 交流・連携を行って良かった点
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



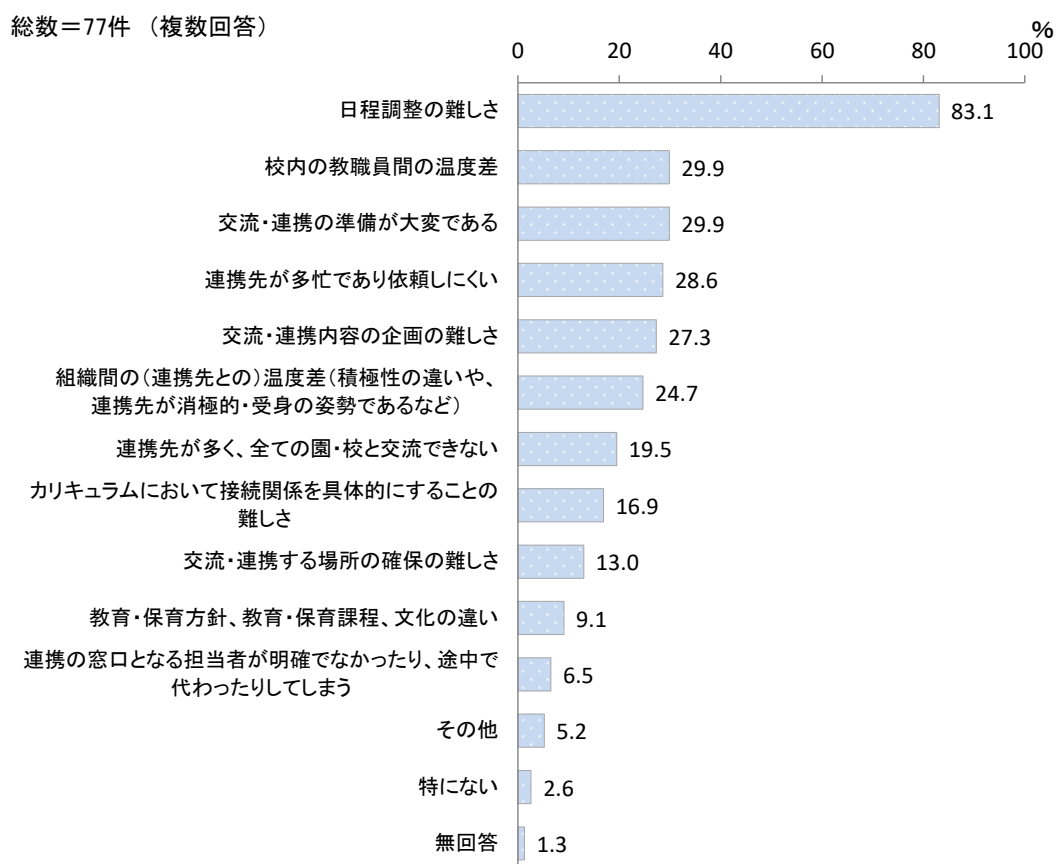
※ 平成24年度調査は「特にない」の項目なし。

（９）交流・連携の課題となる点

問９ 【問１で１の「はい」に○をつけた場合にお答えください】 交流・連携の実施にあたって課題となる点は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

「日程調整の難しさ」の割合が83.1%と最も高く、次いで「校内の教職員間の温度差」と「交流・連携の準備が大変である」の割合がそれぞれ29.9%、「連携先が多忙であり依頼しにくい」の割合が28.6%となっています。

図Ⅲ－２１ 交流・連携の課題となる点

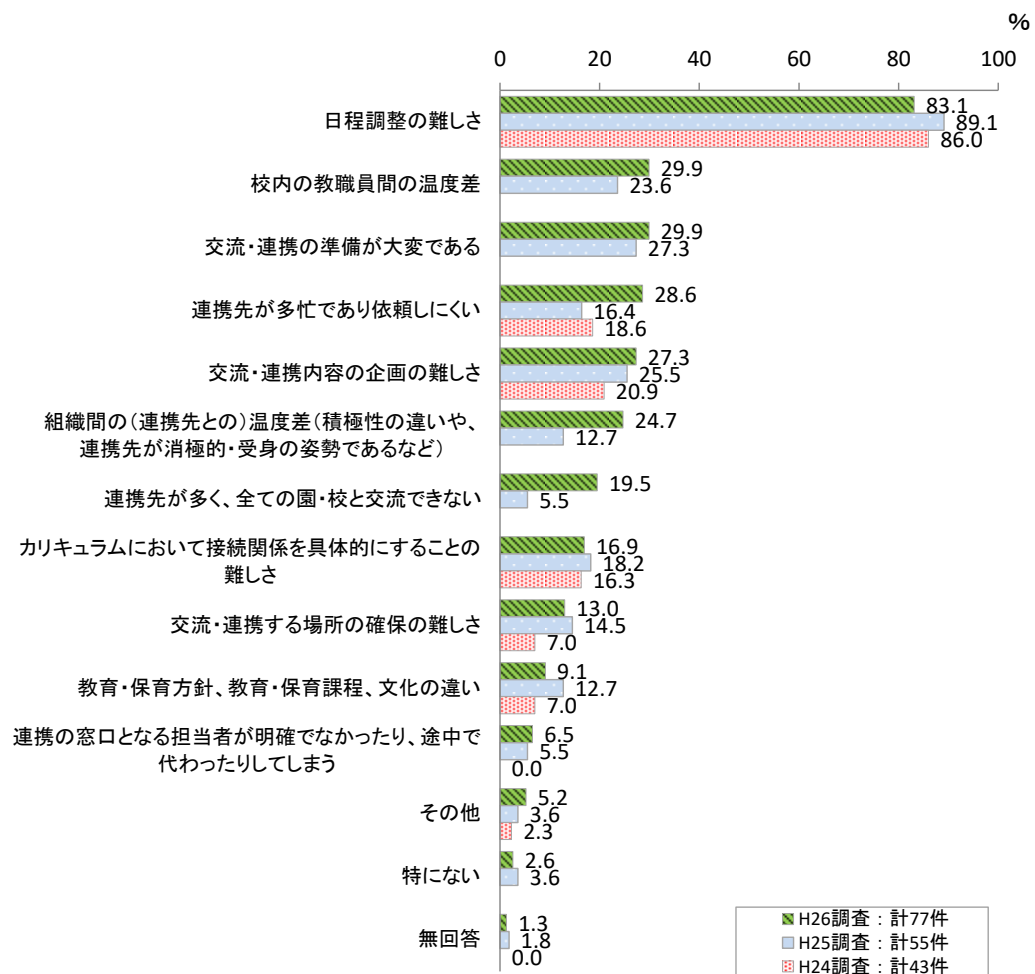


【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、「日程調整の難しさ」の割合が、依然として高い水準であるものの、平成25年度から平成26年度にかけて低くなっています。

また、「校内の教職員間の温度差」、「交流・連携の準備が大変である」、「連携先が多忙であり依頼しにくい」、「交流・連携内容の企画の難しさ」、「組織間の（連携先との）温度差（積極的の違いや、連携先が消極的・受身の姿勢であるなど）」、「連携先が多く、全ての園・校と交流できない」の割合が、増加傾向となっています。

図Ⅲ－２２ 交流・連携の課題となる点
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は「連携先が多く、全ての園・校と交流できない」、「交流・連携の準備が大変である」、「特にない」の項目なし。

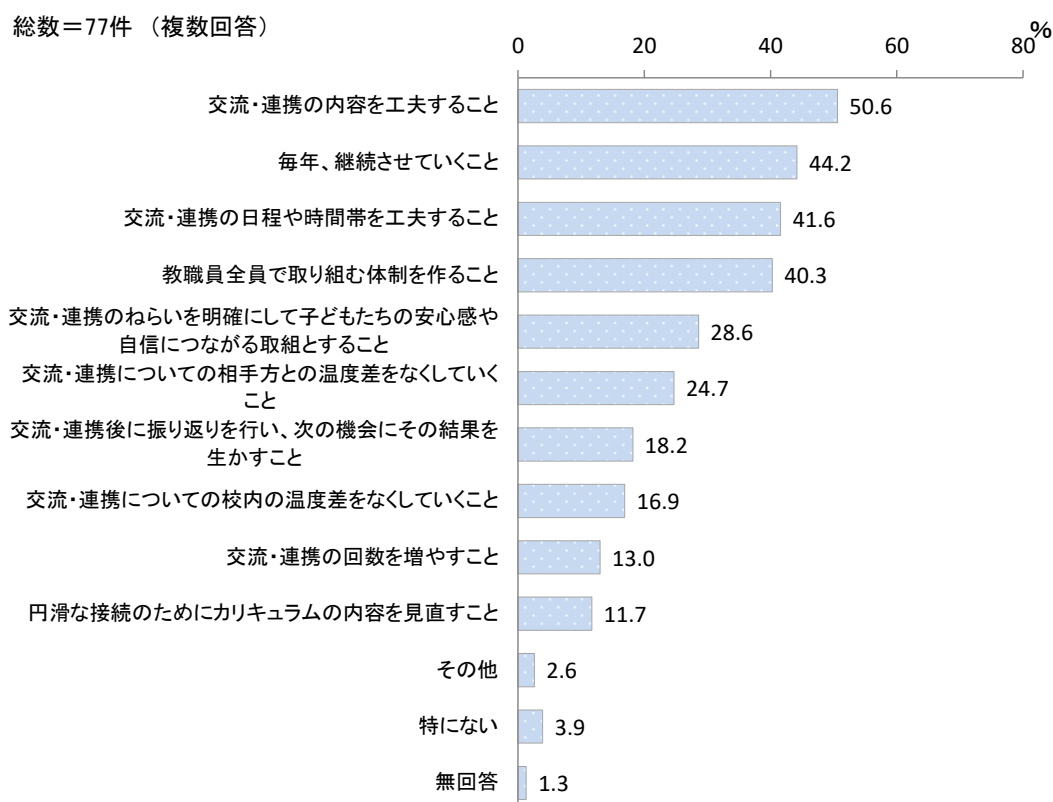
「組織間の（連携先との）温度差（積極的の違いや、連携先が消極的・受身の姿勢であるなど）」は、平成25年度調査の「組織間の温度差」と「連携先が消極的・受身の姿勢である」を合わせた値と比較している。平成24年度調査の「組織・教職員間の温度差」とは、内容が一部異なるため、比較していない。

（１０）交流・連携で改善したい点

問１０ 【問１で１の「はい」に○をつけた場合にお答えください】 交流・連携の実施にあたって改善したい点は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

「交流・連携の内容を工夫すること」の割合が 50.6%と最も高く、次いで「毎年、継続させていくこと」の割合が 44.2%、「交流・連携の日程や時間帯を工夫すること」の割合が 41.6%となっています。

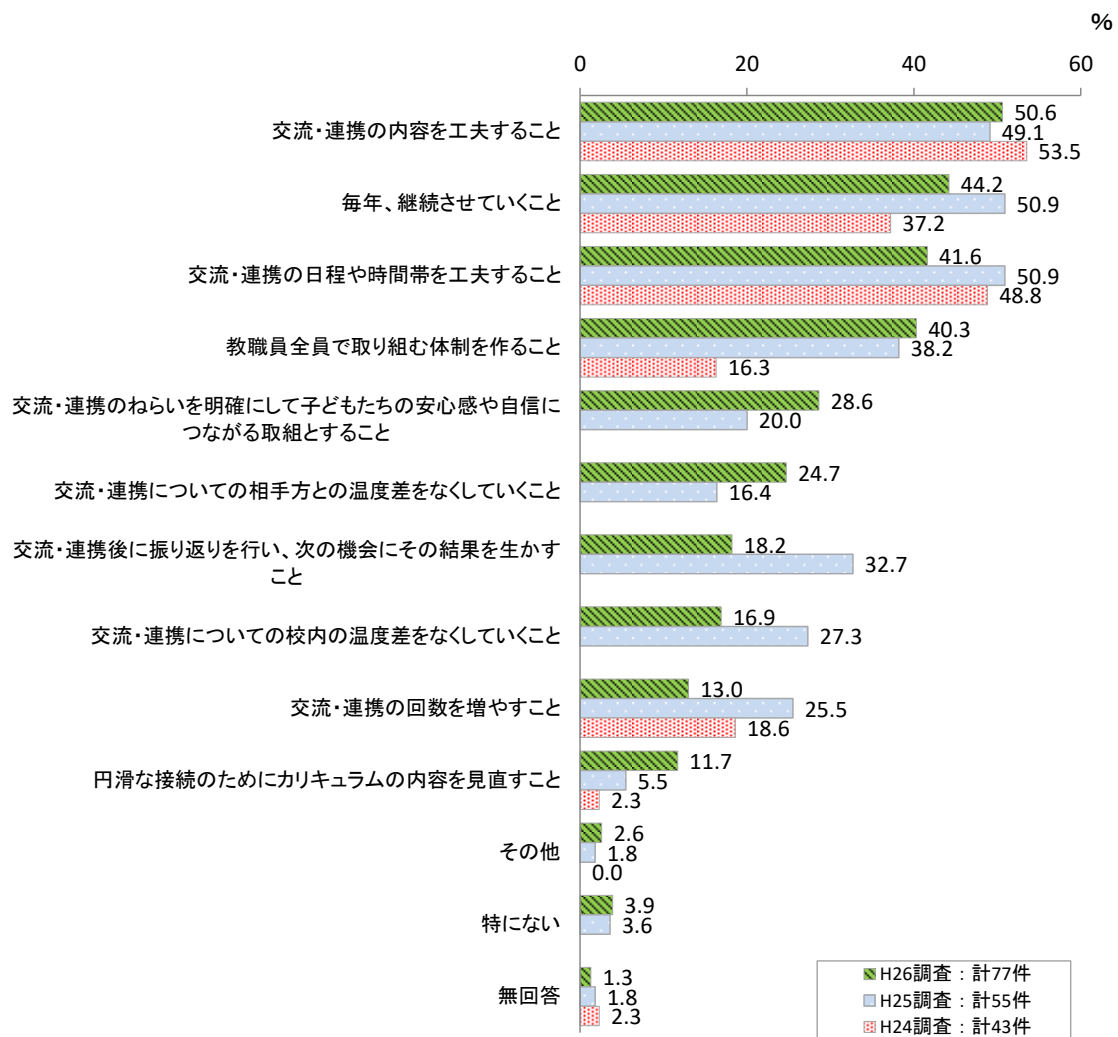
図Ⅲ－２３ 交流・連携で改善したい点



【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、「交流・連携の内容を工夫すること」の割合が、減少傾向となっています。
また、「教職員全員で取り組む体制を作ること」の割合が、増加傾向となっています。

図Ⅲ－２４ 交流・連携で改善したい点
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は「交流・連携のねらいを明確にして子どもたちの安心感や自信につながる取組とすること」、「交流・連携についての相手方との温度差をなくしていくこと」、「交流・連携後に振り返りを行い、次の機会にその結果を生かすこと」、「交流・連携についての校内の温度差をなくしていくこと」、「特にない」の項目なし。

（１１）交流・連携の実施が困難な理由

問１１ 【問１で２の「いいえ」に○をつけた場合にお答えください】 交流・連携の実施が困難な理由は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

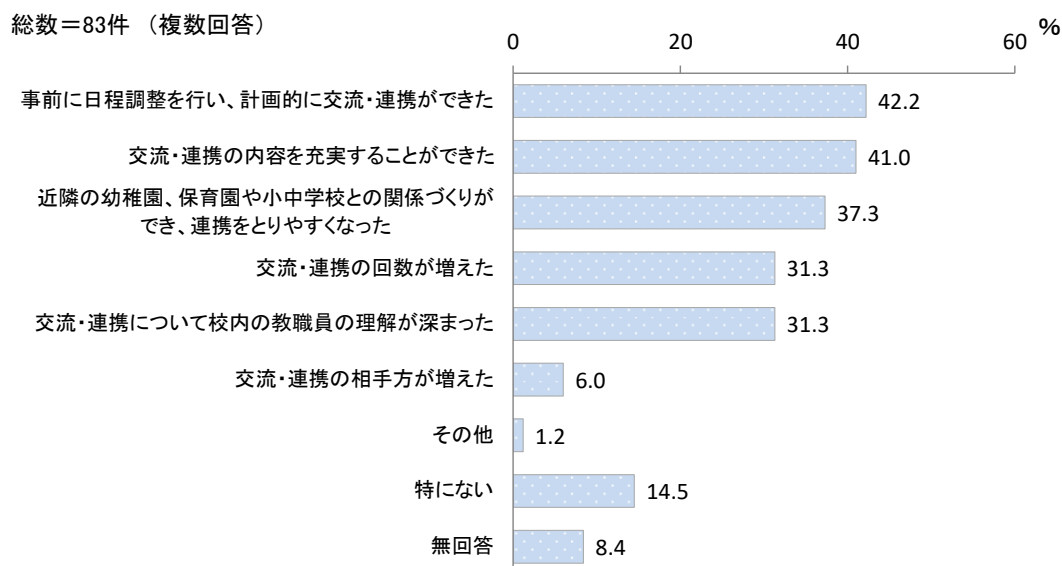
「日程調整が難しい」という回答が３件、「これまで交流・連携をしておらず、関係ができていない」という回答が３件、「交流・連携の仕方が分からない」が２件、「その他」が１件となっています。

（１２）他園・校との交流・連携について改善されたこと

問１２ あなたの学校において、昨年度（平成２５年度）当初と比べ、他園・校との交流・連携について改善されたことはありますか。（あてはまるもの全てに○）

「事前に日程調整を行い、計画的に交流・連携ができた」の割合が４２．２％と最も高く、次いで「交流・連携の内容を充実することができた」の割合が４１．０％、「近隣の幼稚園、保育園や小中学校との関係づくりができ、連携をとりやすくなった」の割合が３７．３％となっています。

図Ⅲ－２５ 他園・校との交流・連携について改善されたこと

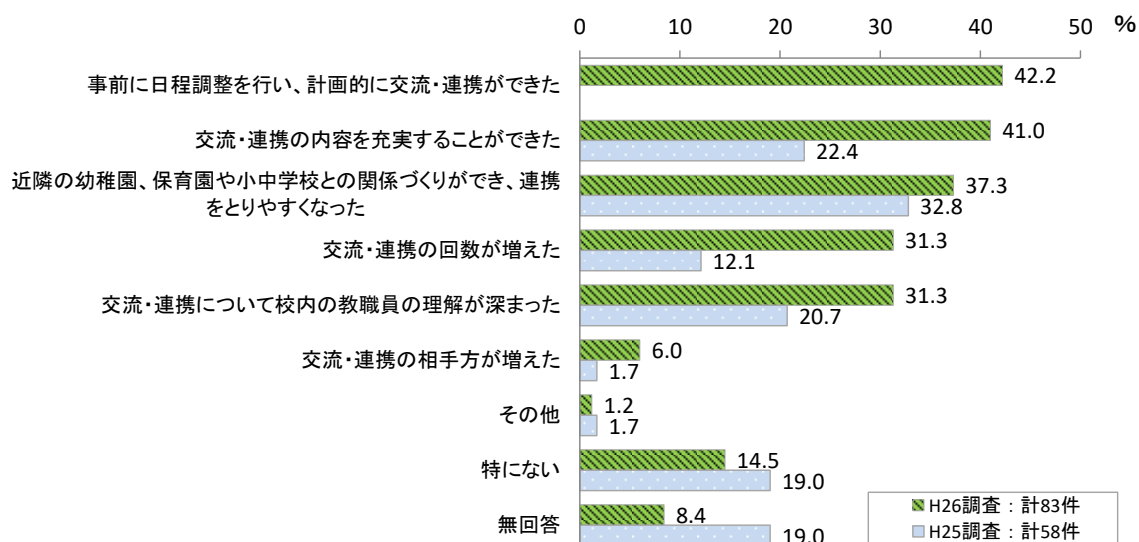


【平成２６年度・平成２５年度の調査結果の比較】

平成２５年度調査と比較すると、多くの項目で回答の割合が増加しています。

「交流・連携の内容を充実することができた」、「交流・連携の回数が増えた」、「交流・連携について校内の教職員の理解が深まった」の割合は、特に高くなっています。

図Ⅲ－２６ 他園・校との交流・連携について改善されたこと
(平成２６年度・平成２５年度の調査結果の比較)



※ 平成２５年度調査は「事前に日程調整を行い、計画的に交流・連携ができた」の項目なし。

3 「中1ギャップ」について

問13～問17は、校長、教頭、主幹教諭又は教務主任、生徒指導主任、1年生の学年主任のみが回答しました。

「中1ギャップ」について、あなたの学校の状況を教えてください。

「中1ギャップ」とは

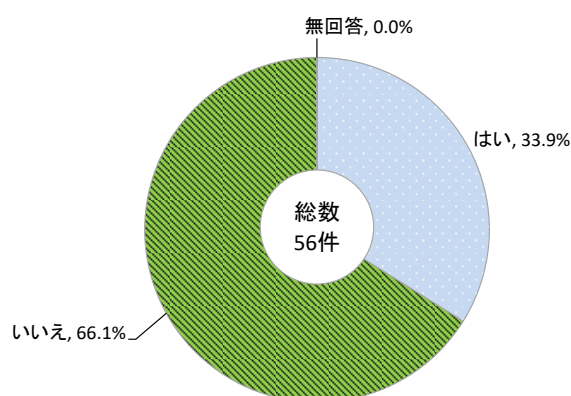
授業内容の高度化や、先輩・後輩といった上下関係など、小学校にはなかった新しい環境になじめず、不登校になったり、生活の乱れがみられたり、学習を放棄したりなどしてしまう生徒が中学生になって急増することをいいます。

(1) 「中1ギャップ」の発生状況

問13 あなたの学校では、今年度（平成26年度）、「中1ギャップ」といわれる状況がみられますか。
（○は1つだけ）

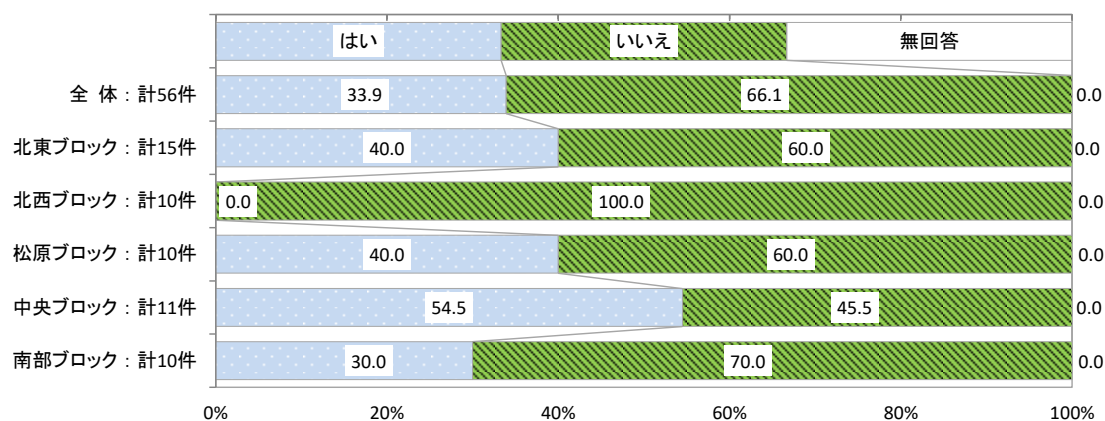
「はい」の割合が33.9%、「いいえ」の割合が66.1%となっています。

図Ⅲ－27 「中1ギャップ」の発生状況



地域別の「中1ギャップ」の発生状況は、以下のとおりとなっています。

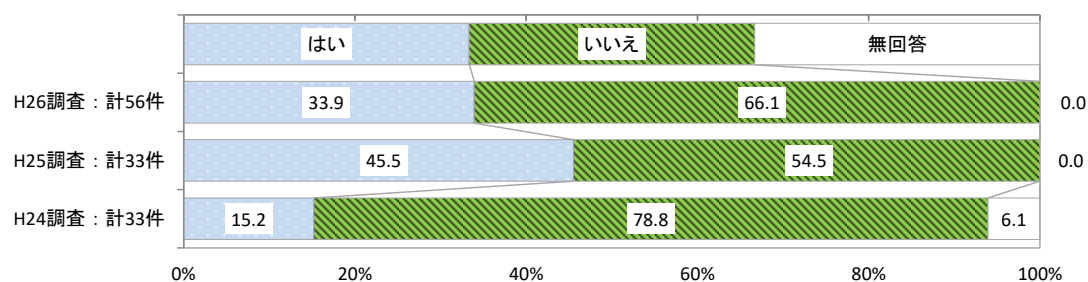
図Ⅲ－28 「中1ギャップ」の発生状況
(地域別)



【平成２６年度・平成２５年度・平成２４年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、「はい」の割合が、平成２４年度から平成２５年度にかけて高くなり、平成２５年度から平成２６年度にかけて低くなっています。

図Ⅲ－２９ 「中１ギャップ」の発生状況
(平成２６年度・平成２５年度・平成２４年度の調査結果の比較)

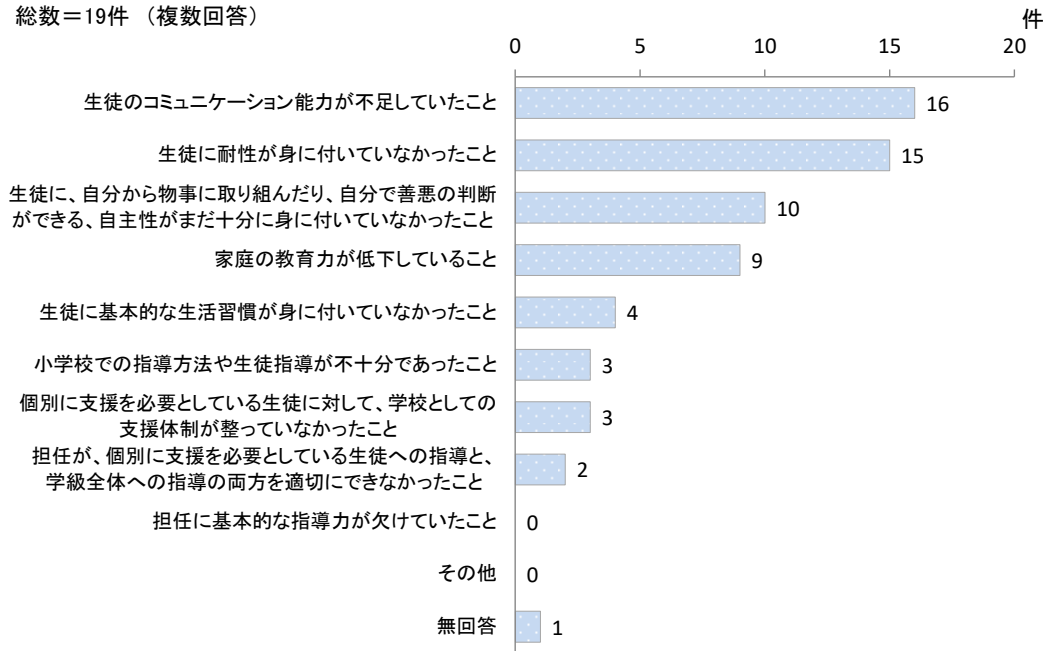


(2) 「中1ギャップ」の要因

問14 【問13で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】「中1ギャップ」がみられる要因はどのようなことであると考えますか。(あてはまるもの全てに○)

「生徒のコミュニケーション能力が不足していたこと」の件数が16件と最も多く、次いで「生徒に耐性が身に付いていなかったこと」の件数が15件、「生徒に、自分から物事に取り組んだり、自分で善悪の判断ができる、自主性がまだ十分に身に付いていなかったこと」の件数が10件、「家庭の教育力が低下していること」の件数が9件となっています。

図 III-30 「中1ギャップ」の要因



【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果ともに、「生徒のコミュニケーション能力が不足していたこと」、「生徒に耐性が身に付いていなかったこと」、「生徒に、自分から物事に取り組んだり、自分で善悪の判断ができる、自主性がまだ十分に身に付いていなかったこと」の件数が、多くなっています。

表 III-2 「中1ギャップ」の要因
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

単位: 件

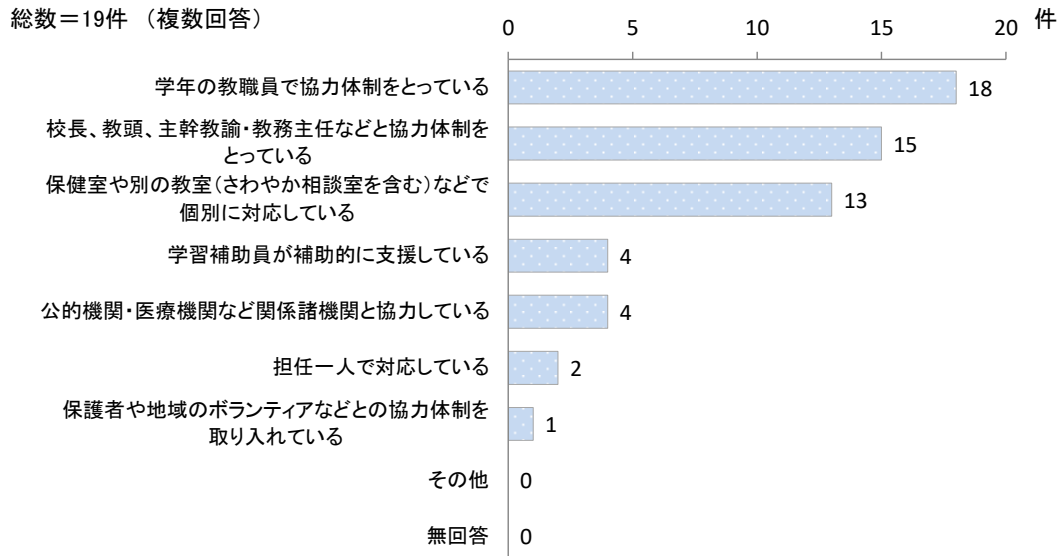
	生徒に基本的な生活習慣が身に付いていなかったこと	生徒のコミュニケーション能力が不足していたこと	生徒に耐性が身に付いていなかったこと	生徒に、自分から物事に取り組んだり、自分で善悪の判断ができる、自主性がまだ十分に身に付いていなかったこと	家庭の教育力が低下していること	小学校での指導方法や生徒指導が不十分であったこと	担任が、個別に支援を必要としている生徒への指導と、学級全体への指導の両方を適切にできなかったこと	担任に基本的な指導力が欠けていたこと	個別に支援を必要としている生徒に対して、学校としての支援体制が整っていなかったこと	その他	無回答
H26調査：計19件	4	16	15	10	9	3	2	0	3	0	1
H25調査：計15件	7	11	8	9	7	3	4	0	1	1	0
H24調査：計5件	0	2	4	3	3	0	2	0	0	0	0

(3) 「中1ギャップ」への対応

問15 【問13で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】「中1ギャップ」とみられる状況に、どのように対応していますか。(あてはまるもの全てに○)

「学年の教職員で協力体制をとっている」の件数が18件と最も多く、次いで「校長、教頭、主幹教諭・教務主任などと協力体制をとっている」の件数が15件、「保健室や別の教室（さわやか相談室を含む）などで個別に対応している」の件数が13件となっています。

図 III-31 「中1ギャップ」への対応



【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果ともに、「学年の教職員で協力体制をとっている」、「校長、教頭、主幹教諭・教務主任などと協力体制をとっている」、「保健室や別の教室（さわやか相談室を含む）などで個別に対応している」の件数が、多くなっています。

表 III-3 「中1ギャップ」への対応
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

単位: 件

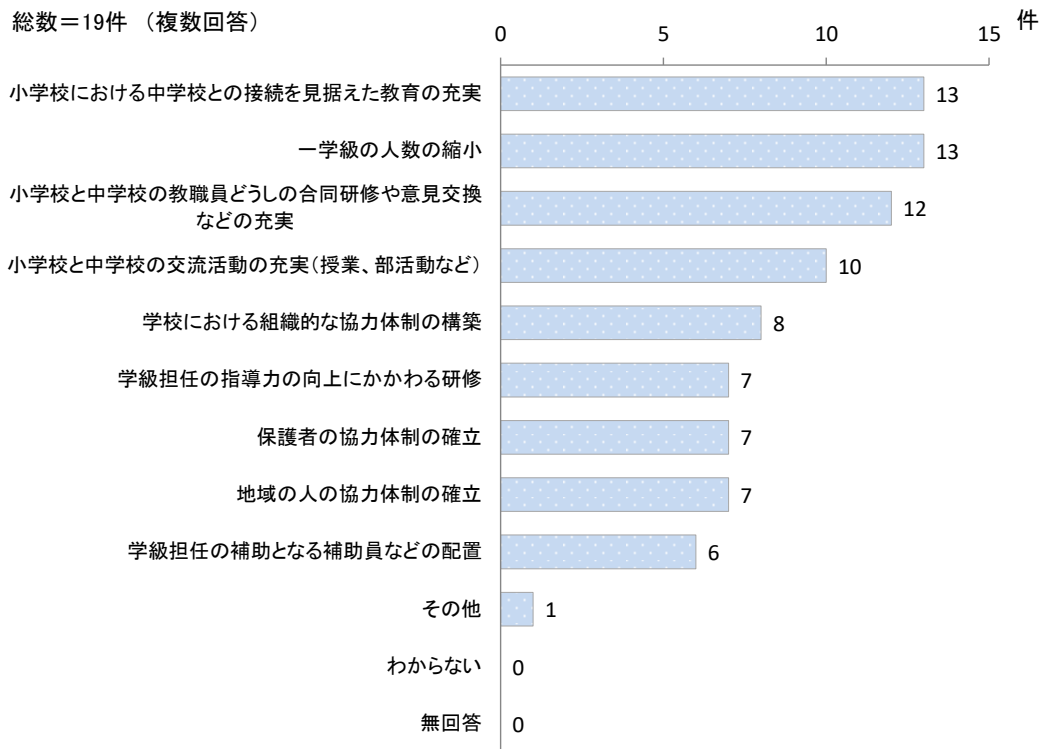
	担任一人 で対応して いる	学年の 教職員で 協力体制 をとって いる	校長、 教頭、 主幹教 諭・教 務主任 などと 協力体 制をと っている	保護者 や地域 のボラ ンティア などの 協力体 制を取 り入れ ている	学習 補助員 が補助 的に支 援して いる	保健室 や別の 教室(さ わやか 相談室 を含む) などで 個別に 対応し ている	公的機 関・医 療機関 などと 協力し ている	その他	無回 答
H26調査: 計19件	2	18	15	1	4	13	4	0	0
H25調査: 計15件	3	14	10	1	0	8	6	1	0
H24調査: 計5件	0	4	2	0	0	1	0	0	1

(4) 「中1ギャップ」の発生の予防や解消のための対応策

問16 【問13で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】「中1ギャップ」の発生の予防や解消にはどのような対応策が効果的だと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

「小学校における中学校との接続を見据えた教育の充実」、「一学級の人数の縮小」の件数がともに13件と最も多く、次いで「小学校と中学校の教職員どうしの合同研修や意見交換などの充実」の件数が12件、「小学校と中学校の交流活動の充実(授業、部活動など)」の件数が10件となっています。

図III-32 「中1ギャップ」の発生の予防や解消のための対応策



【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果ともに、「小学校における中学校との接続を見据えた教育の充実」、「小学校と中学校の教職員どうしの合同研修や意見交換などの充実」、「小学校と中学校の交流活動の充実(授業、部活動など)」、「一学級の人数の縮小」の件数が、多くなっています。

表III-4 「中1ギャップ」の発生の予防や解消のための対応策
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

単位: 件

	小学校における中学校との接続を見据えた教育の充実	小学校と中学校の教職員どうしの合同研修や意見交換などの充実	小学校と中学校の交流活動の充実(授業、部活動など)	学級担任の補助となる補助員などの配置	一学級の人数の縮小	学級担任の指導力の向上にかかわる研修	学校における組織的な協力体制の構築	保護者の協力体制の確立	地域の人の協力体制の確立	その他	わからない	無回答
H26調査: 計19件	13	12	10	6	13	7	8	7	7	1	0	0
H25調査: 計15件	10	8	12	5	12	4	9	11	2	3	0	0
H24調査: 計5件	2	2	2	1	2	0	2	0	0	1	0	2

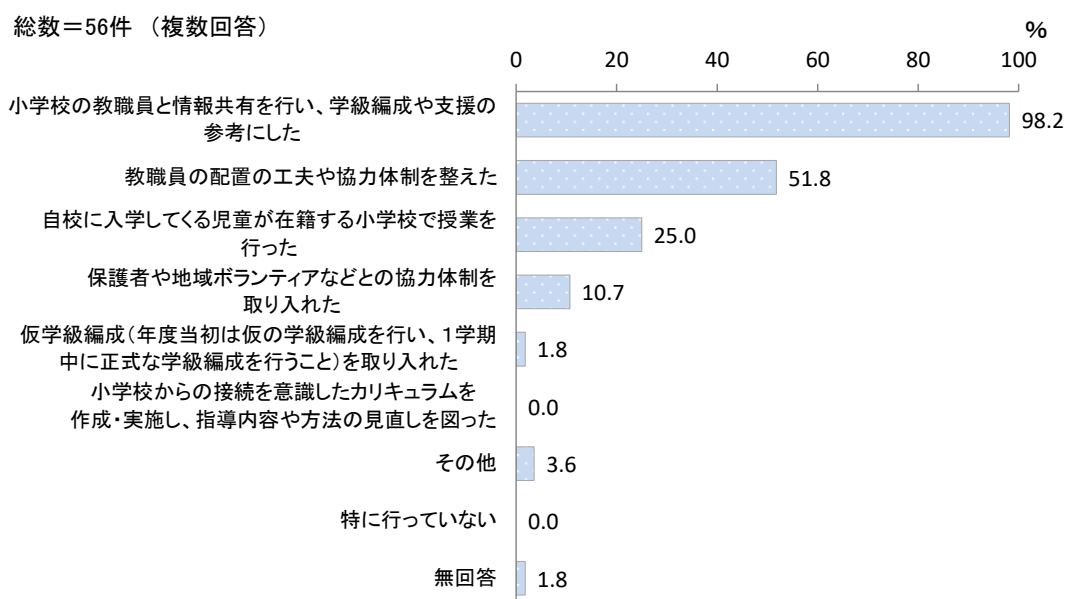
※ 「小学校と中学校の交流活動の充実(授業、部活動など)」は、平成24年度調査の「小学校と中学校の交流活動の充実」と比較している。

(5) 入学に際しての配慮や準備

問 17 あなたの学校では、入学に際し、以下のような配慮や準備を何か行っていますか。(あてはまるもの全てに○)

「小学校の教職員と情報共有を行い、学級編成や支援の参考にした」の割合が 98.2%と最も高く、次いで「教職員の配置の工夫や協力体制を整えた」の割合が 51.8%、「自校に入学してくる児童が在籍する小学校で授業を行った」の割合が 25.0%となっています。

図 III-33 入学に際しての配慮や準備

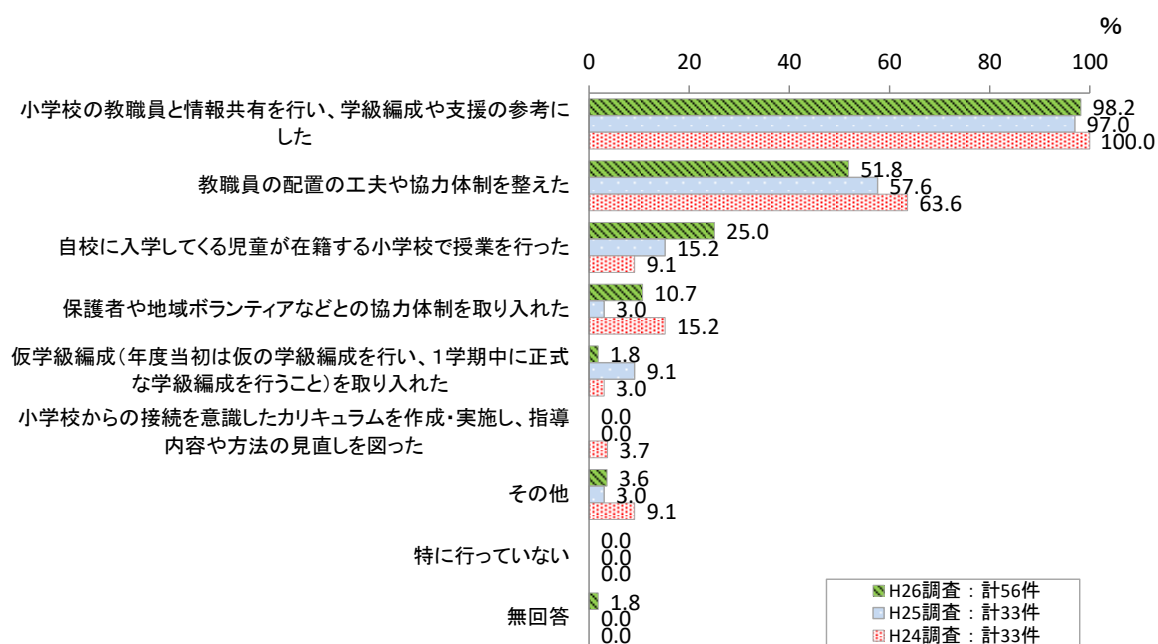


Ⅲ 中学校の調査結果

【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、「小学校の教職員と情報共有を行い、学級編成や支援の参考にした」の割合は、各年度とも非常に高い水準でほぼ横ばいとなっています。「教職員の配置の工夫や協力体制を整えた」の割合が、減少傾向となっています。「自校に入学してくる児童が在籍する小学校で授業を行った」の割合が、増加傾向となっています。

図Ⅲ－34 入学に際しての配慮や準備
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 「仮学級編成(年度当初は仮の学級編成を行い、1学期中に正式な学級編成を行うこと)を取り入れた」は、平成24年度調査、平成25年度調査の「仮学級編成を取り入れた」と比較している。

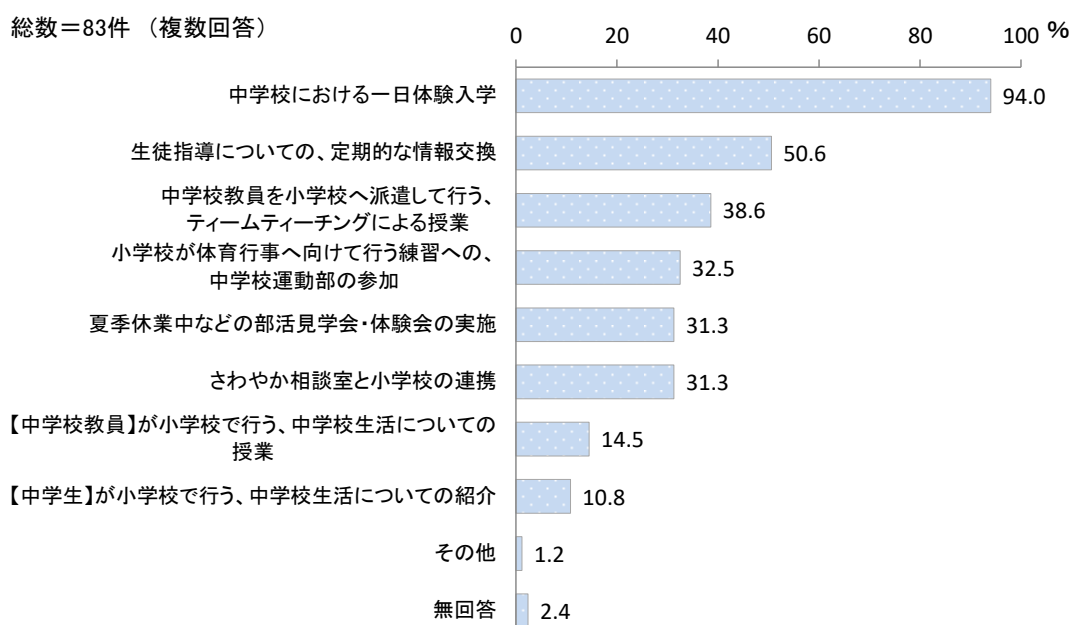
4 中学校進学に向けた取組について

(1) 進学してくる小学生に対して行っている具体的な取組

問18 あなたの学校では、進学してくる小学生に対する、生徒指導や教科指導などにおける具体的な取組として、どのようなことを行っていますか。(あてはまるもの全てに○)

「中学校における一日体験入学」の割合が94.0%と最も高く、次いで「生徒指導についての、定期的な情報交換」の割合が50.6%、「中学校教員を小学校へ派遣して行う、ティームティーチングによる授業」の割合が38.6%となっています。

図Ⅲ－35 進学してくる小学生に対して行っている具体的な取組

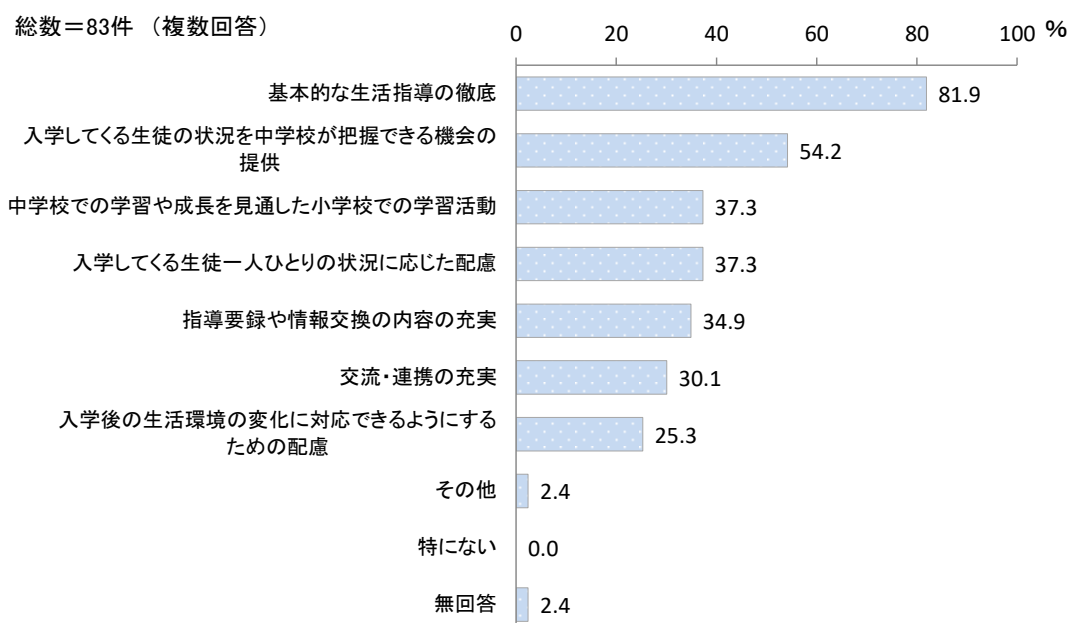


(2) 小学校に対して期待すること

問 19 あなたの学校に入学する生徒の出身校である小学校に対して、どのようなことを期待しますか。
(あてはまるもの全てに○)

「基本的な生活指導の徹底」の割合が 81.9%と最も高く、次いで「入学してくる生徒の状況を中学校が把握できる機会の提供」の割合が 54.2%、「中学校での学習や成長を見通した小学校での学習活動」、「入学してくる生徒一人ひとりの状況に応じた配慮」の割合がそれぞれ 37.3%となっています。

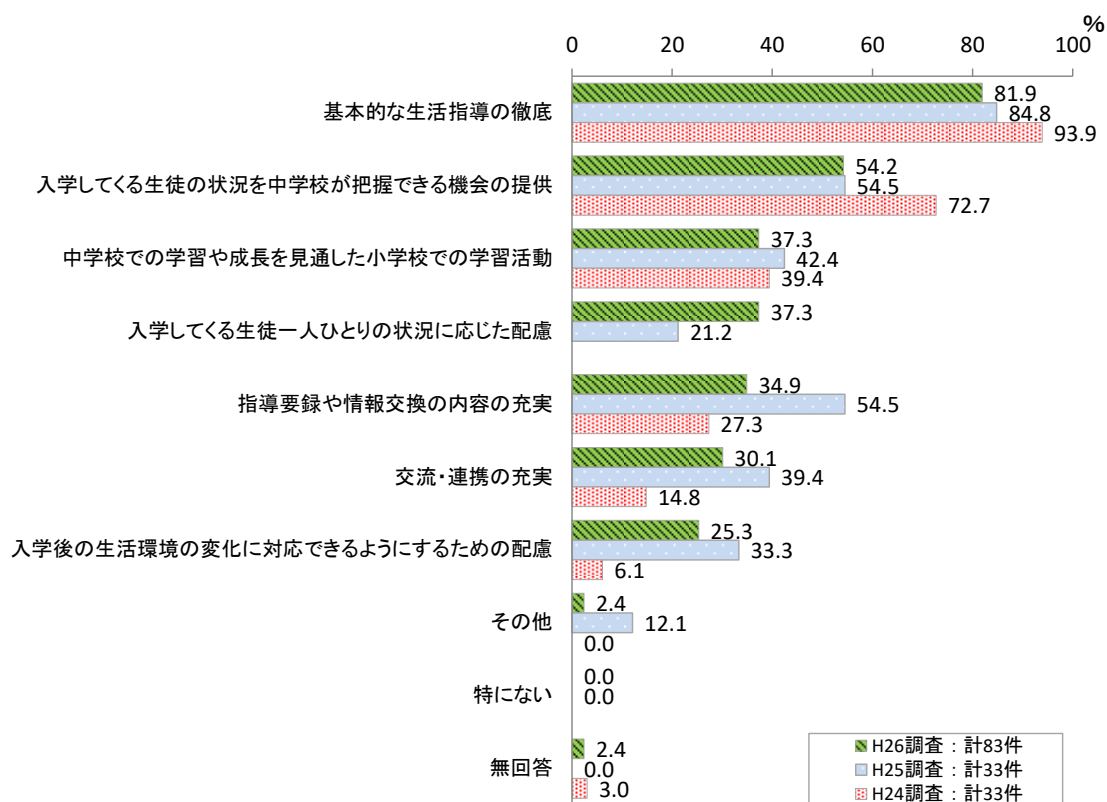
図 III-36 小学校に対して期待すること



【平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、「基本的な生活指導の徹底」、「入学してくる生徒の状況を中学校が把握できる機会の提供」の割合が減少傾向となっています。

図Ⅲ－３７ 小学校に対して期待すること
(平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は「入学してくる生徒一人ひとりの状況に応じた配慮」、「特にない」の項目なし。

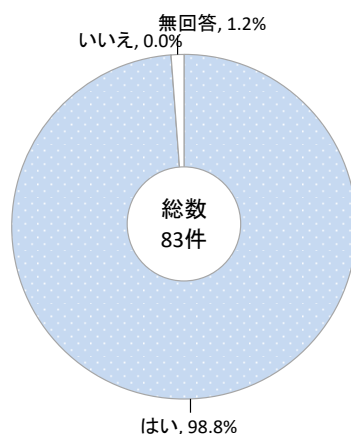
5 家庭教育への支援について

(1) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性について

問20 子どもたちの育ちを支えるために、家庭との連携や、家庭教育を支援する必要性を感じますか。
(○は1つだけ)

「はい」の割合が98.8%となっています。

図Ⅲ-38 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性について

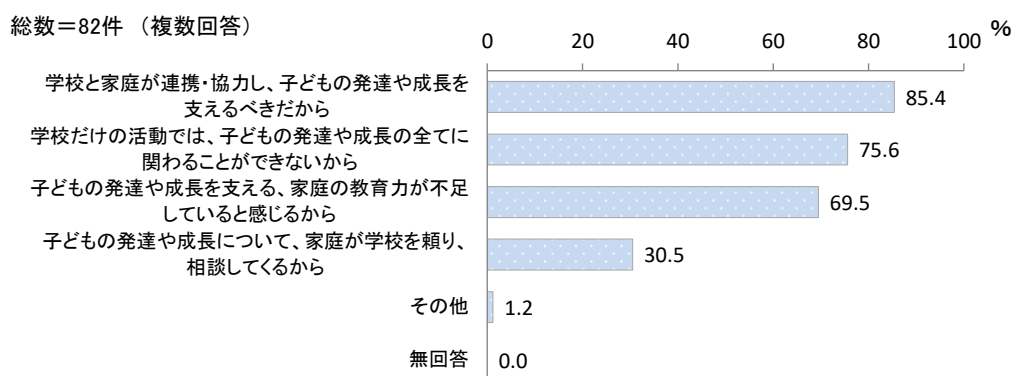


(2) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性を感じる理由

問21 【問20で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】家庭との連携や家庭教育を支援する必要性を感じる理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

「学校と家庭が連携・協力し、子どもの発達や成長を支えるべきだから」の割合が85.4%と最も高く、次いで「学校だけの活動では、子どもの発達や成長の全てに関わるできないから」の割合が75.6%、「子どもの発達や成長を支える、家庭の教育力が不足していると感じるから」の割合が69.5%となっています。

図Ⅲ-39 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性を感じる理由

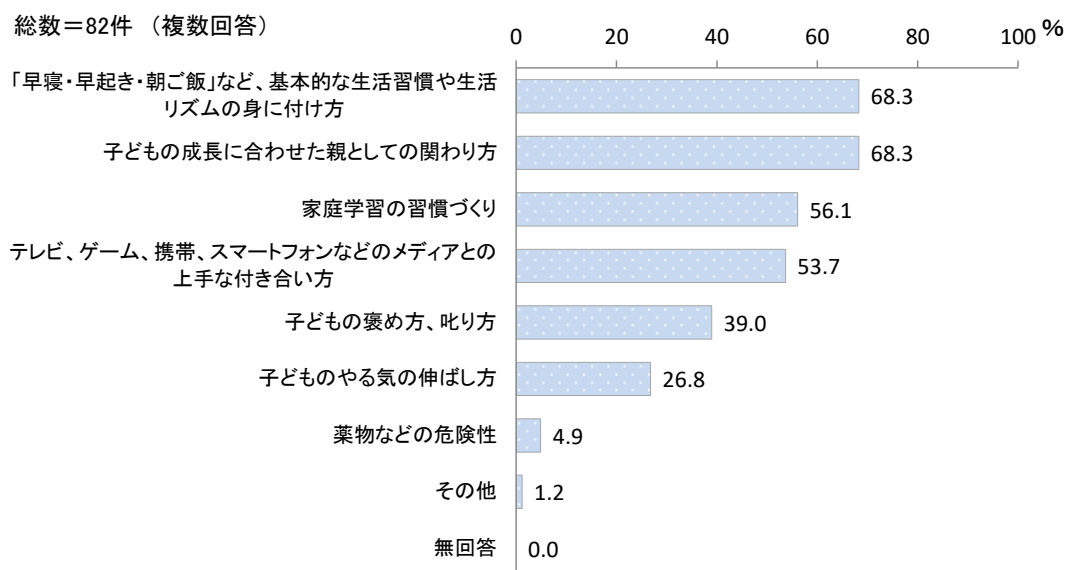


(3) 家庭教育への支援で行いたい具体的な取組

問22 【問20で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】家庭教育への支援を行う場合、具体的に、特に、どのような内容について、保護者に対し支援を行いたいですか。(○は3つまで)

『早寝・早起き・朝ご飯』など、基本的な生活習慣や生活リズムの身に付け方、「子どもの成長に合わせた親としての関わり方」の割合がそれぞれ 68.3%と最も高く、次いで「家庭学習の習慣づくり」の割合が 56.1%、「テレビ、ゲーム、携帯、スマートフォンなどのメディアとの上手な付き合い方」の割合が 53.7%となっています。

図 III-40 家庭教育への支援で行いたい具体的な取組



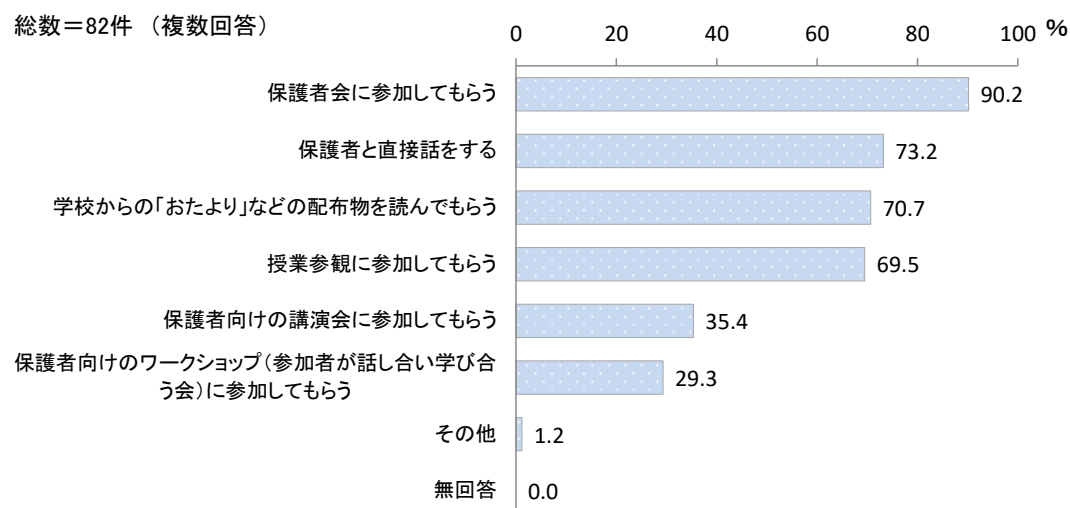
※ 問22については、4つ以上の回答が多数のため、複数回答として集計した。

(4) 家庭との連携・家庭教育への支援のために有効な機会・方法

問23 【問20で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】家庭との連携や家庭教育を支援するために有効だと考える機会や方法などは、何ですか。(あてはまるもの全てに○)

「保護者会に参加してもらう」の割合が 90.2%と最も高く、次いで「保護者と直接話をする」の割合が 73.2%、「学校からの『おたより』などの配布物を読んでもらう」の割合が 70.7%、「授業参観に参加してもらう」の割合が 69.5%となっています。

図 III-41 家庭との連携・家庭教育への支援のために有効な機会・方法

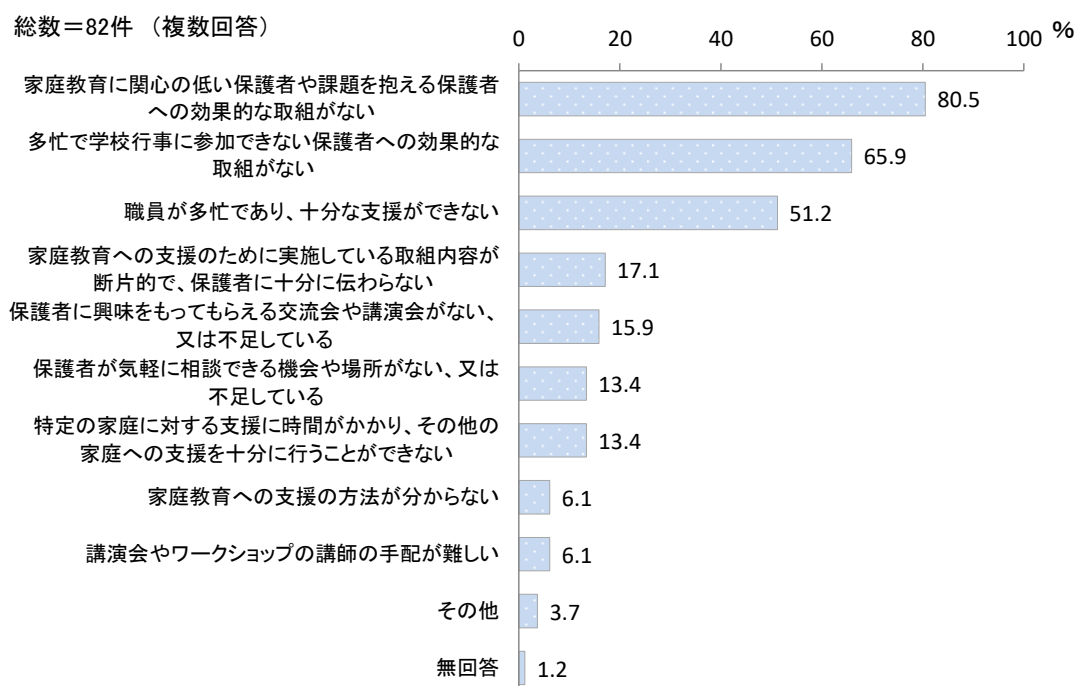


（５）家庭との連携・家庭教育への支援での課題

問２４ 【問２０で１の「はい」に○をつけた場合にお答えください】家庭との連携や家庭教育への支援を行う上での課題は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

「家庭教育に関心の低い保護者や課題を抱える保護者への効果的な取組がない」の割合が80.5%と最も高く、次いで「多忙で学校行事に参加できない保護者への効果的な取組がない」の割合が65.9%、「職員が多忙であり、十分な支援ができない」の割合が51.2%となっています。

図Ⅲ－４２ 家庭との連携・家庭教育への支援での課題



6 自由記述

最後に、あなたの学校や地域での交流・連携の取組状況、子ども教育の連携推進事業、草加市の教育についてご意見などがあれば、自由にご記入ください。

対象となる回収数 83 件中 22 件に記述がありました（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 22 件より多くなっています）。

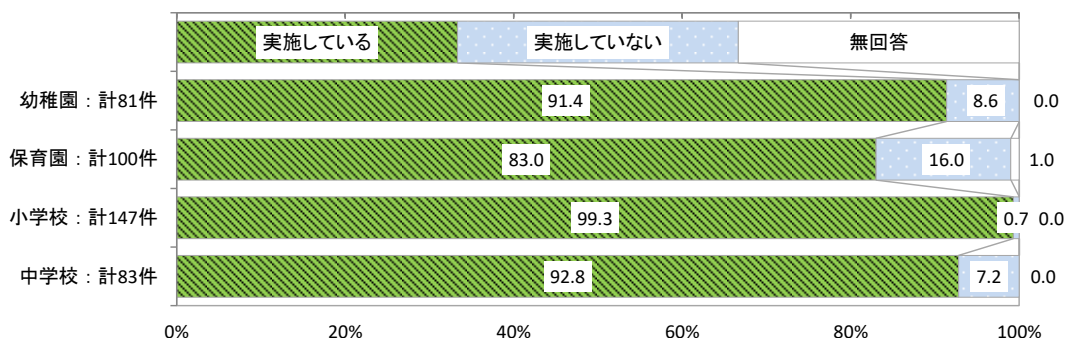
項目	件数
園・校間の連携に関すること	9
交流・連携を積極的・継続的に取り組んでいきたい	2
教育に支障が出ないように、無理なく継続できる連携がよい	2
生徒・家庭を十分に支援するための時間の確保が難しい	1
連携が着実に進められていると感じている	1
連携担当者の固定化が必要	1
中高連携の取組があるとよい	1
家庭との連携も必要	1
保護者に対しての講演会・研修会を開いてほしい	2
交流・連携を地域で取り上げることも必要	1
いろいろな取組を推進するためには人員確保が必要	2
学校間での教員の入れ替えを行えばお互いの実情・課題も見つけやすくなる	1
生徒に文化施設(博物館・美術館・ミュージカルなど)にふれさせる機会がほしい	1
教職員がこれ以上多忙にならないようにしてほしい	1
小中一貫校のモデル校の検討も必要かもしれない	1
その他	9

IV 幼稚園・保育園・小学校・中学校の調査結果の比較

1 交流・連携の実施状況

幼稚園・保育園・小学校・中学校の別にみると、「実施している」の割合は、幼稚園が 91.4%、保育園が 83.0%、小学校が 99.3%、中学校が 92.8%と、いずれも高い割合で交流・連携を実施していました。

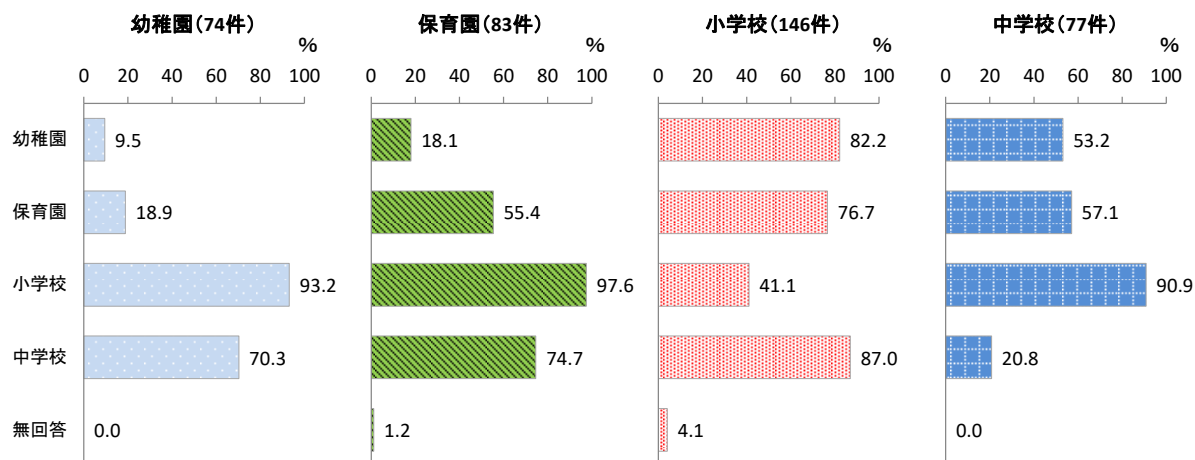
図 IV－1 交流・連携の実施状況



2 交流・連携の相手方

幼稚園・保育園・小学校・中学校の別にみると、幼稚園では、「小学校」、「中学校」の割合が高くなっています。保育園では、「小学校」、「中学校」、「保育園」の割合が高くなっています。小学校では、「中学校」、「幼稚園」、「保育園」、「小学校」の順に割合が高くなっています。中学校では、「小学校」、「保育園」、「幼稚園」の割合が高くなっています。

図 IV－2 交流・連携の相手方



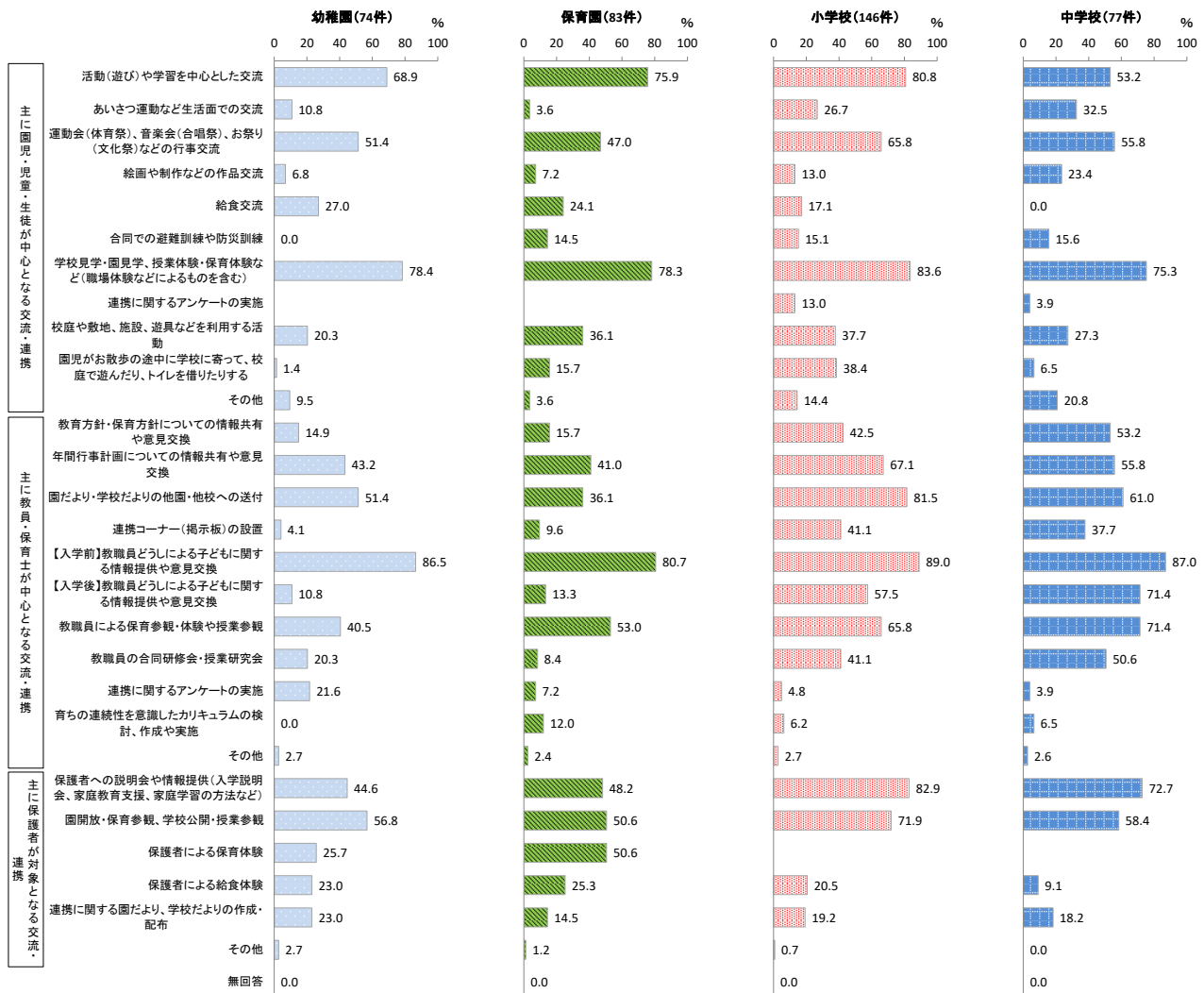
3 交流・連携の内容

幼稚園・保育園・小学校・中学校の別にみると、主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携では、「活動（遊び）や学習を中心とした交流」、「運動会（体育祭）、音楽会（合唱祭）、お祭り（文化祭）などの行事交流」、「学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）」の割合が、いずれの校種でも高くなっています。

主に教員・保育士が中心となる交流・連携では、「年間行事計画についての情報共有や意見交換」、「園だより・学校だよりの他園・他校への送付」、「【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」、「教職員による保育参観・体験や授業参観」の割合が、いずれの校種でも高くなっています。また、「教育方針・保育方針についての情報共有や意見交換」、「【入学後】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」、「教職員の合同研修会・授業研究会」の割合は、特に小学校、中学校で高くなっています。

主に保護者が対象となる交流・連携では、「保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）」、「園開放・保育参観、学校公開・授業参観」の割合が、いずれの校種でも高くなっています。また、「保護者による保育体験」の割合は、特に保育園で高くなっています。

図 IV-3 交流・連携の内容



※ 幼稚園、保育園は「連携に関するアンケートの実施（主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携）」の項目なし。
小学校、中学校は「保護者による保育体験」の項目なし。

4 交流・連携を行って良かった点

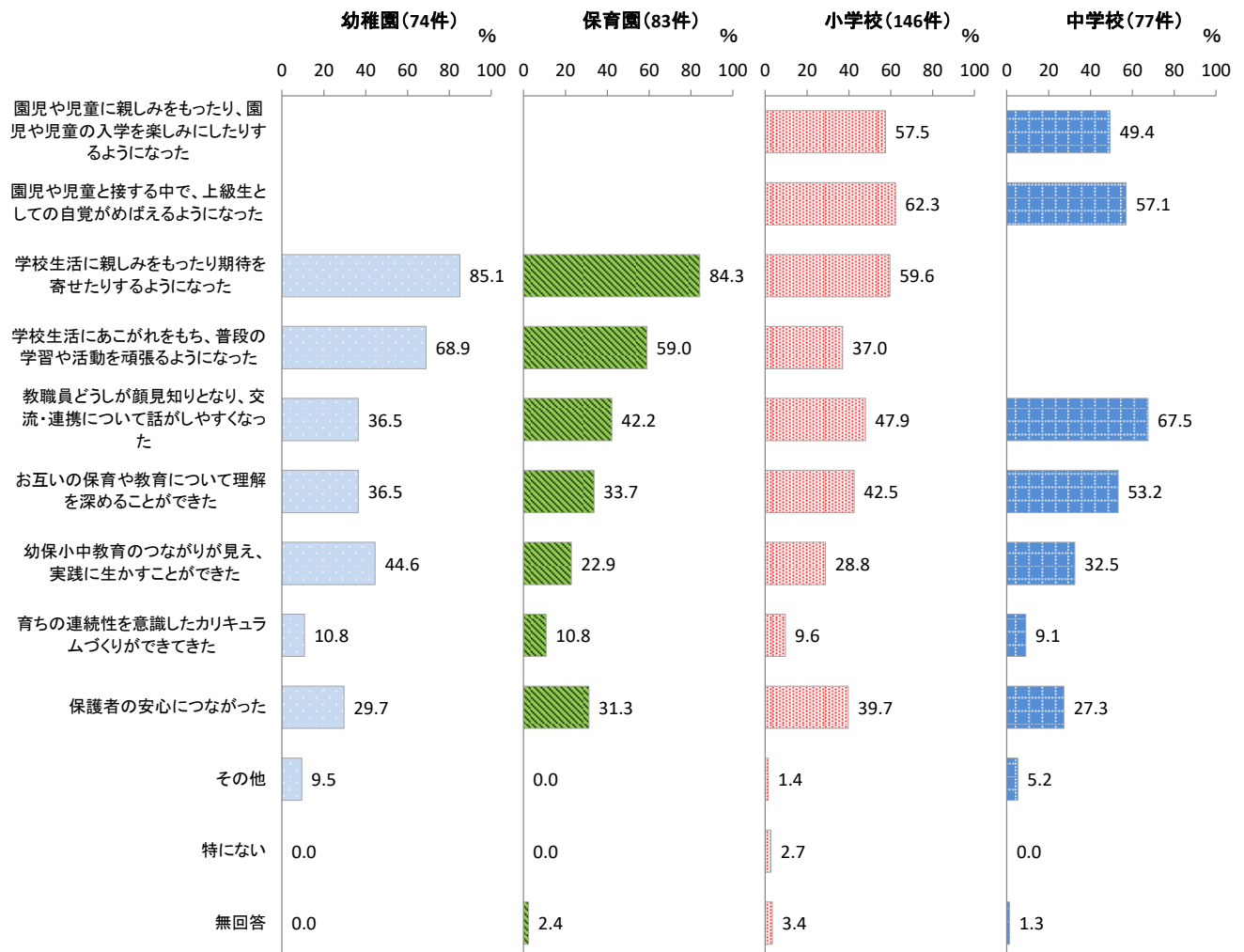
幼稚園・保育園・小学校・中学校の別にみると、幼稚園では、「学校生活に親しみをもったり期待を寄せたりするようになった」、「学校生活にあこがれをもち、普段の学習や活動を頑張るようになった」、「幼保小中のつながりが見え、実践に生かすことができた」の割合が高くなっています。

保育園では、「学校生活に親しみをもったり期待を寄せたりするようになった」、「学校生活にあこがれをもち、普段の学習や活動を頑張るようになった」、「教職員どうしが顔見知りとなり、交流・連携について話がしやすくなった」の割合が高くなっています。

小学校では、「園児や児童と接する中で、上級生としての自覚がめばえるようになった」、「学校生活に親しみをもったり期待を寄せたりするようになった」、「園児や児童に親しみをもったり、園児や児童の入学を楽しみにしたりするようになった」の割合が高くなっています。

中学校では、「教職員どうしが顔見知りとなり、交流・連携について話がしやすくなった」、「園児や児童と接する中で、上級生としての自覚がめばえるようになった」、「お互いの保育や教育について理解を深めることができた」の割合が高くなっています。

図 IV-4 交流・連携を行って良かった点

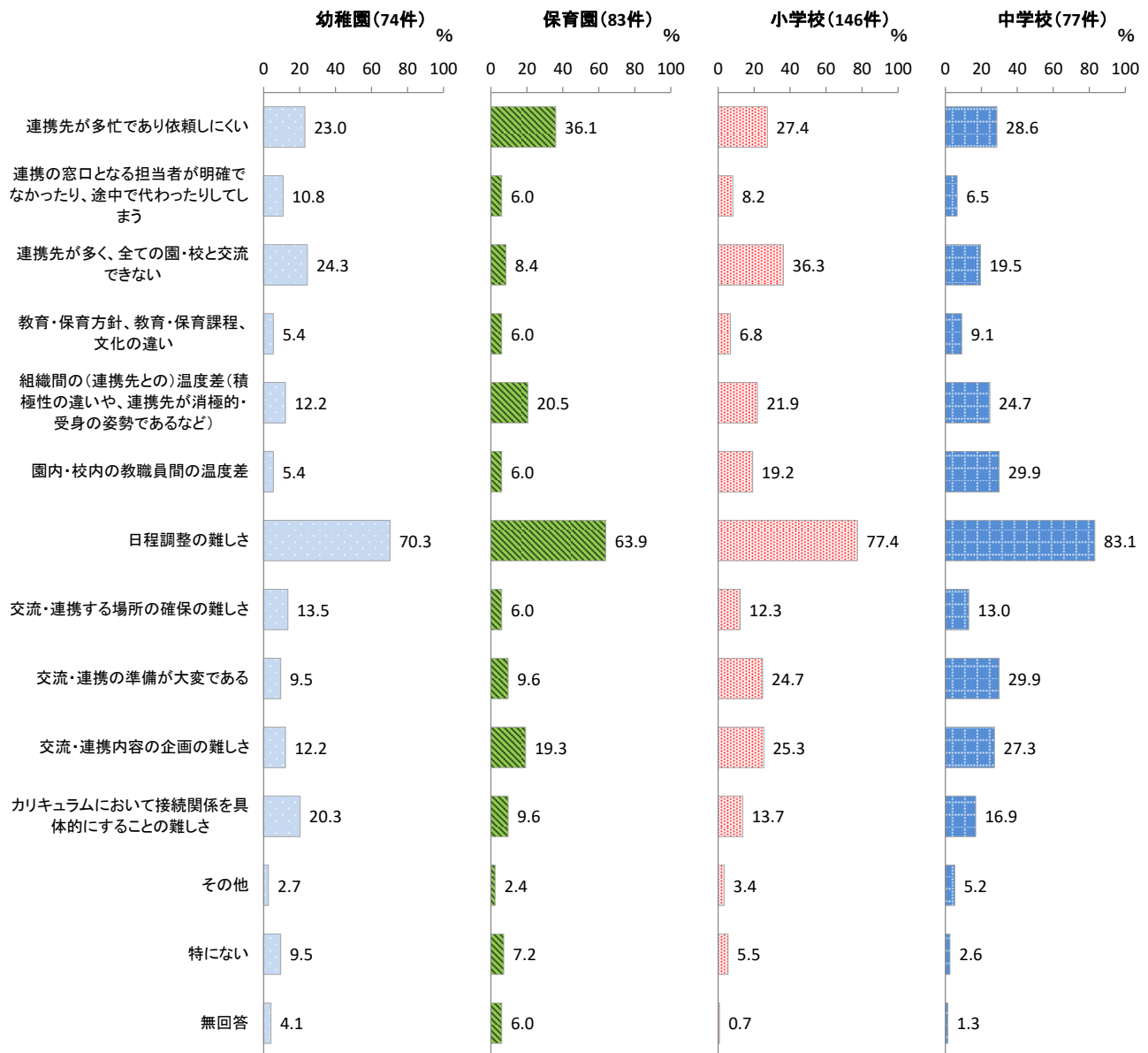


※ 幼稚園、保育園は「園児や児童に親しみをもったり、園児や児童の入学を楽しみにしたりするようになった」、「園児や児童と接する中で、上級生としての自覚がめばえるようになった」の項目なし。中学校は「学校生活に親しみをもったり期待を寄せたりするようになった」、「学校生活にあこがれをもち、普段の学習や活動を頑張るようになった」の項目なし。

5 交流・連携の課題となる点

幼稚園・保育園・小学校・中学校の別にみると、「日程調整の難しさ」の割合は、いずれの校種でも高くなっています。「連携先が多く、全ての園・校と交流できない」の割合は、小学校でやや高くなっています。

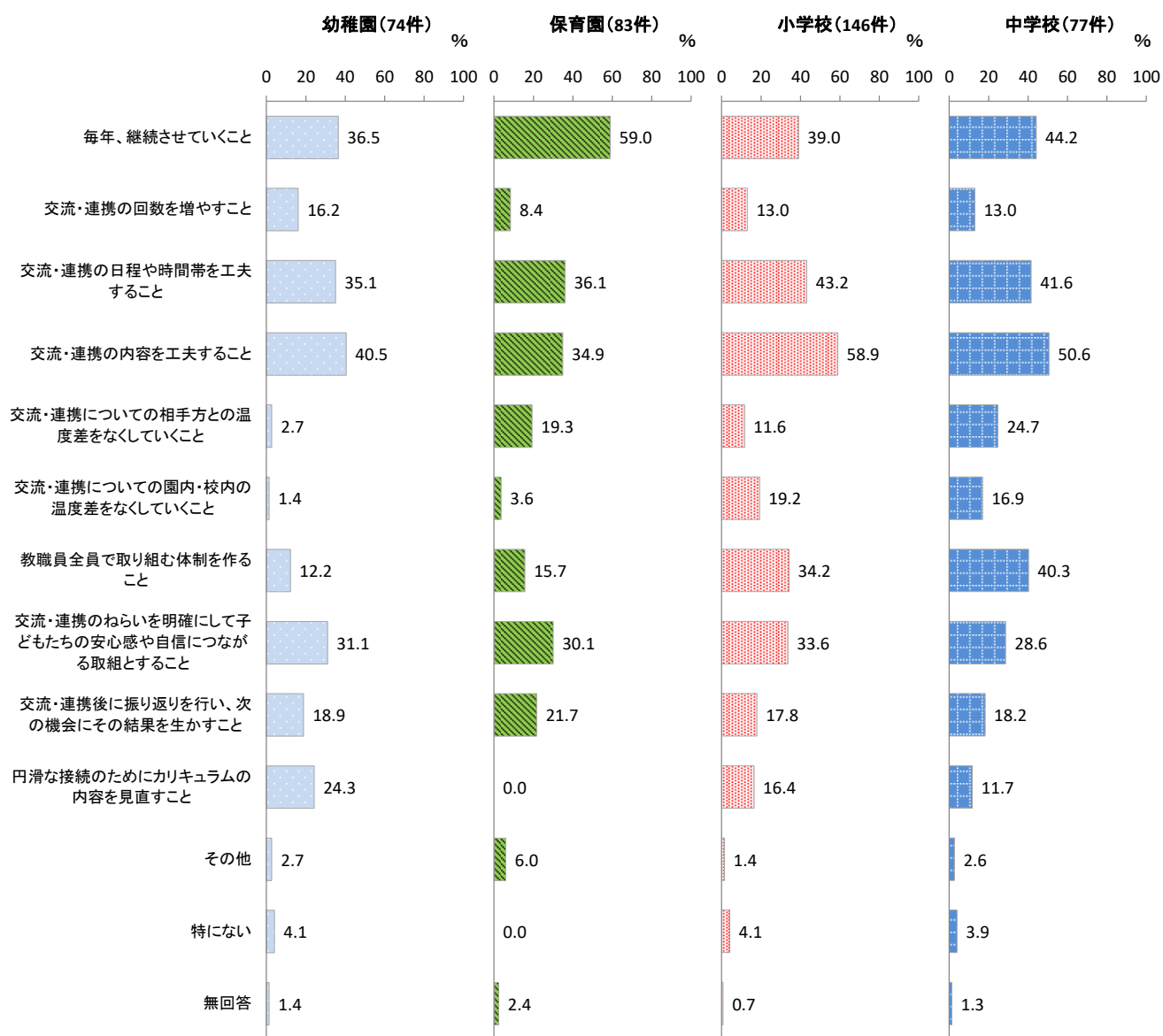
図 IV－5 交流・連携の課題となる点



6 交流・連携で改善したい点

幼稚園・保育園・小学校・中学校の別にみると、「毎年、継続させていくこと」、「交流・連携の日程や時間帯を工夫すること」、「交流・連携の内容を工夫すること」、「交流・連携のねらいを明確にして子どもたちの安心感や自信につながる取組とすること」の割合は、いずれの校種でも高くなっています。また、「教職員全員で取り組む体制を作ること」の割合は、特に小学校、中学校で高くなっています。

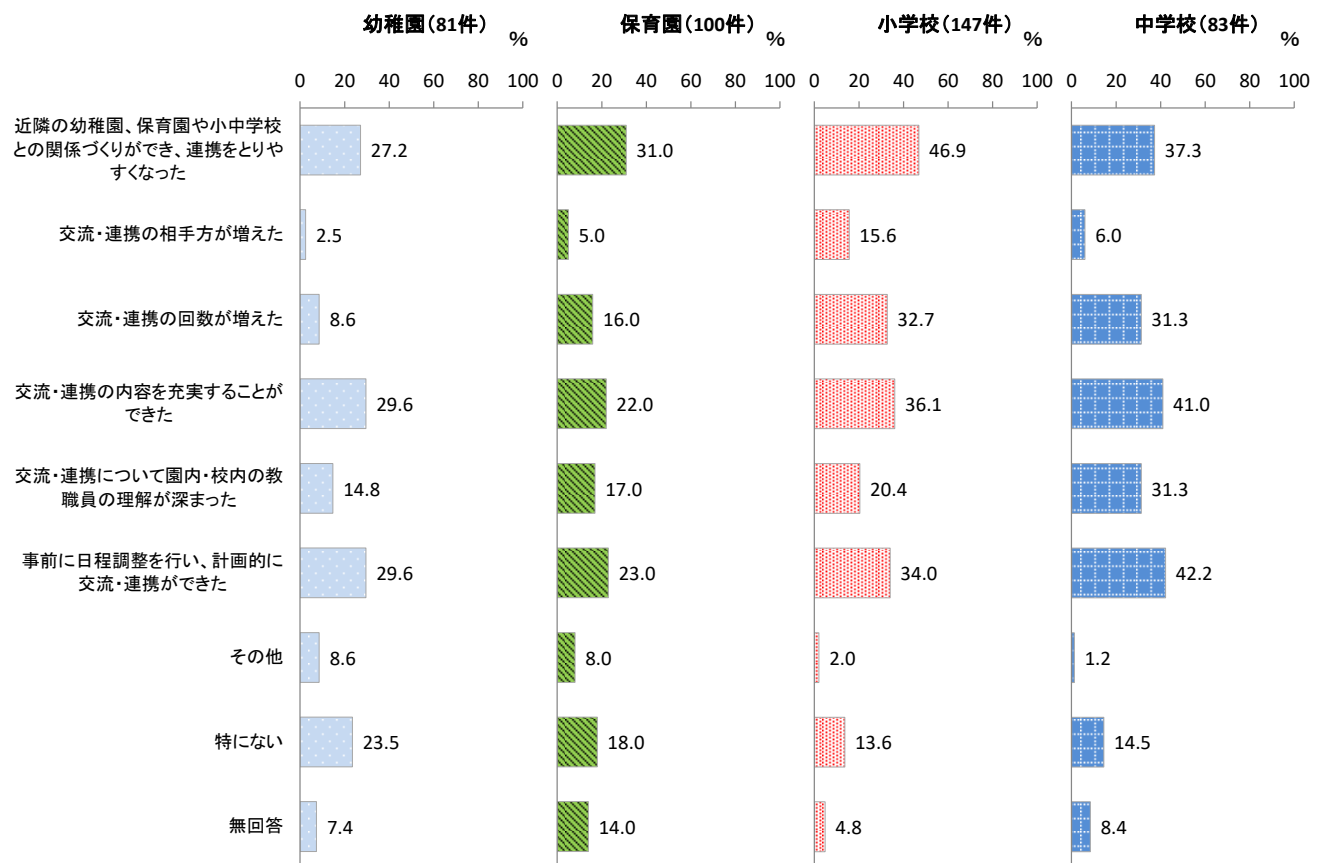
図 IV-6 交流・連携で改善したい点



7 他園・校との交流・連携について改善されたこと

幼稚園・保育園・小学校・中学校の別にみると、「近隣の幼稚園、保育園や小中学校との関係づくりができ、連携をとりやすくなった」、「事前に日程調整を行い、計画的に交流・連携ができた」の割合は、いずれの校種でも高くなっています。また、「交流・連携の回数が増えた」、「交流・連携の内容を充実することができた」の割合は、小学校、中学校で高くなっています。

図 IV-7 他園・校との交流・連携について改善されたこと

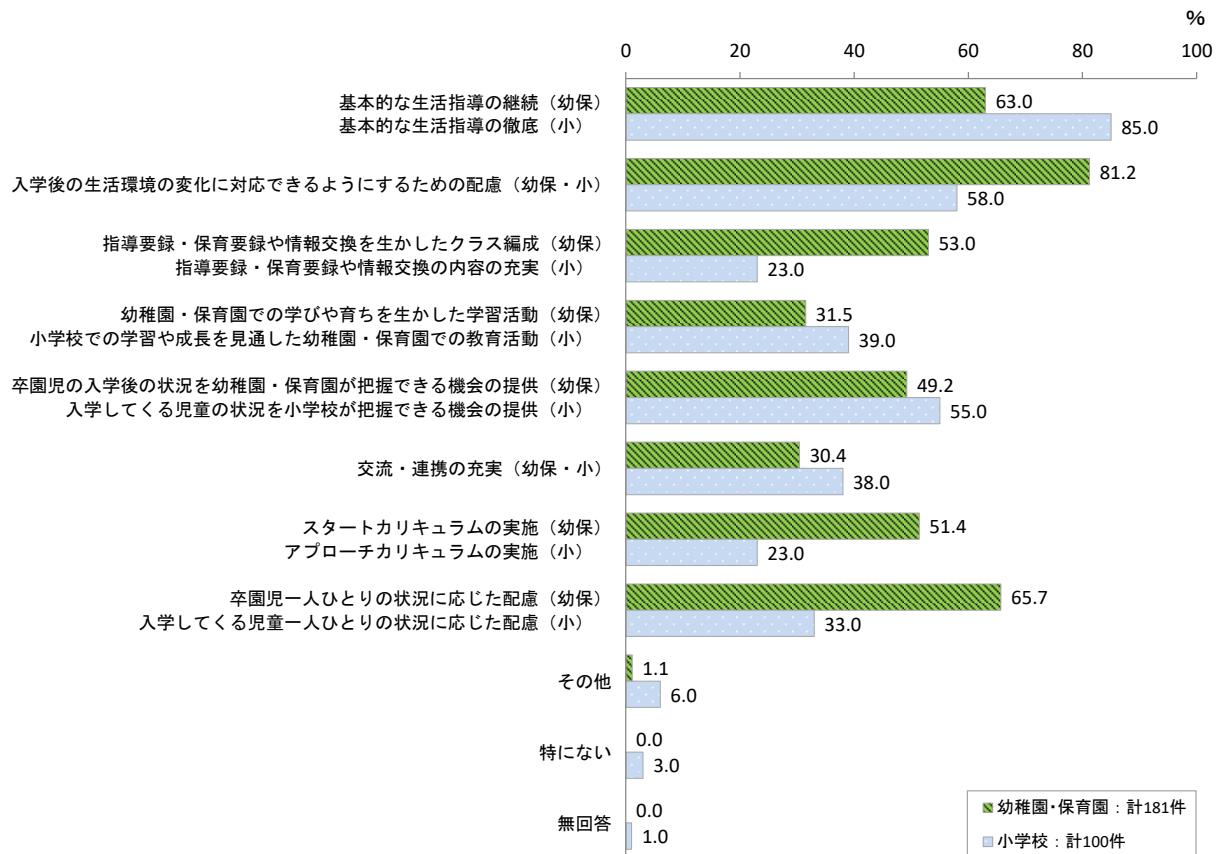


8 幼稚園・保育園と小学校が相互に期待すること

幼稚園・保育園と小学校が相互に期待することについて、「入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮（幼保・小）」、「指導要録・保育要録や情報交換を生かしたクラス編成（幼保）／指導要録・保育要録や情報交換の内容の充実（小）」、「スタートカリキュラムの実施（幼保）／アプローチカリキュラムの実施（小）」、「卒園児一人ひとりの状況に応じた配慮（幼保）／入学してくる児童一人ひとりの状況に応じた配慮（小）」の割合は、幼稚園・保育園が小学校より高くなっています。

一方、「基本的な生活指導の継続（幼保）／基本的な生活指導の徹底（小）」、「幼稚園・保育園での学びや育ちを生かした学習活動（幼保）／小学校での学習や成長を見通した幼稚園・保育園での教育活動（小）」、「卒園児の入学後の状況を幼稚園・保育園が把握できる機会の提供（幼保）／入学してくる児童の状況を小学校が把握できる機会の提供（小）」の割合は、小学校が幼稚園・保育園より高くなっています。

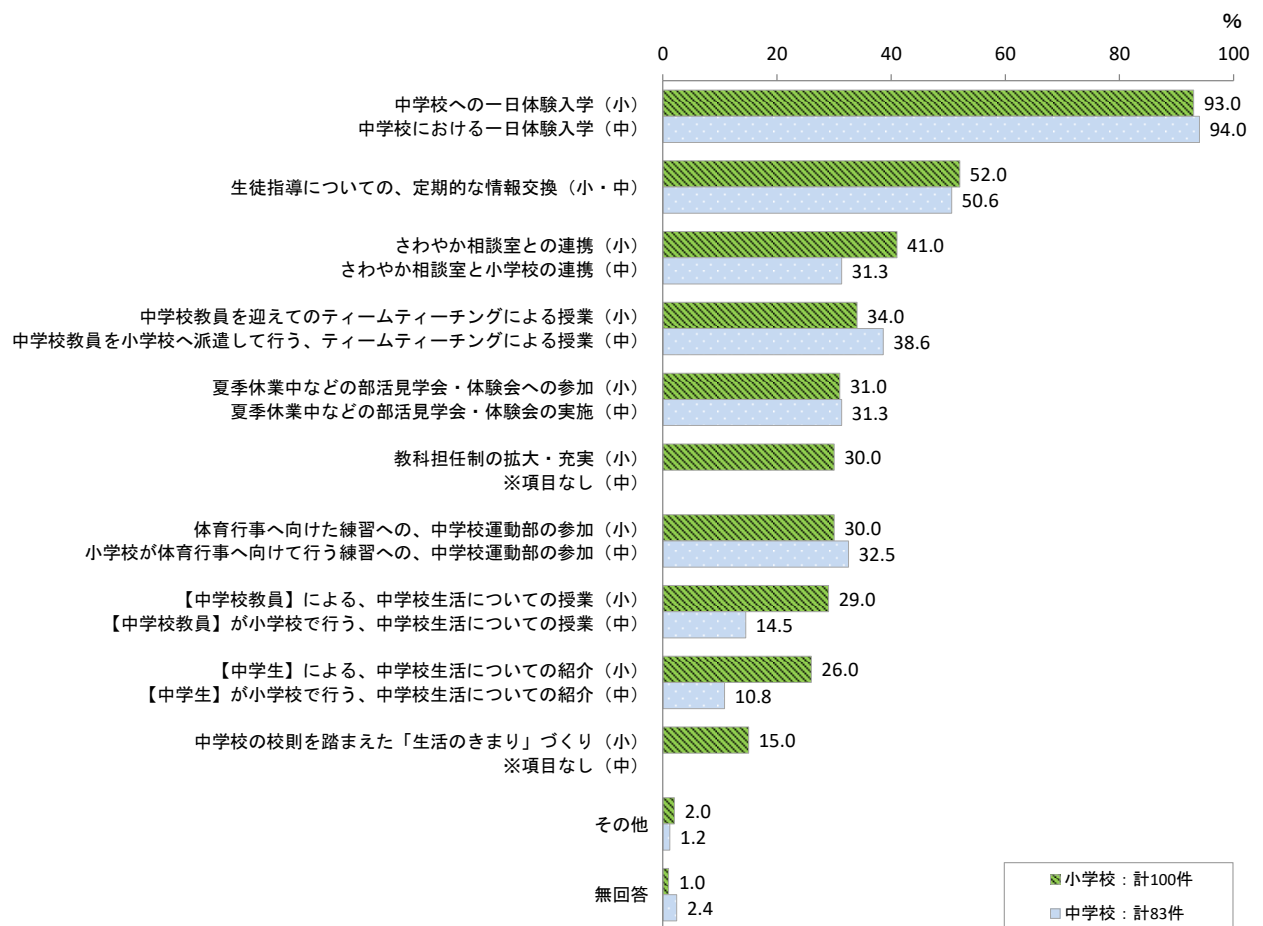
図 IV－8 幼稚園・保育園と小学校が相互に期待すること



9 中学校進学に向けて行っている具体的な取組

中学校進学に向けて行っている具体的な取組について、「さわやか相談室との連携（小）／さわやか相談室と小学校の連携（中）」、「【中学校教員】による、中学校生活についての授業（小）／【中学校教員】が小学校で行う、中学校生活についての授業（中）」、「【中学生】による、中学校生活についての紹介（小）／【中学生】が小学校で行う、中学校生活についての紹介（中）」の割合は、小学校が中学校より高くなっています。また、その他の回答の割合は、小学校と中学校でほぼ同水準となっています。

図 IV－9 中学校進学に向けて行っている具体的な取組



※ 中学校は「教科担任制の拡大・充実（小）」、「中学校の校則を踏まえた「生活のきまり」づくり（小）」と比較可能な項目なし。

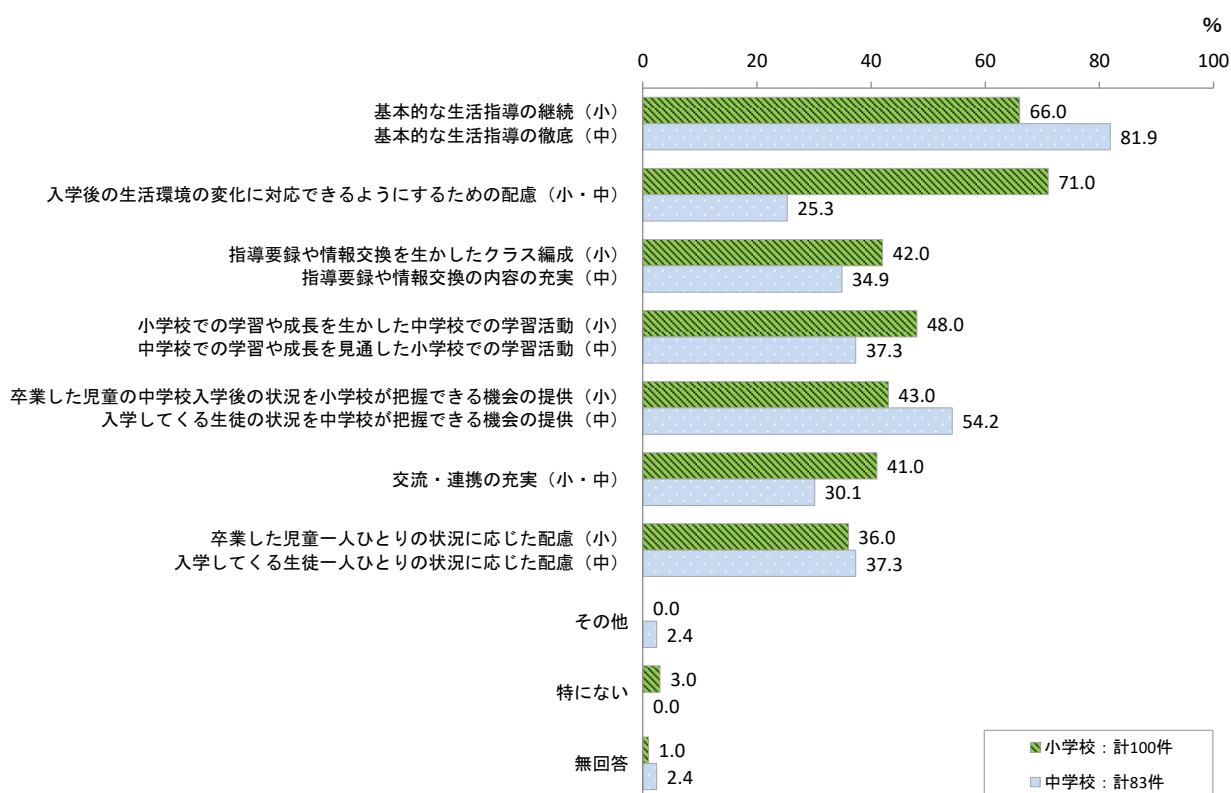
10 小学校と中学校が相互に期待すること

小学校と中学校が相互に期待することについて、「入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮（小・中）」、「指導要録や情報交換を生かしたクラス編成（小）／指導要録や情報交換の内容の充実（中）」、「小学校での学習や成長を生かした中学校での学習活動（小）／中学校での学習や成長を見通した小学校での学習活動（中）」、「交流・連携の充実（小・中）」の割合は、小学校が中学校より高くなっています。

一方、「基本的な生活指導の継続（小）／基本的な生活指導の徹底（中）」、「卒業した児童の中学校入学後の状況を小学校が把握できる機会の提供（小）／入学してくる生徒の状況を中学校が把握できる機会の提供（中）」の割合は、中学校が小学校より高くなっています。

また、「卒業した児童一人ひとりの状況に応じた配慮（小）／入学してくる生徒一人ひとりの状況に応じた配慮（中）」の割合は、小学校と中学校ではほぼ同水準となっています。

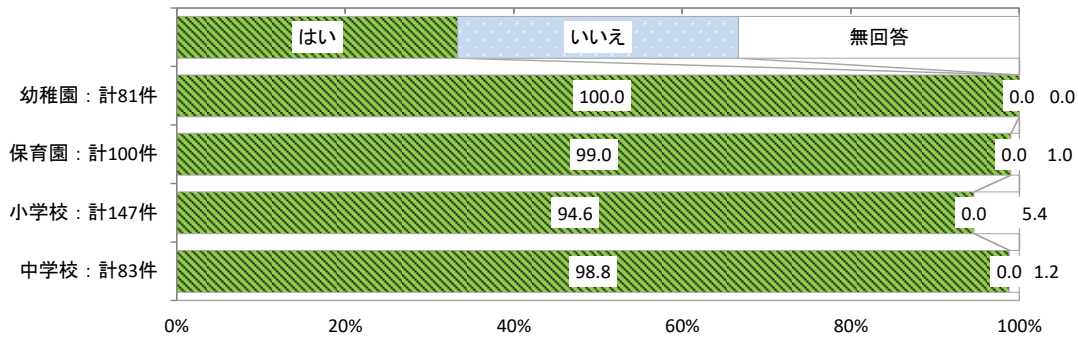
図 IV－10 小学校と中学校が相互に期待すること



1 1 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性について

幼稚園・保育園・小学校・中学校の別にみると、家庭との連携・家庭教育への支援が必要であるとする回答の割合は、いずれの校種でも高くなっています。

図 IV－1 1 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性について

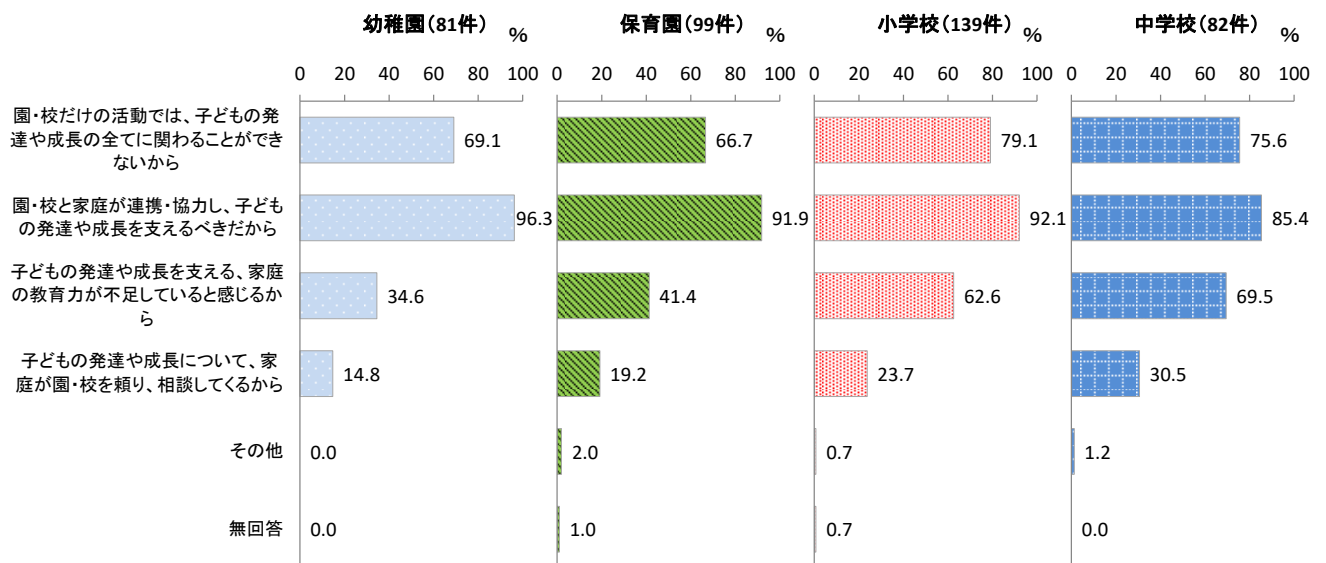


1 2 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性を感じる理由

幼稚園・保育園・小学校・中学校の別にみると、「園・校だけの活動では、子どもの発達や成長の全てに関わることができないから」、「園・校と家庭が連携・協力し、子どもの発達や成長を支えるべきだから」の割合は、いずれの校種でも高くなっています。

「子どもの発達や成長を支える、家庭の教育力が不足していると感じるから」の割合は、小学校、中学校で高くなっています。

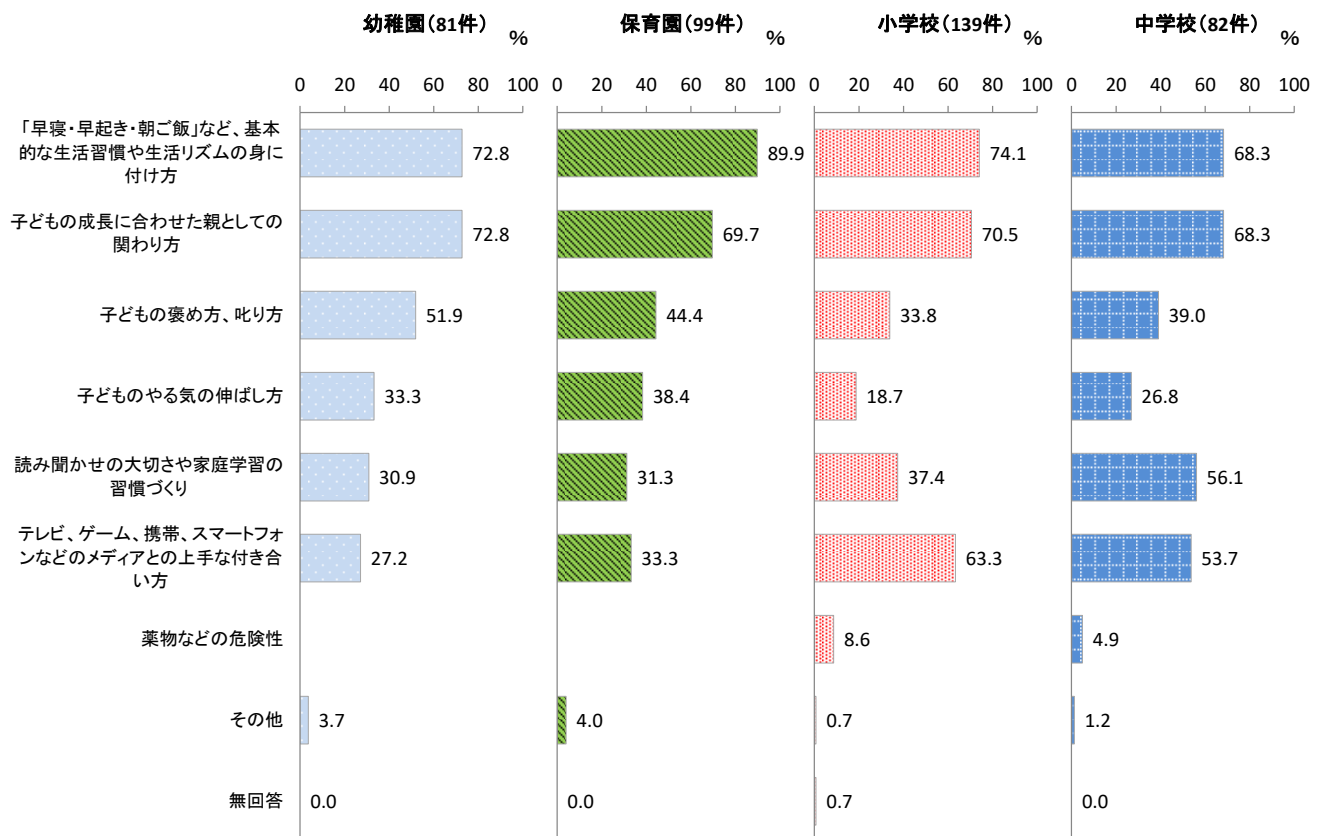
図 IV－1 2 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性を感じる理由



1 3 家庭教育への支援で行いたい具体的な取組

幼稚園・保育園・小学校・中学校の別にみると、『早寝・早起き・朝ご飯』など、基本的な生活習慣や生活リズムの身に付け方、「子どもの成長に合わせた親としての関わり方」の割合は、いずれの校種でも高くなっています。「子どもの褒め方、叱り方」の割合は、幼稚園・保育園で高くなっています。「読み聞かせの大切さや家庭学習の習慣づくり」の割合は、中学校で高くなっています。「テレビ、ゲーム、携帯、スマートフォンなどのメディアとの上手な付き合い方」の割合は、小学校、中学校で高くなっています。

図 IV－13 家庭教育への支援で行いたい具体的な取組

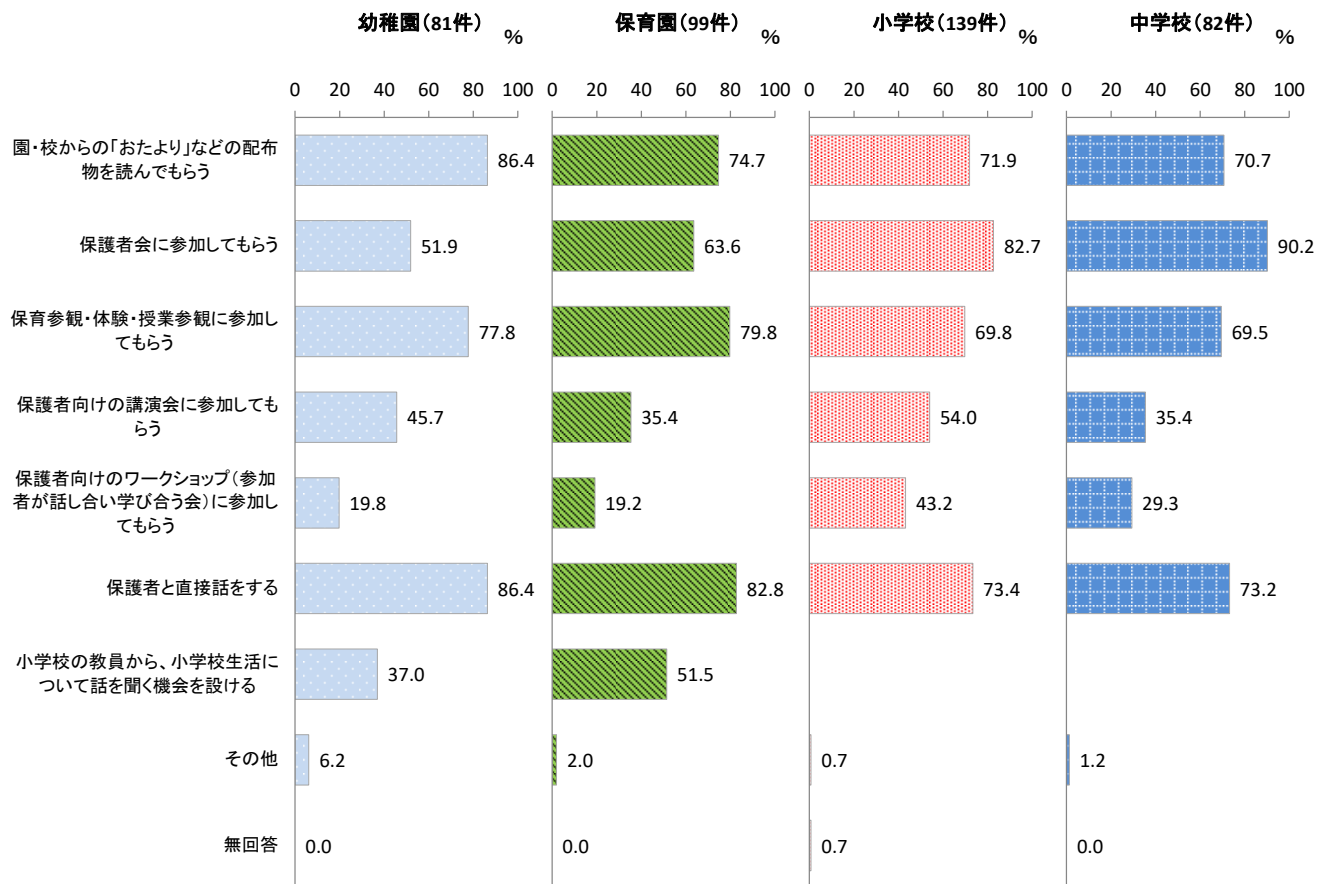


※ 幼稚園、保育園は「薬物などの危険性」の項目なし。

1 4 家庭との連携・家庭教育への支援のために有効な機会・方法

幼稚園・保育園・小学校・中学校の別にみると、「園・校からの『おたより』などの配布物を読んでもらう」、「保護者と直接話をする」の割合は、いずれの校種でも高くなっています。「保護者会に参加してもらう」の割合は、小学校、中学校で高くなっています。「保育参観・体験・授業参観に参加してもらう」の割合は、幼稚園・保育園で高くなっています。「保護者向けの講演会に参加してもらう」、「保護者向けのワークショップ（参加者が話し合い学び合う会）に参加してもらう」の割合は、小学校で高くなっています。

図 IV－1 4 家庭との連携・家庭教育への支援のために有効な機会・方法

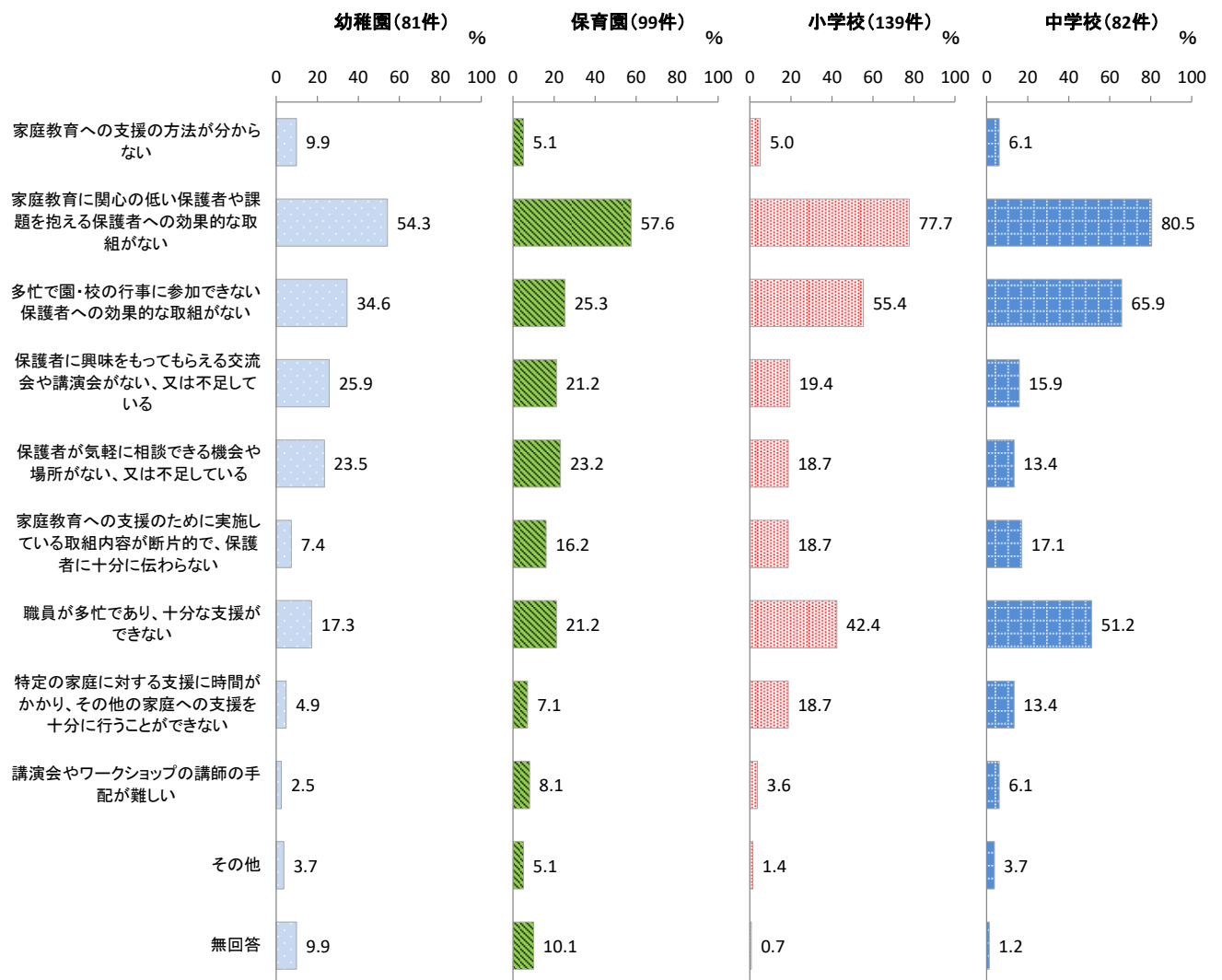


※ 小学校、中学校は「小学校の教員から、小学校生活について話を聞く機会を設ける」の項目なし。

1 5 家庭との連携・家庭教育への支援での課題

幼稚園・保育園・小学校・中学校の別にみると、「家庭教育に関心の低い保護者や課題を抱える保護者への効果的な取組がない」の割合は、いずれの校種でも高くなっています。「多忙で園・校の行事に参加できない保護者への効果的な取組がない」、「職員が多忙であり、十分な支援ができない」の割合は、小学校、中学校で高くなっています。

図 IV－15 家庭との連携・家庭教育への支援での課題



資料編

草加市子ども教育の連携に関する

教員・保育士アンケートのお願い

大層の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
日頃から子ども教育連携推進事業にご協力を賜り誠にありがとうございます。
さて、市教育委員会では、平成24・25年度に、市内の幼稚園・保育園・小学校・中学校における子ども教育の連携の実態を把握するためのアンケート調査を実施し、その結果を基礎資料として、様々な事業を実施してまいりました。

本調査は、今年度の子ども教育の連携について実態を把握するとともに、昨年度からの変化を把握し、今後の子ども教育の連携推進に係る基礎資料となる重要な調査です。

お忙しい中、お手数をおかけいたしますが、本アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成26年7月 草加市教育委員会

《ご回答をお願いしたい先生方》

幼稚園：園長、副園長、年長組を受け持つ先生方

保育園：園長、副園長又は主査、5歳児を受け持つ先生方

小学校：校長、教頭、主幹教諭又は教務主任、生徒指導主任、小学校1年生及び6年生の学年主任、特別支援学級の担任

中学校：校長、教頭、主幹教諭又は教務主任、生徒指導主任、中学校1年生及び3年生の学年主任、特別支援学級の担任

《アンケートのご回答にあたって》

- 質問の回答として、あてはまる番号に○をつけてください。また、「その他」を選択した場合など（ ）の記述欄については、その内容を（ ）内に記入してください。
- 回答が済みしたら、お手数ですが、園・学校ごとにまとめ、同封しました送付状のとおり、教育委員会にご提出ください。
- お問い合わせ先 草加市教育委員会 子ども教育連携推進室
電話 922-3494（直通）

あてはまる番号・項目に○を付けてご回答ください。また、（ ）などの記述欄については、記入をお願いします。

なお、各設問の回答に当たっては、園長、副園長、主査は、園全体の園児の様子について、年長・5歳児担任は、担当する学年の園児の様子についてお答えください。

回答される方の基本情報

園名（正式名称）：（ ）

役職名：1 園長

教員・保育士歴：1 1～5年目

3 11～15年目

園児の就学先（平成26年3月卒園、上位3校）：（園長先生のみお答えください）

1（ ）小学校（ ）%程度

2（ ）小学校（ ）%程度

3（ ）小学校（ ）%程度

※ 卒園児（年長・5歳児）がいなかった場合は、1位の小学校名に「なし」とお書きください。

※ 就学先が2校の場合は、3位の小学校名に「なし」とお書きください。

幼稚園・保育園（ ）

3 年長・5歳児担任

2 6～10年目

4 16年目以上

幼稚園・保育園（ ）

3 年長・5歳児担任

2 6～10年目

4 16年目以上

幼稚園・保育園（ ）

3 年長・5歳児担任

2 6～10年目

4 16年目以上

幼稚園・保育園（ ）

3 年長・5歳児担任

2 6～10年目

4 16年目以上

幼稚園・保育園（ ）

3 年長・5歳児担任

2 6～10年目

4 16年目以上

幼稚園・保育園（ ）

3 年長・5歳児担任

2 6～10年目

4 16年目以上

幼稚園・保育園（ ）

3 年長・5歳児担任

2 6～10年目

4 16年目以上

幼稚園・保育園（ ）

3 年長・5歳児担任

2 6～10年目

4 16年目以上

幼稚園・保育園（ ）

3 年長・5歳児担任

2 6～10年目

4 16年目以上

幼稚園・保育園（ ）

3 年長・5歳児担任

2 6～10年目

4 16年目以上

幼稚園・保育園（ ）

3 年長・5歳児担任

2 6～10年目

4 16年目以上

幼稚園・保育園（ ）

3 年長・5歳児担任

2 6～10年目

4 16年目以上

<主に教員・保育士が中心となる交流・連携>

- 11 教育方針・保育方針についての情報共有や意見交換
- 12 年間行事計画についての情報共有や意見交換
- 13 園だより・学校だよりの他園・他校への送付
- 14 連携コーナー（掲示板）の設置
- 15 【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換
- 16 【入学後】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換
- 17 教職員による保育参観・体験や授業参観
- 18 教職員による研修・体幹や授業研究会
- 19 教職員の合同研修会・授業研究会
- 20 連携に関するアンケートの実施
- 21 育ちの連続性を意識したカリキュラムの検討、作成や実施
- 22 その他（ ）

<主に保護者が対象となる交流・連携>

- 22 保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）
- 23 園開放・保育参観、学校公開・授業参観
- 24 保護者による保育体験
- 25 保護者による給食体験
- 26 連携に関する園だより、学校だよりの作成・配布
- 27 その他（ ）

問5 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】問4の選択肢に挙げられている交流・連携の内容のうち、特に重要な取組はどれだと思いますか。重要度が高いと考える順に、問4の選択肢番号及び重要と考える理由をご記入ください。（5つまで）

重要度	問4の選択肢番号（1～27）	重要と考える理由
1		
2		
3		
4		
5		

問6 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の窓口は、主にどなたが担当していますか。（○は1つだけ）

- 1 園長
- 2 副園長
- 3 主査
- 4 教務主任・主任
- 5 年長組（5歳児）担任
- 6 その他（ ）
- 7 決めていない

問7 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の窓口の担当者

は、固定して（園内で決まって）いますか。（○は1つだけ）

- 1 はい
- 2 いいえ

問8 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携を行って良かった点は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 園児が小学校生活に親しみをもちたり期待を寄せたりするようになった
- 2 園児が小学校生活にあこがれをもち、普段の活動を頑張るようになった
- 3 教職員どうしが顔見知りとなり、交流・連携について話がしやすくなった
- 4 お互いの保育や教育について理解を深めることができた
- 5 幼児期の教育と小学校教育のつながりが見え、実践に生かすことができた
- 6 育ちの連続性を意識したカリキュラムづくりができてきた
- 7 保護者の安心につながった
- 8 その他（ ）
- 9 特になし

問9 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の実施にあたって課題となる点は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 連携先が多忙であり依頼しにくい
- 2 連携の窓口となる担当者が明確でなかったり、途中で代わったりしてしまう
- 3 連携先が多く、全ての園・校と交流できない
- 4 教育・保育方針、教育・保育課程、文化の違い
- 5 組織間の（連携先との）温度差（積極性の違いや、連携先が消極的・受身の姿勢であるなど）
- 6 園内の教職員間の温度差
- 7 日程調整の難しさ
- 8 交流・連携する場所の確保の難しさ
- 9 交流・連携の準備が大変である
- 10 交流・連携内容の企画の難しさ
- 11 カリキュラムにおいて接続関係を具体的にすることの難しさ
- 12 その他（ ）
- 13 特になし

問10 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】 交流・連携の実施にあたって改善したい点はありますか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 毎年、継続させていくこと
- 2 交流・連携の回数を増やすこと
- 3 交流・連携の日程や時間帯を工夫すること
- 4 交流・連携の内容を工夫すること
- 5 交流・連携についての相手方との温度差をなくしていくこと
- 6 交流・連携についての園内の温度差をなくしていくこと
- 7 教職員全員で取り組む体制を作ること
- 8 交流・連携のねらいを明確にして子どもたちの安心感や自信につながる取組とすること
- 9 交流・連携後に振り返りを行い、次の機会にその結果を生かすこと
- 10 円滑な接続のためにカリキュラムの内容を見直すこと
- 11 その他（ ）
- 12 特にない

問11 【問1で2の「いいえ」に○をつけた場合にお答えください】 交流・連携の実施が困難な理由は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 近隣に交流・連携できる園や学校がない
- 2 日程調整が難しい
- 3 交流・連携の仕方が分からない
- 4 これまで交流・連携をしておらず、関係ができていない
- 5 年長児（5歳児）が少ない・いない
- 6 その他（ ）

問12 あなたの園において、昨年度（平成25年度）当初と比べ、他園・校との交流・連携について改善されたことはありますか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 近隣の幼稚園、保育園や小中学校との関係づくりができ、連携をとりやすくなった
- 2 交流・連携の相手方が増えた
- 3 交流・連携の回数が増えた
- 4 交流・連携の内容を充実することができた
- 5 交流・連携について園内の教職員の理解が深まった
- 6 事前に日程調整を行い、計画的に交流・連携ができた
- 7 その他（ ）
- 8 特にない

就学に向けた取組について

問13 あなたの園では、他の幼稚園・保育園・小学校・中学校との交流・連携以外に、小学校教育への接続を意識した幼児期の教育を行っていますか。（○は1つだけ）

- 1 行っている 一問11～問18へ
- 2 行っていない 一問17・問18へ

問14 【問13で1の「行っている」に○をつけた場合にお答えください】 小学校教育への接続を意識した幼児期の教育として、どのようなことを行っていますか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 基本的な生活習慣をしつかりと身に付けさせること【基本的な生活習慣の獲得】
- 2 戸外での遊びや運動などによる体力増進や健康づくり【運動・体力・健康づくり】
- 3 食への喜びや楽しさを味わい、進んで食べようという気持ちを育てること【食育】
- 4 ルールを守ることの大切さを教えること【規範意識の育成】
- 5 友だちと関わる中で思いやりや親しみをもつこと【思いやりの心の育成】
- 6 友だちと一緒に、同じ目的をもって1つのことに取り組むこと【協同的な活動】
- 7 大勢の前で発表する機会を設けること【表現力の育成】
- 8 当番活動などを行うこと【当番活動】
- 9 絵や工作、歌や楽器などによる創作的な活動【創作的な活動】
- 10 文字や数に興味・関心をもたせること【文字や数への親しみ】
- 11 集中して1つのことに取り組む時間を設けること【集中力の育成】
- 12 小学校以降の育ちの連続性を意識したカリキュラムの実施【接続期カリキュラム】
- 13 その他（ ）

問15 【問13で1の「行っている」に○をつけた場合にお答えください】 問14の「小学校教育への接続を意識した幼児期の教育」についての回答の中で、特に重要だと考えるものはどれですか。問14の選択肢番号で3つまでお答えください。

- （ ）
- （ ）
- （ ）

問16 【問13で1の「行っている」に○をつけた場合にお答えください】 小学校教育への接続を意識した幼児期の教育を、いつ頃から行っていますか。（○は1つだけ、何月頃から行っているかを記入）

- 1 年長（5歳児）の（ ）月頃から 2 年中（4歳児）の（ ）月頃から
- 3 年少（3歳児）の（ ）月頃から 4 その他（ ）

問17 あなたの園では、就学に向けた具体的な取組として、どのようなことを行っていますか。

（あてはまるもの全てに○、開始時期（年長・5歳児、年中・4歳児、年少・3歳児）の何月頃から行っているかを記入）

- 1 小学校の登校時間に合わせて登園時間を早める（ ）の（ ）月頃から
- 2 昼寝の時間をなくす（ ）の（ ）月頃から
- ※ 昼寝の時間がない場合は、「なし」と記入してください
- 3 子ども自身にハンカチ・ティッシュを持たせる（ ）の（ ）月頃から
- 4 上履きを履いて生活する（ ）の（ ）月頃から
- 5 立ったまま着替える練習をする（ ）の（ ）月頃から
- 6 和式トイレに慣れる練習をする（ ）の（ ）月頃から
- 7 自分の名前が読めて書けるように練習する（ ）の（ ）月頃から
- 8 決められた時間内に食事ができるようにする（ ）の（ ）月頃から
- 9 あいさつや返事がしつかりできるようにする（ ）の（ ）月頃から
- ※ 就学を意識して取り組むようになる時期を記入してください
- 10 時間を意識して活動を行う（ ）の（ ）月頃から
- 11 身の回りの物などを自分から進んで片付けられるようにする（ ）の（ ）月頃から
- ※ 就学を意識して取り組むようになる時期を記入してください
- 12 その他（上記1～11の他に園で取り組んでいることがある場合に取組の内容と開始時期を記入）（ ）の（ ）月頃から
- （ ）の（ ）月頃から
- （ ）の（ ）月頃から
- （ ）の（ ）月頃から

問18 卒園児が就学する小学校に対して、どのようなことを期待しますか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 基本的な生活指導の継続
- 2 入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮
- 3 指導要録・保育要録や情報交換を生かしたクラス編成
- 4 幼稚園・保育園での学びや育ちを生かした学習活動
- 5 卒園児の入学後の状況を幼稚園・保育園が把握できる機会の提供
- 6 交流・連携の充実
- 7 卒園児がスムーズに小学校での生活や学習に適応できるようにするための、スタートカリキュラムの実施
- 8 卒園児一人ひとりの状況に応じた配慮
- 9 その他（ ）
- 10 特になし

家庭教育への支援について

問19 子どもたちの育ちを支えるために、家庭との連携や、家庭教育を支援する必要性を感じますか。（○は1つだけ）

- 1 はい →問20～問23へ
- 2 いいえ （下に理由をご記入ください）

問20 【問19で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】家庭との連携や家庭教育を支援する必要性を感じる理由は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 園だけの活動では、子どもの発達や成長の全てに関わることができないから
- 2 園と家庭が連携・協力し、子どもの発達や成長を支えるべきだから
- 3 子どもたちの発達や成長を支える、家庭の教育力が不足していると感じるから
- 4 子どもたちの発達や成長について、家庭が頼り、相談してくるから
- 5 その他（ ）

問21 【問19で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】家庭教育への支援を行う場合、具体的に、特に、どのような内容について、保護者に対し支援を行いたいですか。（○は3つまで）

- 1 「早起・早起き・朝ご飯」など、基本的な生活習慣や生活リズムの身に付け方
- 2 子どもたちの成長に合わせた親としての関わり方
- 3 子どもたちの養育方、叱り方
- 4 子どもたちのやる気の伸ばし方
- 5 読み聞かせの大切さ
- 6 テレビ、ゲーム、携帯、スマートフォンなどのメディアとの上手な付き合い方
- 7 その他（ ）

問22 【問19で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】家庭との連携や家庭教育を支援するために有効だと考える機会や方法などは、何ですか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 園からの「おたより」などの配布物を読んでもらう
- 2 保護者会に参加してもらう
- 3 保育参観・体験に参加してもらう
- 4 保護者向けのワークショップ（参加者が話し合い学び合う会）に参加してもらう
- 5 保護者と直接話をする
- 6 保護者と直接話をする
- 7 小学校の教員から、小学校生活について話を聞く機会を設ける
- 8 その他（ ）

問23 【問19で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】家庭との連携や家庭教育への支援を行う上での課題は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 家庭教育への支援の方法が分からない
- 2 家庭教育に関心の低い保護者や課題を抱える保護者への効果的な取組がない
- 3 多忙で園の行事に参加できない保護者への効果的な取組がない
- 4 保護者に興味をもってもらえる交流会や講演会がない、又は不足している
- 5 保護者が気軽に相談できる機会や場所がない、又は不足している
- 6 家庭教育への支援のために実施している取組内容が断片的で、保護者に十分に伝わらない
- 7 職員が多忙であり、十分な支援ができない
- 8 特定の家庭に対する支援に時間がかかり、その他の家庭への支援を十分に行うことができない
- 9 講演会やワークショップの講師の手配が難しい
- 10 その他（ ）

最後に、あなたの園や地域での交流・連携の取組状況、子ども教育の連携推進事業、草加市の教育についてご意見などがあれば、自由にご記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

草加市子ども教育の連携に関する

教員・保育士アンケートのお願い

大層の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
日頃から子ども教育連携推進事業にご協力を賜り誠にありがとうございます。
さて、市教育委員会では、平成24・25年度に、市内の幼稚園・保育園・小学校・中学校における子ども教育の連携の実態を把握するためのアンケート調査を実施し、その結果を基礎資料として、様々な事業を実施してまいりました。
本調査は、今年度の子ども教育の連携について実態を把握するとともに、昨年度からの変化を把握し、今後の子ども教育の連携推進に係る基礎資料となる重要な調査です。
お忙しい中、お手数をおかけいたしますが、本アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

平成26年7月 草加市教育委員会

《ご回答をお願いしたい先生方》

幼稚園：園長、副園長、年長組を受け持つ先生方
保育園：園長、副園長又は主査、5歳児を受け持つ先生方
小学校：校長、教頭、主幹教諭又は教務主任、生徒指導主任、小学校1年生及び6年生の学年主任、特別支援学級の担任
中学校：校長、教頭、主幹教諭又は教務主任、生徒指導主任、中学校1年生及び3年生の学年主任、特別支援学級の担任

《アンケートのご回答にあたって》

- 質問の回答として、あてはまる番号に○をつけてください。また、「その他」を選択した場合など（ ）の記述欄については、その内容を（ ）内に記入してください。
- 回答が済みましたら、お手数ですが、園・学校ごとにとまとめ、同封しました送付状のとおり、教育委員会にご提出ください。
- お問い合わせ先 草加市教育委員会 子ども教育連携推進室
電話 922-3494（直通）

あてはまる番号・項目に○を付けてご回答ください。また、（ ）などの記述欄については、記入をお願いします。

なお、各設問の回答に当たっては、校長、教頭、主幹教諭・教務主任及び生徒指導主任は、学校全体の児童の様子について、学年主任及び特別支援学級の担任は、担当する学年の児童の様子についてお答えください。

回答される方の基本情報

学校名：（ ） 草加市立（ ） 小学校（ ）
役職名：1 校長 2 教頭 3 主幹教諭又は教務主任
4 生徒指導主任 5 学年主任（ ） 6 年（ ） 7 特別支援学級の担任
教員歴：1 1～5年目 2 6～10年目
3 11～15年目 4 16年目以上
学級数：1 年生（ ） 2 学級（ ） 3 5年生（ ） 4 6年生（ ） 5 7年生（ ）

入学してきた児童の出身園の数（平成26年4月入学）：（校長先生のみお答えください）
幼稚園（ ） 保育園（ ） 園（ ）
入学してきた児童の出身園（平成26年4月入学、上位3園）：（校長先生のみお答えください）
1（ ） 幼稚園・保育園（ ） 2（ ） 幼稚園・保育園（ ） 3（ ） 幼稚園・保育園（ ）
上位3園からの入学児童数が新入学児童数全体に占める割合（平成26年度）：（校長先生のみお答えください）（ ） %

幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実施状況について

問1 あなたが所属する学校では、昨年度（平成25年度）に、幼稚園・保育園・他の小学校・中学校のいずれか又はいくつかと、交流・連携を行いましたか。（○は1つだけ）

- 1 はい 2 いいえ 3 11・12月 4 12月

問2 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の相手方はどこでしたか。（あてはまるものを全てに○と相手方の数を記入）

- 1 幼稚園（ ） 2 保育園（ ） 3 小学校（ ） 4 中学校（ ）

問3 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携に参加したのは以下のうち誰でしたか。（あてはまるものを全てに○）

- 1 1年生 2 2年生 3 3年生
4 4年生 5 5年生 6 6年生
7 校長 8 教頭 9 主幹教諭・教務主任
10 生徒指導主任 11 学年主任（ ） 12 担任（ ） 13 担任外 14 保護者 15 その他（ ）

問 4 【問 1 で 1 の「はい」に○をつけた場合にお答えください】 交流・連携の内容はどのようなものでしたか。(あてはまるもの全てに○)

＜主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携＞

- 1 活動(遊び)や学習を中心とした交流
- 2 あいさつ運動など生活面での交流
- 3 運動会(体育祭)、音楽会(合唱祭)、お祭り(文化祭)などの行事交流
- 4 絵画や制作などの作品交流
- 5 給食交流
- 6 合同での避難訓練や防災訓練
- 7 学校見学・園見学、授業体験・保育体験など(職場体験などによるものを含む)
- 8 連携に関するアンケートの実施
- 9 校庭や敷地、施設、遊具などを利用する活動
- 10 園児がお散歩の途中に学校に寄って、校庭で遊んだり、トイレを借りたりする
- 11 その他 ()

＜主に教員・保育士が中心となる交流・連携＞

- 12 教育方針・保育方針についての情報共有や意見交換
- 13 年間行事計画についての情報共有や意見交換
- 14 園だより・学校だよりの他園・他校への送付
- 15 連携コーナー(掲示板)の設置
- 16 【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換
- 17 【入学後】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換
- 18 教職員による保育参観・体験や授業参観
- 19 教職員の合同研修会・授業研究会
- 20 連携に関するアンケートの実施
- 21 育ちの連続性を意識したカリキュラムの検討、作成や実施
- 22 その他 ()

＜主に保護者が対象となる交流・連携＞

- 23 保護者への説明会や情報提供(入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など)
- 24 園開放・保育参観、学校公開・授業参観
- 25 保護者による給食体験
- 26 連携に関する園だより、学校だよりの作成・配布
- 27 その他 ()

問 5 【問 1 で 1 の「はい」に○をつけた場合にお答えください】 問 4 の選択肢に挙げられている交流・連携の内容のうち、特に重要な取組はどれだと思われるか。重要度が高いと考える順に、問 4 の選択肢番号及び重要と考える理由をご記入ください。(5 つまで)

重要度	問 4 の選択肢番号 (1～27)	重要と考える理由
1		
2		
3		
4		
5		

問 6 【問 1 で 1 の「はい」に○をつけた場合にお答えください】 交流・連携の窓口は、主にどなたが担当していますか。(○は 1 つだけ)

- | | | |
|-----------|--------------|-------------|
| 1 校長 | 2 教頭 | 3 主幹教諭・教務主任 |
| 4 生徒指導主任 | 5 学年主任 (年) | 6 担任 (年生) |
| 7 その他 () | 8 決めていない | |

問 7 【問 1 で 1 の「はい」に○をつけた場合にお答えください】 交流・連携の窓口の担当者は、固定して(校内で決まって)いますか。(○は 1 つだけ)

- 1 はい 2 いいえ

問 8 【問 1 で 1 の「はい」に○をつけた場合にお答えください】 交流・連携を行って良かった点は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

- 1 児童が園児に親しみをもちたり、園児の入学を楽しみにしたりするようになった
- 2 園児と接する中で、上級生としての自覚がめばえるようになった
- 3 児童が中学校生活に親しみをもちたり、期待を寄せたりするようになった
- 4 児童が中学校生活にあこがれをもち、普段の学習や活動を頑張るようになった
- 5 教職員どうしが顔見知りとなり、交流・連携について話がしやすくなった
- 6 お互いの保育や教育について理解を深めることができた
- 7 幼児期の教育と小学校教育、小学校教育と中学校教育のつながりが見え、実践に生かすことができた
- 8 育ちの連続性を意識したカリキュラムづくりができてきた
- 9 保護者の安心につながった
- 10 その他 ()
- 11 特にない

問9 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の実施にあたって課題となる点は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

- 1 連携先が多忙であり依頼しにくい
- 2 連携の窓口となる担当者が明確でなかったり、途中で代わったりしてしまう
- 3 連携先が多く、全ての園・校と交流できない
- 4 教育・保育方針、教育・保育課程、文化の違い
- 5 組織間の(連携先との)温度差(積極的・消極的、受身の姿勢であるなど)
- 6 校内の教職員間の温度差
- 7 日程調整の難しさ
- 8 交流・連携する場所の確保の難しさ
- 9 交流・連携の重荷が大変である
- 10 交流・連携内容の企画の難しさ
- 11 カリキュラムにおいて接続関係を具体的にすることの難しさ
- 12 その他()
- 13 特にない

問10 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の実施にあたって改善したい点は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

- 1 毎半、継続させていくこと
- 2 交流・連携の回数を増やすこと
- 3 交流・連携の日程や時間帯を工夫すること
- 4 交流・連携の内容を工夫すること
- 5 交流・連携についての相手方との温度差をなくしていくこと
- 6 交流・連携についての校内の温度差をなくしていくこと
- 7 教職員全員で取り組み体制を作ること
- 8 交流・連携のねらいを明確にして子どもたちの安心感や自信につながる取組とすること
- 9 交流・連携後に振り返りを行い、次の機会にその結果を生かすこと
- 10 円滑な接続のためにカリキュラムの内容を見直すこと
- 11 その他()
- 12 特にない

問11 【問1で2の「いいえ」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の実施が困難な理由は何か。(あてはまるもの全てに○)

- 1 近隣に交流・連携できる園や学校がない
- 2 日程調整が難しい
- 3 交流・連携の仕方が分からない
- 4 これまで交流・連携をしておらず、関係ができていない
- 5 その他()

問12 あなたの学校において、昨年度(平成25年度)当初と比べ、他園・校との交流・連携について改善されたことはありますか。(あてはまるもの全てに○)

- 1 近隣の幼稚園、保育園や小中学校との関係づくりができ、連携をとりやすくなった
- 2 交流・連携の相手方が増えた
- 3 交流・連携の回数が増えた
- 4 交流・連携の内容を充実することができた
- 5 交流・連携について校内の教職員の理解が深まった
- 6 事前に日程調整を行い、計画的に交流・連携ができた
- 7 その他()
- 8 特にない

「小1プロブレム」について

問13～問19は、校長、教頭、主幹教諭、教務主任、生徒指導主任、1年生の学年主任のみ、お答えください。

「小1プロブレム」について、あなたの学校の状況を教えてください。

「小1プロブレム」とは

入学したばかりの1年生の教室において、集団行動がとれない、授業中に眠っている、先生の話を聞かないなど、学校生活にうまく適応できない状態が続き、**学級として機能しないこと**をいいます。

問13 あなたの学校では、今年度(平成26年度)、「小1プロブレム」といわれる状況がみられますか。(○は1つだけ)

- 1 はい →問14～問19へ
- 2 いいえ →問18・問19へ

問14 【問13で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】「小1プロブレム」がみられた学級数はいくつですか。

「小1プロブレム」が見られた学級数 (学級)

問15 【問13で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】「小1プロブレム」がみられた要因はどのようなこととであると考えますか。(あてはまるもの全てに○)

- 1 児童に基本的な生活習慣が身に付いていなかったこと
- 2 児童に集団生活での経験が不足していたこと
- 3 児童に個性が身に付いていなかったこと
- 4 家庭の教育力が低下していること
- 5 担任が、個別に支援を必要としている児童への指導と、学級全体への指導の両方を適切にできなかったこと
- 6 担任に基本的な指導力が欠けていたこと
- 7 個別に支援を必要としている児童に対して、学校としての支援体制が整っていないこと
- 8 その他()

問16 【問13で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】「小1プロブレム」とみられる状況に、どのように対応していますか。(あてはまるもの全てに○)

- 1 担任一人で対応している
- 2 学年の教職員で協力体制をとっている
- 3 校長、教頭、主幹教諭・教務主任などと協力体制をとっている
- 4 保護者や地域のボランティアなどの協力体制を取り入れている
- 5 学習補助員、学級支援員、小1プロブレム対応職員が補助的に支援している
- 6 保健室や別の教室で個別に対応している
- 7 公的機関・医療機関など関係諸機関と協力している
- 8 その他()

問17 【問13で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】「小1プロブレム」の発生の予防や解消にはどのような対応策が効果的だと思いますか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 幼稚園・保育園における小学校との接点を見据えた幼児期の教育の充実
- 2 幼稚園・保育園と小学校の教職員どうしの合同研修や意見交換などの充実
- 3 幼稚園・保育園と小学校の交流活動の充実
- 4 学級担任の補助となる補助員などの配置
- 5 一学級の人数の縮小
- 6 学級担任の指導力の向上にかかわる研修
- 7 学校における組織的な協力体制の構築
- 8 保護者の協力体制の確立
- 9 地域の人の協力体制の確立
- 10 その他（ ）
- 11 わからない

問18 あなたの学校では、入学に際し、以下のような配慮や準備を何が行っていますか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 教職員の配置の工夫や協力体制を整えた
- 2 幼稚園・保育園の教職員と情報共有を行い、学級編成や支援の参考にした
- 3 幼児期からの接点を意識したスタートカリキュラムを作成・実施し、指導内容や方法の見直しを図った
- 4 保護者や地域ボランティアなどとの協力体制を取り入れた
- 5 その他（ ）
- 6 特に行っていない

問19 あなたの学校に入学する児童の出身園である幼稚園や保育園に対して、どのようなことを期待しますか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 基本的な生活指導の徹底
- 2 入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮
- 3 指導要録・保育要録や情報交換の充実
- 4 小学校での学習や成長を見通した幼稚園・保育園での教育活動
- 5 入学してこる児童の状況を小学校が把握できる機会の提供
- 6 交流・連携の充実
- 7 幼稚園・保育園での育ちや学びを小学校につなぐためのアブローチャカリキュラムの実施
- 8 入学してこる児童一人ひとりの状況に応じた配慮
- 9 その他（ ）
- 10 特にない

中学校進学に向けた取組について

問20 【校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、6年生の学年主任のみ、お答えください】あなたの学校では、中学校進学に向けて、生徒指導や教科指導などにおける具体的な取組として、どのようなことを行っていますか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 中学校への一日体験入学
- 2 【中学校教員】による、中学校生活についての授業
- 3 【中 学 生】による、中学校生活についての紹介
- 4 教科担任課の拡大・充実
- 5 中学校教員を迎えてのティームティーチングによる授業
- 6 体育行事へ向けた練習への、中学校運動部の参加
- 7 生徒指導についての、定期的な情報交換
- 8 中学校の校則を踏まえた「生活のきまり」づくり
- 9 夏季休業中などの部活見学会・体験会への参加
- 10 さわやか相談室との連携
- 11 その他（ ）

問21 【校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、6年生の学年主任のみ、お答えください】あなたの学校を卒業する児童が進学する中学校に対して、どのようなことを期待しますか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 基本的な生活指導の徹底
- 2 入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮
- 3 指導要録や情報交換を生かしたクラス編成
- 4 小学校での学習や成長を生かした中学校での学習活動
- 5 卒業した児童の中学校入学後の状況を小学校が把握できる機会の提供
- 6 交流・連携の充実
- 7 卒業した児童一人ひとりの状況に応じた配慮
- 8 その他（ ）
- 9 特にない

家庭教育への支援について

問22 子どもたちの育ちを変えるために、家庭との連携や、家庭教育を支援する必要性を感じますか。（○は1つだけ）

- 1 はい ー問23～問26へ
- 2 いいえ （下に理由をご記入ください）

問23 【問22で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】家庭との連携や家庭教育を支援する必要性を感じる理由は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 学校だけの活動では、子どもの発達や成長の全てに関わることができないから
- 2 学校と家庭が連携・協力し、子どもの発達や成長を支えるべきだから
- 3 子どもの発達や成長を支える、家庭の教育力が不足していると感じるから
- 4 子どもの発達や成長について、家庭が学校を頼り、相談してくるから
- 5 その他（ ）

草加市子ども教育の連携に関する

教員・保育士アンケートのお願い

大暑の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
日頃から子ども教育連携推進事業にご協力を賜り誠にありがとうございます。
さて、市教育委員会では、平成24・25年度に、市内の幼稚園・保育園・小学校・中学校における子ども教育の連携の実態を把握するためのアンケート調査を実施し、その結果を基礎資料として、様々な事業を実施してまいりました。
本調査は、今年度の子ども教育の連携について実態を把握するとともに、昨年度からの変化を把握し、今後の子ども教育の連携推進に係る基礎資料となる重要な調査です。
お忙しい中、お手数をおかけいたしますが、本アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようようお願い申し上げます。

平成26年7月 草加市教育委員会

《ご回答をお願いしたい先生方》

幼稚園：園長、副園長、年長組を受け持つ先生方
保育園：園長、副園長又は主査、5歳児を受け持つ先生方
小学校：校長、教頭、主幹教諭又は教務主任、生徒指導主任、小学校1年生及び6年生の学年主任、特別支援学級の担任
中学校：校長、教頭、主幹教諭又は教務主任、生徒指導主任、中学校1年生及び3年生の学年主任、特別支援学級の担任

- 《アンケートのご回答にあたって》
- 質問の回答として、あてはまる番号に○をつけてください。また、「その他」を選択した場合など（ ）の記述欄については、その内容を（ ）内に記入してください。
 - 回答が済みましたら、お手数ですが、園・学校ごとにまとめ、同封しました送付状のとおり、教育委員会にご提出ください。
 - お問い合わせ先 草加市教育委員会 子ども教育連携推進室
電話922-3494（直通）

問24 【問22で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】家庭教育への支援を行う場合、具体的に、特に、どのような内容について、保護者に対し支援を行いたいですが、（○は3つまで）

- 「早寝・早起き・朝ご飯」など、基本的な生活習慣や生活リズムの身に付け方
- 子どもの成長に合わせた親としての関わり方
- 子どもの養育方、叱り方
- 子どものやる気の伸ばし方
- 読み聞かせの大切さや家庭学習の習慣づくり
- テレビ、ゲーム、携帯、スマートフォンなどのメディアとの上手な付き合い方
- 薬物などの危険性
- その他（ ）

問25 【問22で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】家庭との連携や家庭教育を支援するために有効だと考える機会や方法などは、何ですか。（あてはまるもの全てに○）

- 学校からの「おたより」などの配布物を読んでもらう
- 保護者会に参加してもらう
- 授業参観に参加してもらう
- 保護者向けの講演会に参加してもらう
- 保護者向けのワークショップ（参加者が話し合い学び合う会）に参加してもらう
- 保護者と直接話をする
- その他（ ）

問26 【問22で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】家庭との連携や家庭教育への支援を行う上での課題は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

- 家庭教育への支援の方法が分からない
- 家庭教育に関心の低い保護者や課題を抱える保護者への効果的な取組がない
- 多忙で学校行事に参加できない保護者への効果的な取組がない
- 保護者に興味をもってもらえない交流会や講演会がない、又は不足している
- 保護者が気軽に相談できる機会や場所がない、又は不足している
- 家庭教育への支援のために実施している取組内容が断片的で、保護者に十分に伝わらない
- 職員が多忙であり、十分な支援ができない
- 特定の家庭に対する支援に時間がかかり、その他の家庭への支援を十分に行うことができない
- 講演会やワークショップの講師の手配が難しい
- その他（ ）

最後に、あなたの学校や地域での交流・連携の取組状況、子ども教育の連携推進事業、草加市の教育についてご意見などがあれば、自由にご記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございます。

【中学校側（校長、教頭、主幹教諭又は教務主任、生徒指導主任、1年生・3年生の学年主任、特別支援学級の担任）】

あてはまる番号・項目に○を付けてご回答ください。また、() などの記述欄については、記入をお願いします。
なお、各設問の回答に当たっては、校長、教頭、主幹教諭・教務主任及び生徒指導主任は、学校全体の生徒の様子について、学年主任及び特別支援学級の担任は、担当する学年の生徒の様子についてお答えください。

回答される方の基本情報

学校名： () 草加市立
役職名： 1 校長 2 教頭 3 主幹教諭又は教務主任
4 生徒指導主任 5 学年主任 () 年生
6 生徒指導(副)学年主任 () 年生 7 特別支援学級の担任
教員歴： 1 1～5年目 2 6～10年目 3 11～15年目 4 16年以上
学級数： 1 年生 () 学級 2 3年生 () 学級
特別支援学級 () 学級

幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実施状況について

問1 あなたの学校では、昨年度（平成25年度）に、幼稚園・保育園・小学校・他の中学校のいずれか又はいくつかと交流・連携を行いましたか。(○は1つだけ)

1 はい ー問2～問10・問12へ 2 いいえ ー問11・問12へ

問2 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の相手方はどこでしたか。(あてはまるもの全てに○と相手方の数を記入)

1 幼稚園 () 園 2 保育園 () 園
3 小学校 () 校 4 中学校 () 校

問3 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携に参加したのは以下のうち誰でしたか。(あてはまるもの全てに○)

1 1年生 2 2年生 3 3年生
4 校長 5 教頭 6 主幹教諭・教務主任
7 生徒指導主任 8 学年主任 () 年・特別支援学級
10 副担任・担任外 11 部活動 () 部 12 保護者
13 その他 ()

問4 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の内容はどのようなものでしたか。(あてはまるもの全てに○)

＜主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携＞

1 活動（遊び）や学習を中心とした交流
2 あいさつ運動など生活面での交流
3 運動会（体育祭）、音楽会（合唱祭）、お祭り（文化祭）などの行事交流
4 絵画や制作などの作品交流
5 給食交流
6 合同での避難訓練や防災訓練
7 学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）
8 連携に関するアンケートの実施
9 校庭や敷地、施設、遊具などを利用する活動
10 園児がお散歩の途中に学校に寄って、校庭で遊んだり、トイレを借りたりする
11 その他 ()

＜主に教員・保育士が中心となる交流・連携＞

12 教育方針・保育方針についての情報共有や意見交換
13 年間行事計画についての情報共有や意見交換
14 園だより・学校だよりの他園・他校への送付
15 連携コーナー（掲示版）の設置
16 【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換
17 【入学後】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換
18 教職員による保育参観・体験や授業参観
19 教職員の合同研修会・授業研究会
20 連携に関するアンケートの実施
21 育ちの連続性を意識したカリキュラムの検討、作成や実施
22 その他 ()

＜主に保護者が対象となる交流・連携＞

23 保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）
24 園開放・保育参観、学校公開・授業参観
25 保護者による給食体験
26 連携に関する園だより、学校だよりの作成・配布
27 その他 ()

問5 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】問4の選択肢に挙げられている交流・連携の内容のうち、特に重要な取組はどれだと思いますか。重要度が高いと考える順に、問4の選択肢番号及び重要と考える理由をご記入ください。（5つまで）

重要度	問4の選択肢番号（1～27）	重要と考える理由
1		
2		
3		
4		
5		

問6 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の窓口は、主にどなたが担当していますか。(○は1つだけ)

1 校長 2 教頭 3 主幹教諭・教務主任
4 生徒指導主任 5 学年主任 () 年 6 担任 () 年生
7 その他 () 8 決めていない

問7 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】 交流・連携の窓口の担当者は、固定して（校内で決まって）いますか。（○は1つだけ）

- 1 はい 2 いいえ

問8 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】 交流・連携を行って良かった点は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 生徒が幼児や児童に親しみをもち、児童の入学を楽しみにしたりするようになった
2 園児や児童と接する中で、上級生としての自信がめばえるようになった
3 教職員どうしが顔見知りとなり、交流・連携について話がしやすくなった
4 お互いの教育や保育について理解を深めることができた
5 幼児期の教育や小学校教育とのつながりが見え、実践に生かすことができた
6 育ちの連続性を意識したカリキュラムづくりができてきた
7 保護者の安心につながった
8 その他（ ）
9 特にない

問9 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】 交流・連携の実施にあたって課題となる点は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 連携先が多忙であり依頼しにくい
2 連携の窓口となる担当者が明確でなかったり、途中で代わったりしてしまう
3 連携先が多く、全ての園・校と交流できない
4 教育・保育方針、教育・保育課程、文化の違い
5 組織間の（連携先との）温度差（積極性の違いや、連携先が消極的・受身の姿勢であるなど）
6 校内の教職員間の温度差
7 日程調整の難しさ
8 交流・連携する場所の確保の難しさ
9 交流・連携の準備が大変である
10 交流・連携内容の企画の難しさ
11 カリキュラムにおいて接続関係を具体的にすることの難しさ
12 その他（ ）
13 特にない

問10 【問1で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】 交流・連携の実施にあたって改善したい点は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 毎年、継続させていくこと
2 交流・連携の回数を増やすこと
3 交流・連携の日程や時間帯を工夫すること
4 交流・連携の内容を工夫すること
5 交流・連携についての相手方との温度差をなくしていくこと
6 交流・連携についての校内の温度差をなくしていくこと
7 教職員全員で取り組む体制を作ること
8 交流・連携のねらいを明確にして子どもたちの安心感や自信につながる取組とすること
9 交流・連携後に振り返りを行い、次の機会にその結果を生かすこと
10 円滑な接続のためにカリキュラムの内容を見直すこと
11 その他（ ）
12 特にない

問11 【問1で2の「はい」に○をつけた場合にお答えください】 交流・連携の実施が困難な理由は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 近隣に交流・連携できる園や学校がない
2 日程調整が難しい
3 交流・連携の仕方が分からない
4 これまで交流・連携をしておらず、関係ができていない
5 その他（ ）

問12 あなたの学校において、昨年度（平成25年度）当初と比べ、他園・校との交流・連携について改善されたことはありますか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 近隣の幼稚園、保育園や小中学校との関係づくりができ、連携をとりやすくなった
2 交流・連携の相手方が増えた
3 交流・連携の回数が増えた
4 交流・連携の内容を充実することができた
5 交流・連携について校内の教職員の理解が深まった
6 事前に日程調整を行い、計画的に交流・連携ができた
7 その他（ ）
8 特にない

「中1ギャップ」について

問13～問17は、校長、教頭、主幹教諭、教務主任、生徒指導主任、1年生の学年主任のみ、お答えください。

「中1ギャップ」について、あなたの学校の状態を教えてください。

「中1ギャップ」とは

授業内容の高度化や、先輩・後輩といった上下関係など、小学校にはなかった新しい環境になじめず、不登校になったり、生活の乱れがみられたり、学習を放棄したりなどしてしまう生徒が中學生になって急増することをいいます。

問13 あなたの学校では、今年度（平成25年度）、「中1ギャップ」といわれる状況がみられますか。（○は1つだけ）

- 1 はい 1問は～問17へ 2 いいえ 1問17へ

問14 【問13で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】 「中1ギャップ」がみられる要因はどのようなことであると考えますか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 生徒に基本的な生活習慣が身に付いていなかったこと
2 生徒のコミュニケーション能力が不足していたこと
3 生徒に個性が身に付いていなかったこと
4 生徒に、自分から物事に取り組んだり、自分で善悪の判断ができる、自主性がまだ十分に身に付いていなかったこと
5 家庭の教育力が低下していること
6 小学校での指導方法や生徒指導が不十分であったこと
7 担任が、個別に支援を必要としている生徒への指導と、学級全体への指導の両方を適切にできなかったこと
8 担任に基本的な指導力が欠けていたこと
9 個別に支援を必要としている生徒に対して、学校としての支援体制が整っていないかったこと
10 その他（ ）

問15 【問13で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】「中1ギャップ」とみられる状況に、どのように対応していますか。(あてはまるもの全てに○)

- 1 担任一人ですべて対応している
- 2 学年の教職員で協力体制をとっている
- 3 校長、教頭、主幹教諭・教務主任などと協力体制をとっている
- 4 保護者や地域のボランティアなどとの協力体制を取り入れている
- 5 学習補助員が補助的に支援している
- 6 保健室や別の教室(さわやか相談室を含む)などで個別に対応している
- 7 公的機関・医療機関など関係諸機関と協力している
- 8 その他 ()

問16 【問13で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】「中1ギャップ」の発生の予防や解消にはどのような対応策が効果的だと思われるか。(あてはまるもの全てに○)

- 1 小学校における中学校との接続を見据えた教育の充実
- 2 小学校と中学校の教職員どうしの合同研修や意見交換などの充実
- 3 小学校と中学校の交流活動の充実(授業、部活動など)
- 4 学級担任の補助となる補助員などの配置
- 5 一学級の人数の縮小
- 6 学級担任の指導力の向上にかかわる研修
- 7 学校における組織的な協力体制の構築
- 8 保護者の協力体制の確立
- 9 地域の人の協力体制の確立
- 10 その他 ()
- 11 わからない

問17 あなたの学校では、入学に際し、以下のような配慮や準備を何か行っていますか。(あてはまるもの全てに○)

- 1 教職員の配置の工夫や協力体制を整えた
- 2 小学校の教職員と情報共有を行い、学級編成や支援の参考にした
- 3 仮学級編成(年度当初は仮の学級編成を行い、1学期中に正式な学級編成を行うこと)を取り入れた
- 4 自校に入学してくる児童が在籍する小学校で授業を行った
- 5 小学校からの接続を意識したカリキュラムを作成・実施し、指導内容や方法の見直しを図った
- 6 保護者や地域ボランティアなどとの協力体制を取り入れた
- 7 その他 ()
- 8 何に行っていない

中学校進学に向けた取組について

問18 あなたの学校では、進学してくる小学生に対する、生徒指導や教科指導などにおける具体的な取組として、どのようなことを行っていますか。(あてはまるもの全てに○)

- 1 中学校における一日体験入学
- 2 【中学校教員】が小学校で行う、中学校生活についての授業
- 3 【中学生】が小学校で行う、中学校生活についての紹介
- 4 中学校教員を小学校へ派遣して行う、ティームディレンチングによる授業
- 5 小学校が体育行事へ向けに行う練習への、中学校運動部の参加
- 6 生徒指導についての、定期的な情報交換
- 7 夏季休業中などの部活見学会・体験会の実施
- 8 さわやか相談室と小学校の連携
- 9 その他 ()

問19 あなたの学校に入学する生徒の出身校である小学校に対して、どのようなことを期待しますか。(あてはまるもの全てに○)

- 1 基本的な生活指導の徹底
- 2 入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮
- 3 指導要録や情報交換の内容の充実
- 4 中学校での学習や成長を見通した小学校での学習活動
- 5 入学してくる生徒の状況を中学校が把握できる機会の提供
- 6 交流・連携の充実
- 7 入学してくる生徒一人ひとりの状況に応じた配慮
- 8 その他 ()
- 9 何にない

家庭教育への支援について

問20 子どもたちの育ちを支えるために、家庭との連携や、家庭教育を支援する必要性を感じますか。(○は1つだけ)

- 1 はい ー問21～問24へ
- 2 いいえ (下に理由をご記入ください)

問21 【問20で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】家庭との連携や家庭教育を支援する必要性を感じる理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

- 1 学校だけの活動では、子どもの発達や成長の全てに関わることができないから
- 2 学校と家庭が連携・協力し、子どもの発達や成長を支えるべきだから
- 3 子どもは発達や成長を支える、家庭の教育力が不足していると感じるから
- 4 子どもは発達や成長について、家庭が学校を頼り、相談してくるから
- 5 その他 ()

問22 【問20で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】家庭教育への支援を行う場合、具体的に、特に、どのような内容について、保護者に対し支援を行いたいですか。（○は3つまで）

- 1 「早寝・早起き・朝ご飯」など、基本的な生活習慣や生活リズムの身に付け方
- 2 子どもの成長に合わせた親としての関わり方
- 3 子どもの褒め方、叱り方
- 4 子どものやる気の伸ばし方
- 5 家庭学習の習慣づくり
- 6 テレビ、ゲーム、携帯、スマートフォンなどのメディアとの上手な付き合い方
- 7 暴力などの危険性
- 8 その他（ ）

問23 【問20で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】家庭との連携や家庭教育を支援するために有効だと考える機会や方法などは、何ですか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 学校からの「おたより」などの配布物を読んでもらう
- 2 保護者会に参加してもらう
- 3 授業参観に参加してもらう
- 4 保護者向けの講演会に参加してもらう
- 5 保護者向けのワークショップ（参加者が話し合い学び合う会）に参加してもらう
- 6 保護者と直接話をする
- 7 その他（ ）

問24 【問20で1の「はい」に○をつけた場合にお答えください】家庭との連携や家庭教育への支援を行う上での課題は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 家庭教育への支援の方法が分からない
- 2 家庭教育に関心の低い保護者や課題を抱える保護者への効果的な取組がない
- 3 多忙で学校行事に参加できない保護者への効果的な取組がない
- 4 保護者に興味をもってもらえない交流会や講演会がない、又は不足している
- 5 保護者が気軽に相談できる機会や場所がない、又は不足している
- 6 家庭教育への支援のために実施している取組内容が断片的で、保護者に十分に伝わらない
- 7 職員が多忙であり、十分な支援ができない
- 8 特定の家庭に対する支援に時間がかかり、その他の家庭への支援を十分に行うことができない
- 9 講演会やワークショップの講師の手配が難しい
- 10 その他（ ）

最後に、あなたの学校や地域での交流・連携の取組状況、子ども教育の連携推進事業、章加市の教育についてご意見などがあれば、自由にご記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

草加市子ども教育の連携に関する教員・保育士アンケート調査報告書

発行年月 平成２７年３月

発 行 草加市教育委員会 子ども教育連携推進室

〒３４０－８５５０ 埼玉県草加市高砂１丁目１番１号

電話：０４８－９２２－３４９４（直通）

